

小学生の **新** **レインボー** オール  
カラー

# 漢字 読み書き 辞典



監修のことば	1
この辞典の使いかた	2
この辞典で使っている記号	6
ひらがなの よみかき	8
かたかなの よみかき	30
一年生の漢字学習法	38
一年生で ならう 字	39
からだの よびな	56
えから できた かんじ	62
にて いる じ	75
一年生の かんじの ちゅういてん①②	77
かんじを わけて おぼえよう	83
二年生の漢字学習法	84
二年生で ならう 字	85
かんじのかくすう	91

書きじゆんのきまり	111
はんたいのいみのかんじ	119
ついになるいみのかんじ	119
かんじのできかた	131
おくりがな	131
二年生のかんじのちゅういてん①②	141
三年生の漢字学習法	142
三年生で 習う 字	143
反対の意味の漢字	149
漢字の点画	152
数えまちがえやすい画数	161
画数をまちがえやすい漢字	170
三年生の漢字の注意点①②	175
文の中のふ号の使いかた	180
音読み・訓読み	187
送りがなのつけかた	197
ことばがさかだちすると	213
四年生の漢字学習法	214
四年生で 習う 字	215

音が同じことば	218
訓が同じことば	225
ことば遊び	239
意味のにていることば	239
反対の意味のことば	245
日本の文字	253
まちがえやすい部首	259
同じ意味の仲間、読み、の仲間	270
四年生の漢字の注意点①②	284
五年生の漢字学習法	286
五年生で 習う 字	287
形の変わる部首	292
読みかたで意味が変わる熟語	305
形の似ている漢字	319
熟語の組み立て	334
漢字を説明した人	339
五年生の漢字の注意点①②	350
六年生の漢字学習法	352
六年生で 習う 字	353

三字の熟語のできかた	363
まちがえやすい数えかた	367
「おおよそ」と「いさよ」と	374
まちがえやすい漢字	385
類義語	396
四字熟語	400
六年生の漢字の注意点	416

資料・さくいん

教科書に出てくる学習漢字外のおもな漢字	418
漢字のなりたち	424
漢字の読みかた	426
漢字の部分と部首	428
漢字の筆順	430
ローマ字の書きかた	437
部首さくいん	443
総画さくいん	447
音訓さくいん	463



## 監修のことば

文学博士 石井庄司

すべての学習は、そのもとになる練習がたいせつです。とくに、漢字の学習では、くり返しの練習がたいせつです。はじめて学習する漢字は、ひとつひとつの、読み方や使い方や書き方をしっかりと、正しくおぼえて、くりかえし、使い方の練習を重ねていくことが必要です。

本書では、そのような点について、格別にくふうをこらし、小学校で学習する漢字を学年別にまとめ、効率よく練習できるようにしてあります。あやまりやすい筆順、同音でちがった意味のことは、形のよく似た字などは、「ちゅうい」や「さんこう」などのらんで、簡潔に説明してあります。また、形のどのつた字を書くときに注意をするところ、硬筆の字の手法を示しました。また、すべての字に成り立ちを示し、漢字にまつわるちしきを集めたコラムもあります。これまでに習った漢字でも、使い方や意味を忘れたときには、巻末のさくいんで、すぐひけるようにしてあります。

どうかこの本と友だちになって、漢字やことばの力がしっかりと身につくようにのつていきます。

※本書は、初版発行以来長年にわたって、多くの読者の方々に愛用され版を重ねてきた。このたびの新版発行にあたっては、「資料・さくいん」を除くすべてのページをカラーにするとともに、語例や使い方の例を全面的に検討しなおし、さし絵も改めて、より使いやすくするようにつとめた。



# この辞典の使いかた

## この辞典におさめてある字

この辞典には、小学校で習う漢字(学習漢字)ともいう。一〇〇六字)が、学年別におさめてあります。漢字について、読みかた・書きかた・使いかたのほか、なりたち・部首・画数なども調べることができます。

また、本の最初に、「ひらがな」「かたかな」についての説明があります。「ローマ字」については、資料のページにのっています。

## 漢字のならべかた

漢字は、はじめて習う学年ごとにならべてあります。学年の中では、一・二年生は、「手・足」「朝・昼・夜」のように、関係の深い漢字どうしを集めてならべてあります。

三年生以上では、音読みの(訓)しかないものは訓で、「あいうえお順」にならべてあります。それぞれの学年のはじめに、漢字のくじがありますので、ページをたしかめてください。

見出しの漢字は、大きな字でしめしてあります。書くときに、形をととのえるポイントを、

赤字でしめしました。赤い小さなまるは、間をあけるしるしです。

すべての見出し漢字の下には、「その漢字の総画数↓その漢字の部首と部首をのぞいた画数↓部首のよび名」が、上から順に、各一行ずつでしめしてあります。

## 読みをおぼえる

見出し漢字の次にある「おん」「くん」は、その漢字の音読みと訓読みです。訓読みで赤字になっている部分は、送りがなです。

学：**く** まなぶ

とあれば、「学ぶ」と書き表すことをしめます。上に\*のついた読みは、小学校では習わない読みです。

## 筆順と、硬筆のもはんれい

文字を書く順序を、筆順といいます。筆順にしたがって書けば、むりなく、速く、正しい字が書けます。正しい筆順を身につけましょう。筆順の下は、硬筆(えんぴつ・サインペンな

## 漢字にしらしむ

ひらがな・かたかな・アルファベット(A・B・C...)などの文字は、発音だけを表します(表音文字という)。

ところが、漢字はこれらとはちがつて、一字が異なった意味を表しています(表意文字という)。ですから、意味を考えながら漢字をおぼえていくと、楽しいものです。

この辞典では、楽しく漢字がおぼえられるように、見出しの字の下に、その漢字の意味を表した絵を入れてあります。また、その漢字がどのようにしてできあがったのかということは、漢字の意味と深いつながりがありますので、「私たち」というしるしでしめました。



四人姉妹の物語です。外国の市と姉妹都市(ししたしくつきあうことをやくそくした市と市とのかんけい)になる。もの字は「姉」。市(一)つるがまきついたぼうの上の一をつけたかたちと女(おんな)をくみあわせた字。

## 漢字の見出し

ど)で書く字のもはんれいです。↓5ページ

## 漢字の意味

筆順の次に、漢字の意味がしめしてあります。それぞれの意味のあとには、その意味で使われている熟語がたくさんあげてあります。「少」の字には、「すくない。すこし。」という意味と、「わかい。おさない。」という二つの意味があります。

「すくない。すこし。」という意味では、「少数・少量・多少」という熟語があげてあります。「わかい。おさない。」という意味では、「少年・幼少」という熟語があげてあります。「使い方」も参考にして、漢字の意味をおぼえましょう。

## 使い方

漢字は、一字が一つのことばとして使われる場合や、送りがなをつけて使われる場合、ほかの字とむすびついて熟語として使われる場合などがあります。

漢字がじつさいにどのように使われるかを、いくつかの短い文のれいでしめしてあります。れいの文を参考にして、じぶんでも短文をつく



●**資料編** 教科書に出てくる学習漢字外のおもな漢字教科書には、地名・人名・専門用語などに、学習漢字外の漢字が出てきます。そのような漢字を集めて、読みや熟語例をしめしています。

●漢字のなりたち 絵からできた象形文字など、漢字のできかたをまとめて説明しています。

●漢字の読みかた 音読み・訓読み・重箱読み・湯桶読みなど、読みの種類を説明しています。

●漢字の部分と部首 漢字のおもな部分と部首について、よび方や漢字例をのせています。

●漢字の筆順 筆順の基本的なきまりについて、具体例をあげて説明しています。

●ローマ字の書きかた アルファベットの書きかたや書き表しかたの注意点、ワープロでローマ字入力する際の打ちかたなどをのせています。

●漢字の書体・学習法について 小学校の教科書では、教科書体という書体の漢字を使っています。この本の漢字も、その書体に合わせています。

各学年の最初のページに、漢字学習法がのせ

つてみましょう。

※「いみ」と「使い方」のらんの熟語で、\*のついた字は学習漢字外の漢字、\*のついた熟語は特別な読みかたをするものです。

### 参考・注意

参考のしるしのところには、その漢字について知っておくためになることが、また、**注意**のしるしのところには、漢字を書くときや読むときにまちがえやすいことがしめしてあります。じぶんでは正しいと思っていることでも、まちがっている場合があります。参考や注意に書いてあることを読んで、正しいしきを身につけましょう。

### さくいん

引きたい漢字の学年がわからないときに、そのページ数を調べるために、三つのさくいんがついています。

読みかたがわからない漢字をさがすときは、四四七ページからの「総画さくいん」か、四四三ページからの「部首さくいん」を使います。

「総画さくいん」は、漢字が画数の少ないも

のから順にならび、ページ数がしめされています。また、「部首さくいん」は、漢字が部首ごとに集められて、ページ数がしめされています。どちらでも、画数の数えかたや何の部首に属するかがわからないと、さがせません。めんどくがらずに使ってみて、使いかたになれるようにしましょう。

漢字の読みかたがわかっているときには、四六三ページからの「音訓さくいん」を使いましょう。漢字の読みが「あいいうえお順」にならべられています。

### 総画さくいん

① 一	② 二	③ 三	④ 四	⑤ 五	⑥ 六	⑦ 七	⑧ 八	⑨ 九	⑩ 十
⑪ 十一	⑫ 十二	⑬ 十三	⑭ 十四	⑮ 十五	⑯ 十六	⑰ 十七	⑱ 十八	⑲ 十九	⑳ 二十

### 部首さくいん

① 一	② 二	③ 三	④ 四	⑤ 五	⑥ 六	⑦ 七	⑧ 八	⑨ 九	⑩ 十
⑪ 十一	⑫ 十二	⑬ 十三	⑭ 十四	⑮ 十五	⑯ 十六	⑰ 十七	⑱ 十八	⑲ 十九	⑳ 二十

### 音訓さくいん

① 一	② 二	③ 三	④ 四	⑤ 五	⑥ 六	⑦ 七	⑧ 八	⑨ 九	⑩ 十
⑪ 十一	⑫ 十二	⑬ 十三	⑭ 十四	⑮ 十五	⑯ 十六	⑰ 十七	⑱ 十八	⑲ 十九	⑳ 二十

てあります。一、二年生はおうちのかた向け、三、六年生はお子さん向けとなっていますので、指導の参考になさってください。

### 漢字クイズ・漢字のちしき

奇数ページの下のらん外に、楽しい漢字クイズと、漢字のちしきがのっています。漢字クイズの答えは、次のページにのっています。

### 硬筆の手本の記号について

各漢字について、硬筆の手本をしめしてありますが、その部分で使っている記号をよく理解させ、字形の整った正しい漢字が書けるようにご指導ください。



- とめる まがる
- ㄟ おれる まげてとめる
- ㄣ はらう (一度とめて) はらう(右)
- 〃 形の注意 画の方向
- 〇 空ける ながさの割合



ひらがな

# かたかな



おうちのかたへ

〔平仮名〕

お子さんがたは、文字を単独に覚え

ていくわけではありません。「あひる」の「あ」のように、言葉ことばの中で覚えていきます。次のページからの平仮名の一覧表には、その文字もじの入ったことばことばが、楽たのししい詩うたと共に載せてあります。また、言葉ことばが、楽たのししい詩うたと共に載せてあります。また、書き順や字形の取り方の注意も載っています。

●まず、「あいいうえお」の母音の発音を、正しい口の  
あ しかた しゃん ねんしゅう  
の開け方の写真をまねて練習します。

●絵を見ながら、言葉<sup>ことば</sup>を正しく発音<sup>はつおん</sup>します。また、詩<sup>うた</sup>をくり返し読んで、発音練習<sup>はつおんしんしゅう</sup>をします。

●「あのつくも何<sup>なに</sup>？」のような言葉遊び<sup>ことばあそび</sup>の中で、例以外の言葉<sup>ことば</sup>の数を増やしていきます。

● 書き順や字形の注意に従つて、書き方の練習をします。

●濁音・半濁音・拗促音・長音・「は・へ・を」  
 だくおん はんだくおん ようそくおん ちようおん  
 れんしゅう  
 などの練習をします。

「片仮名」 片仮名は、目に触れる機会が少ないため、お子さんは苦手なものですから、片仮名で書く語（外来語）をたくさん覚えることが大事です。また、筆順や筆使いは、漢字の書き方の基本にもなりますので、しっかり練習させるようにしましょう。



この辞典でつかっている記号

おん

おんよ  
音読み

＜h

訓讀み

いみ

漢字かんじの

つかいかた

その  
葉かん

**使い方**

その漢

なちり

漢字かんじの

さん

考書か

ちゆ

注意

書か

- 1
- 2

の  
区  
別

✱

上じょうでで習なら習なり

✱

以外の

↕

または

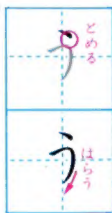


1

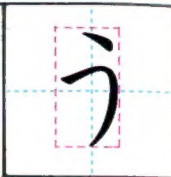
1151



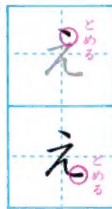
④ 点の位置を少しはなして書きます。



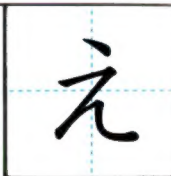
うめのはな  
うぐいす うたう  
もう はるだ



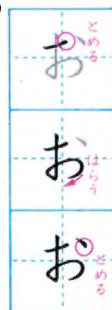
④ どの線も少しずつなめに書きます。



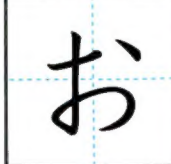
えのぐを つかって  
えを かこう  
えんそくに いった  
えを かこう



④ 二画目は、右上がりに書きます。



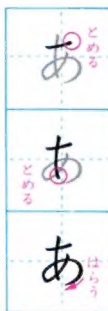
おてだま おはじき  
おりがみ おえかき  
みんな 「お」が つく  
おもしろい あそび



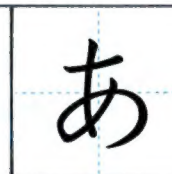
● おうちのかたへ ● 平仮名の1字1字について正しい発音、字形、書き順などをしっかり習得させましょう。各文字についている詩を読み、楽しく発音や言葉を身につけさせましょう。筆順や字形は、

# ひらがなの よみかき

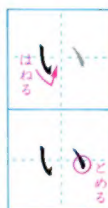
④ 縦棒は少し曲げて書かせましょう。



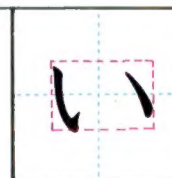
あかるい  
あさです  
あひるさん  
あおい  
あさがお さきました



④ 「り」にならないようにきちんととめます。



いかだに のった  
いんこと いぬが  
いちごを いっぱい  
たべました



注意を参考にしてください。「あ・い・う・え・お」は基本になる音ですから、写真のように正しい口形ではっきり発音させましょう。



け

けんだま とくいな  
けんちゃん  
けんぶつにんも  
たくさんだ

け はねる  
け どめる  
け はねる







縦線は、右の方を長めに書きます。

こ

こうえんに  
こいのぼりが  
こどものひ

こ はねる  
こ どめる  
こ はねる

「はねる」「どめる」をきちんと書きます。

	つ	ね		ね
	き	つ		つ
	き	み		み
				

しりとりをしましょう  
□に、「か・き・く・け・こ」のじをいれてしりとりをしましょう。

●おうちのかたへ●カ行の音をはっきり発音することが大切です。口をしっかりとあけて、「か・き・く・け・こ」の入った言葉を言わせましょう。また、「はねる」「どめる」をしっかりと覚えさせましょう。

か



かきの しるを すう  
かぶとむし  
かだんを さんぼする  
かたつむり

か はねる  
か どめる  
か はねる

最後に書く点は、少しはなして書きます。

き



きつつきは  
きを つつく  
きりんの おやは  
きの はを たべる

き どめる  
き どめる  
き はねる  
き どめる

下の部分を、せまく書きます。

く



くまさんの  
くるまの なかには  
くりや くるみが  
いっぱいだ

く はねる  
く どめる  
く はねる

「おれ」は、角度に気をつけて書きます。



書き順に気をつけて書かせます。

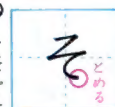


せんせいの  
せなかに  
せみが とまったよ



せ

一筆で書きます。下の部分は小さく。



そうがankyようで  
そらを みたら  
そらとぶじゆうたん  
うかんでた



そ

まちがえやすいじ

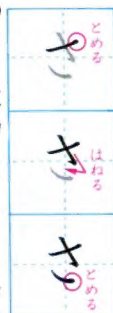
□にはいる じは どちらでしょう。

ろ そ む す く し き さ



●おうちのかたへ●文字の書き順に気をつけさせます。特に「き・せ」は誤りやすい文字です。「そ」の「おれ」と「おりかえし」はむずかしいので 形が正しく整うよう練習させましょう。

字の形が□になるように書かせます。

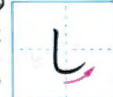


さるが つくる  
ささぶね  
さいが たべる  
ささだんご



さ

はらいをきちんとします。

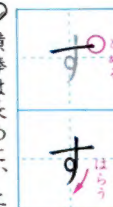


しばふで あそぶ  
しかの おやこと  
しまうまの こども



し

横棒は長めに、二画目は下に長めに書きます。



すみれ すずらん  
すいせんの はな  
すずしい かぜに  
ゆれて いる



す



て

てんとうむしが  
てがみを かいた  
きつてを はって  
てがみを だした

「おれ」をきちんと書きます。「そ」と  
比べさせてみます。

と

とんぼと  
とびうお  
とぶのが  
とくい

下の部分をせまく書きます。一画目は  
ななめに書かせます。

さがして いれましょう

□に「た・ち・つ・て・と」  
のじをいれて、ことは  
をつくりましょう。

なばた  
ばめ  
けい  
ようちよ  
ぶくろ

●おうちのかたへ● タ行のひらがなの発音をしっかりとさせます。書き方では、「ち・て」の「おれ」「おりかえし」の方向を、手本を見て何回も練習させましょう。つは小さい「つ」と大きさを区別して、

た

たぬきが たたく  
たいこが ひびく  
やまの たにまに  
こだまする

字の形が□になるように書きます。縦  
線は少し長めに。

ち

ちいさい ねずみが  
ちやわんの なかの  
ちくわを ちぎって  
はこんでる

「おりかえし」に気をつけ、縦線は長め  
に書かせます。

つ

つぼみが ひらいた  
つきみそう  
つきの ひかりに  
よつゆが ひかる

□の形に書きます。「う」との違いに気  
づかせます。

ます目に大きくきちんと書かせます。



ね

縦線を長く書くと字の形が整います。

ね

ねこの かぞくね  
ねころぶ こねこ  
ねむって いる こねこ  
おっぱい ねだって  
いるのは だれかな



の

字の形が○になるように気をつけて書きます。

の

のりもの だいすき  
のはらで あそぼう  
のみもの のりまき  
のびのび あそぶ



れ ね こ に ね れ ぬ め

まちがえやすい

□にはいる じは どちらでしょう。

こ

じ

ずみ

がね



●おうちのかたへ●「ナ行」は字形がむずかしく、バランスよく書かせることが大切です。縦線の長さ（「に・ね」）、結びの形（「な・ぬ・ね」）に注意して書かせましょう。「の」は丸い形に、バランスよく

な

縦の棒を少し短くなめに書き、「結び」をていねいにします。

な

ながぐつを はいた  
なかよしが さんにならんで なわとび



に

縦線を長く書きます。

に

にらめっこ  
につこり わらって  
まけちゃった  
にゆうどうぐもも  
わらってる



ぬ

字の形に注意して書きます。結びをしつかり。

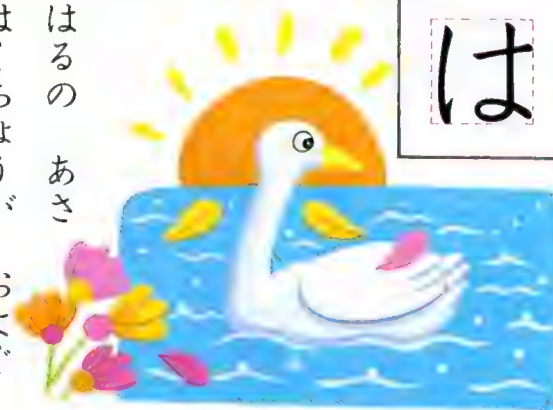
ぬ

ぬりえを  
ぬる  
ぬのを  
ぬう  
ぬいぐるみを  
ぬらす



書くようにします。

は



はるの あさ  
はくちようが およぐ  
はなびらが  
まう

「一目目の縦線を長めにまげて書きます。」

は  
は  
は

ひ



ひまわり さいて  
おひさま みて いる  
ひこうき とんで  
ひよこが みて いる

「おれ」をきちんと書き、まん中をふくらませるように書きます。

ひ  
ひ  
ひ

ふ



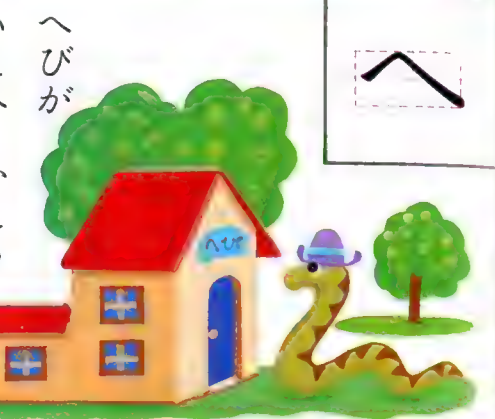
かぜが ふき  
ふうせんが とぶ  
ふうりんが なる  
ふうしゃが まわる

「字の形△に気をつけて書きます。左右の点は下の方に書きます。」

ふ  
ふ  
ふ  
ふ

まちがえやすいじ

□に「は・ほ」のどちらかをいれて、ことばをつくりましょう。



へびが かえる  
いえへ  
へびの  
へやは  
とても  
ほそながい

「とめ」をきちんと書きます。

へ  
へ  
へ

ほ



ほしが きれいな  
なつの よる  
ほたるが ひかる  
くさの なか

「結び」をていねいに。縦線は、長めにまげて書きます。

ほ  
ほ  
ほ  
ほ

ち	え	や	し	し
ま	ん	し		
き				





二画目が高めになります。字の形の○に気をつけます。

め

めいろで まよって  
めがねを かけた  
でぐち めぎして  
めじるし さがす



め

二、三画目の横線をきちんととめます。

も

もぐらが みつけた  
もぐらの もけい  
もみじが あかい  
もりの なか



も

し も ほ ま め す む

ん

んが

だか

かで



□にはいる じは どちらでしょう。

まちがえやすいじ

●おうちのかたへ●マ行は形を正しく書くことが大切です。特に「み、む、め」の文字をバランスよく書くよう、練習させましょう。「み」は横長に書くことと形よく書けます。「む」は点の位置に気をつけ

縦線はまっすぐに。「結び」はしっかりとめます。

ま

ましかどで  
まつりの たいこを  
まねする こども



ま

「おれ」をしつかり書きます。横線は長めに書きます。

み

みずうみで  
みんなで しよう  
みずあそび



み

最後の点は、少し上の方に書きます。

む

むぎちやが おいしい  
むしあつい なつ  
むぎわらぼうしを  
かぶります



む

させましょう。



や

やまのぼり  
やつと やまごや  
ひとやすみ



書き順に気をつけて書きます。縦線は長く、縦線はななめに書きます。

や  
や  
や

ゆ

ゆうひが あかい  
ゆうえんち  
あしたも あそぼうと  
ゆびきりしたよ



字の形が○になるように書きます。

ゆ  
ゆ

よ

ようちえんの  
うんどうかい  
よこに ならんで  
よいい どん



めの結びに気をつけて書きます。縦線はまっすぐに。

よ  
よ

ら

らくだに のつて  
らっぱを ふいたよ  
ららららら



二画目の書き出す位置に気をつけます。

ら  
ら

り

もりの なか  
りすが  
りんごを  
たべて いる



「はらい」をきちんと書きます。文字を縦長に書きます。

り  
り

る

るすばん して いる  
かえるの こども  
おかあさんは いつ  
かえるのかな



「おれ」「おりかえし」「結び」に注意。

る



下の部分をせまく書くこと整います。縦長に書きます。

を  
を  
を

「を」は ことばを くつつける  
ときに つかいます。

はを みかく。  
てを あらう。  
くつを はく。



おりかえしに気をつけて書きます。字の形が△になるように。

ん

しんぶん  
みかん  
しんかんせん

「ん」は ことばの うえには つきません。



ただし ことば

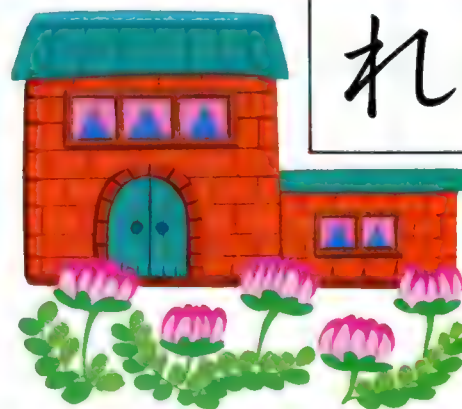
▼□の なかに、「れ・ろ・わ・を・ん」を いれて、ことばを つくりましょう。

え				り
	ば	ん	な	
か		が	げ	ご
く				



●おうちのかたへ●「れ」「わ」は形が似ていますが、「わ」は「和」が字源です。2画めの右側を横長に書くこと形よく書けます。「を」と「ん」は使い方がそれぞれきまっていますので、文例をいくつか参

れ



れんがで できた  
いえの まえ  
れんげが さいた  
きれいだね

「おれ」と「おりかえし」に気をつけて書きます。

れ  
れ

ろ



ろばは うたが すき  
じぶんの うたを  
ろくおんして いる

「3」のようにならないように書きます。

ろ

わ



わたあめを たべながら  
わなげを する わに

「おれ」と「おりかえし」に気をつけて書きます。縦棒はまん中より左側に書きます。

わ  
わ

考にして、正しく使うことができるようにしてください。



ゝや。がつくじ(だくおんと はんだくおん)

しを よんで ャ。がつくじに なれましょう。

がぎぐげご  
ざじずぜぞ  
だぢづでど  
ばびぶべぼ

がつこう いく みち  
げんきで あるく  
ともだち おはよう  
なかよく あそぼう

ぶんぶんごまに  
べいごまあそび  
おじいさんが  
おしえて くれた  
むかしの あそびに  
ゆめが ある



ばびぶべぼ

たんぽぽの  
しろい わたげが  
ふか ふか うかぶ

ばらばら ぽつぽつ  
あめが ふる  
ながぐつ はいて  
ぴよこ ぴよこ あるく



ちいさく かくじ

しを よんで ちいさく かくじに なれましょう。

やゆよ

しゃぼんだま とぼし  
しゃしんを とろう

しゅっしゅ しゅっしゅと  
きしやが はしる

きょうりゅう はしって  
きょうそうだ

おしやれな くじやくは  
おけしょうしてる

にんぎょうげき みて  
じょうきげん



っ

くだものを  
かって きて  
きって たべた。

きのみを  
ひろって  
こまを つくった。

うたを うたって  
なかよく なった。





## のばす おん

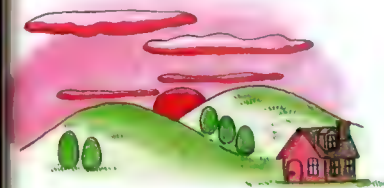
●「は、のばす おんです。のばす おんのかきかたをおぼえましょう。

ゆうはんを かぞくて たべる

おとうさん  
おかあさん  
おばあさん  
おじいさん  
おにいさん  
おねえさん  
おとうと  
いもうと



おかあさん おばあさん	「アー」と のばす おん↓「あ」と かきます。
おにいさん おじいさん	「イー」と のばす おん↓「い」と かきます。
ゆうやけ ゆうはん	「ウー」と のばす おん↓「う」と かきます。
おねえさん	「エー」と のばす おん↓「え」と かきます。
おとうさん おとうと いもうと	「オー」と のばす おん↓「う」と かきます。



わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

いて覚えさせるようにしましょう。助詞の「は・へ・を」は例文を使って何回も書くことが大切です。

## 「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」

●ふたつのことばがくっついてできたことばや、おとがつづくときには、「ぢ」や「づ」をつかいます。

「は」の「じ」には、「ハ」と「ワ」のふたつのよみかたがあります。  
「ワ」は、ことばとことばをつなぐときにつかいます。

○のなかに、「は」か「わ」をいれてみましょう。  
○たし○ いちねんせいです。

## 「は」と「へ」と「を」

●つぎのぶんをよんでみましょう。

あれはハはとだ。

●「え」と「へ」  
「へ」も、ことばをつなぐときには、「エ」とよみます。

へびがこちらへはつてくる。

●「お」と「を」

どちらも「オ」とよみますが、ことばをつなぐときには、「を」をつかいます。

かおをあらう。

じ

じしゃく  
じしん

ぢ

はなぢ  
ちぢむ

ず

ちず  
すずめ

づ

おりづる  
つづく

●おうちのかたへ●のばす音(長音)は、まず書き方の原則を覚えさせることが大切です。長音で誤りが多いのは、エ列長音とオ列長音です。「おねえさん」「こおり」「おおきい」「どおい」などは、書いて覚えさせるようにしましょう。助詞の「は・へ・を」は例文を使って何回も書くことが大切です。



ハ ハンバー グ ハム	ナ ナイフ ナイター	タ タクシー タンブリン
ヒ ヒヤシンス ヒーター	ニ ニュース	チ チョコレート チンパンジー
フ フォーク フィルム	ヌ ヌガー カヌー	ツ ツープイス ツナサンド
ヘ ヘリコプター ヘルメット	ネ ネクタイ ネオン	テ テニス テレビ
ホ ホットケーキ ホームラン	ノ ノート ノックアウト	ト トランプ トマト

ア アイロン アイスクリーム	カ カンガルー カスターネット	サ サンタクロース サツカー
イ イヤホン イヤリング	キ キャンプ キャベツ	シ シュークリーム シーソー
ウ ウクレレ ウエハース	ク クリスマス クッキー	ス スカート スパゲツティ
エ エブロン エレベーター	ケ ケーキ ケーブルカー	セ セロリ セーター
オ オムレツ オルゴール	コ コーヒー コアラ	ソ ソーセージ ソース

かたかなの よみかき

○とめる △はねる /はらう ㇏おる しまける

●おうちのかたへ●かたかなには直線が多く使われています。この表で、かたかなで書くことばに親しみましょう。かたかなの語い数をふやすことが大切です。

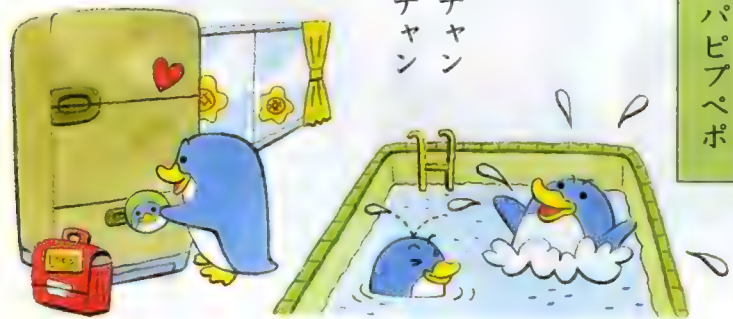


ガギグゲゴ  
ザジズゼゾ  
ダチツテド  
バビブベボ



はんだくおん

パ  
ピ  
プ  
ペ  
ポ



ゴリラの ゴンタは  
バナナが だいすき  
ベンチに すわって  
じょうずに たべる

カンガルーの ルーは  
ボタンが だいすき  
ベッドに すわって  
ドレスに つける

わたしの ペットは  
ブルが だいすき  
パチャ パチャ ヒ  
ペチャ ペチャ ポ

わたしの ペットは  
ワツペン だいすき  
ペタペタ ペツタン  
いっぱい つける

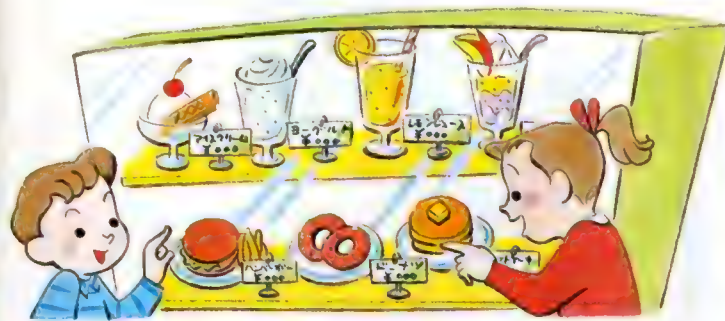
●**おうちのかたへ**●かたかなで書く音にも濁音、半濁音があります。濁点(・)半濁点(゜)の有無でまったくちがうことばになりますので、注意をせよ。(例 ベンチとベンチ) かたかなのと



## のばす おんど ちいさく かくじ

●かたかなの のばす おんは、「ー」で  
かきあらわします。

アイスクリーム  
ヨーグルト  
レモンジュースに  
ハンバーガー  
ドーナツ  
ホットケーキ  
シュークリーム  
メニューに のってる  
どの たべものも  
みんな だいすき



●ちいさく かくじが はいる ことばも  
あります。

ツ ヤ ユ ヨ ア イ ウ エ オ

リュックサックに  
カメラメル いれて  
カメラに フィルムに  
チョコレート  
キャンプの したくは  
もう できた  
あしたは ファイトで  
しゅっぱつだ



書きかたは、ひらがなの場合とはちがっています。のばす音は長音記号(ー)を使うことを意識させ  
ましょう。

## かたかなの かきかた

じの かたち

ㇿ でない  
ㇾ でない

ㇿ ㇾ  
でる でる

にて いる じ

ナとメ  
ニとエ

ユとワ  
ととコ

アとテ  
ととマ

ケとセ  
ととク

ㇿ ㇾ  
うえから したへ  
かきはじめが  
よこにならぶ  
うえから したへ  
かきはじめが  
よこにならぶ  
うえから したへ  
かきはじめが  
よこにならぶ



ㇿ は したの  
から かきます。

ㇿ や まる は、いちばん  
さいごに かきましょう。



●おうちのかたへ●字形が似ているためにまちがえやすいかたかなの字を掲げてあります。かたかな  
を書き順どおり正しく書くことが 正しい漢字を書くことにつながります。かたかなの、のばす音の

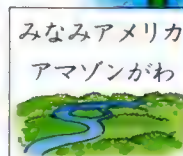
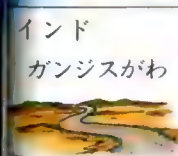
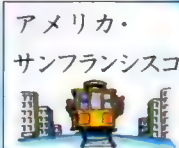
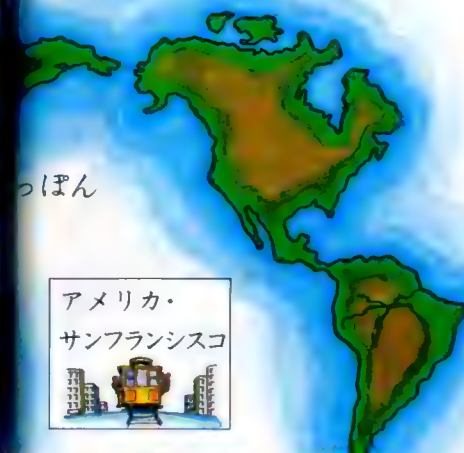
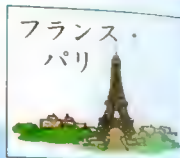
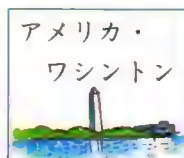


## かたかなで かく ことば

かたかなで かくのは、がいこくから きた ことば(IIがいらいごと、ものおとや なきごえを あらわす ことばです。

## ① がいこくの どのの なまえ

アメリカ、ニューヨークなど、がいこくの くにや まちの なまえ、アルプス、ナイルなど、がいこくの やまや かわな どのの なまえは、かたかなで かきます。



## ② がいこくの ひとの なまえ

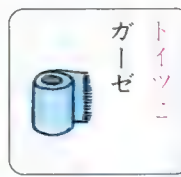
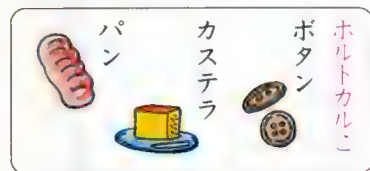
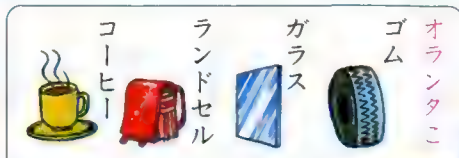
ジョンや メリーなど、がいこくの ひとの なまえは、かたかなで かきます。



れるようにすることが大切です。チョコレートやチューリップなど、のぼす音(一)の書き方は特にむずかしいので、日常生活の中で意識づけさせるようにします。

## ③ がいこくから きた ことば

がいこくから きた ことばは かたかなで かきます。どんな ことばが ありますか。さがして みましょう。



## ④ いろいろな もののおと

ガチャン・トントン  
コツコツ・ポチャン  
もののおと



## ⑤ どうぶつの なきごえ

モー・メー・ワンワン  
チュンチュン・オギャー



●おうちのかたへ●片仮名は、1・2年で文字の読み書きを習得し、片仮名で書く語の種類を学習します。片仮名で書く語を区別するのはむずかしいので、常に語句として学習し、また普段から目に触



# 一年生の漢字学習法

## ○学校での勉強

一年生では、八十字の漢字を読み、順次書くようにしていきます。

まず、小学校の文字学習の基礎として、机にすわって書く姿勢や、鉛筆の持ち方を指導します。

次に、平仮名・片仮名をふくむ文字学習の入門として、文字の形を、長方形・四角形・三角形などのおおまかな形としてとらえるために、いろいろな図形をかきます。

漢字学習は、一学期の後半か二学期の初めから始まりますが、横・縦・はね・はらい・おれなどの画や、点など、漢字の構成要素をしっかり意識しながら、漢数字などの簡単な字の学習から入っていきます。また、筆順なども意識して書く習慣をつけさせます。

## ○家庭学習のポイント

### ① 体で覚える筆順

一年生は、繰り返し練習する学習に興味・関心のある時期です。

この時期に、基礎的漢字の筆順を、理屈ではなく、体で覚えさせることが最も大切です。

### ② はね・とめ・はらいの指導

その漢字がテストで正解不正解ということではなく、教科書と見比べながら、「ここははらう」「ここははねる」ということをきちんと指導することも大切です。そうした学習を通して、「どこははねなくてはいけない」とか、「こういうところははらう」ということを理屈や知識としてではなく、一年生なりに漢字の形を自分なりにイメージし、獲得することになります。

### ③ 漢字の意味の理解

漢字を学習すると、その漢字を使

いたくてしかたがなくなるのが一年生です。そのため、「木」を学習すると「先生が木ました。」「ようふくを木ます。」といった使い方をしだします。

これは、漢字の「木」の音を、平仮名の使い方と同じものとして使ってしまう誤りです。

漢字には、平仮名と違って、一字意味のあることを指導する必要があります。そのとき、「木」に関係する「林」「森」などを例にしたり、場合によっては子どもの生活に密着した、たとえば「松・梅・桜」などを例にして、「木」が植物の木であることを理解させることも必要です。



## 一年生でならう字

一 40	二 40	三 41	四 41	五 42	六 42	七 43	八 43	九 44	十 44
百 45	千 45	日 46	月 46	火 47	水 47	木 48	金 48	土 49	上 50
下 50	左 51	右 51	大 52	中 52	小 53	手 54	足 54	目 55	耳 55
口 56	人 57	子 57	女 58	男 58	名 59	年 59	山 60	川 60	林 61
森 61	田 62	空 63	雨 63	天 64	気 64	夕 65	花 65	草 66	竹 66
犬 67	虫 67	貝 68	石 68	王 69	玉 69	力 70	糸 70	車 71	音 71
学 72	校 72	先 73	生 73	字 74	文 74	本 75	村 76	町 76	赤 78
白 78	青 79	円 79	正 80	早 80	入 81	出 81	立 82	休 82	見 83



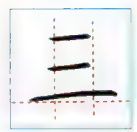


三

3かく  
[一・2かく]  
〈いち〉

おんサン  
くみ・みつ・みつ  
三三三三

いみ ①数の3。みつ。三び  
き・三本・三回・三は(三わ)・三台・三  
角形・三しん・三日・三日月 ②さんば  
んめ。「三学期・三女・三男」



つかいかた ▼メロンを三つ もらった。  
きつてを三まい かいました。▼にわに、ひ  
よこが三ば います。▼三きゅう三しんして  
しまった。▼三かくパスの れんしゅうをす  
る。▼うちには、じてん車が三台 ある。  
さんこう とくべつな よみかた。「三味線」  
なり 三(＝さんぼんの よこせん)で、みつ  
たち を あらわした 字。

一

1かく  
[一・0かく]  
〈いち〉

おんイチ・イツ  
くみひと・ひとつ  
一一一

いみ ①数の1。ひとつ。「一ま  
い・一本・一びき・一わ・一回・一度」  
②はじめ。「一年生・一月・一ばん・一  
とう」③おなじ。「一心・一定・同一」



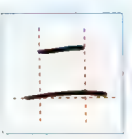
つかいかた ▼テストの こたえを、一つ ま  
ちがえた。▼犬の 子を、一びき もらった。  
▼かけっこで、一とうに なりました。▼一月  
の たんじょう日で、年を一つ とった。▼  
おんどを 一定(＝おなじ)に する。  
さんこう とくべつな よみかた。「一日」「一人」  
なり 一(＝いっぽんの よこせん)で、ひとつ  
たち を あらわした 字。

二

2かく  
[二・0かく]  
〈に〉

おんニ  
くみふた・ふたつ  
二二二

いみ ①数の2。ふたつ。「二ま  
い・二本・二ひき・二回・二わ」②には  
んめ。「二学期・二月」



つかいかた ▼おにぎりを二つ たべました。  
▼ねえさんと 年が二つ はなれて いる。  
▼えんぴつを 二本 けずった。▼みちが二  
またに わかれて いる。▼夏休みが おわり、  
もう すぐ 二学期が はじまります。  
さんこう とくべつな よみかた。「二十歳(ニ  
十)」「二十日」「二人」「二日」  
なり 二(＝にほんの よこせん)で、ふたつを  
たち を あらわした 字。

四

5かく  
[四・2かく]  
〈くにがまえ〉

おんシ  
よ・よつ・よつ・よん  
四四四四

いみ ①数の4。よつ。四  
人・四つかど・四かい・四わ・四ひ  
き・四さつ・四本・四方・四季 ②よん  
はんめ。「四月・四男」



つかいかた ▼ぼくは 四人きょうだいす。  
▼四つかどの ポストに、はがきを 入れた。  
▼ねこの 子が、四ひきも うまれました。▼  
▼四かい テーブルで、ごはんを たべます。  
▼ぼくの せきは、まえから 四ばんめです。  
▼四月に ひっこしを しました。  
なり 四(＝くち)と八(＝わかれる かたち)を  
たち あわせて、よつつを あらわした 字。



七

2 かく  
[一・1 かく]  
〈いち〉

七  
七

シチ  
シチ

なな・ななつ・なの

①数の 7。ななつ。「七人・七さつ・七わ(七わ)・七ひき(七ひき)・七本(七本)・七五三」②しちばんめ。「七月七日」

七



つかいかた ▼金ぎよを 七ひき かってい  
る。▼あすて 七つに なります。▼秋に、七  
五三の おいおいを します。▼七月七日は、  
セタです。

さんこう とくべつな よみかた。「七タ」  
「ひち」と よまない こと。

なり 七(「十」の 字を 切る かたち)から  
七の 字に なり、ななつを あらわす。

五

4 かく  
[二・2 かく]  
〈に〉

五  
五  
五

①数の 5。いつつ。「五  
こ・五ひき・五本・五わ(五わ)・五ひき(五  
名)②ごばんめ。「五月五日・五年生」

五



つかいかた ▼おとうとは 五さいです。▼か  
ぞくは、みんなて 五人です。▼五月五日は、  
子どもの日です。▼ゆうがた 五じに、いえに  
かえった。

さんこう とくべつな よみかた。「五月晴れ」  
「五月雨」

なり 五(「ふたつ」の せんが まじわる よう  
す)から、五の 字に なった。

六

4 かく  
[八・2 かく]  
〈はち〉

六  
六  
六

①数の 6。むつつ。「六  
人・六足・六本・六わ(六わ)・六ひき(六  
六ひき)・六円」②ろくばんめ。「六  
じ・六年生」

六



つかいかた ▼すずめが 六わ、てんせんに  
とまって います。▼一はこ 六本入りの い  
ろえんぴつを かった。▼わたしの たんじ  
う日は、六月六日です。▼ゆうがた 六じから  
テレビを 見ます。▼六年生の 人たちが、校  
ていて マラソンを して いる。

なり 六(「おおい」をした かたち)から 六  
の 字に なり、むつつを あらわす。

八

2 かく  
[八・0 かく]  
〈はち〉

八  
八

ハチ  
ハチ

や・やつ・やつつ・よう

①数の 8。やつつ。「八本  
(八本)・八わ(八わ)・八ひき(八ひ  
き)・八重ぎくら」②はちばんめ。「八  
月八日・八じ」

八



つかいかた ▼たこの 足は、八本 ある。  
八重が かわいらしい 女の子。▼きげんが  
わるくて、八つあたり(「だれに たいしても  
おこる こと)をした。▼まいあさ ハじには、  
家を 出ます。

さんこう とくべつな よみかた。「八百屋」

なり 八(「みぎと ひだりに わける かたち)  
から 八に なり、やつつを あらわす。



百

6かく  
〔白・1かく〕  
〈しろ〉

百 百 百 百 百

百

**いぬ** ① 十の 十は い。「百点・百円玉・百本(百本)・百びき(百ひき)・百ば(百わ)・百回」② 数が お

おい。「百貨店・百科じてん」

**つかいかた** ▼このごの テストで、百てんをとった。▼百円玉が 百こ たまった。▼百科じてんには、たくさん の ことがらが のつて います。

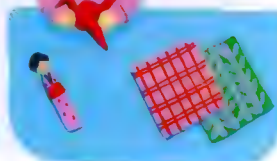
**さんこう** とくべつな よみかた。「八百屋」

**ちゅうい** 「じやく」と よまない こと。

**なり** 白(しろ)と 一(いち)を くみあわせて 百となり、ひやくを あらわす。

千 千 千

千

3かく  
〔十・1かく〕  
〈じゅう〉

**いぬ** ① 百の 十は い。「千円さつ・千本・千びき・千は(千わ)・千両」② ひじょうに たくさん。「千草・千人力・千羽づる」

千

**つかいかた** ▼この たいいくかんには、千人がはいれる。▼千円さつを出して、おつりを もらう。▼ともだちの びょうきが なるように、みんなて 千羽づるをおった。▼

きょうは、すもうの 千秋楽(しゅうりやく)さいごの 日です。▼千代紙で、人きょうをつくった。

**なり** 一(ひと)に 一(いち)を くわえた かたちから 千となり、千の 字になった。

九

2かく  
〔乙・1かく〕  
〈おつ〉

九 九

**いぬ** ① 数の 9。このつ。「九わ・九ひき・九本・九回・九人(九人)・九重」② きゅうばんめ。「九月九日」

九

**つかいかた** ▼ねえさんは、ぼくより 九つも 年上です。▼さんすうで、九九を ならった。▼にわに、にわとりが 九わ います。▼やきゅうは、九人ずつて おこないます。▼テストは、九時から はじまります。▼ぼくの たんじょう日は 九月九日です。

**ちゅうい** 「九のつ」と かかない こと。

**なり** 九(こ)の手を まげた かたちから カー九となり、このつを あらわす。

十

2かく  
〔十・0かく〕  
〈じゅう〉

十 十

**いぬ** ① 数の 10。とお。「十円・十本・十びき・十わ(十は)・十色」② じゅうばんめ。「十月十日」

十

**つかいかた** ▼おにごっこのおにが、目を つぶって 十かぞえる。▼けんすいが 十回 できた。▼十月十日は ぼくの たんじょう日だ。▼さんこう とくべつな よみかた。「二十」「三十歳」「二十日」

**ちゅうい** 「十本」「十びき」「十は」は、「じつ」とよむ。「じゅう」とは よまない。

**なり** 一(ひと)ふとい せん(せん)の 一(いち)まんなか が ふくれて 十(じゅう)十(じゅう)になった。



## 火

4 かく  
〔火・0 かく〕  
(ひ)

おんカ  
くん ひ・\*ほ  
火 火 火 火

いぬ ①もえて いる もの。ほ  
のお。「火事・火山・花火・消火」②あ  
かり。「灯火・火かけ」③「火曜日」の  
こと。

火



つかいかた ▼火が まっかに もえて いる。  
▼火事に なったら たいへんだから、火の  
用心を しよう。▼日本には、火山が おおい。

▼夜、みんなで 花火を した。▼ふねの  
さり火(＝魚を さそいあつめる 火)。▼火曜  
日に テストが ある。

なり たち (＝ほのおの かたち)から、**火**→火→  
火と なって できた 字。

## 日

4 かく  
〔日・0 かく〕  
(ひ)

おん ニチ・ジツ  
くん ひ・か  
日 日 日 日

いぬ ①たいよう。ひの ひかり。  
「お日さま・日あたり・日光」②ひる  
ま。「日夜・日中」③いちにち。「祭  
日・よく日」④「日本」の りやく。「日米」⑤「日  
曜日」の こと。

日



つかいかた ▼日あたりの いい へや。▼日  
光よくを する。▼五月三日は しゆく日です。  
▼日曜日に ハイキングに 行った。

さんこう とくべつな よみかた。「明日」「昨  
日」「今日」「一日」「二十日」「日和」「二日」  
なり (＝お日さまの かたち)から、**日**→日  
と なって できた 字。

## 月

4 かく  
〔月・0 かく〕  
(つき)

おん ゲツ・ガツ  
くん つき  
月 月 月 月

いぬ ①つき。つきの ひかり。  
「月見・月夜・まん月・三日月・名月」②  
一年を 十二に わけた ひとつ。  
「正月・年々・今月」③「月曜日」の こと。

月



つかいかた ▼まんまるい お月さま。▼三日  
月の かたちの クッキー。▼今月の もくひ  
よう。▼十月には、うんどう会が ある。▼  
こんしゅうは、月・火が 休みです。

さんこう とくべつな よみかた。「五月晴れ」  
なり (＝三日月の かたち)から、**月**→月と  
なって できた 字。

## 水

4 かく  
〔水・0 かく〕  
(みず)

おん スイ  
くん みず  
水 水 水 水

いぬ ①みず。また、みずのよう  
なもの。「水道・水車・水えい・水い  
ろ・水あめ・雨水」②おのみず。「水が  
いこう水」③すもうで しょうぶが ながびい  
たとき、しばらく 休ませる こと。「水入  
り」④「水曜日」の こと。

水



つかいかた ▼つめたい 水を のむ。▼水道  
の じゃぐちを ひねる。▼青々とした 水

田が ひろがる。▼こう水に おそわれた。▼  
水入りの 大ずもう。▼あしたは 水曜日だ。

なり たち (＝ながれる みずの ようす)から、  
水の 字に なった。

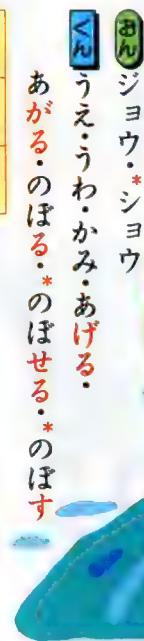






# 上

3かく  
[一・2かく]  
くいち



あがる・のぼる・\*のぼせる・\*のぼす

一ト上

上

**いみ** ①うえ。「地上・水上」②たかいところ。「ちよう上」③はじめのほう。「上流・川上」④あがる。「上りざか・上京・向」⑤すぐれている。「上品・上質」

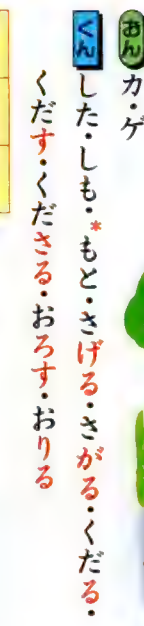
**つかいかた** ①すの 上に、上着を おいた。山の ちよう上に たどりついた。川上から、ふねで 川下りを した。かいだんを上って、屋上に 上がる。上品な人。

**さんこう** ①とくべつな よみかた。「上手」

**なり** ①(「下じき」の うえに ものが ある たち)から、上↑上↑となった 字。

# 下

3かく  
[一・2かく]  
くいち



くだす・くださる・おろす・おりる

一ト下

下

**いみ** ①した。「上・地下」②ひくい。「年下・部下」③おわりのほう。「下流・川下・以下」④さがる。さげる。「下りざか」⑤おとる。「下品」

**つかいかた** ①木の 下。台から 下りる。地下鉄に のる。年下の 子の めんどくさる。川下に むかう。きおんが 下がる。ゆるい 下りざか。下品な たいど。

**さんこう** ①とくべつな よみかた。「下手」

**なり** ①(「おおいの したに ものが ある たち)から、下↓下↓となった 字。

# 左

5かく  
[エ・2かく]  
くいち



左左左左

左

**いみ** ひだり。「左手・左きき・左むき・左せつ・左右・右左」

**つかいかた** ①つぎの かどを 左に まがると、えきがある。日本の どうろでは、車は 左がわつうこうです。この こうさてんは、左せつ(「左へ」 まがる こと)を きんしてす。どうろを おうだんする ときは、左右をよく 見よう。

**さんこう** もと「左」と かいたので、「一」を 先に、「ノ」を あとに かくと、おぼえよう。

**なり** ①(「ひだり手」と エ(「しごと」)を く みあわせて、左↓左↓となった 字。

# 右

5かく  
[ロ・2かく]  
くいち



右右右右

右

**いみ** みぎ。「右手・右がわ・右せつ・右岸・左右・右左」

**つかいかた** ①右手に 赤い はた、左手に 白い はたを もつ。しんこうを 右せつ(「右に」 まがる こと)すると、こ えんがある。きよろきよろと、左右を見まわす。日本では、人は 右がわつうこうです。

**さんこう** もと「右」と かいたので、「ノ」を 先に、「一」を あとに かくと おぼえよう。

**なり** ①(「みぎ手」と エ(「くち」)を く みあわせて、右↓右↓となった 字。





**大** 3かく [大・0かく] (だい)

**い** ① おおきい。大木・大地・大空。② すぐれて、いる。たいせつな。大臣・大学者・大物・大事。大役。③ かずや、りようが、おおい。ひじょうに。大せい・大すき・大よろこび・大せいこう。

**つかいかた** 校ていに、見上げるような大木が立っている。大だい 大きい こえて はなす。みんな 大わらわした。大事に している。本。おたのしみ会は、大いに もりあがった。テレビゲームが 大すきだ。

**なり** ① 手足を ひろげて 立っている人 (＝手足を ひろげて 立っている人) の すがたから、大→大と なった字。

**小** 3かく [小・0かく] (しょう)

**い** ① ちいさい。「小犬・小鳥・小川・小学校・小数」② すこし。「小食・小休止」③ すこし やすむ (こと)。

**つかいかた** ① いもうとは、まだ 小さいので、あまえて いる。② わたしの 家では、小犬と 小鳥を かって いる。③ きれいな 小川が ながれて います。④ わたしは 小学一年生です。⑤ わたしの おかあさんは、小食 (＝しよくじの りようが すくない こと) です。

**なり** 小 (＝ぼうを けずって ほそく ちいさく する ようす) を あらわした 字。

**大** 3かく [大・0かく] (だい)

**い** ① おおきい。大木・大地・大空。② すぐれて、いる。たいせつな。大臣・大学者・大物・大事。大役。③ かずや、りようが、おおい。ひじょうに。大せい・大すき・大よろこび・大せいこう。

**つかいかた** 校ていに、見上げるような大木が立っている。大だい 大きい こえて はなす。みんな 大わらわした。大事に している。本。おたのしみ会は、大いに もりあがった。テレビゲームが 大すきだ。

**なり** ① 手足を ひろげて 立っている人 (＝手足を ひろげて 立っている人) の すがたから、大→大と なった字。

**中** 4かく [中・3かく] (ちゅう)

**い** ① ものの うちがわ。「中にわ・中み・文中・車中」② あいだ。「中間・中立」③ まんなか。「中心・中央」④ なかほど。「中流・中じゅん・中休み」⑤ とちゅう。「じゅぎょう中」。

**つかいかた** ① へやの 中は あたたかかった。② じしんが あって、夜中に 目が さめた。③ 町の 中央に、川が ながれて いる。④ 五月の 中じゅんに、遠足が ある。⑤ ねえさんは、らいねん 中学生に なる。

**なり** ① はたぎおを わくの まんなかに 立てた かたちから、中→中と なった。

**中** 4かく [中・3かく] (ちゅう)

**い** ① ものの うちがわ。「中にわ・中み・文中・車中」② あいだ。「中間・中立」③ まんなか。「中心・中央」④ なかほど。「中流・中じゅん・中休み」⑤ とちゅう。「じゅぎょう中」。

**つかいかた** ① へやの 中は あたたかかった。② じしんが あって、夜中に 目が さめた。③ 町の 中央に、川が ながれて いる。④ 五月の 中じゅんに、遠足が ある。⑤ ねえさんは、らいねん 中学生に なる。

**なり** ① はたぎおを わくの まんなかに 立てた かたちから、中→中と なった。



目

5かく  
[目・0かく]  
(くめ)おん  
モク・ボク  
くめ・ま

目 目 目 目 目

いめ ①め。「目玉」②目でみる。  
「目つき・目測」③ねらい。「目でき・  
目ひよう」④みだし。「目次・品目・目  
ろく」⑤きざまれたもの。「目もり」

つかいかた ▼けさは、はやく目がさめた。  
▼目つきのするどい人。▼ぼうしを目まぶ

か(「目がかくれるほど」)にかぶる。▼一  
学期の目ひようをきめる。▼あたらしい  
本の目次をながめる。▼ものさしの目も

りをよむ。

なり たち (「めの かたち」から、目→目→目と  
なった字。



耳

6かく  
[耳・0かく]  
(くみ)おん  
ジ  
みみ

耳 耳 耳 耳 耳

いめ ①みみ。「耳たぶ・耳もと」②  
ものの はし。「パンの 耳」③き  
く。「耳ざわり・耳なれる・聞き耳」は  
つ耳

つかいかた ▼耳もとで ささやく。▼耳を  
すまして、音を きく。▼パンの 耳を きり

おとす。▼かべの むこうから、耳ざわりな  
音が する。▼森君が 転校するなんて、はつ  
耳だ。▼耳なりが するなら、耳鼻科で みて  
もらいなさい。

なり たち (「みみの かたち」から、耳→耳→耳と  
なった字。



手

4かく  
[手・0かく]  
(く)おん  
シユ  
くんで・た

手 手 手 手 手

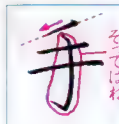
いめ ①て。てのひら。「はく手・  
手足」②もつ ところ。「とっ手」③  
はたらく 人。「うんでん手」④かい  
た もじ。「手紙」⑤やりかた。「手だん」

つかいかた ▼いえの 手伝いをする。▼う  
まの 手づなをとる。▼やきゅうの せん手。

▼びよういんて、手じゆつをする。▼ともだ  
ちに 手紙を かく。

さんこう とくべつな よみかた。「上手」「下  
手」「手伝う」

なり たち (「ての かたち」から、手→手と  
なった字。



足

7かく  
[足・0かく]  
(くあし)おん  
ソク  
あし・たりる・たる・たす

足 足 足 足 足 足 足

いめ ①あし。「土足・足あと・手  
足・足くび」②あるく。「遠足・足な  
み・いそぎ足」③たりる。「不足・まん  
足」④ひとそろいの はきものを かぞえる  
ことは。「一足」

つかいかた ▼ふろ場で 足を あらう。▼足  
なみを そろえて あるく。▼あしたは 遠足

だ。▼おかねが すこし 足りない。▼百点  
をとって、まん足だ。▼げんかんに、くつが  
なん足も ならんて いる。

なり たち (「ひざから あしの さきまでを あら  
わした かたち」から、足→足と  
なった字。

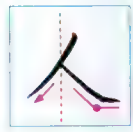




# 人

2かく  
[人・0かく]  
<ひと>

**かん** ジン・ニン  
**ひと**  
**人** 人



**い** ①にんげん。ひと。「人生・名人・人形・人手」②人の数をかぞえることは。「五人」

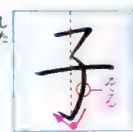
**つかいかた** ▲あの人とはとてもやさしい。  
▲人通りの おおい 道がある。▼おとうさんは、ものまねの **名人**だ。▼りっぱな **人間**になりたい。▼女の子が **三人**います。  
**さんこう** とくべつな よみかた。「大人」「一人」「二人」「若人」

**なり** (「立」から、**人**と)  
**たち** (「人」から、**人**と)  
みた ようすから、**人**と

# 子

3かく  
[子・0かく]  
親

**かん** シス  
**こ**  
**子** 子 子 子



**い** ①こども。むすこ・むすめ。「子ねこ・親子・子そん・王子」②ひと。「女子・男子」③ものの なまえやじょうたいを あらわす ことばの「様子・調子」④たね。「種子」⑤

**つかいかた** ▲子犬が とびまわる。▼なかのよい **親子**。▼先生は **女子**大出です。▼どうも **様子**が へんだ。▼花の **種子**をとる。  
**さんこう** とくべつな よみかた「迷子」「息子」

**なり** (「子」から、**子**と)  
**たち** (「子」から、**子**と)  
子と なった 字。

# 口

3かく  
[口・0かく]  
<くち>

**かん** コウ・ク  
**くち**  
**口** 口 口 口

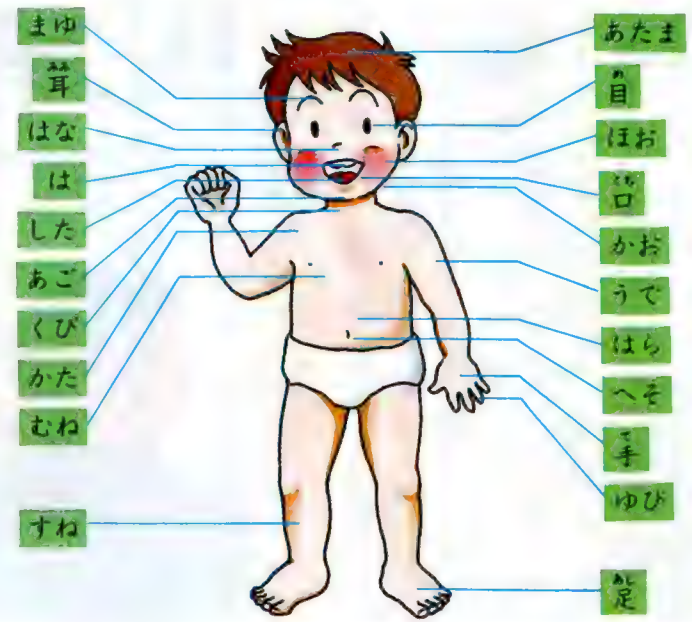


**い** ①くち。「口ぶえ・口元・口調」②ものの だしいれや、人がていりする ところ。「出口・入り口・まど口・じゃ口」③人の かず。「人口」

**つかいかた** ▲口を 大きく あけて うたう。  
▼口ぶえを ふきながら あるく。▼きびしい口調(「口」の ききかたで、ちゅういする)。  
▼みなさん、出口で おしあわないて ください。  
▼いろいろな 国の 人口(「人」の 数を しらべる)。

**なり** (「くち」の かたち)から、**口**と  
なった 字。

からだの よびな









# 林

8かく  
[木・4かく]  
くへん



林 林 林 林 林 林 林 林 林 林

いみ ①木が たくさん はえて

いるところ。はやし。「山林・植  
林・森林・松林」②たくさん あつま

っている ようす。「林立」

つかいかた 林の なかの ほそい 道を

あるく。松林の なかで、松ぼっくりを  
みつけた。夏休み、林間学校へ いきます。

森林に すむ どうぶつたち。高い えん  
とつが 林立して いる(＝たくさん ならん

ている)。

なり たち 林 木が ならんだ か  
たちから てきた。



# 森

12かく  
[木・8かく]



森 森 森 森 森 森 森 森 森 森

いみ 大きな 木が、たくさん

おいしげって いるところ。も  
り。「森林」

つかいかた こんもりと した おみやの

森。森に かこまれた しずかな みずうみ。  
森で、きのこや 木のみを さがした。北  
の国では、見たす かぎり 森林が 広が

っている。

さんこう ふつう、林より たくさん の 大き  
な 木が しげった ところを 森と いう。

なり たち 森 木を 三つ あわせ  
て てきた 字。



なり たち 山 (＝三つの やまの かたち)から、山  
→山と なった 字。

# 山

3かく  
[山・0かく]  
くやま



山 山 山

いみ ①やま。「山地・山中・富士  
山・山道・登山」②たかく つみあげ

たもの。「一山・山もり」



つかいかた 遠足で、山に のぼる。富士登  
かな 山里の 村。夏休み、父と

山を した。山頂(＝山の いただき)で、

日の出を おがんだ。とおくに、山みやくが

つらなつて 見える。一山 五百円の み

かんを かった。山もりの さくらんぼを

たいらげた。

さんこう とくべつな よみかた。「川原」

なり たち 川 かわが ながれる ようすか  
ら てきた 字。

# 川

3かく  
[川・0かく]



川 川 川

いみ かわ。「川上・川下・川口・谷  
川・河川・小川・天の川」

つかいかた 川を 下



る。川岸に、やなぎの 木が はえて

川上に むかつて、川を さか上つて いっ

た。谷川の つめたい 水を のんだ。大

がかりな 河川工事が はじまった。川ぞこ

まで 見える きれいな 小川に、めだかが

およいて いる。

さんこう とくべつな よみかた。「川原」

なり たち 川 かわが ながれる ようすか  
ら てきた 字。



# 空

8かく  
[た・3かく]  
〈あなかんむり〉

おん クウ  
くん そら・あく・あける・から

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十  
空 空 空 空 空 空 空 空 空 空

いあ ① そら。「青空・大空・空気が  
空中」② なかみが ない。からっ  
ぽ。むだ。「空はこ・空き地・空せき・  
空らん・空車・真空・空ぶり」③ ひこうきの こと。  
「空港」

空

つかいかた ▼ くも ひとつ ない 青空。  
山の 空気は すんて いる。▼ 空きかんを  
あつめる。▼ 空っぽの はこ。▼ 空車(人が  
のって いない 車)が、三台 ならんて い  
る。▼ 空港へ 見おくりにく。

なり たち 穴(「あな」と 工(「つきぬける)を く  
みあわせた 字。



# 雨

8かく  
[雨・0かく]  
〈あめ〉

おん ウ  
くん あめ・あま

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十  
雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨

いあ あめ。あめふり。「雨天・長  
雨・大雨・雨やどり・雨水・雨ぐつ・風  
雨・降雨量・梅雨(はい・つ)」

雨

つかいかた ▼ 大つぶの 雨が ふって きた。  
梅雨に 入って 雨も 雨の 日がつ  
づいて いる。▼ 木の 下で、雨やどりを す  
る。▼ ゆうがた 雨戸を しめる。▼ 風雨が  
はげしく なって きた。

なり たち 雨(「あめ」が ふる ようす)から、雨  
↓ 雨と なった 字。



# 田

5かく  
[田・0かく]  
〈た〉

おん デン  
くん た

田 田 田 田 田 田 田 田 田 田

いあ ① たんぼ。た。「水田・田う  
え・田畑」② いなか。こうがい。「田  
園・田舎」③ 土の 中から さんぶつ  
が とれる ところ。「油田」

田

つかいかた ▼ 田に うえる なえを そだて  
る。▼ 田うえに そなえて、田んぼを たがや  
す。▼ 青々と した 水田が ひろがって い  
る。▼ 田畑(「たど はたけ)を たがやす。▼  
のどかな 田園の けしき。▼ 油田を ほる。

さんこう とくべつな よみかた。「田舎」  
田(「四角に くぎった たんぼの かた  
ち)から、田→田と なった 字。

なり たち 田(「四角に くぎった たんぼの かた  
ち)から、田→田と なった 字。





3かく  
[夕・0かく]  
〈ゆい〉

けん ゆう  
おん セキ

タ  
タ  
タ

いあ ゆうぐれ。 ゆうがた。 「夕方」  
 ゆうたち ゆうひ ゆう  
 夕立・夕日・夕やけ・夕かん・夕食・夕  
 はん・夕ぐれ・夕顔」

つかいかた

つかいかた ▶ いえに かえる とちゅうで  
 はげしい **夕立**（ゆうたち）に あった。 ▶ まっかな **夕日**（ゆうひ）  
 が しずむ。 ▶ きれいな **夕やけ**（ゆうやけ）を 見た。 ▶  
 けんこうな からだは、 **一朝一夕**（いちちゅういちせき）（『わずかな  
 日にち』）には てきない。

わんぱう

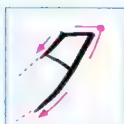
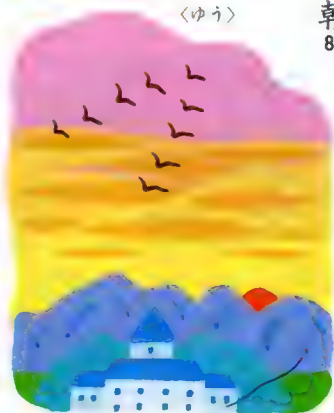
なり  
たち

タと  
な  
った  
字。

（三日月の  
かたち）から、  
月が  
出る  
よると

ア ↓

いう  
いみをあらわす。



花

7かく  
[++・4かく]  
〈くさかんむり〉

くん はな  
おん カ

花  
花  
花  
花  
花  
花  
花

いあ ①草くさや 木きのはな。「花かだ  
ん・花かびん・花見はなみ・花まつり・花わ・花  
たば」②うつくしくて、りっぱな  
もの。「花火はなび・花よめ」

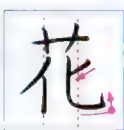
つかいかた

した。▼みんなて、クラスの **花だん** に **草花**  
 の **たね** を **まいた**。▼ともだちの **たんじょ**  
 う日に、**花たば** を **おく**る。▼ゆうべ、かぞく  
 て **花火** を **した**。▼うつくしい **花よめ** いし  
 よう。

なり  
たち

（しよくぶつ）植物を あらわす かたちと化

（おん）の音を くみあわせた 字。



## 天

4かく  
[大・1かく]  
〈だい〉

くん\* あめ・あま

天天天天

いぬ ① そら。てんき。「天地・天  
体・天気・天こう」② かみさま。「天  
使・天国」③ しぜんの きまり。「天  
災」④ うまれつき。「天才・天性」

つかいかた

つかいかた ▶ 天にも のぼるような 気もち  
 ▶ よい 天気(てんき)が つづく。 ▶ 天(あま)の 川(がわ)が、きれいに 見える。 ▶ 天使(てんし)のような やさしい 人(ひと)。  
 ▶ ちえを 出しあつて、天災(てんさい)(＝しぜんに よる  
 さいがい)に そなえる。 ▶ サッカーの 天才(てんさい)。  
 なり 人(ひと)(＝手足(てあし)を ひろげた 人(ひと)の 上(うへ)に  
 たち 一(ひと)の しるしを つけた かたち)から、  
 人(ひと) ー 天(てん)と なった 字(じ)。

人 ↓ 天 となつた字。



氣

6かく  
〔気・2かく〕  
〈きがまえ〉

くん

氣氣氣氣氣

いぬ ①くうき。ガス。「気体・気  
温・天気・気球・湯気」②こころの  
はたらき。こころもち。「元氣・勇  
氣・氣分」③ようす。「氣配・景氣・氣  
さ・きぶん」

つかいかた

ついかいた ▼ タイヤに 空気を 入れる。  
 いもうとは、 勝気な せいにかくだ。 ▼ 元気を  
 出す。 ▼ わすれものに 気が ついた。 ▼ うし  
 るに、人の 気配が した。  
 さんこう とくべつな よみかた。 「意気地」  
 なり  
 たち 米 ー 氣 (氣) もとの 字は「氣」。  
 の ゆげの かたちから てきた。 ふかす とき

の ゆげの かたちから てきた。





## 犬

4かく  
[犬・0かく]  
(いぬ)おん  
ケン  
くん  
いぬ

犬犬犬犬

いぬ 「子犬・小犬・犬小屋」  
のら犬・番犬・野犬

つかいかた 犬をさんぽにつ

れていく。子犬が、まるくなつてねむ  
っている。犬ぞりて北の国をはしる。おとうさんが、犬小屋をつくってくれた。  
大きな番犬をかっていえる。いさ  
いさん、野犬がふえてこまってる。

けいさつ犬のくんれんをする。

ちいさい 「、」が「ない」と、「大」になる。

なり 犬 いぬのすがた  
たち 犬をあらわした。

犬

## 虫

6かく  
[虫・0かく]  
(むし)おん  
チュウ  
くん  
むし

虫虫虫虫

いぬ ①むし。「こん虫・よう虫・  
害虫」②きもち。「虫がすかない」③あいてをばかにしていう  
ことは。「弱虫」つかいかた あきのよる、虫のなくこ  
えがきこえる。こうえんで、こん虫さいしゆうをした。害虫をたいじする。な  
んとなく虫がすかない(「気にいらな  
い」)。

人。いもうとは、とてもなき虫だ。

なり もとの字は「蟲」。①(「へびのかたち」  
たち から虫となり、三つくみあわせて  
てきた。のちに、略字から「虫」になった。

虫

## 草

9かく  
[草・6かく]  
(くさかんむり)おん  
ソウ  
くさ  
くさ

草草草草草草草草

いぬ ①くさ。「草原・水草・雑草」  
草花・草むら ②したがり。「草案・草  
稿(「文のしたがり」)つかいかた 広い草原を、うまにのつて  
はしりまわる。草花をおし花にする。草  
牧草をかりとる。草案(「案のしたがり」  
をねる。さんこう ①(「くさかんむり」)のつく字の  
おおくは、植物にかんけいがある。②と  
くべつなよみかた。「草履」なり ①(「植物をあらわすかたち」と早  
たち (「その音」をくみあわせた字。

草

## 竹

6かく  
[竹・0かく]  
(たけ)おん  
チク  
くさ  
たけ

竹竹竹竹竹竹竹竹

いぬ ①しよくぶつのたけ。「竹や  
ぶ竹の子・青竹・竹林」つかいかた ほしい竹で、つり  
ざおをつくった。竹やぶで、竹の子をさ  
がす。竹馬(「竹の子」)のつてあそぶ。うらの  
山に、竹林(「竹の林」)がある。竹をわ  
ったような(「さつぱり」)したせいかくの  
人。さんこう とくべつなよみかた。「竹刀(「け  
ん道でつかう竹でつくった刀」)  
↑↑ 竹 二本のたけのか  
たちからてきた。

竹





王

4かく  
[王・0かく]  
〈おう〉

王王王王



王

**いみ** ① おうさま。「国王・女王・王子・王国」② そのみちていちはんすぐれて いる人。「王者・発明王・ホームラン王」

**つかいかた** ▼「はだかの 王さま」のものがたりをよむ。▼白いうまにのった 王子さまがやってきた。▼かれは、サッカーのJリーグで とくてん王 になった。

**さんこう** とくべつな よみかた。「親王」

**ちゅうい** 「玉」と まちがえない こと。

**なり** 玉(「手足を 広げた 人が、天と地のあいだに たつ)から できた 字。

玉

5かく  
[玉・0かく]  
〈たま〉

玉玉玉玉



玉

**いみ** ① ほう石。また、たいせつなもの。たま。「玉石(「ほう石とふつうの 石・玉の はだ・お年玉」

② まるい かたちのもものたま。「水玉・目玉・あめ玉」

**つかいかた** ▼宝玉(「たからと する ほう石)がついた、王さまの かんむり。▼水玉

もようの ワンピースを きる。▼とんぼの 目玉は、まるくて 大きい。

**ちゅうい** 「玉」と まちがえない こと。

**なり** 丰(「三つの たまを ひもで つないだ かたち)から できた 字。

貝

7かく  
[貝・0かく]  
〈かい〉

貝貝貝貝貝貝



貝

**いみ** どうぶつの かい。かいがら。「まき貝・二まい貝・貝づか」

**つかいかた** ▼はまべて、きれいな 貝がらを ひろった。▼桜貝を 糸で むすんで、ネックレスを つくった。▼貝づかは、大むかしの 人が たべた あとの 貝がらを すてた ところです。

**さんこう** むかし、貝は お金の やくめを して いたので、貝の つく 字は お金に かんけいがある。

**なり** 貝 貝 貝 二まい貝の かたちから できた 字。

石

5かく  
[石・0かく]  
〈いし〉

石石石石石



石

**いみ** いし。「小石・岩石・化石・石き・石・石油」

**つかいかた** ▼川原には、大きな 石が ごろごろして いた。▼たかい 石がきの上に そびえる お城。▼石油 ストーフをつける。▼きょうりゅうの 化石が 出た。▼じ石で 方角を しらべる。

**さんこう** 「石」は もと、こくもつや えきたいなどを はかる たんいとしても つかわれた。一石は 十斗で、やく百八十リットル。

**なり** 石(「がけの 下に いしが ある ようす)から、石 石と なった 字。







# 先

6かく  
〔儿・4かく〕  
〈にんにょう〉



先 先 先 先 先

いみ ①さき。はじめ。まえ。「先頭・先着・先方・先まり」②今よりまえ。むかし。「先祖・先月・先日・先生」

先

つかいかた ③その 先を 右に まがると、公園です。④にわ先に、小鳥が やって きた。

いちばん 先頭を あるく。⑤先着順(い)さきについた じゅん)に うけつける。先生のおみまいに いった。⑥先週から

かぜを ひいて いる。⑦先月、ハサいに なりました。

なり ⑧(「あしの かたち」と 人(ひと)のかたち)で、「つまさき」を あらわした。

# 学

8かく  
〔子・5かく〕  
〈こ〉



学 学 学 学 学 学 学 学 学 学

いみ ①べんきようする。まなぶ。「学生・学習・学者」②ちしき。「科学・医学・学問」③がつこう。「入学・進学・学年・学級・大学・学長」

学

つかいかた ④父は、英会話を 学んで いる。大きく なったら、アメリカに 留学した。

⑤社会科の 学習で、車の 工場を 見学した。⑥めざましい 科学じじゅつの 進歩。⑦大学に 入学する。

もとの 字は 學。白(りよう手)と 一(い)えと 夕(まじわる ようす)と 子を くみあわせた 字を りやくした。

# 校

10かく  
〔木・6かく〕  
〈きへん〉



校 校 校 校 校 校 校 校 校 校

いみ ①がつこう。「校庭・校歌」②くらべる。しらべる。「校正」

校

つかいかた ③まいにち 学校にかよう。④集団登校を しています。門の ところに あつまる。⑤みんなて、校歌を うたう。⑥新しい 校舎が てきあがった。

⑦校長先生の おはなしを きく。⑧全校の生徒が、校庭の そうじを した。⑨父の つとめの かんけいて、転校した。⑩学校新聞の 校正(「まちがいを なおす こと」)を する。⑪(「足を X形に 交差させた かたち」と 木(き)を くみあわせた 字。

# 生

5かく  
〔生・0かく〕  
〈うまれる〉



おん セイ・シヨウ

いきる・いかす・いける・うまれる・うむ。おう・はえる・はやす・き・なま

生 生 生 生 生

生

いみ ①うまれる。うむ。はえる。「生後・生産・たん生日・芝生」②いき

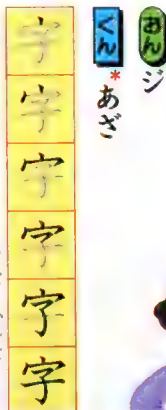
て いる。「生物・生命・生活・一生・人生・生木」③ものごとが おこる。おこす。「発生」④手を

くわえて いない。「生水・生糸」⑤べんきようをして いる 人。「学生・生徒」

つかいかた ⑥三月生(う)まれの人。⑦草が 生える。⑧米の 生産高。⑨人の 一生。⑩生の 魚。⑪長生(き)きをする。⑫じこが 発生した。⑬(「くさ木の め」と 土(つち)を くみあわせて、生(う)生(う) になった 字。



6かく  
[子・3かく]  
〈こ〉

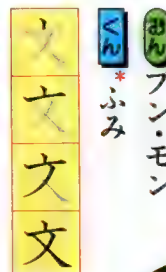


いぬ ① もじ。「文字・漢字・ローマ字・字体・字典・数字」② 市や町や村の 中の 小さな いき。あぞ。「大字」

字

漢字の なりたちを しらべる。 ▼ 文字を かく。  
 前を こたえる。 ▼ ねえさんは、習字を なら  
 っている。 ▼ 日本では、ひらがな・カタカナ・  
 漢字・ローマ字の、四つの 文字を つかって  
 いる。 ▼ ここは、山田町 田中です。  
 山（＝いえ）と 子の くみあわせ。 子が  
 ふえるように 字が ふえる いみ。

4かく  
〔文・0かく〕  
〈ぶん〉



いぬ ①ぶんしょう。「作文・文学」  
ぶんしゅう 文集・文章 ②もよう。「じよう文」  
ぶんよう 文様 ③もじ。「文字」 ④がくもん 学問や  
いじゆつ。「文化・文明」

文

つかいかた  
 えんそくの 作文を かく。  
 外国の とものだちと 文通(ぶんつう) 手紙(てがみ)の やりと  
 りをする ことを する。 大むかしの  
 絵文字(えもんじ)。 じょう文土器(ぶんどき) (＝なわの もよう  
 の ある 大むかしの やきもの)が 発見(はっけん)  
 された。 十一月三日(じゅういちがつみつ)は 文化(ぶんか)の日(ひ)です。  
 文(ぶん) (＝土器(どき)に つけた もよう)から、  
 文(ぶん) と なった 字(じ)。

5かく  
〔木・1かく〕  
〈き〉



本 木 木 木 木 本

くん もと

あん ホン

本 木 木 木 木 本

いみ

①ほん。「本屋・絵本」

②もの

③「だいたい。ほんとうの。」

ごとの 大もと。基本・根本・本社

ほんもの。本物・本

本

ばん ほんき ほんしん ほんまう  
番・本気・本心・本名」④ この。「本人・本日」⑤ 細  
なが  
長い ものを かぞえる ことは。「一本」  
ほんや  
えほん

つかいかた  
▼ 本屋さんで、  
絵本を  
買った。

▼スポーツでは、基本がだいじです。▼うね  
さは本当かどうか、本人にたしかめた

▼**本気**を いっほん だして れんしゅうする。 ▼だい、

なり  
たち

木の 下の ところ に しるし を つけ  
て、「根<sup>ね</sup>もと」を あらわした 字。

●にて  
いる  
字<sup>じ</sup>に  
氣<sup>き</sup>を  
つけ  
ましょ  
う。

王  
—  
玉  
  
早  
—  
草

貝  
—  
見  
  
村  
—  
林

字——学  
大——犬

上  
—  
土  
  
白  
—  
百

人—入  
木—本

石  
—  
右  
  
日  
—  
月  
—  
目



# 村

7かく  
[木・3かく]  
[きへん]

おん  
ソン  
くん  
むら

村 村 村 村 村 村 村 村



村

**い** いなかくて、いえが あつま  
つて いる ところ。また、人々を  
おさめる ための くぶんの 一  
つ。むら。「山村・漁村・農村・村落・村長・村里・  
村役場・村人・村民」

**つかいかた** ▼村はずれに、ふるい 寺が あ  
る。▼おじいさんは、村長を して いた。  
▼村おこし(＝村を さかんに する こと)の  
しごと。▼村民運動会を ひらく。

**なり** 木(＝き)と 寸(＝しはらく やすむ い  
たち)を くみあわせた 字。やすんて い  
るところから、すむ ところになっ

# 町

7かく  
[田・2かく]  
[た]

おん  
チヨウ  
くん  
まち

町 町 町 町 町 町 町 町



町

**い** ①にぎやかな ところ。ま  
た、人々を おさめる ための く  
ぶんの 一つ。まち。「町かど・町  
民・町長」②市や まちの 中の、小さなく  
いき。「町内会」

**つかいかた** ▼町かどの ポストに、手紙を  
入れる。▼町営の プール。▼あすの おま  
つりには、町内のおみこしが 出る。  
▼さんこう「町」は もと、道の 長さや 土地  
の 広さの たんいとしても つかった。

**なり** 田(＝た)と 丁(＝丁字形に まじわる  
たち) あぜ道)を くみあわせた 字。

# 村

7かく  
[木・3かく]  
[きへん]

おん  
ソン  
くん  
むら

村 村 村 村 村 村 村 村



村

**い** いなかくて、いえが あつま  
つて いる ところ。また、人々を  
おさめる ための くぶんの 一  
つ。むら。「山村・漁村・農村・村落・村長・村里・  
村役場・村人・村民」

**つかいかた** ▼村はずれに、ふるい 寺が あ  
る。▼おじいさんは、村長を して いた。  
▼村おこし(＝村を さかんに する こと)の  
しごと。▼村民運動会を ひらく。

**なり** 木(＝き)と 寸(＝しはらく やすむ い  
たち)を くみあわせた 字。やすんて い  
るところから、すむ ところになっ

## 一年生の かん字の ちゅういてん①

かきじゆんで ちゅういしたいのは、  
九ノ九  
七ノ七  
右ノナオ右右  
左ノナオ左左  
出ノナ出出  
上ノナ上  
田ノ田田田  
耳ノ下下耳耳  
系ノ系系系  
力ノ力



また、字たいと しても「右」は よこぼうが  
ながいのに たいして、「左」は 二かく目の はら  
いが ながく なります。  
「右」と おなじ なかまは 「布・希・有」、「左」  
と おなじ なかまは 「存・在・友」などです。  
「系」は、かきじゆんと 字けいを しつかり た  
しかめ、六かくで かく ことを おぼえましょう。  
「天」は、上の よこぼうよりも 下の よこぼう  
が みじかい ことに ちゅういしましょう。

## 一年生の かん字の ちゅういてん②

「上」と「下」と いう 字は、よみかたが たく  
さん あります。おくりがなにも ちゅういしまし  
よう。  
「上」：シヨウ(上京)・うえ(山の上)・かみ(川  
上)・あがる(上がる)・あげる(上げる)・の  
ぼる(上る)・のぼせる(上せる)・のぼす(上  
す)  
「下」：カ(落下)・ゲ(下校)・した(下見)・しも  
(川下)・もと(足下)・さがる(下がる)・さ  
げる(下げる)・くだる(下る)・くだす(下  
す)・くださる(下さる)・おろす(下ろす)・  
おりる(下りる)

「早」は、じこくや じきが はやい ことを あ  
らわす ときに つかいます。「早起き・早口・早朝・  
早春・朝早く」などと つかいます。





青

8かく  
[青・0かく]  
くあおおん セイ・シヨウ  
くん あお・あおい

一 十 十 十 青 青 青 青

いみ ①あお。あおい。「青空・ろく青(＝どうの)青いさび」②わかい。「青年」

つかいかた 青い 空に 白い 雲。やさいのはっぱを たべる 青虫。わかわかし

いのはっぱを たべる 青虫。わかわかし

時代)を たのしむ。

さんこう ⑦「青草」「青な」などの「青は、みどりいろの こと。⑧とくべつな よみかた。

「真つ青」

なり ⑨(＝あおい 草の めばえ)と 円(＝いどち)の 中の しみず)を あわせた 字。



青

円

4かく  
[円・2かく]  
くどうがまえおん エン  
くん まるい

一 円 円 円

いみ ①まるい かたち。まる。「円形・円周」②おだやか。「円まん」③お金の たんい。「千円」

つかいかた 円く わに なって おどる。コンパスで 円を かく。やねが 円形を

した やきゆう場。なるべく 円まんにか

いけつしましう。ちよきんばこに、二にか

百円 入れる。円高(＝日本のお金の

ちが 上がる こと)になる。

なり もとの 字は 圓。員(＝まるい いれもの)と 〇(＝かこい)を くみあわせた 字。まるい かこいの いみを あらわす。



円

赤

7かく  
[赤・0かく]  
くあかおん セキ・シヤク  
くん あか・あかい・あからむ・あからめる

一 十 十 十 赤 赤 赤 赤

いみ ①あか。あかい。「赤組・赤十字・赤はん」

つかいかた 運動会で、ことは

赤組が かった。赤ちゃんが なきやんだ。はずかしくて、かおを 赤らめる。おいわいの 赤はんを たべた。赤(＝赤しんごう)

はとまれ、青(＝青しんごう)は すすめ。日に やけた 赤どうい(＝赤ぐろい いろ)のはだ。

さんこう とくべつな よみかた。「真つ赤」

なり ⑨(＝あかい 火の めばえ)と 赤(＝いどち)の 中の しみず)を あわせた 字。



赤

白

5かく  
[白・0かく]  
くしろおん ハク・ビヤク  
くん しろ・しら・しろい

一 白 白 白 白

いみ ①しろ。しろい。「白衣・白鳥・白ざとう・白雪・白髪」②あかるい。「白昼・白日」③ただし。け

つ白(＝やましく ない)④あきらか。「明白」⑤なにも ない。「白紙・空白」⑥ありの ままにいう。「白じよう」

つかいかた 白い 雲が うかんで いる。みずうみに 白鳥が いる。純白(＝真つ白)の ドレス。つみを 白じようする。

なり ⑨(＝どんぐりの かたち)から、白(＝白じよう)となった 字。どんぐりの みはし

ろい ことから できた。



白



# 正

5 かく  
[止・1 かく]  
(とまる)

せい・シヨウ  
ただしい・ただす・まさ

正 正 正 正 正

① 正しい。「正義・正直・正確」  
② ちょうど。まさしく。「正午・正面」  
③ まともな。「正門・正式」  
④ ほんらいの。「正副」  
⑤ 一月。「正月」

## 正



# 早

6 かく  
[日・2 かく]  
(ひ)

ソウ・サツ  
はやい・はやまる・はやめる

早 早 早 早 早

① はやい。はじめ。「早朝・早春」  
② はやくする。いそぐ。「早足・早急」

## 早



つかいかた ▼ 正しい。こたえを出す。▼ まちがいを正す。▼ 身長を正確にはかる。  
正に、父のいうとおりになった。  
正月休みに、スキーにいった。  
さんこう かずをかぞえるとき、一・下・正のようにかいてつかう。  
一(＝もくひょうをあらわすばしよ)と止(＝あし)をくみあわせた字。

つかいかた ▼ けさは早くおきた。▼ こんやは早めにねよう。▼ あたみがいたくて、早退した。▼ 早まったことをしないように。  
早そく(＝すぐに)、しごとにとりかかる。  
さんこう とくべつなよみかた。「早乙女」「早苗」  
たち 黒いせんりようをとることから、朝くらい朝は、やいて、早→早となった。

# 入

2 かく  
[入・0 かく]  
(いる)

あんにゅう  
いる・いれる・はいる

入 入

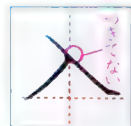
いめ はいる。いれる。「入学・入社・入れ物・記入・加入」

つかいかた ▼ 入り口から入る。

水が入っているコップ。▼ かばんに、きようかしよとノートを入る。▼ おとうとは、来年小学校に入学する。▼ メモちように記入する。▼ はたらいで、収入をえる。

ちゅうい 「入(いる)」と「人(ひと)」はよくにているが、ちがう字。

たち なり 入(＝いえのいりぐち)から、人→入となった字。



# 出

5 かく  
[出・3 かく]  
(うけはこ)

おんしゅつ・スィ  
でる・だす

出 出 出 出 出

いめ ① てる。また、だす。「出発・出口・外出・輸出・出場・出演」  
② あらわれる。また、あらわす。  
③ 出現・出火・出版

こと。「出身・大学出」

つかいかた ▼ 外へ出てあそぶ。▼ 大声を出す。▼ サッカーのしあいに出場する。

父は北海道の出身です。

さんこう とくべつなよみかた。「出納」(＝お金の出し入れ)  
たち なり 出(＝あしがせんからでるようす)から、出→出となった字。



## 出







## 二年生の漢字学習法

### ○学校での勉強

#### ①漢字学習のめあて

二年生では、一年の配当漢字八十  
字と、二年の配当漢字百六十字を読  
むこと、また、一年の漢字を正しく  
書き、文の中で使えるようにするこ  
とをねらいとしています。

二年の漢字百六十字については、  
順次書くようにすることが指導され  
ます。

三年生以上になると、漢字テスト  
のために漢字を覚えるような、学習  
姿勢が生まれることがあります。テ  
ストではしっかり書けるのに、作文  
などでは使わないということがあり  
ます。

ですから、二年生のこの時期に、  
学習した漢字を使う姿勢や態度を養

うことが、これからの漢字学習をし  
ていく態度を形成することにつな  
がります。

### ②漢字の構成の理解

一年生では、「文字の形」を長方  
形・四角形・三角形などの大まかな  
形でとらえさせましたが、二年生で  
は、たとえば「草」は「艹」と「早」  
に分けられるというように、一字の  
漢字を上下・左右などに分けられる  
かどうかという視点から、漢字の形  
をとらえさせます。これは、後に学  
習する漢字の構成についての基礎知  
識となります。

### ○家庭学習のポイント

一年生の学習の延長として、筆順  
や字形を体で覚えさせる段階でもあ  
ります。そのためには、繰り返し学  
習が必要です。

しかし、そうした学習と並行して、  
漢字には一字一字意味のあることや、

実際に学習した漢字を使えるように  
するための学習が必要な時期でもあ  
ります。

すなわち、二年生での漢字学習は、  
繰り返しという機械的学習とそうで  
ない学習との兼ね合いを考えながら  
指導する時期と言えます。

後者の学習のために、次のような  
学習をさせて下さい。

#### ①漢字の意味からの分類

たとえば、「白・黒・青・赤・黄・  
茶」など「色」に関係する漢字あ  
つめをさせます。

また、「生き物」に関係する漢字と  
いうことで、「牛・馬・虫・鳥」など  
を集めます。

#### ②漢字の構成からの分類

たとえば、上下に分けられる漢字  
「草・雲・男」、左右に分けられる漢  
字「絵・活・記」などのように分類  
させます。

## 二年生でならう字

春 86	午 90	西 94	母 98	声 102	語 106	歌 110	合 114	番 118	寺 123	馬 127	前 132	強 136	売 140
夏 86	明 90	南 94	兄 98	心 102	算 106	絵 110	計 115	組 119	店 123	魚 127	後 132	弱 136	買 140
秋 86	星 90	北 95	弟 99	思 103	数 107	色 111	何 115	交 120	門 124	鳥 128	内 132	長 136	引 140
冬 87	野 91	時 95	姉 99	考 103	理 107	紙 111	答 115	通 120	室 124	鳴 128	外 133	高 137	切 141
光 87	原 91	分 95	妹 99	才 103	科 107	黄 112	電 116	道 120	戸 124	羽 128	遠 133	広 137	
風 87	岩 92	週 96	自 100	言 104	社 108	黒 112	教 116	場 121	台 125	肉 129	近 133	同 137	
晴 88	谷 92	曜 96	友 100	記 104	会 108	形 112	知 116	地 121	汽 125	米 129	多 134	歩 138	
雲 88	海 92	今 96	体 100	話 104	図 108	点 113	万 117	方 121	船 125	麦 129	少 134	走 138	
雪 88	池 93	元 97	毛 101	書 105	画 109	丸 113	毎 117	京 122	弓 126	茶 130	古 134	行 138	
朝 89	公 93	間 97	頭 101	読 105	工 109	線 113	回 117	市 122	矢 126	食 130	新 135	来 139	
昼 89	園 93	親 97	顔 101	聞 105	作 109	直 114	半 118	里 122	刀 126	活 130	太 135	帰 139	
夜 89	東 94	父 98	首 102	国 106	楽 110	角 114	当 118	家 123	牛 127	用 131	細 135	止 139	





春

9かく  
[日・5かく]おん シュン  
くはる

一 二 三 井 夫 春 春

春

①はる。「春」はる。春風・春季・春・立春・早春・立春

としのはじめ。「新春」③わか  
い年ごろ。「青春」

つかいかた ▼まちにまった春  
がきた。▼きもちのよい春風。

▼すっかり春めいてきた。▼新  
春のあいさつをする。

なち ぢー春  
芽がでるよ

うす)と日(「たいよう)をくみ  
あわせた字。

夏

10かく  
[父・7かく]おん カ・ゲ  
なつ

一 百 百 百 頁 夏 夏

夏

なつ。「夏季」  
夏休み・夏祭り・夏  
至・初夏

つかいかた ▼ことしの夏はと  
くにあつくて、父はすっかり夏  
負けしてしまった。▼夏至は、  
一年のうちで昼がいちばん長く  
なる日です。▼初夏のさわやか  
な風がきもちいい。

なち ぢー夏  
人がかざ  
りのある

おめんをかぶっておどるかたち  
からてきた字。

秋

9かく  
[禾・4かく]おん シュウ  
あき

一 二 千 禾 秋 秋

秋

あき。「秋風」  
秋季・秋分・秋晴れ・  
秋祭り・秋雨・春  
秋・晩秋

つかいかた ▼秋の大運動会。  
きようは秋分の日、休み  
です。▼雲一つない秋晴れの空。  
▼秋祭りのふえのけいこをする。  
▼秋のおわりごろのことを、  
晩秋という。

なち 禾(「さくもつ)と火(「ひ)  
をくみあわせて、「とり入  
れのきせつ」をいみした字。

なち 禾(「さくもつ)と火(「ひ)  
をくみあわせて、「とり入  
れのきせつ」をいみした字。

冬

5かく  
[フ・3かく]おん トウ  
ふゆ

一 二 三 冬 冬 冬

冬

ふゆ。「冬季」  
冬至・冬みん・冬休  
み・初冬

つかいかた ▼さむい冬がやっ  
てきた。▼冬至は一年じゅうて  
いちばん昼のみじかい日です。  
▼冬休みのけいかくをたてる。  
▼冬山にのぼる。

さんこう 冬は、上が「父」、夏  
は、下が「父」。

なち 父(「たべものをたくわえ  
るいみ)とフ(「こおり)を  
くみあわせてきた字。

光

6かく  
[ル・4かく]おん コウ  
ひかる・ひかり

一 二 三 半 半 光

光

ひかり。「光線」日光・  
月光・発光 ②けしき。  
「光景」観光 ③ほまれ。めいよ。  
「栄光」

つかいかた ▼月の光にてらさ  
れる。▼ぴかぴかと光るあやし  
い物体。▼日光がまぶしい。▼  
おおぜいの観光客。▼お会いて  
きて光栄です。

なち 炎・光  
あたまた  
たいまつ

をのせた人のかたちから。

風

9かく  
[風・0かく]おん フウ・フ  
かぜ・かざ

一 二 三 風 風 風

風

かぜ。「風雨」  
台風 ②よの中のう  
ごき。ならわし。「風  
潮」風習 ③ありさま。ようす。  
「風景」風情 ④おもむき。「風流」  
⑤うわさ。「風評」⑥びょうきの  
一つ。「風邪」

つかいかた ▼台風が近づいて、  
風雨が強まる。▼きゆうに風む  
きがかわった。▼古風な考え。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。

なち 風  
ふ(「ふねのほ)  
とむ(「むし)を  
くみあわせてきた字。







## 野

11かく  
〔里・4かく〕  
〈さどへん〉

口 田 甲 里 野 野 野

## 野

いあ ①のはら。「野」  
原・野球・野外・平  
野 ②しぜんのまま。  
ひらけていない。「野鳥・野草・  
野生」③はんい。「分野・視野」④  
みんかんの。「在野」

つかいかた ④広い野原をかけ  
まわる。▼きれいな野ばらがさ  
いている。▼しんせんな野菜。

科学の分野で賞をもらう。

〔なり〕 里(＝田畑)と、予(＝のびる)をくみあわせた字。広  
がった田畑や野原をあらわす。

## 原

10かく  
〔厂・8かく〕  
〈がんだれ〉

一 厂 厂 厂 原 原 原

## 原

いあ ①のはら。「野」  
原・高原・草原(げん・さく)  
★かわら★(河原)・海  
原 ②ものごとのもと。おこり。  
「原因・原作・原文・原案・原料・  
原油」

つかいかた ④広い原っぱであ  
そぶ。▼子馬が草原を走る。▼  
高原のひんやりした空気。▼じ  
この原因をしらべる。

〔たち〕 肩(＝いずみ)をあわせた字。  
肩(＝いずみ)をあわせた字。

## 午

4かく  
〔十・2かく〕  
〈じゅう〉

口 午 午 午 午

## 午

いあ ①昼の十二時。  
「正午・午前・午後」②  
ま南。「子午線」③  
頭のま上をとって、ま北とま  
南をむすぶ線。

つかいかた ④正午の時ほうが  
なった。▼いつも午前七時にお  
きます。▼午後から、母と買い  
ものに行った。

〔なり〕 「牛」の字とまちがえ  
ないこと。

〔たち〕 ↑(＝もちをつくきね)  
から、十(＝午)となった字。

## 明

8かく  
〔日・4かく〕  
〈めい・ひん〉

口 日 日 日 明 明 明 明

## 明

いあ ①あかるい。  
あかり。「明暗・光」  
明・灯明 ②あきら  
か。「明白・明細」③かしこい。  
「賢明」④あきらかにする。「説  
明・証明」⑤夜があける。あし  
た。「夜明け・明日(あ・み・う・ち)」

つかいかた ④明るいえがお。  
くわしく説明する。▼明朝おう  
かがいします。▼夜が明ける。

〔なり〕 明(＝あかり)の  
まどと、月をくみあわせた字。

〔たち〕 明(＝あかり)の  
まどと、月をくみあわせた字。

## 星

9かく  
〔日・5かく〕  
〈せい〉

口 口 口 星 星 星

## 星

いあ ①そらのほし。  
「星空・星座・衛星・  
火星」②小さいてん。  
「星じるし」③勝負のせいせき。  
「星取り表・黒星」

つかいかた ④弟が「あつ、流れ  
星だ」と言った。▼金星のこと  
を、「よいの明星」とも言う。▼  
むずかしいかん字に星じるしを  
つける。▼すもうの星取り表。

〔なり〕 星(＝ほし)の  
生(＝くさの芽)からてきた。

〔たち〕 星(＝ほし)の  
生(＝くさの芽)からてきた。

## かん字のちしき

●かん字のかくすう

一つのかん字が、いくつの点や  
せんでできているかしらべてみま  
しょう。「上」という字は、三つの  
線でできていますね。この数を、  
かん字の画数といいます。  
つぎの字の赤い線のところは、  
一つの線に数えます。

四 九 水 子

女 山 学 糸

夕 切 引 広

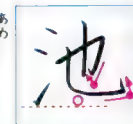
国 間 記 直



## 池

6かく  
〔シ・3かく〕  
〈さんずい〉おん  
ち  
いけ

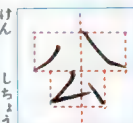
池池池池池池池

いめ  
いけ。「貯水」  
池・電池・古池つかいかた  
池でこいをかう。雨がふらないので、貯水池の水がへった。時計の電池をとりかえる。さんこう  
「シ」(「さんずい」)は、水のいみをあらわす。ちゅうい  
「地」とまちがえないこと。とくに「電池」にちゅうい。なり  
ち  
池  
水(左)とさそりのかたち(右)をくみあわせてできた字。

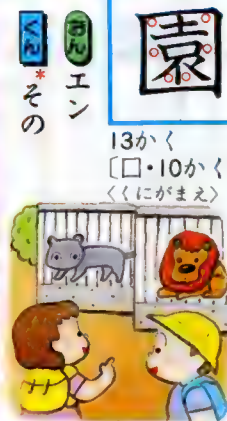
## 公

4かく  
〔ハ・2かく〕  
〈はち〉おん  
こウ  
\* おおやけ

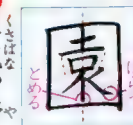
公公公公

いめ  
1 広く多くの  
人にかんけいするこ  
と。「公開・公表・公  
園・公害・公共」2 国や県、市町  
村、会社などにかんけいがある  
こと。「公立・公務員・公私」3 か  
たよらない。「公平」つかいかた  
公園のそうじを  
する。公害のない、すみよい  
町。おかしを公平に分ける。なり  
ち  
公  
ハ(「ひらく」とム(「く  
ちて、入り口をあけて、  
中を見せるいみをあらわした字。

## 園

13かく  
〔口・10かく〕  
〈くにがまえ〉おん  
エン  
\* その

園園園園園園園

いめ  
1 人々があそ  
んだりけんぶつした  
りする、広いにわ。  
「公園・庭園・動物園」2 草花や野  
さいをうえるところ。「菜園・田  
園・花園」3 きょういくをするこ  
ころ。「学園・幼稚園」つかいかた  
町に公園ができ  
た。休日には、動物園はまん  
いんになる。うつくしい花園。なり  
ち  
園  
袁(「ゆつたりとからだを  
つつむきもの」と口(「か  
こい)をくみあわせた字。

## 岩

8かく  
〔山・5かく〕  
〈やま〉おん  
ガン  
いわ

岩岩岩岩岩岩岩

いめ  
大きな石。  
「岩山・岩場・岩  
石・岩塩・火成岩・よ  
う岩・岩くつ」つかいかた  
谷川の岩かげに、  
小さななかがいた。岩場の多  
い山を、一歩一歩のぼる。理科  
室に、火成岩のひょう本がある。  
ふん火した火山から、よう岩  
がながれ出した。なり  
ち  
山(「やま」と石(「いし」  
をくみあわせた字。「山の  
石」から「いわ」のいみになった。

## 谷

7かく  
〔谷・0かく〕  
〈たに〉おん  
\* コク  
たに

谷谷谷谷谷谷谷

いめ  
山と山のあい  
だの、ふかくくぼん  
だところ。たに。「谷  
間・谷底・谷川・けい谷・きよう  
谷」つかいかた  
谷川の水は、と  
てもつめたかった。ふかい谷  
底を、こわごわとのぞいた。き  
よう谷にできたダムを、見学  
に行った。なり  
ち  
谷(「わかれてるしるし  
二つと口をくみあわせた  
かたち)から、谷(「谷」とな

## 海

9かく  
〔シ・6かく〕  
〈さんずい〉おん  
カイ  
うみ

海海海海海海海

いめ  
うみ。「海水・  
海水浴・海草・海岸・  
海外・航海・海辺・日  
本海・海原」つかいかた  
電車のもとから、  
海が見えてきた。ほとくの家は、  
海岸の近くにある。海辺のり  
よかんにとまった。五月の連  
休には、海外に行く人が多い。なり  
ち  
毎(「マイ」の音が「くら  
い」いみをもつ)とシ(「み  
ず)をくみあわせて、「くらしい色  
の水」「うみ」をあらわした。







## 元

4かく  
[元・2かく]  
〈にんによう〉

元元元元

おん  
ゲン・ガン  
もと

いめ ①ものごとの  
おこるところ。もと。  
「元手・元金・元氣・  
元来・根元」②ものごとのはじめ。  
「元日・元年」③かしら。「元首・  
元老」

元



つかいかた ▼元氣を出してが  
んばろう。▼大きな木の根元で  
休む。▼せかいの元首(＝その国  
をおさめている人)があつまる。  
「元」(＝人のからだの上に  
まるい頭をあらわしたかた  
ち)から、元→元となった。

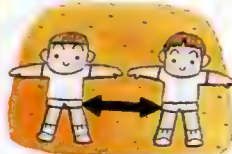
## 間

12かく  
[門・4かく]  
〈もんがまえ〉

間間間間間

おん  
カン・ケン  
あいだ・ま

間



いめ ①あいだ。す  
きま。間かく・中間・  
時間・空間 ②へや。  
また、へやの数をかぞえるとき  
につかうことは。ま。「客間・居  
間」③むかしの長さのたんの  
一つ。けん。一間は六尺で、や  
く一ハメートル。  
つかいかた ▼前の人との間を  
つめる。▼発車までに時間があ  
る。▼居間でくつろぐ。  
もとの字は「間」。門(＝もん)  
と月(＝つき)をあわせた字。

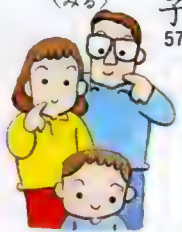
## 親

16かく  
[見・9かく]  
〈みる〉

親親親親親

おん  
シン  
おや・したい・したしむ

親



いめ ①父や母。お  
や。「親子・両親」②  
みうち。「親類」③し  
たしい。「親友・親交・親切・親  
善」④中心になる。「親会社」⑤  
自分で行う。「親書」  
つかいかた ▼かるがもの親子。  
▼親せきの家へあそびに行く。  
▼人に親切にする。▼国と国と  
の親善(＝なかよくすること)。  
「親」(＝はものて切った木)と  
見(＝みる)をくみあわせ  
た字。

## 週

11かく  
[一・8かく]  
〈しんによう〉

週週週週週

おん  
シュウ

週



いめ 日曜日から土  
曜日まで七日間を  
ひとくぎりとする。  
こよみのたんい。「週間・週  
刊・週番・週休・週末・今週・  
先週・来週・次週・毎週」  
つかいかた ▼今日から読書週  
間(＝はじまった。▼週休二日  
制の会社。▼一週間のよいを  
たてる。▼来週から夏休みだ。  
「週」(＝ぐるりととりま  
く)と一(＝すすむ)をくみあ  
わせてできた字。

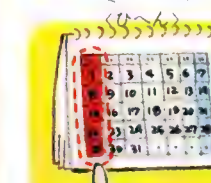
## 曜

18かく  
[日・14かく]

曜日曜日曜日曜日曜日

おん  
ヨウ

曜



いめ ①一週間の  
それぞれの日をよぶ  
ときにつけることは。  
「曜日・土曜日曜・七曜表(＝カ  
レンダー)」②かがやく。「黒曜石  
(＝黒くてつやのある石)」  
つかいかた ▼うっかり曜日を  
まちがえてしまった。▼水曜日  
と土曜日に、サッカーのJリー  
グのしあいがある。  
「曜」(＝きじがおはねを高く  
たてるようす)と日(＝たい  
陽)をくみあわせた字。

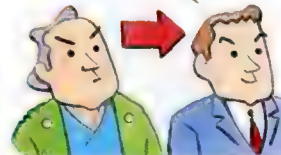
## 今

4かく  
[入・2かく]  
〈ひとやね〉

今今今今今

おん  
コン・キン  
いま

今



いめ ①いま。げん  
ざい。「今時・今後・  
今度・今学期・古今  
(＝むかしからいままで)」②きよ  
う。このごろ。いまの。この。「今  
日(＝こん・うき)・今夜・今朝・今年(＝こ  
ねん)」  
つかいかた ▼今ついたところ  
です。▼今にも雨がふりだしそ  
うだ。▼今度こそがんばるぞ。  
今夜は花火大会があります。  
「今」(＝ものをふたておさえ  
るかたち)からできた。



弟

7かく  
[弓・4かく]  
〈ゆみ〉

兄弟 98

おん  
\* テイ・ダイ・デ  
おとうと

弟 弟 弟 弟 弟

いあ  
① おとうと。  
「兄弟」② てし。「子  
弟・門弟・弟子」

弟

つかいかた  
弟の手をひく。なかのいい兄弟。子弟(二年  
のわかいもの)をきょういくす  
る。落語家に弟子入りする。ちやうい  
「第一」などの「第」と  
まちがえないこと。なり  
弟ひもがまきつ  
いたぼうの下  
にノじるしをつけ、ひくい位置  
をあらわした字。

姉

8かく  
[女・5かく]  
おんなへん

姉妹 99

おん  
\* シ  
あね

姉 姉 姉 姉 姉

いあ  
あね。「姉むす  
め・姉妹・長姉・姉さ  
ん」

姉

つかいかた  
ぼくには姉と妹  
がいます。「若草物語」は、  
四人姉妹の物語です。外国の  
市と姉妹都市(「したしくつき  
あうことをやくそくした市と市  
とのかんけい)になる。なり  
もとの字は「姉」。弟(「つ  
るがまきついたぼうの上  
に」をつけたかたち)と女(「お  
んな)をくみあわせた字。

姉

妹

8かく  
[女・5かく]  
おんなへん

姉妹 99

おん  
\* マイ  
いもうと

妹 妹 妹 妹 妹

いあ  
いもうと。「兄  
妹・姉妹・弟妹」

妹

つかいかた  
妹は  
ようち園に通っている。「顔もせ  
いかくもよく似た兄妹。近所  
でもひょうばんのなかのよい姉  
妹です。弟妹のめんどろをみ  
る。なり  
未(「まだのびきらないわ  
かいえだ)と女(「おんな)  
をくみあわせた字。「わかい女」  
からいもうとのいみになった。

妹

父

4かく  
[父・0かく]  
ちち

父 98

おん  
フ  
ちち

父 父 父

いあ  
ちちおや。お  
とうさん。「父・父  
子・父親・神父・祖  
父・お父さん・叔父・伯父」

父

つかいかた  
こんどの休みに  
父とつりに行く。弟は父親似  
です。日曜日に教会で神父  
さんのお話をきく。ぼくの家  
には、祖父のしゃしんがかざつ  
てあります。なり  
もつ(「石おの)と、それを  
もつ(「手)をくみあわ  
せて、父となった字。

母

5かく  
[母・1かく]  
ななめ

父 98

おん  
ボ  
はは

母 母 母 母 母

母

いあ  
① ははおや。  
おかあさん。「母親・  
母子・父母・お母さん・  
乳母」② 出身のところ。よりどこ  
ろ。「母国・母校」③ ものをうみ  
だすもと。「母音」はつ音のも  
とになる音」なり  
ある女の人をあらわした字。  
ある女の人をあらわした字。  
ある女の人をあらわした字。  
ある女の人をあらわした字。  
ある女の人をあらわした字。

兄

5かく  
[兄・3かく]  
にんによう

弟 99

おん  
\* ケイ・キヨウ  
あに

兄 兄 兄

兄

いあ  
あに。にいさ  
ん。「兄弟・義兄(「  
けっこんしているあ  
いてのあに。また、姉のおつと・  
実兄(「血のつながったあに・  
兄さん」なり  
だいをあらわす、あたま  
の大きい子)からてきた字。  
だいをあらわす、あたま  
の大きい子)からてきた字。  
だいをあらわす、あたま  
の大きい子)からてきた字。



## 毛

4かく  
[毛・0かく]  
〈け〉おん モウ  
く け

毛 毛 毛



い ① ひふにはえるけ。「毛布・毛筆・毛皮」2 けのようにほそいもの。「毛細血管」3 しよぶつやさくもつがはえる。「不毛」4 ひりつのたんのいの一つ。一毛は一割の千分の一。

つかいかた ▼ かみの毛がのびる。▼ 毛糸でセーターをあむ。▼ 毛布をきちんとたたむ。▼ 羽毛ふとんはかるい。

なり ち 毛(「ほそいけのかたち」)から、毛→毛となった字。

## 頭

16かく  
[頁・7かく]  
〈おがはい〉おん トウ・ズ・ト  
く あたま・かしら

豆 豆 豆 頭 頭 頭



い ① あたま。「頭」上・頭痛 ② はじめ。「年頭・先頭・頭文字」3 かしら。「頭取・番頭」4 そのあたり。「店頭・駅頭」5 馬や牛など大きな動物をかぞえることば。とう。

つかいかた ▼ かせて頭がいたい。▼ 頭上にちゅうい。▼ れつの先頭。▼ りよかんの番頭さん。

なり ち 頁(「あたま」と豆(「じつ」と立っている、あしのついた入れ物)をあわせた字。

## 顔

18かく  
[頁・9かく]  
〈おがはい〉おん ガン  
く かお

立 产 彦 彦 顔 顔 顔



い ① かお。また、かおだち。「顔面・顔色・童顔・笑顔」2 めんぼく。「顔色」3 いろどり。「顔料」

つかいかた ▼ さつと顔色が変わった。▼ かわいい横顔。▼ 顔にどろをぬる(「めいよをきずつける」)。▼ 水で絵の顔料(「えのぐ」)をとく。

なり ち もとの字は「顔」。彦(「うつくしい男」と頁(「あたま」)をくみあわせた字。

## 自

6かく  
[自・0かく]  
〈みずから〉 他 184おん ジ・シ  
く みずから

自 自 自 自 自 自



い ① じぶん。「自分・自習・自伝・自活・自己・自覚・自信・自身」2 ひとりてに。「自由・自然」

つかいかた ▼ 自らの生活をふりかえる。▼ 自分のは自分てしよう。▼ 新しい自転車かう。▼ 日本の自然をまもる。

なり ち 鼻のかちをあらわし、鼻をゆびさして自分をしめすことからできた。

## 友

4かく  
[又・2かく]  
〈また〉おん ユウ  
く とも

友 友 友 友



い ともだち。また、なががよい。「友人・親友・友情・友達」

つかいかた ▼ 友達のおみまいに行った。▼ 親友の小川くん。▼ クラスの友人とキャンプに行った。▼ うつくしい友情。

なり ち 二人が手と手をくみあわせたかたちからできた字。

## 体

7かく  
[イ・5かく]  
〈にんべん〉おん タイ・テイ  
く からだ

体 体 体 体 体 体



い ① からだ。「体力・体育・体重」2 かたち。ありさま。「気体・天体・大體・全体・体面」3 みにつける。「体験・体得」4 死体やぶつぞうをかぞえるときにつかうことは。たい。

つかいかた ▼ じょうぶな体をつくる。▼ 文しようの大體のいみ。▼ 体さいがわるい。もとの字は「體」。豊(「きちんとならべること」と骨(「ほね」)をくみあわせた字。



思

9かく  
[心・5かく]  
〈こころ〉



口 田 田 田 思 思

おん シ  
おも う

い い おもう。かん  
がえる。「思い出・思  
い付き・思考・思案・  
思想」



つかいかた ▼遊園地で、思う

ぞんぶん楽しんだ。▼思い出に  
ふける。▼つかれて思考力がに  
ぶった。▼思案にくれる(「ま  
よって考えがまとまらない」。  
▼よい考えを思い付いた。

なり (「あかんぼうのあたま  
と心」(「こころ」をくみあわ  
せて) ↓思となった字。

考

6かく  
[考・2かく]  
〈おいかんむり〉



一 十 土 考 考

おん コウ  
かんがえる

い い かんがえる。  
また、かんがえ。「考  
案・選考・思考」②し  
らべる。「参考・考古学」



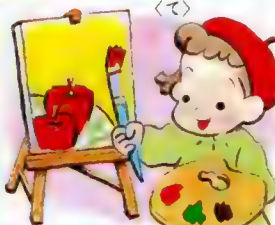
つかいかた ▼おもしろいゲー  
ムを考え付いた。

▼思考力(「考え  
る力」)が付く。▼  
参考書をかいまし  
た。

なり 考  
まがっ  
こしの  
た年よりのかたちからできた。

オ

3かく  
[手・0かく]  
〈て〉



一 十 才

おん サイ  
—

い い 生まれつき  
もっているのうりよ  
く。「才能・天才・文  
才」②としをかぞえるときにつ  
かうことは。さい。「歳」のかわ  
りに小学校でつかう字。



つかいかた ▼かのじよには絵  
の才能がある。▼山田くんはス  
ポーツの天才だ。▼弟は、五才  
になります。

なり (「川のながれをせきと  
めるせきのかたち」) からオ  
↓オとなった字。

首

9かく  
[首・0かく]  
〈くび〉



首 首 首 首 首 首 首 首 首 首

おん シュ  
くび

い い ①くび。あた  
ま。「えり首」②はじ  
め。かしら。「首位・  
首都・首相・首席」③短歌をかぞ  
えるときにつかうことは。しゅ。  
「一首」



つかいかた ▼首を長くして(「  
いまかいまかと」)まつ。▼首位  
とのさはわずかだった。▼短歌  
を五首作った。

なり (「かみの  
ものは  
えたあたまをあらわした字。)

なり

首

えたあたまをあらわした字。

声

7かく  
[士・4かく]  
〈こゑむらゐ〉



一 十 士 声 声 声 声 声 声 声

おん セイ・シヨウ  
こえ・こわ

い い ①こえ。「声  
楽・歌声・音聲・発  
声・歓声・大声」②  
うわさ。ひょうばん。  
「名声」



つかいかた ▼きれいな声でう  
たう。▼大声でさけぶ。▼父は  
いろいろな人の声色(「人の声  
のまね」)ができます。▼地位と  
名声をえる。

なり もとの字は「聲」。声(「石の  
いたててきた楽器」と受  
(「楽器をたたく人」と耳(「み  
み」)をくみあわせた字。

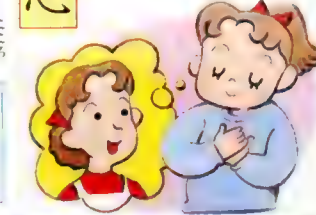
なり

声

えたあたまをあらわした字。

心

4かく  
[心・0かく]  
〈こころ〉



心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

おん シン  
こころ

い い ①こころ。「心  
がけ・心配・本心・安  
心・感心・決心・熱  
心・用心・心地」②しんぞう。「心  
臓」③まんなか。「中心」



つかいかた ▼心からおれいを  
いう。▼真心のこもったもてな  
し。▼苦心のすえかんせいした。  
▼火の元に用心する。▼こわく  
て心臓がときどきした。▼町の  
中心に広場がある。

なり (「しんぞうのかたち」  
から、心↓心となった字。

なり

心

えたあたまをあらわした字。



# 書

10かく  
[書・6かく]  
くひらび



おん シヨ  
く かく

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 書 書 書 書 書 書 書 書 書 書

書

「清書・書記」②かい  
たもの。てがみやほ  
ん。「書物・書類・図書・読書・投  
書」③文字。また、文字のかき方。  
「書道・かい書」  
つかいかた ▼書きはじめのコン  
クールで入せんした。▼作文を  
清書する。▼図書室にたくさん  
の書物がある。▼書道をならう。  
なり 書(「ふて」と曰(「者」をり  
たち やくした字で、しっかりつ  
けるいみ)をあわせた字。

# 読

14かく  
[言・7かく]  
くごんべん



おん ドク・トク・トウ  
く 読む

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 読 読 読 読 読 読 読 読 読 読

読

よむ。また、  
よみとる。「読み物・  
ろう読・読書・読者・  
読本(「むかし」の国語の教科  
書)・読点・解読」  
つかいかた ▼物語を読む。  
かん字の読み方をおぼえる。  
しゅみは読書です。▼文には句  
読点(「くぎりの点や丸」をうつ。  
もとの字は「讀」責(「きや  
く」の目をひきとめてうる)  
と言(「ことば」をくみあわせた  
字。くぎってよむこと。

# 聞

14かく  
[耳・8かく]  
くみみ



おん ブン・モン  
く きく・きこえる

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 聞 聞 聞 聞 聞 聞 聞 聞 聞 聞

聞

①きく。きこ  
える。「聞き手・立ち  
聞き・伝聞」②ちしき。  
「見聞」③うわさ。ひようはん。  
「人聞き・風聞・外聞・新聞」  
つかいかた ▼校長先生のお話  
を聞く。▼もの音が聞こえた。  
聞き分けのいい子。▼人聞きの  
わるいことを言わないうつ。  
父はまい朝、新聞を二紙読む。  
門(「として中をかくすも  
ん」と耳(「みみ」をくみあ  
わせた字。

# 言

7かく  
[言・0かく]  
くいう



おん ゲン・ゴン  
く いう・こと

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言

言

①ことば。「言  
葉・言語・方言・格  
言・伝言・遺言」②い  
う。「言論・無言・発言・予言・断  
言」  
つかいかた ▼ていねいな言葉  
づかい。父の伝言を母につた  
える。▼母の言いつけをまもる。  
えんりよなく発言してくださ  
い。▼言論のじゆうをまもる。  
なり 言(「するといははもの」と  
たち 曰(「口」をくみあわせて、  
「言」言となった字。

# 記

10かく  
[言・3かく]  
くごんべん



おん キ  
く するす

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記

記

①かきとめる。  
かきしるす。かきし  
るしたもの。「記入・  
記録・明記・日記・伝記」②おぼえ  
ている。「記おく・暗記」  
つかいかた ▼うけつけて名ま  
えを記す。毎日、日記をつけ  
ています。▼家ぞくて記念写真  
をとる。父は記おく力がとて  
もいい。  
なり 己(「ふせたものがおきあ  
たち がるようす」と言(「ことば」  
をくみあわせてできた字。

# 話

13かく  
[言・6かく]  
くごんべん



おん ワ  
く はなす・はなし

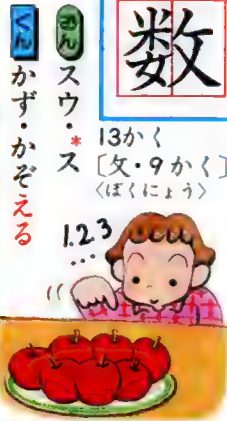
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 話 話 話 話 話 話 話 話 話 話

話

はなす。はな  
し。「話題・会話・電話・  
童話・神話・昔話」  
つかいかた ▼今月の目ひよう  
を話し合う。▼そんな話はきい  
ていません。▼電話のベルがな  
る。▼お世話になりました。  
さんこう 「話した」「話し合う」  
「お話しになる」には「し」をつけ  
る。「話」などにはつけない。  
なり 舌(「口」を大きくあけてし  
たち やべる)と言(「ことば」を  
くみあわせた字。



# 数



半 米 麦 麦 麦 数 数

また、かず。①かぞえる。数字・数学・算数・人数・点数②いくつかの。「数人・数日」

数

つかいかた さんせいとはんたいの人数を数える。算数の時間には計算をならった。数人ずつグループになる。この町には数々の思い出がある。もとの字は「数」。婁(「じゆすつなぎ」と父(「どうさをおこなう)をあわせた字。

# 理



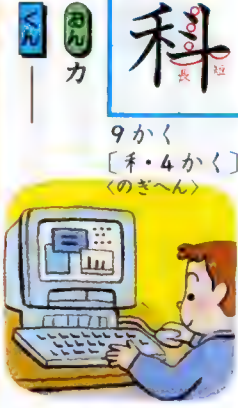
理 理 理 理 理 理

どうり。すじみち。理由・理解・理論・理。くつ・理想・無理②とこのえる。おさめる。「整理・管理・修理・料理」③自然科学。「理科」

理

つかいかた ちこくの理由を先生に話す。つくえのまわりを整理整頓する。理科室でじっけんをする。王(「玉」と、里(「きちん」とくざられた田や畑)をくみあわせてきた字。

# 科



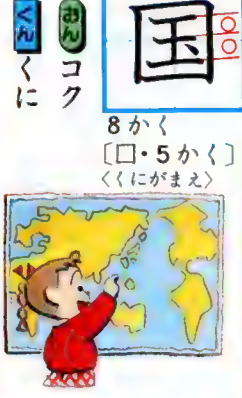
ニ 千 禾 禾 禾 科 科

くわけしたもの。「科目・科学・理科・内科・外科」②つみ。「前科」

科

つかいかた わたしは理科がすきてす。教科書をかばんに入れる。ものもらいができて、眼科の先生にみてもらう。前科(「前におかしたつみ)のある人。斗(「ものをはかるます」と禾(「さくもつ)で、「ものくわけ)をいみした字。

# 国



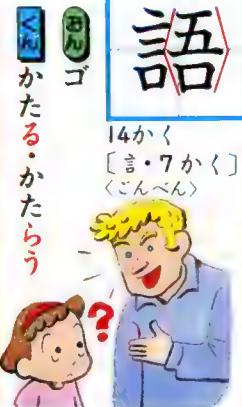
国 国 国 国 国 国

①くに。「国王・国・国民・国土・国旗・国際・外国・本国・島国」②うまれたところ。いなか。「雪国」③日本のこと。「国語・国文科」

国

つかいかた せかいの国々となかよくする。日本に来る外国人がふえている。父は北国の生まれです。国語の時間。もとの字は「國」。或(「ぶきてまもる土地)と、口(「かこい)をくみあわせた字。

# 語



語 語 語 語 語 語

はなす。かたる。また、ことば。「語気・語調・語り手・物語・国語・外国語・英語・言語・反対語・標語」

語

つかいかた 友だちとしようらいのゆめを語り合う。外国の物語を読む。国語じてんを買ってもらった。アメリカ人に英語をならっています。吾(「たがい)に話しあうと言(「ことば)をくみあわせた字。

# 算



算 算 算 算 算 算

①かぞえる。かんじよう。「計算・暗算・予算・足し算」②みこみ。「勝算・公算」

算

つかいかた ぼくは算数がとくいてす。こまかく計算をしてみた。暗算で答えを出す。つぎのしあいには勝算(「勝てるみこみ)がある。竹(「たけ)と鼻(「そろえる)をくみあわせてきた字。そろえてかぞえるといういみをあらわす。



## 社

7かく  
〔ネ・3かく〕  
〔くしめへん〕

社社社社社社

社

いあ ①おみや。やしろ。「神社」②人々のあつまり。世の中。「社会」③かいしや。「社員」

つかいかた ▼木立ちの中の古い社。▼神社におまいりをする。▼社会のためにつくした人の伝記を読んだ。▼兄は、きぼうどおり新聞社に入社した。

ちり ①「ネ」と「ネ」(「衣服」)をまちがえないこと。土(「つち」と示(「さいだん」)をくみあわせた字。

ちり ①「ネ」と「ネ」(「衣服」)をまちがえないこと。土(「つち」と示(「さいだん」)をくみあわせた字。

## 画

8かく  
〔田・3かく〕  
〔た〕

画画画画画画

画

いあ ①えがく。また、えがいたもの。え。「図画・絵画・画家・画像」②くぎる。「区画」③かんがえる。「計画」④もじをくみたてる点や線。「字画・画数」

つかいかた ▼ゆうめいな画家の画集。▼土地を四つに区画する。▼夏休みの計画をたてる。▼かん字の画数。

ちり もとは「畫」。来(「ふてを手にもつ」と示(「田」のまわりをくぎる)からてきた。

## 会

6かく  
〔ハ・4かく〕  
〔ひとやね〕

会会会会会会

会

いあ ①であう。あう。「会見・会話・面会」②あつまり。「合・会議・会社・司会・社会」

つかいかた ▼道で友だちと会った。▼えんそう会の会場。▼りようりのこつを会得する(「身につける」)。

ちり ①「会」は、人とあう。「合」は、一つにあわさる。「合う」は、一つにあわさる。もとの字は「會」。△(「あわせる」と置(「たくさんかさなる)をくみあわせた字。

## 工

3かく  
〔工・0かく〕  
〔こう〕

工工工

工

いあ ①ものをつくること。また、つくる人。「工作・工事・工場・大工・細工・加工・工夫」②こうぎよう。「工学」

つかいかた ▼工作の時間に、うごくおもちゃを作った。▼道路工事がはじまった。▼原料を加工して製品を作る。▼大工さんが家をたてている。▼日本は工業がさかんです。

ちり ①「工」は、二まいのいたにぼうをとおしたようすからてきた。

## 図

7かく  
〔口・4かく〕  
〔くにかまえ〕

図図図図図図

図

いあ ①えがく。また、えがいたもの。「図工・図表・図形・地図・略図」②ほん。「図書」③そうなんする。また、はかりこと。「意図・合図」

つかいかた ▼図工の時間に、はん画をつくった。▼かべにせかい地図がはってある。▼目と目で合図する。▼市立図書館。もとの字は「圖」。罍(「米ぐらのある土地」と口(「こい)をくみあわせた字。

ちり ①「圖」は、はん画をつくった。▼かべにせかい地図がはってある。▼目と目で合図する。▼市立図書館。もとの字は「圖」。罍(「米ぐらのある土地」と口(「こい)をくみあわせた字。

## 作

7かく  
〔イ・5かく〕  
〔にんげん〕

作作作作作作

作

いあ ①こしらえる。つくる。また、つくったもの。「作文・作曲・作品・名作・原作」②はたらき。ふるまい。「動作・作業・作法」

つかいかた ▼校庭に花だんを作る。▼夏休みのことを作文に書く。▼ワープロで文書を作成する。▼すばやい動作。

ちり ①「人」と「作」(「はものてきれめをいれるいみ)をくみあわせた字。



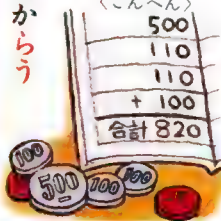








計

9かく  
[言・2かく]  
〈こんべん〉おん  
ケイ  
はかる・はからう計  
ニ  
言  
言  
言  
言  
計

いあ ① かぞえる。

また、かぞえたもの。  
「計算・合計・会計」。

統計 ② 数りようなどをはかる、

きかい。「温度計・時計」③ かん

がえる。また、はかりごと。

「計画・設計」

つかいかた ▼ つかったお金の

合計を出す。▼ かれは計算がは

やい。▼ 旅行の計画をたてる。

なり 言(「ことばのいみ」と「  
おおくのものをひとつにあ

つめるいみ)からてきた。

計

何

7かく  
[イ・5かく]  
〈にんべん〉おん  
カ  
なに・なん何  
何  
何  
何  
何  
何  
何

いあ はっきりわか

らないこと。また、

わからないことをた

ずねることは。「何事・何者・何

時・何日・何度・何人」

つかいかた ▼ 何かごようです

か。▼ ここには何回も来たこと

がある。▼ 今、何時ですか。

さんこう 「何時」のように、「な

なり 何 何 何  
もつを

かつぐかたちからてきた字。

何

答

12かく  
[々・6かく]  
〈たけけんむり〉おん  
トウ  
こたえる・こたえ答  
々  
々  
々  
答  
答  
答

いあ こたえる。ま

た、こたえ。「受け答

え・口答え・問答・答

案・返答・名答・応答・回答・解答」

つかいかた ▼ 生徒会てしつぎ

応答(「しつもんやいけんにこた

えること)をする。

さんこう 「解答」はもんだいの答

え。「回答」はといあわせの答え。

なり 竹(「たけ」と合(「あわせ

る)をくみあわせた字。竹の

答

直

8かく  
[目・3かく]  
〈め〉おん  
チヨク・ジキ  
ただちに・なおす・なおる一  
十  
十  
市  
市  
直  
直

いあ ① まっすぐ。

「直線・直進・直角」②

ただしい。また、た

だしくする。「正直・実直・伸直

り」③ すぐに。また、じかに。

「直前・直感・直接」

つかいかた ▼ じようぎで直線

をひく。▼ あの人には正直ものだ。

▼ まちがえた答えを直す。▼ 直

ちにとりかかる。▼ 直接わたす。

なり 直(「めとまっすぐな

るし)から、直、直、直とな

直

角

7かく  
[角・0かく]  
〈つの〉おん  
カク  
かど・つの一  
々  
角  
角  
角  
角  
角

いあ ① つの。「角

笛・触角」② かど。

すみ。「四角・三角

形・角材・角柱」③ かくど。「直

角・えい角」④ すもう。「角界」

つかいかた ▼ まがり角にボス

トがある。▼ 四角を左にまが

る。▼ 直角に交わる二本の直線。

▼ 角界(「すもうの社会」を代表

するよこづな。

なり 角 角 角  
どうぶ

ののかたちからてきた字。

角

合

6かく  
[口・3かく]  
〈くち〉おん  
ゴウ・ガツ・カツ  
あう・あわす・あわせる合  
八  
八  
合  
合  
合

いあ ① あう。あわ

せる。かなう。「会合・

集合・合計・合作・合

唱・合宿・合成・化合・合格」②

山のちよう上までの道のりを、

十に分けたたない。「五合め

りようをあらわすたない。一

合は一升の十分の一。

つかいかた ▼ クラスで話し合

つてきめる。▼ 合図のふえをふ

く。▼ ふじ山の八合めの小屋。

なり 合(「かぶせる」と口(「あ

な)をくみあわせた字。

合



# 電

13かく  
[電・5かく]  
くあめかんむり



二千電電電電電

① いなびかり。

② てんき。「電光」

③ 電信・電報・電話のりや

④ 電車

⑤ 電文・祝電・るす電

⑥ 市電・終電

⑦ 電報

⑧ 電報

⑨ 電報

⑩ 電報

⑪ 電報

⑫ 電報

⑬ 電報

⑭ 電報

⑮ 電報

⑯ 電報

⑰ 電報

⑱ 電報

⑲ 電報

⑳ 電報

㉑ 電報

㉒ 電報

㉓ 電報

㉔ 電報

㉕ 電報

㉖ 電報

㉗ 電報

㉘ 電報

㉙ 電報

㉚ 電報

㉛ 電報

㉜ 電報

㉝ 電報

㉞ 電報

㉟ 電報

㊱ 電報

㊲ 電報

㊳ 電報

㊴ 電報

# 教

11かく  
[父・7かく]  
くぼくにょう



教教教教教教教

① おしえる。

② 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

③ 教える子・教

④ 教育・教科書

⑤ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

⑥ 教える子・教

⑦ 教育・教科書

⑧ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

⑨ 教える子・教

⑩ 教育・教科書

⑪ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

⑫ 教える子・教

⑬ 教育・教科書

⑭ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

⑮ 教える子・教

⑯ 教育・教科書

⑰ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

⑱ 教える子・教

⑲ 教育・教科書

⑳ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㉑ 教える子・教

㉒ 教育・教科書

㉓ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㉔ 教える子・教

㉕ 教育・教科書

㉖ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㉗ 教える子・教

㉘ 教育・教科書

㉙ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㉚ 教える子・教

㉛ 教育・教科書

㉜ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㉝ 教える子・教

㉞ 教育・教科書

㉟ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㊱ 教える子・教

㊲ 教育・教科書

㊳ 神やほとけのおしえ。また、しゅうきよう。「教会・仏教」

㊴ 教える子・教

㊵ 教育・教科書

# 知

8かく  
[知・3かく]  
くやへん



知知知知知知知

① しる。また、しらせる。「知識・通

② し

③ かんがえるはた

④ 知恵・知能・知性

⑤ かんがえるはた

⑥ 知恵・知能・知性

⑦ かんがえるはた

⑧ 知恵・知能・知性

⑨ かんがえるはた

⑩ 知恵・知能・知性

⑪ かんがえるはた

⑫ 知恵・知能・知性

⑬ かんがえるはた

⑭ 知恵・知能・知性

⑮ かんがえるはた

⑯ 知恵・知能・知性

⑰ かんがえるはた

⑱ 知恵・知能・知性

⑲ かんがえるはた

⑳ 知恵・知能・知性

㉑ かんがえるはた

㉒ 知恵・知能・知性

㉓ かんがえるはた

㉔ 知恵・知能・知性

㉕ かんがえるはた

㉖ 知恵・知能・知性

㉗ かんがえるはた

㉘ 知恵・知能・知性

㉙ かんがえるはた

㉚ 知恵・知能・知性

㉛ かんがえるはた

㉜ 知恵・知能・知性

㉝ かんがえるはた

㉞ 知恵・知能・知性

㉟ かんがえるはた

㊱ 知恵・知能・知性

㊲ かんがえるはた

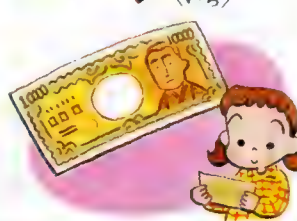
㊳ 知恵・知能・知性

㊴ かんがえるはた

㊵ 知恵・知能・知性

# 万

3かく  
[一・2かく]  
くいち



マン・バン

① 千の十倍。

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

# 毎

6かく  
[母・2かく]  
くなれ



マイ

① そのとき、そのとき。いつも。「毎日・毎年」

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

# 回

6かく  
[口・3かく]  
くにかえ



カイ・エ

① まわる。また、まわす。「回転・回らん」

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯















**台** 5かく [口・2かく] <くち>


① たかいたいらな土地。「台地・高台」② ものをのせるもの。「鏡台・ふみ台・舞台」③ もとになるもの。「土台・台紙」④ じどう車などをかぞえることば。「五台」⑤ 数のおおよそのはんい。「九びよう台」

**つかいかた** ▲高台の家。▲土台をかためる。▲舞台に立つ。

**なり** もとの字は「臺」。土(「つち」と高(「高い」をりやくしたものと至(「とどく」てきた字。

ムム台台台

おん ダイ・タイ



**汽** 7かく [シ・4かく] <きんざい>

① ゆげ。じよう気。「汽車・汽船・汽笛」

**つかいかた** ▲夏休みに、大きな汽船の船員でした。▲きりの中で、船の汽笛がボーッとなつた。

**なり** 「汽」とにた「気」は、くうきのいみ。「きしゃ」は「汽車」。「じようき」は「じよう気」。「き(「いき」とシ(「みず」をくみあわせた字。

おん キ



**船** 11かく [舟・5かく] <ふねへん>


① ふね。「船出・船乗り・船長・汽船・客船・造船」

**つかいかた** ▲船がみなとに入ってきた。▲大きな客船にのって、船旅に出る。▲漁船にぎわうみなと町。▲赤い風船をもった女の子。

**なり** 合(「くぼみにそって水がながれるようす」と舟(「ふね」をくみあわせた字。

おん セン

ふね・ふな



**門** 8かく [門・0かく] <もん>

① いえの出入り口。「門番・正門・校門・門松」② いえ。また、いえがら。「名門」③ なかま。門下・同門・入門④ いくつかにわけたもの。「部門・専門」

**つかいかた** ▲校門の前にぎっか屋がある。▲はれの門出(「新しい生活をはじめること」をいわう。▲平家の一門。

**なり** 門(「もん」とびらをとじたかたちからきた。

もん モン

\*かど

門 門 門 門 門 門 門 門



**室** 9かく [宀・6かく] <うかんむり>

① へや。室内・教室・図書室・温室② ほらあな。「石室」③ いちぞく。「王室・皇室」


**つかいかた** ▲毎日、教室をそうじします。▲図書室で本を読む。▲温室で、たくさんの花をさいばいする。▲山の石室にまつた。

**なり** 宀(「いえ」と至(「おくまみあわせた字。いちばんおくのへやのいみをあらわす。

おん シツ

\*むろ

室 室 室 室 室 室 室 室



**戸** 4かく [戸・0かく] <と>

① (出入り口)の「と」。「戸だな・戸口・雨戸」② いえ。「戸外・戸数・戸主」③ いえのかずをかぞえることば。

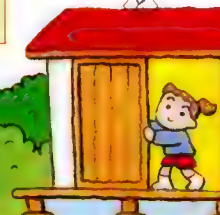
**つかいかた** ▲戸だなにコップをしまう。▲雨戸をしめて、戸じまりをする。▲いい天気なので、戸外であそぶ。▲一戸建て(「どくりつしてゐるたてもの」の家)にすむ。

**なり** 戸(「もんの左のとびら」から、戸(「と」)となった字。

おん コ

と

戸 戸 戸 戸





## 牛

4かく  
[牛・0かく]  
〈うし〉

いみ うし。「牛」に  
ゆう・牛肉・子牛・に  
ゆう牛・水牛

つかいかた ▼このぼくじよう  
には、牛や馬がたくさんいる。  
▼子牛がちちをのんでいる。  
▼毎朝、牛にゆうをのむ。▼牛肉  
をやいてたべた。▼にゆう牛か  
らちちをしぼる。

ちゆうい 「牛」や「手」とまちが  
えないこと。

なり (牛) (うし) のあたまから  
牛→牛となった字。

## 馬

10かく  
[馬・0かく]  
〈うま〉

いみ うま。「馬」に  
び・馬車・竹馬・木  
馬・乗馬・白馬・けい  
馬

つかいかた ▼乗馬クラブに入  
る。▼馬力のあるトラック。  
▼竹馬にの  
る。▼神社  
に絵馬をお  
さめる。

なり (馬) (うま) のあたまから  
馬→馬となった字。

うまのかたちからきた字。

## 魚

11かく  
[魚・0かく]  
〈うお〉

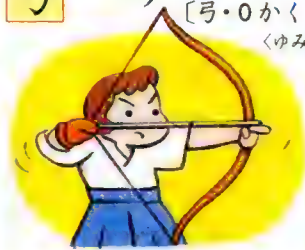
いみ さかな。「魚」に  
や・さかな  
屋・魚つり・魚市場・  
金魚・人魚

つかいかた ▼父と魚つりに出  
かけた。▼魚市場の見学に行っ  
た。▼金魚にえさをやる。▼お  
じさんは、いろいろな熱帯魚を  
かっている。▼おぼうさんが、  
木魚をたたきながらおきようを  
あげている。

なり (魚) (うお) のあたまから  
魚→魚となった字。

さかなのかたちからきた字。

## 弓

3かく  
[弓・0かく]  
〈ゆみ〉

いみ ゆみ。「弓矢」  
弓道・弓状・弓形

つかいかた ▼弓場で、弓の  
矢をいれる。▼弓道場で、弓の  
れんしゅうをする。▼体を弓な  
りにそらす。▼むすびのいちば  
んがおわって、弓取式がはじま  
った。▼日本  
は、島が弓  
状につらな  
ってきいている。



なり (弓) (ゆみ) のかたちか  
ら弓→弓となった字。

## 矢

5かく  
[矢・0かく]  
〈や〉

いみ や。「矢」  
印・矢車・矢面・弓  
矢・矢②はやいこ  
このたとえ。「矢つきはや」

つかいかた ▼矢印にそって歩  
く。▼矢車がからからまわる。  
▼てきの矢面にたつ。▼矢のよ  
うなさいそく。

なり (矢) (や) の字とまち  
がえないこと。

かたちから矢→矢とな  
った字。

## 刀

2かく  
[刀・0かく]  
〈かたな〉

いみ かたな。はも  
の。「小刀(ことう)・  
木刀(もくとう)・大刀(だとう)・短刀(たんとう)・  
名刀(めいとう)・太刀(たち)・竹刀(たけとう)」

つかいかた ▼刀をこしにさし  
た武士。▼小刀で竹をけずって、  
竹とんぼを作った。▼ちようこ  
く刀で、はん木をほる。▼父は  
毎朝、木刀をふって体をきたえ  
ている。

なり (刀) (かたな) のかたちから、刀→刀  
刀となった字。



## 肉

6かく  
[肉・0かく]  
(にく)

肉肉肉肉肉肉

① どうぶつの

肉

にく。また、にくに

にたもの。「肉食・肉

屋・牛肉・魚肉・果

肉」② からだ。

また、じかに。「肉

体・肉声・肉眼」

③ もののあつみ。「肉

太」④ 血の

つながり。「肉親」

⑤ 強い肉体をつ

くる。⑥ はいきんは、

肉眼(「人間

の目)では見えない。

⑦ 肉太の字。

## 米

6かく  
[米・0かく]  
(こめ)

米米米米米米

① こめ。

米

「米」

屋・米作・米食・白

米・げん米」② アメリ

カのこ。 「米国・南

米・北米」

③ 今年とれた新米を

食べた。

④ 米を五合たく。

⑤ 米を五合たく。

## 麦

7かく  
[麦・0かく]  
(むぎ)

麦麦麦麦麦麦

① むぎ。

麦

「麦」

ら・麦茶・麦畑・麦

ふ

み・大麦・小麦・麦

芽・麦秋(「むぎを

とりいれる

ころで、六月ごろ)

② 麦ごはんは、と

ろろじるをかけて食

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

麦

## 鳥

11かく  
[鳥・0かく]  
(とり)

鳥鳥鳥鳥鳥鳥

① とり。「小鳥」

鳥

水鳥・わたり鳥・白

鳥・野鳥」

② 鳥のように空を

とびたい。③ 父と、

小鳥のすば

こを作った。④ つ

ばめはわたり

鳥です。⑤ 城のお

ほりに白鳥

がいる。⑥ きよう

から愛鳥週

間がはじまった。

⑦ さむくて、

鳥はだがつ。

⑧ とりのかたちから

てきた字。

⑨ とりのかたちから

てきた字。

⑩ とりのかたちから

てきた字。

⑪ とりのかたちから

てきた字。

⑫ とりのかたちから

てきた字。

## 鳴

14かく  
[鳥・3かく]  
(とり)

鳴鳴鳴鳴鳴鳴

① こえをだす。

鳴

なく。「鳴き声・悲鳴」

② おとがする。な

る。「共鳴・鳴動」

③ 小鳥の鳴き声。

④ 小鳥の鳴き声。

⑤ 小鳥の鳴き声。

⑥ 小鳥の鳴き声。

⑦ 小鳥の鳴き声。

⑧ 小鳥の鳴き声。

⑨ 小鳥の鳴き声。

⑩ 小鳥の鳴き声。

⑪ 小鳥の鳴き声。

⑫ 小鳥の鳴き声。

⑬ 小鳥の鳴き声。

⑭ 小鳥の鳴き声。

⑮ 小鳥の鳴き声。

⑯ 小鳥の鳴き声。

⑰ 小鳥の鳴き声。

⑱ 小鳥の鳴き声。

⑲ 小鳥の鳴き声。

⑳ 小鳥の鳴き声。

㉑ 小鳥の鳴き声。

㉒ 小鳥の鳴き声。

㉓ 小鳥の鳴き声。

## 羽

6かく  
[羽・0かく]  
(はね)

羽羽羽羽羽羽

① はね。つば

羽

さ。「羽音・羽衣・羽

毛・白羽」② 鳥やう

さをかぞえること

は。「三羽」

③ 羽根つきをする。

④ 鳥やうさを数え

るときは、数字によ

って、「一わ・二

わ・三は(わ)・四

わ・五わ・六わ

(六は)・七(な)・

わ・八は(は)・

九わ・十は(十

わ)となる。

⑤ 二まいの

鳥のはね

をあらわした字。

⑥ 二まいの

鳥のはね

をあらわした字。

⑦ 二まいの

鳥のはね

をあらわした字。

⑧ 二まいの



## 用

5かく  
[用・0かく]  
くもちいる

おん ヨウ

くん もちいる

用用用用用

① ようじ。「用」

事・用件・私用・所用

② つかう。「用意・用

量・用心・活用・採用・使用・利

用」③ はたらき。「作用」④ ひつ

ようなお金やしなもの。「費用」

つかいかた

① 用事をすませる。

② 水力を利用して、発電する。

③ 火の用心。④ 手先が器用だ。

⑤ くすりの作用で、ねつが下が

った。⑥ 筆を用いる。

⑦ 用（＝長方形のいた）と

用



## かん字のちしき

● かん字のできかた

かん字はさいしよは、絵からで  
きました。

川 木 犬

馬 犬 犬

そのあとも、つぎのようにして

いろいろなかん字ができました。

● 図や記ごうでしめした

上 下

もとの線より、  
上にある、  
下にある。

● いみを合わせてできた

お月さまと、  
お日さまが合わ  
さると、明るい  
から。

● 読みといみを合わせてできた

青：読み方  
日：いみ

## ことばのきまり

● おくりがな

かん字の読みかたをはつきりさ  
せるために、かん字の下につける  
かなを、「おくりがな」といいます。  
へおくりがなをつけるかん字

通

細

● 交番の前を通る。

● ようち園へ通う。

● 色紙を細く切る。

● やさいを細かく切る。

● どうさやようすをあらわすかん  
字のおくりがなは「通らない・通  
れば」のように形がかわります。

へおくりがなをつけないかん字

● 花を花びんにさす。

● ばらの花がすきだ。

● 青い海でおよく。

● 海に近いところにすむ。

海

花

## 茶

9かく  
[茶・6かく]  
くさかんむり

茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

① 茶の木。ま

た、その葉をつかっ

たのみのもの。「茶畑」

茶つみ・茶の間・茶づけ・茶店

・緑茶・紅茶・番茶・茶話会

② 茶の湯のこと。「茶道」③ 黒みが

かった赤黄色。

④ つかいかた

⑤ あついお茶をの

む。⑥ 家ぞくが茶の間にあつま

る。⑦ ウーロン茶をのむ。

⑧ もとの字は「茶」。⑨ (＝

しよくぶつ)と余(＝ゆった

りする)をくみあわせた字。

茶

## 食

9かく  
[食・0かく]  
くしよく

食食食食食食食食食食

① たべる。ま

た、たべもの。「食べ

物・食事・食料・食

品・食物・朝食・給食

② 太陽や月がかける。「日食・月

食」

③ つかいかた

④ 食堂で、天どん

を食べる。⑤ 虫が食った古い本。

⑥ 日食をかんさつした。

⑦ 食(＝食)食(＝食)

ふたをする)と食(＝こくもつを

たくさんもつ)からてきた。

食

## 活

9かく  
[活・6かく]  
くさんずい

活活活活活活活活活活

① いきる。い

かす。「活用・生活」

② さかんにうごく。

いきいきしている。「活力・活

発・活動・活火山」

③ つかいかた

④ 楽しい学校生活

をおくる。⑤ 運動会で活やくし

た。⑥ 活気のあるクラス。⑦ 活

発なふん火をくりかえしている

活火山。

⑧ 舌(＝いきおいよくうご

く)と舌(＝みず)をくみあ

わせてできた字。

活



外

5かく  
[タ・2かく]  
内 132

外 外 外 外

① そと。そとがわ。「外気・外見・場外」2 よそ。はずれたところ。「外国・外出・海外・案内・意外」3 はずれる。また、はずす。「除外」4 べつのも。の。「例外」

外

つかいかた 家の外であそぶ。

けがをして外科に行った。父は外出した。外のところ

をさがしてみよう。

たち 外 (タ) と ト (ト) うらなうをくみあわせた字。

遠

13かく  
[エ・10かく]  
近 133

遠 遠 遠 遠

① はなれてい。る。とお。遠出・遠足・遠方・遠泳・遠近・望遠鏡 2 したしくない。敬遠・そ遠

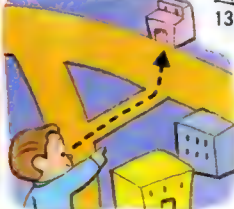
遠

つかいかた 遠くに明かりが見える。明日は遠足だ。遠りよしないて食べなさい。

さんこう 「オン」の読みは「久遠」などにつかう。

たち 遠 (ト) と リ (リ) あわせた字。

近

7かく  
[エ・4かく]  
遠 133

近 近 近 近

① ちかい。また、ちかづく。「近道・近所・近海・近日・最近・接近」2 したしい。「近親」

近

つかいかた 近道を通る。

近所の公園であそぶ。旅先で会った人たちに、親近感(親しみ)をもつ。

たち 近 (チ) と 近 (チ) が正しい。「近づく」と書かないこと。

前

9かく  
[リ・7かく]  
後 132

前 前 前 前

① まえ。まへのほう。「前向き・前後・前進」2 あるときよりまえ。いぜん。「前日・午前・食前・事前・寸前」

前

つかいかた 学校の前に、小さな公園があります。いきおいよく前進する。雨は午前中

にあがった。

前

「セン」という音をもつた

ちとリ(かたな)をくみあわせてきた字。

後

9かく  
[イ・6かく]  
前 132

後 後 後 後

① もののうしろ。「後方・後列」2 のち。あと。「後日・食後・午後」3 おくれる。「後進」

後

つかいかた 父の後ろを歩く。食事後、ゲームをした。明日は晴れ後も、午後おそくからは雨でしょう。流行

後の洋服。

後

「ハ」ほんのすしをひきずるかたちと「リ」(い)をくみあわせた字。

内

4かく  
[リ・2かく]  
外 133

内 内 内 内

① なか。うちがわ。「内部・案内・体内・以内」2 ひそか。「内祝い・内しよ・内定」

内

つかいかた おには外、ふくは内。ものがたりの内容をまとめる。あたたかい室内に入る。内しよばなしをする。寺の境内(しき地の中)をある

く。

内 (ハ) おおいと人 (ハ) いれるをくみあわせて、内

内 内 内 内







高

10かく  
[高・0かく]  
↑ 低  
263

たかい・たか・たかまる・たかめる

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

① たかい。「高山・高原・高低・高温」  
② すぐれている。「高級・高価」  
③ おかねやものりよう。「生産高」

高

つかいかた ① 高原の朝は気持ちがいい。  
② ひこうきが高度を上げる。  
③ 高級なレストラン。自動車の生産高。

なり 高・高・高 土地にたっている家のかたちからできた字。

広

5かく  
[広・2かく]  
↑ 狭  
263

ひろい・ひろまる・ひろめる・ひろがる・ひろげる

広 広 広 広 広 広 広 広 広 広

① ひろい。「おきい」。「広場・広間・広大」  
② ひろがる。ひろめる。「広告」

広

つかいかた ① 広い野原をかける。② 広大な土地。③ 大広間で、会ぎをする。④ 大売り出しの広告が出る。⑤ そのうわさは、町じゅうに広まってしまった。

なり もとの字は「廣」。广(一)やねと黄(一)きいろい光がひろがる)をくみあわせた字。

同

6かく  
[同・3かく]  
↑ 異  
354

おなじ

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

① おなじ。「同時・同様・同点・同级・同意・同感・共同」  
② なかま。「一同」

同

つかいかた ① まりさんと、せの高さが同じだ。② その考えには同感だ。③ 同級生の山田くん。④ 一同(みんな)元気です。⑤ 「おなじ」「おんなじ」とはよまないこと。

なり 同(一)しかくいいたと同(一)あな)をくみあわせた字。同→同→同となった字。

強

11かく  
[強・8かく]  
↑ 弱  
136

つよい・つよまる・つよめる・つよい

強 強 強 強 強 強 強 強 強 強

① つよい。「強気・強敵・強化・強調・強弱・強情」  
② 強いにする。しいる。「強行・強引・勉強」  
③ はすうをきりすててきた数につけて、それより少し多いことをあらわす。

強

もとの字は「強」。弓(一)ゆみ)と虽(一)まるい虫)をくみあわせてきた字。

なり 強 強 強 強 強 強 強 強 強 強

弱

10かく  
[弱・7かく]  
↑ 強  
136

よわい・よわる・よわまる・よわめる

弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱

① よわい。「弱虫・弱音・弱小・弱点・強弱」  
② わかい。「弱年」  
③ はすうをきりあげてきた数につけて、それよりも少し少ないことをあらわす。「一円弱」

弱

もとの字は「弱」。弓(一)ゆみ)と(一)もよう)を二つくみあわせた字。

なり 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱

長

8かく  
[長・0かく]  
↑ 短  
186

ながい

長 長 長 長 長 長 長 長 長 長

① ながい。「長身・長短・長期」  
② かしら。「長男・校長・市長・議長・駅長」  
③ すぐれている。「長所・特長」

長

もとの字は「長」。長(一)はなは長(一)兄は、クラスで一はんの長身だ。校長先生のお話を聞く。あなたの長所は、とてもまじめなところだ。

なり 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長



来

7かく  
[木・3かく]  
(き)

おん ライ  
く くる・きたる・きたす

来 来 来 来 来 来 来 来 来 来

来

い ①くる。ちかづく。「来客・来店・来月・往来・伝来」  
あるときからずっと。「元来・以来」  
来③これから。「将来・未来」  
つかいかた ④もうすぐバスが来る。来月、もう一度来てください。八月十日以来、雨がふっていない。寺の由来(いわれ)をしらべる。  
なり もとの字は「来」。来(来)むぎのほのかたちから、来となり、来となった。

帰

10かく  
[巾・7かく]  
(は)

おん キ  
か える・かえす

帰 帰 帰 帰 帰 帰 帰 帰 帰 帰

帰

い ①かえる。もどる。「帰り道・帰国・帰京・帰宅・帰省・帰港・復帰」  
つかいかた ⑤母は四時に帰ります。父は、ゆうべおそく帰宅した。正月には、家族で北海道に帰省(ふるさとに帰ること)します。  
なり もとの字は「歸」。自(自)きの音(おん)と止(足)と帝(ほうき)をくみあわせてできた。「帰」は、このりやく字。

止

4かく  
[止・0かく]  
(とまる)

おん シ  
と まる・とめる

止 止 止 止 止 止 止 止 止 止

止

い ①とまる。また、とめる。「止ま・止り・止血・休止・静止・停止・足止め・波止場」  
つかいかた ⑥地しんて時計が止まる。かゆみ止めの薬をぬる。はんざいを防止しよう。雨で遠足が中止になった。ここに車を止めることを禁止する。  
なり ヂ(あしのかたち)から、止となり、止となった字。

歩

8かく  
[止・4かく]  
(とまる)

おん ホ・ブ・フ  
あるく・あゆむ

歩

い ①あるく。「歩道・歩行・歩調・散歩・徒歩・進歩」  
り ②わりあい。「歩合」  
き ③土地のめんせきのたんのい一つ。ぶ。  
つかいかた ⑦一歩一歩ゆつくり歩く。歩道橋をわたった。犬をつれて、散歩をする。一万円にたいして、二百円の歩合をはらう。歩みがおそい。  
なり ヌー(あしのかたち)から、歩(歩)となり、歩(歩)となった字。

走

7かく  
[走・0かく]  
(はしる)

おん ソウ  
はしる

走

い ①はしる。また、にげる。「走者・走行・走り書き・競走・快走・力走・敗走・とう走・走」  
つかいかた ⑧中村くんは、走るのがはやい。うんどう会の百メートル競走で、一とうになった。はん人は、車でどう走した(にげさった)。  
なり ヌー(あしのかたち)から、走(走)となり、走(走)となった字。

行

6かく  
[行・0かく]  
(いく)

おん コウ・ギョウ・アン  
いく・ゆく・おこなう

行

い ①いく。「行進・旅行・急行・行方」  
じ ②れつ。また、ものならび。「行列・行数」  
おこない。「行動・行使・実行・横行・孝行・刊行」  
つかいかた ⑨行く手に、けわしい山がそびえる。旅行に行く。入場行進をする。行めから読んでください。  
なり ハー(あしのかたち)から、行(行)となり、行(行)となった字。



## 切

4かく  
[刀・2かく]  
〈かたな〉



おん セツ・サイ  
きり・きれる

切 切 切 切

切  
どめる

①きる。「切」  
断・切り口②さしせ  
まる。ぜひ。「切実・  
切望・切迫・親切」③すべて。  
「一切」

つかいかた ▼はさみて紙を切  
る。▼よく切れるほうちよう。

外国の切手をあつめる。▼こ  
れは、みんなの切実なねがいで  
す。▼めんどうなことは、ぼく  
が一切ひきうけた。

なり 七(「きり」とること)と刀  
(「かたな」をあわせた字。

## 売

7かく  
[士・4かく]  
〈さむらい〉



おん バイ  
うる・うれる

売 売 売 売 売 売

売  
みじかく

①うる。「売」  
り物・売店・売買・商  
売・発売②ひろめ  
る。「売名」

つかいかた ▼花を売る店。  
この本は、よく売れている。

駅の売店で、ガムを買ってもら  
った。▼売名行い(「自分の名  
を広めるための行動」)。

もとの字は「賣」。士(「だ  
す」と「あみてとる」と  
貝(「おかねやしなもの」をくみ  
あわせてきた字。

## 買

12かく  
[貝・5かく]  
〈こがい〉



おん バイ  
かう

買 買 買 買 買 買

買  
みじかく

①金をはらって  
もとめる。かう。「買  
い物・買い手・売買・  
買収」

つかいかた ▼ノートを三さつ  
買う。▼母と買い物に行く。

父の会社は、家具の売買をして  
いる。▼大安売りで、買い手が  
たくさんあつまった。

「(「あみ」と貝(「おか  
ね」をくみあわせた字。あ  
みて物をすくうように、お金や  
品物をすくうといういみ。

## 引

4かく  
[弓・1かく]  
〈ゆみ・へん〉



おん イン  
ひく・ひける

引 引 引 引

引  
みじかく

①ひく。ひつ  
ばる。「引き算・引き  
しお・引力・引用」②  
みちびく。「引率・引火」③しり  
ぞく。「引退」

つかいかた ▼うんどう会で、  
つな引きをする。▼いもうどの  
手を引いて、道路をわたる。

地球には引力がある。▼先生  
が子どもたちを引率(しんそつ)していく。

引退(いんたい)するせんしゅ。  
弓(「ゆみ」と「」(「まっす  
ぐひく」)をくみあわせた字。

## 二年生のかん字のちゅうい点①

書きじゅんでちゅういしたいも  
のは、  
止 ト止  
当 ーリッ当 当 当  
丸 ノ丸 丸  
字体でちゅういしたい字は、

「分」…上がはなれていて、くつつ  
いてはいけません。それに  
たいして「合・今・会・食」  
は、上がくつついています。

「角」…用のように下が出てはい  
けません。  
「声」…上は「土」ではなく、「土」  
のように下が上よりみじか  
くなります。

「当」…上はツではなく「ッ」です。  
「午」…「牛」のように出てはいけ  
ません。  
「矢」…「失」のように出てはいけ  
ません。  
「海」…「母」ではありません。

## 二年生のかん字のちゅうい点②

読み方とおくりがなにちゅうい  
したいかん字は、  
「明」…メイ(発明)・ミヨウ(明  
日)・あかり(明かり)・あ  
かるい(明るい)・あからむ  
(明らか)・あける(明ける)・あ  
く(明く)・あくる(明くる)・  
あかす(明かす)。

「交」…コウ(交通)・まじわる(交  
わる)・まじえる(交える)・  
まじる(交じる)・まざる(交  
ざる)・ませる(交せる)。

「細」は、「ほそい」と読むとき  
には「細い」、「こまかい」と読む  
ときには「細かい」。また、ほそ  
(細る)・こまか(細か)とおくり  
がなをつけます。

「当」は、「あたる」のときは「当  
たる」、「あてる」のときには「当  
てる」となります。



# 三年生の漢字学習法

三年生では、一・二年で習う漢字を読むこと、一・二年の漢字を文中で正しく使えるようにすること、三年の新出漢字二百字を少しずつ書くようにすることがねらいです。

## ① 漢字の読み

漢字には、音読みと訓読みがありますが、漢字によって、その読み方はさまざまです。

たとえば、「合」という漢字は、音読みは「ゴウ・ガツ・カツ」、また、「上」の訓読みは「うえ・うわ・かみ・あーげる・あーがる。のぼーる・のぼーせる・のぼーす」があります。これらを機械的に覚えても覚えられないものはありません。それぞれの読みに合う言葉や文を調べたり、作ったりして覚えます。たとえば、

「合」なら「集合・合唱・合戦」。また、読み方にあわせ、送りがないもしっかりと確認しておきましょう。

## ② 漢字の意味

「安」という漢字を「アン・アン」と発音しながら何度も書くだけでは、それほど意味のある学習とはいえない。

この「安」という漢字の意味をとなえなくては、せっかく覚えても使えません。そのために、この漢字を使った熟語を調べたり、作ってみたりすることです。

たとえば、「安心・平安・不安・安住・安物」などがあります。

これらの熟語からは、この「安」という漢字に「やすらか・やすらぐ・落ち着く」といった意味があることがわかります。また、「安物」からは「ねだんがやすい」という意味のあることがわかります。

## ③ 漢字の形

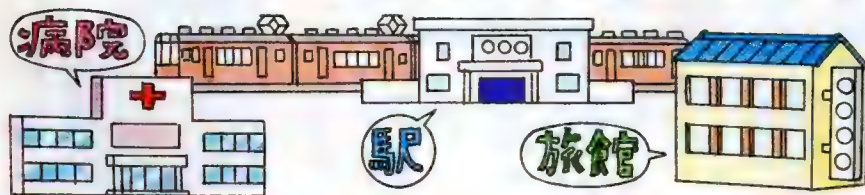
「勝」の「力」を「刀」としてしまったり、「飲」の左を「食」としてしまったり、「様」の右下を「水」としてしまったりするあやまりがよくあります。

この漢字はこんな形とかんたんに考えて書いてしまうのではなく、漢字を作っている一つ一つの部分がどんな形かをていねいに見ることが大切です。もう一つは、その漢字が何画でできているかを数えて確かめることが大切です。そうした学習をすることで漢字を覚えて書けるようになります。



# 三年生で習う字

礼 212	由 207	負 202	畑 196	都 191	炭 186	昔 181	昭 176	守 170	仕 165	係 159	究 154	屋 149	悪 144
列 212	油 207	部 202	発 197	度 192	短 186	全 181	消 176	取 170	死 165	軽 160	急 155	温 149	安 144
練 212	有 207	服 202	反 197	投 192	談 187	相 182	商 176	酒 171	使 165	血 160	級 155	化 150	暗 144
路 213	遊 208	福 203	坂 198	豆 192	着 187	送 182	章 177	受 171	始 166	決 160	宮 155	荷 150	医 145
和 213	予 208	物 203	板 198	島 193	注 188	想 182	勝 177	州 171	指 166	研 161	球 156	界 150	委 145
	羊 208	平 203	皮 198	湯 193	柱 188	息 183	乗 177	拾 172	齒 166	県 161	去 156	開 151	意 145
	洋 209	返 204	悲 199	登 193	丁 188	速 183	植 178	終 172	詩 167	庫 162	橋 156	階 151	育 146
	葉 209	勉 204	美 199	等 194	帳 189	族 183	申 178	習 172	次 167	湖 162	業 157	寒 151	員 146
	陽 209	放 204	鼻 199	動 194	調 189	他 184	身 178	集 173	事 167	向 162	曲 157	感 152	院 146
	様 210	味 205	筆 200	童 194	追 189	打 184	神 179	住 173	持 168	幸 163	局 157	漢 152	飲 147
	落 210	命 205	氷 200	農 195	定 190	対 184	真 179	重 173	式 168	港 163	銀 158	館 153	運 147
	流 210	面 205	表 200	波 195	庭 190	待 185	深 179	宿 174	実 168	号 163	区 158	岸 153	泳 147
	旅 211	問 206	秒 201	配 195	笛 190	代 185	進 180	所 174	写 169	根 164	苦 158	起 153	駅 148
	両 211	役 206	病 201	倍 196	鉄 191	第 185	世 180	暑 174	者 169	祭 164	具 159	期 154	央 148
	緑 211	薬 206	品 201	箱 196	転 191	題 186	整 181	助 175	主 169	皿 164	君 159	客 154	横 148

















化

4画 [ヒ・2画]



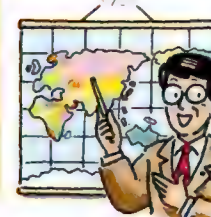
荷

10画 [ナ・7画]



界

9画 [田・4画]



イイ化

化

いあ ほかのものにか  
わる。また、かえる。  
はける。「化石・化学・  
化しよう・進化・変化・退化・民主  
化」

つかいかた

▼きつねに化かされ  
たようだ。▼お化けやしきで、こ  
わい思いをした。▼消化のいいも  
のを食べる。▼博物館で、きよう  
りゅうの化石を見た。

なり

化

たぢ 化（＝立って  
る人）とく（＝む  
きをかえた人）を組み合わせ、形  
をかえることをあらわした字。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

荷

いあ ①にもつ。「荷  
車・荷物・入荷・初荷・  
出荷」②になう。「負  
荷」③にもつを数えることは。か  
「二荷」

つかいかた

▼港で、荷あげ作  
業を行う。▼大きな荷物を運ん  
だ。▼ダンボール箱を、トラック  
の荷台につみこむ。▼やさいを市  
場へ出荷する。▼かたの荷がおり  
る（＝せきにんなどがなくなる）。

なり

荷

たぢ ①（＝植物）と何（＝人がかた  
のうへに水平にもつをかつぐ  
かたち）を組み合わせた字。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

界

いあ ①さかいめ。  
きり。「境界・限界」②  
あるはんい。社会。「業  
界・世界・政界」

つかいかた

▼この川が、となり  
の市との境界だ。▼もう限界だ  
というところまでがんばった。▼  
世界の平和をいのる。▼きりがは  
れて、視界がひらけた。

なり

界

たぢ 田 Y 界 界 田（＝たん  
ぼ）と 田（＝  
人があいだに入って二つにわけ  
る）を組み合わせた字。たんぼ  
のくわけをあらわす。

開

12画 [門・4画]



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

開

いあ ①あける。ひら  
く。また、ひらける。  
「開花・開閉・開放・公  
開・満開・未開」②始める。「開会・  
開始・開業・開店」

つかいかた

▼まどを大きく開け  
て、空気を入れかえる。▼さくら  
の花が満開です。▼試合開始まで、  
あと五分です。▼この店は、明日  
開店です。

なり

開

たぢ 開（＝もん）と 干  
（＝左右に同じよ  
うにならぶようす）を組み合わせ  
た字。同じようにひらくこと。

階

12画 [尸・9画]



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

階

いあ ①かいだん。だ  
ん。階段・音階 ②身  
分などの上下。くら  
い。「階級」③へやのかさなり。  
「階下・地階・二階」

つかいかた

▼駅の階段をのぼる。  
▼正しい音階でうたう。▼二階の  
ベランダから、通りを見おろした。  
▼デパートの地階で、食料品を  
買った。

なり

階

たぢ 尸（＝もりあげた土）と 皆（＝  
せた字。一だん一だんつみ上げた  
かいだんをあらわす）

寒

12画 [宀・9画]



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

寒

いあ ①さむい。「寒  
空・寒暖計・寒波・寒  
流・防寒」②さびれて  
いる。さびしい。「寒村」③冬の  
ちはんさむいとき。「寒中・大寒」

つかいかた

▼ゆうべはとても寒  
かった。▼寒波におそわれた。  
▼けさはとくに寒気がきびしい。  
▼山あいの寒村。▼寒中おみまい  
申し上げます。

なり

寒

たぢ 宀（＝やね）と 寒  
（＝れんがや石  
と 宀（＝りよう手）と 寒（＝こおり）  
を組み合わせた字。















## 具

8画  
[ハ・6画]  
〈はち〉

「具」の部首は「ナ」で、8画です。この部首は「器具」の「具」や「道具」の「具」に使われます。

具

① そなわる。「具・具備・具体」② どうぐやしなもの。「家具・器具・道具・雨具・用具」

具体的な「具」の例として、① 係員の説明は、② 具体的でわかりやすかった。③ 絵の具で絵をかく。④ 工作の道具をかたづける。⑤ 雨がふりそうなので、雨具の用意をした。

「具」の部首は「ナ」で、8画です。この部首は「器具」の「具」や「道具」の「具」に使われます。

をそろえて、りよう手でさしたすようすをあらわしたかたちからきた字。

## 銀

14画  
[金・6画]  
〈かねへん〉

「銀」の部首は「金」で、14画です。この部首は「金」や「銀」に使われます。

銀

① 白くてうつくしい、つやのある金ぞく。ぎん。しろがね。② 銀山・銀紙・銀貨。③ 白くかがやいているようす。「銀世界」④ おかね。

「銀」の部首は「金」で、14画です。この部首は「金」や「銀」に使われます。

「銀」の部首は「金」で、14画です。この部首は「金」や「銀」に使われます。

「銀」の部首は「金」で、14画です。この部首は「金」や「銀」に使われます。

## 区

4画  
[匚・2画]  
〈かくしがまえ〉

「区」の部首は「匚」で、4画です。この部首は「区」や「匚」に使われます。

区

① くぎる。また、くぎり。さかい。「区・分・区別・区域・区画・区間・地区」② 大きな都市をいくつかに分けたくぶん。「区役所」

「区」の部首は「匚」で、4画です。この部首は「区」や「匚」に使われます。

「区」の部首は「匚」で、4画です。この部首は「区」や「匚」に使われます。

## 君

7画  
[口・4画]  
〈くち〉

「君」の部首は「口」で、7画です。この部首は「君」や「口」に使われます。

君

① 国をおさめる人。「君主・主君」② 友だちや目下の人をよぶときにつかうことは。「諸君」

「君」の部首は「口」で、7画です。この部首は「君」や「口」に使われます。

「君」の部首は「口」で、7画です。この部首は「君」や「口」に使われます。

「君」の部首は「口」で、7画です。この部首は「君」や「口」に使われます。

## 苦

8画  
[艹・5画]  
〈くさかんじり〉

「苦」の部首は「艹」で、8画です。この部首は「苦」や「艹」に使われます。

苦

① つらい。また、くるしむ。「苦痛・苦心・苦勞・苦戦・苦学・病苦・暑苦しい」② にがい。「苦味」③ いやだ。「苦手・苦情・苦言」

「苦」の部首は「艹」で、8画です。この部首は「苦」や「艹」に使われます。

「苦」の部首は「艹」で、8画です。この部首は「苦」や「艹」に使われます。

## 係

9画  
[亻・7画]  
〈にんべん〉

「係」の部首は「亻」で、9画です。この部首は「係」や「亻」に使われます。

係

① つながる。かわる。「関係」② あることをうけもつ人。かかり。「係員・案内係」

「係」の部首は「亻」で、9画です。この部首は「係」や「亻」に使われます。

「係」の部首は「亻」で、9画です。この部首は「係」や「亻」に使われます。

「係」の部首は「亻」で、9画です。この部首は「係」や「亻」に使われます。







# 幸

8画  
[干・5画]  
(ひる)



コウ  
さいわい・さち・しあわせ

幸幸幸幸幸幸幸幸

「いみ」しあわせ。さち。  
「幸福・幸運・不幸・多幸」

士幸

「つかいかた」大雨がふったが、幸い、こう水にはならなかった。

「幸せな一生をおくる。」  
「女神。」  
「不幸なできごと。」  
「海」  
「幸にめぐまれた所。」

「手かせ」というむかしの手じょうのかたちからできた字。これがかげられるきけんから、うんよくの

「手かせ」というむかしの手じょうのかたちからできた字。これがかげられるきけんから、うんよくの

# 港

12画  
[シ・9画]  
(さんずい)



コウ  
みなと

港港港港港港港港

「いみ」船や飛行機が、出発したりついたりするところ。みなと。

港

「つかいかた」港町としてさかえた。漁船が港・空港」

「入港してきた。」  
「空港のロビー」  
「(まちあい室)で会いましょう。」  
「シ(みず)と巷(村を通っている道)を組み合わせた字。」

「のあつまる場所である「みなと」のいみになった。」

# 号

5画  
[ロ・2画]  
(くち)



ゴウ

号号号号号号

「いみ」①さけぶ。「号令・号泣」②あいず。しるし。「記号・信号」

号

「③じゅんじよをあらわす数字や、乗り物などの名の下につけること

「は。「号外・番号・こだま号」④よび名。「年号」

「つかいかた」先生の号令で、出発した。番号が、赤から青に変わった。番号じゅんにならぶ。学級新聞の五号を出す。新幹線ひかり号に乗る。号(くち)と万(ま)がって

# 庫

10画  
[广・7画]  
(まだれ)



コ・ク

庫庫庫庫庫庫庫庫

「いみ」ものをしまっておく、たてもの。くら。

庫

「つかいかた」港のそばに倉庫が立ちならんでいる。金庫にお金をしまう。学級文庫の本をかりて読んだ。

「たてもの。くら。」  
「金庫にお金をしまう。」  
「学級文庫の本をかりて読んだ。」

「たてもの。くら。」  
「金庫にお金をしまう。」  
「学級文庫の本をかりて読んだ。」

# 湖

12画  
[シ・9画]  
(さんずい)



ミズウミ

湖湖湖湖湖湖湖湖

「いみ」みずうみ。「湖水・湖岸・湖面・湖底・湖上・火口湖」

湖

「つかいかた」湖にボートがかんている。湖岸に、みやげ物店がのきをならべている。鏡のような湖面を、月がたがらしている。

「琵琶湖は日本が一番大きな湖だ。」  
「シ(みず)と胡(牛のあごをおおってたれさがっている皮を組み合わせた字。大地におおいかぶさって広がる大きな水たまりをあらわす。」

「琵琶湖は日本が一番大きな湖だ。」  
「シ(みず)と胡(牛のあごをおおってたれさがっている皮を組み合わせた字。大地におおいかぶさって広がる大きな水たまりをあらわす。」

# 向

6画  
[ロ・3画]  
(くち)



コウ

向向向向向向向向

「いみ」①ある方にむく。また、むかう。「向上・方向・動向・内向・表向」②むき。おもむき。「意向・趣向」

向

「つかいかた」ゴールに向かって、走りつづけた。向こうから、近所のおばさんがやってきた。力がめきめき向上した。雨は一向にやむけはいがない。

「何」とまちがえやすい。あな)を組み合わせた字。

「何」とまちがえやすい。あな)を組み合わせた字。











写

5画  
〔一・3画〕  
くわかんむり、



写 写 写 写 写

いふ 字や絵をうつし  
 とる。 「写生・写真・写  
 実・複写・試写会・模写・  
 映写」

写

つかいがた ▶ 先生が黒板に書いた文字を、ノートに写し取る。▶  
 花だんさいだ チュリップの花を写生する。▶ 遠足の写真、アルバムにはった。▶ 外国の名画を模写（まねてうつすこと）する。  
 なり（たち） もとの字は「寫」。ハ（＝やね）と鳥（＝かさぎざという鳥）を組み合わせた字。ほかのはしよにうつることをあらわす。

## 者

8画  
〔𠂇・4画〕  
〈おいかんむり〉



者者者者者者者

いぬ ひと  
 もの 人やものごと。  
 わがもの 人のわがもの。  
 がくしゃ 医者・読者。  
 いしゃ 若者・学者。  
 者

者

つかいがた  
母は、けっこうあ  
わて者<sup>もの</sup>です。▼まंगाの主人公が  
悪者をやつけた。▼かぜをひい  
たので、お医者さん<sup>いししゃ</sup>にみてもらっ  
た。▼兄<sup>あに</sup>は、学者<sup>がくしや</sup>になりたいそう  
だ。▼その小説<sup>しょうせつ</sup>の作者<sup>さくしや</sup>はだれて  
すか。

なり  
たち

者(者)  
たきぎが  
こんろの

字。  
上てもえているかたちからてきた

主

5 画  
【、・4 画】  
てん



主主主主主

いみ ① 自分がつかえている人。あるじ。「地<sup>ち</sup>主<sup>しゅ</sup>・主人<sup>しゅじん</sup>・主君<sup>しゅくん</sup>」 ② 中心<sup>しゅしん</sup>

主<sup>しゅ</sup> ななめに

ななめに

になる。おもな。「主演・主役・主食」  
食<sup>しょく</sup>③自分<sup>じぶん</sup>。「主観<sup>しゅかん</sup>・主張<sup>しちゅう</sup>」  
★きょう 今日<sup>けふ</sup>の主<sup>おほ</sup>なニュー  
つかいかた  
ス。▼げきの主役<sup>しゅやく</sup>にえらばれた。  
▼日本人<sup>にほんじん</sup>の主食<sup>しゅしょく</sup>は米<sup>こめ</sup>です。  
▼物<sup>もの</sup>語<sup>ご</sup>の主題<sup>しゆだい</sup>を考<sup>かんが</sup>える。  
▼自分<sup>じぶん</sup>の意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>を主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちやう</sup>する。

なり  
ぢぢ  
て、じつともえている火<sup>ひ</sup>をあらわした字<sup>じ</sup>。

ろうそく  
たての上<sup>うへ</sup>

## 持

9画  
〔才・6画  
〈てへん〉



持持持持持持持

いぬ **①** 手ににぎる。  
もつ。「持参・所持」 **②**  
もちこたえる。たもつ。

## 持

つかいかな  
 のを<sup>も</sup>持<sup>も</sup>つて行く。▼とても<sup>も</sup>気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ち  
 のいい朝<sup>あさ</sup>だ。▼この自<sup>じてん</sup>転<sup>しゃ</sup>車<sup>りょう</sup>の持<sup>も</sup>ち  
 主<sup>ぬし</sup>はだれてすか。▼勉<sup>べん</sup>強<sup>きやう</sup>は、持<sup>も</sup>ち  
 統<sup>そう</sup>することが大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>だ。▼かれば、  
 百<sup>ひゃく</sup>メー<sup>きよう</sup>トル競<sup>きやう</sup>走<sup>そう</sup>の世界<sup>せかい</sup>記<sup>き</sup>録<sup>ろく</sup>を保<sup>ほ</sup>  
 持<sup>も</sup>(＝持<sup>も</sup>ちつづけること)としてい  
 る  
 才<sup>さい</sup>(＝手<sup>て</sup>)と寺<sup>てら</sup>(＝手<sup>て</sup>の中<sup>なか</sup>にじ  
 つととめる)を組<sup>ぐ</sup>み合<sup>あ</sup>わせ  
 字<sup>じ</sup>。手<sup>て</sup>の中<sup>なか</sup>にもつこと。

式

6画  
〔弋・3画〕  
〈しきがまえ〉



式式式式式

いめ ① きまつたやり  
かた。「形式・格式」  
「式場・式服」  
ぎしき。せいじんしき。けいさん  
そではね  
式

式

数字と記号であらわしたものの「数式」

「数式」

ついかた

い。明日は、小学校の入学式だ。卒業生が式場に入場する。

数式をどく。

弍(＝田や畑をたがやすときなどに使った、さきのわれたぼう)と工(＝しごと)を組み合わせた字。

実

8 画  
〔宀・5 画〕



實實實實實實

また、  
結実<sup>けつじつ</sup>  
②  
な  
か  
み。  
実<sup>じつ</sup>

いぬ  
①  
草木の、  
み。  
実<sup>じつ</sup>

実<sup>じつ</sup>

寔

実情・実力・実績・実験・実現・直  
 実・確実・現実 ④ まごころ。「実  
 直・誠実」  
 つかいかた ▶ 実りの秋になった  
 ▶ 練習で実力をやしなう。 ▶ 決  
 めたことをすぐ実行する。  
 もとの字は「實」。ハ（＝いえ）  
 と母（＝いっばいものがつま  
 っているようす）と貝（＝たからも  
 の）を組み合わせた字。



# 酒

10画  
〔酉・3画〕  
〈ひよみのとり〉



シユ  
さけ・さか

酒酒酒酒酒酒酒酒酒酒

いみ さけ。「酒屋・酒造・あま酒・清酒・飲酒・梅酒」

# 酒

つかいかた ▲父はお酒がすきだ。

▲酒屋さんにおつかいに行つた。  
▲造り酒屋には、酒蔵が立ちならんていた。  
▲神社の茶店て、あま酒をのんだ。  
▲日本酒は、米からつくられる。  
▲祖母は毎年、梅酒をつくっている。

なり シ(水)と酉(さけつぽ)を組み合わせた字。つぽの中のしるをしぼってつくったさけをあわす。

# 守

6画  
〔宀・3画〕  
〈うかんむり〉



シユ・ス  
まもる・もり

守守守守守守

# 守

いみ がいをうけないようにまもる。「守備・守護・守りふだ・死守・保守・留守・子守」

つかいかた ▲寒さから身を守る。

▲内野の守備をかためる。  
▲神社で、お守りのふだをもらう。  
▲みんな出かけたので、ひとりて留守番をする。  
▲子守歌を歌う。

さんこう 「ス」の読みは、「留守」だけにつかう、とくべつな読み。

なり 一(い)と寸(手)を合わせ、家の中にかこいこんでまもることをあらわした字。

# 取

8画  
〔又・6画〕  
〈また〉



シユ  
とる

取取取取取取取取取取

# 取

いみ 自分のものにする。とる。「取材・取得・取捨・命取り・書き取り」

つかいかた ▲小づつみを受け取る。

▲学級新聞の取材のために、一年生に話を聞く。  
▲すもう大会のための取組表をつくる。  
▲庭の草取りをする。

さんこう 「採る」は、「いくつかの中からえらびとる」意味。

なり 取(手)と耳(ミ)を組み合わせた字。

## 漢字の知しき

●画数をまちがえやすい漢字  
総画数を数えまちがえやすい漢字をしめしました。

- 二画 九・カ・刀・七
- 三画 子・女・夕・万・久・己・弓
- 四画 水・切・区・氏・収・不・比
- 五画 北・母・号・写・世・以・包
- 六画 糸・考・衣・印・成・伝・至
- 七画 局・似・序・良・防・否・臣
- 八画 長・門・芽・述・承・版・延
- 九画 係・乘・飛・逆・限・退・派
- 一〇画 紙・馬・旅・脈・能・留・陞
- 一一画 強・鳥・球・祭・第・液・率
- 一二画 遊・業・満・過・属・貿・極
- 一三画 遠・新・業・農・漢・節・置
- 一四画 鳴・様・緑・際・態・複・誤
- 一五画 選・養・編・潔・質・暴・蔵
- 一六画 館・機・衛・興・奮・築・縦
- 一七画 謝・績・嚴・優・覽・縮・講
- 一八画 曜・駿・織・簡・臨・難・職
- 一九画 識・臓・鏡・願・警

# 受

8画  
〔又・6画〕  
〈また〉



シユ  
うける・うかる

受受受受受受受受受受

# 受

いみ うけとる。「受信・受賞・受話器・受験」

つかいかた ▲ぼくの投げるボールを、父がミットで受ける。  
▲入学試験に受かった。  
▲受付で名前を言う。  
▲あの人は、ノーベル賞を受賞した学者です。  
▲兄は、受験勉強でいそがしい日々をおくっている。

なり 受(手)と又(手)を組み合わせた字。手から手へうけとることをあらわす。

# 州

6画  
〔川・3画〕  
〈かわ〉



シユウ  
す

州州州州州州州州州州

# 州

いみ ①海や川のところに、土やすながつもつてきた陸地。「中州・三角州」  
②地方。「本州・信州・九州」  
③大陸「五大州」

なり 州(川)の中にすて、島ができたようすからできた字。



## 集

12画  
[佳・4画]  
くふるとり

あつまる・あつめる・つとろ

集集集集集集集集

集

い 一か所によりあ  
う。あつまる。「集合」  
集・集・集中・集団・  
集結・収集・採集・密集つかいかた 何があつたのか、  
人がより集まっていた。  
場所が校庭です。姉は、詩集を  
読んでいる。歌とお話の集いが  
もよおされた。集 集(集) (木)の  
えだに(「とり」がたぐさんむれてるよ  
うすをあらわした字。「集」がりや  
くされて「集」になった。

## 拾

9画  
[キ・6画]  
くてへん

ひろろ

拾拾拾拾拾拾拾拾

拾

い ①ひろろ。拾  
得物・命拾い ②おさ  
める。「收拾」つかいかた 校庭のごみを拾  
集める。交番に、拾得物(拾  
つた物)をとどける。収拾(お  
さまり)のつかない事態。  
証書などで数字の「十」  
のかわりにもつかわれる。ち ①手と合(あつめる)を  
組み合わせた字。ちらばった  
ものをひろったり、あつめたりす  
ることをあらわす。

## 終

11画  
[糸・5画]  
くへん

おわる・おえる

終終終終終終終終

終

い おしまいになる。  
おえる。「終止・終点」  
終業・終結・終始・  
終了・終生・終日つかいかた 一時間目のじゆぎ  
ようが終わった。父が仕事を終  
えて、家に帰ってきた。一学期  
の終業式が終わった。最終の  
電車に間に合った。バスはもう  
すぐ終点につく。ち ①いとと冬(「作物をた  
くわえる一年のおわりのきせ  
つ)を組み合わせた字。糸まきに  
たくわえた糸のたまのこと。

## 住

7画  
[イ・5画]  
くへん

すむ・すまう

住住住住住住住住

住

い すむ。また、す  
まい。「住所・住居」  
住宅・住民・移住・安  
住つかいかた 長く住んでいた家  
から、新しい家にひっこした。  
中村君のお兄さんは、住みこみの  
店員をしている。同じ町内の  
住民が、集会場に集まった。  
住所と電話番号を書きこむ。  
新しい住宅が立ちならぶ町。主(「ろうそくたての上で  
人)を組み合わせた字。(「ろうそくたての上で  
人)を組み合わせた字。

## 習

11画  
[羽・5画]  
はね

ならう

習習習習習習習習

習

い ①まなぶ。けい  
こする。「習字・習得」  
予習・復習・学習・練  
習 ②ならわし。「習慣・習性・風  
習」つかいかた 図書室で自習をし  
た。くり返し漢字の練習をす  
る。夏休みに、早ね早起きの  
習慣をつけよう。ち 習(習) (羽)は  
かされる(を)を組み合わせた字。鳥  
がはねをくりかえしうごかすこと  
をあらわす。

## 重

9画  
[里・2画]  
くさど

え・おもい・かさねる・かさな

重重重重重重

重

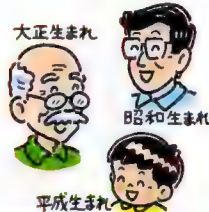
い ①めかたが多い。  
おもい。「重力・体重」  
②ひどい。「重病」  
③たいせつである。「重要・貴重品」  
尊重 ④かさねる。「二重・重複  
(ふく・あふ)」つかいかた 重い荷物を持つ。  
体重が少しふえた。重要な  
仕事、重くなった。ボランティ  
アで、貴重な体験をした。東 Y 重 重 (人)  
が立つと東 (「つきぬけるようす)を組み  
合わせた字。







昭

9画  
[日・5画]  
くひへん

シヨウ

昭昭昭昭昭昭昭

① あきらかにする。  
② てりかがやく。

昭

つかいかた

は、「平成」の前の年号だ。▼わたしの父と母は、昭和生まれてす。  
日本の南極観測は、昭和基地でおこなわれている。▼北海道には、昭和新山という山がある。

日(「太陽」と召(「シヨウ」の音をあらわし、手をぐるりとまわしてまねくこと)を組み合わせた字。光をぐるぐるとまわして、すみずみまでてらすことをあらわす。

消

10画  
[シ・7画]  
くさんすい

シヨウ

消消消消消消消

① きえる。けす。  
なくなる。「消印・消火・消失・消毒・消防・立ち消え・解消・消費・消息」

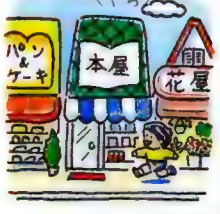
消

つかいかた

▼水をかけて、たき火を消す。▼赤い消防自動車。▼これは消化のよい食べ物です。▼傷口を消毒しましょう。▼計画は立ち消えになった。

シ(「みず」と肖(「こまかく小さい)を組み合わせた字。水の流れがほそくなり、なくなることをあらわす。

商

11画  
[ロ・8画]  
くち

シヨウ

商商商商商商商

① 物を売り買いする。あきなう。「商売・商人・商業・商社・商談・商品」

商

つかいかた

▼日用雑貨を商っている店。▼この通りには、大きな商店が立ちならんでいる。▼商業の発達した都市。

十(「高い」と辛(「シヨウ」の音をあらわす)と口(「口」)を組み合わせた字。

章

11画  
[立・6画]  
くたつ

シヨウ

章章章章章章章

① 書きつらねた文。「文章」

章

② 詩・文などの一まとまり。「序章・第一章・第一章」

「校章・記章・勲章」

③ しるし。

④ わかりやすい文章を書く。▼物語の第一章を、朗読してください。▼ぼくのぼうしには、校章がぬいつけてあります。

勝

12画  
[カ・10画]  
くちから

シヨウ

勝勝勝勝勝勝勝

① 相手をまかす。かつ。「勝利・勝敗・勝負・連勝・優勝・楽勝・決勝」

勝

② すぐれる。「名勝・景勝」

③ 兄に、うてずもうではじめて勝った。▼ぼくの兄は、テニス大会で優勝した。▼有名な景勝地(「けしきがすばらしい所)をおとすれる。

④ 足(「ふねをもちあげる)と力(「ちから)を組み合わせた字。

「かつ」いみになった。

乗

9画  
[ノ・8画]  
くの

ジョウ

乗乗乗乗乗乗乗

① のりものに乗る。「乗車・乗客・乗降」

乗

② つけこむ。「便乗」

③ かけあわせる。「乗法・乗除」

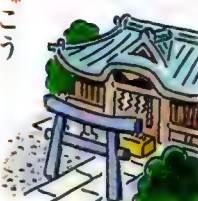
④ 駅前からバスに乗る。▼弟を自転車に乗せる。▼列車が急に止まったので、乗客がよろけた。▼相手のすきに乘じてせめこんだ。

⑤ 人(「ひと)が両足(「あし)をひいて、木(「き)にのぼっているかたちからできた字。



# 神

9画 [ネ・5画] (くしめすへん)



**読み** シン・ジン  
かみ・かん・こう

**意味** ①天地をおさめるもの。かみ。「神話」  
神宮・神主・神殿 ②心のはたらき。心。「神経・精神・失神」


**つかいかた** 神にいのる。神々しい  
社に神主さんがいる。神々しい  
(「とうとくておごそかな」女神のすがた。兄は運動神経がいい。強い精神力を持つ。

**なり** 示(「かみさまをまつる祭だん」と申(「いなすま」を組み合わせた字。

**神** 示(「かみさまをまつる祭だん」と申(「いなすま」を組み合わせた字。

# 真

10画 [目・5画] (め)



**読み** シン  
ま

**意味** ①まこと。ほんとう。「真心・真相・真意・真価・真実」 ②しぜんのまま。まじりけのない。「真赤・真つ青・純真」 ③かんぜんな。ちようど。「真南・真冬・真正面」


**つかいかた** 真心のこもったあいさつをする。事件の真相が知りたい。みんなて写真をとった。

**なり** ト(「さじ」で昇(「三本あしのうつわ」に、すきまなくいっぱい入れることをあらわす。

**真** ト(「さじ」で昇(「三本あしのうつわ」に、すきまなくいっぱい入れることをあらわす。

# 深

11画 [シ・8画] (さんざい)



**読み** シン  
ふかい・ふかまる・ふかめる

**意味** ①ふかい。また、ふかさ。「深海・深山・深林・水深」 ②ていどがふつうより多い。「深呼吸・深刻・深夜」


**つかいかた** 深い海の底。秋も深まったある日、見知らぬ人がたずねてきた。友情を深める。深呼吸をする。おおみそかは深夜まで起きていた。

**なり** シ(「水」と深(「あなのおくすこと」を組み合わせ、ひじょうにふかいことをあらわす。

**深** シ(「水」と深(「あなのおくすこと」を組み合わせ、ひじょうにふかいことをあらわす。

# 植

12画 [オ・8画] (きへん)



**読み** シヨク  
うえる・うる

**意味** ①草木をうえる。「植木・植林・田植え・移植」 ②人をうつりすまわせる。「植民地」


**つかいかた** クラス全員で、校庭にいちようの木を植える。はじめて田植えのつたいをした。温室にはめずらしい植物がある。昔、インドはイギリスの植民地だった。

**なり** 木(「き」と直(「目をまつすぐにむけること」を組み合わせた字。木をまつすぐに立てることをあらわす。

**植** 木(「き」と直(「目をまつすぐにむけること」を組み合わせた字。木をまつすぐに立てることをあらわす。

# 申

5画 [田・0画] (た)



**読み** シン  
もうす

**意味** 目上の人。いのべる。「申告・申請・内申・上申・答申」

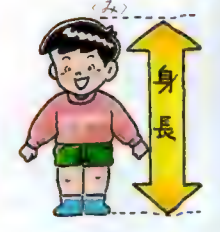
**つかいかた** 明日うかがうと母が申しております。どうも申しわけありませんでした。サッカーチームに、入会の申し込みをした。お父さんは、税金の申告に行った。

**なり** 申(「両手」と一(「まっすぐのはすしるし」を組み合わせた字。手てまっすぐのはすといういみをあらわす。

**申** 申(「両手」と一(「まっすぐのはすしるし」を組み合わせた字。手てまっすぐのはすといういみをあらわす。

# 身

7画 [身・0画] (み)



**読み** シン  
み

**意味** ①からだ。「身体・身長・心身・終身・全身」 ②じぶん。「身勝手・身内・身辺・単身・自身」 ③なかみ。「刀身」 ④地位や立場。「立身」

**つかいかた** 魚の切り身。かけこのスタートで、身がまえる。三年生になつて、身長がのびた。正月に身内が集まった。身分をわきまえる。

**なり** 女(「にょ」と身(「おんなのなかの中」に、あかちゃんが入っているかたちからてきた字。

**身** 女(「にょ」と身(「おんなのなかの中」に、あかちゃんが入っているかたちからてきた字。











他

5画  
[イ・3画]  
自100

他他他他他

他

自分以外のひと  
や、ほかのもの。「他人」  
他国・他社・他日・他界・  
他方・他殺・他者・自己・その他

つかいかた ▼ 他人の意見もよく  
聞こう。 ▼ その話は、他日（＝ほ  
かの日）あらためてしましょう。

▼ かれは、**自己**ともにみとめる実  
力者だ。 ▼ 入学式の前に、えん  
びつ、ノート、**その他**の学用品を  
そろえる。

もとの字は「佗」。イ（＝人）と  
它（＝どくへび）を組み合わせ  
た字。

打

5画  
[オ・2画]  
てへん

打打打打打

打

① たたく。うつ。  
「打者・打球・打順・打  
席・打率・打楽器・安打・  
代打・連打」② あることはの上につ  
けて、意味を強めることは。「打  
ち消す・打開」

つかいかた ▼ するどい**打球**をと  
ばす。 ▼ **打楽器**をえんそうする。

▼ 行きづまったじょうたいを、な  
んとか**打開**したい。 ▼ 話し合いを  
打ち切る。

オ（＝手）と丁（＝うちつける）  
を組み合わせた字。とんとん  
と、うつどうさをあらわす。

対

7画  
[寸・4画]  
すん

対対対対対

対

① むかいあう。  
あいてになる。「対岸・  
対面・対立・対談・対決・  
対策・対象・敵対・反対」② こたえ  
る。「対応・応対」③ ひとそろい。  
「対句・一対」

つかいかた ▼ **反対**の人が多くて、  
とりやめになった。 ▼ 十年ぶりに  
**対面**する。 ▼ 試合は**二対一**で勝  
った。 ▼ **一対**の花びん。

もとの字は「對」。堂（＝二つ  
てい）と寸（＝手）を組み合わせて  
きた字。

待

9画  
[イ・6画]  
きょうにんべん

待待待待待

待

① まつ。「待合室・  
待機・待望・期待」② も  
てなす。「接待・招待・  
優待」

つかいかた ▼ 夏休みが**待ちどお**  
しい。 ▼ 駅の**待合室**で、友だちに  
会った。 ▼ **待望**の一点をゴールし  
た。 ▼ リレーの選手として、みん  
なに**期待**される。 ▼ たんじょう会  
に**招待**された。

「持」とまちがえやすい。  
**待**（＝待つ）と**待**（＝待つ）  
の動作）を組み合わせた字。

代

5画  
[イ・3画]  
にんべん

代代代代代

代

① かわる。かわ  
りになる。「代理・代表・  
代用・交代」② はらうお  
金。「代金・身の代金」③ ある期間。  
「代代・明治時代・古代・十代・現  
代」

つかいかた ▼ 父の**代わり**に、ぼ  
くが出席した。 ▼ オリンピック  
の**代表**にえらばれる。 ▼ **代金**を  
まとめてはらう。

「代」とまちがえやすい。  
**代**（＝人）のかわりをさせるこ  
とをあらわした字。

第

11画  
[キ・5画]  
たけかんむり

第第第第第

第

① 数の上につけ  
て、順序をあらわす  
ことは。「第一人者・第  
一卷」② 試験。「落第・及第」③ も  
のごとのじゅんじよ。「次第」

つかいかた ▼ 健康が**第一**です。  
▼ 日本は、**第一**のテニス界の**第一**  
人者だ。 ▼ **落第**しないようにがん  
ばる。 ▼ 卒業式の**式次第**。

「第」とまちがえやすい。  
**第**（＝第）と**第**（＝第）  
の植物のつる）を組み合わせた字。







































# 味

8画  
[口・5画]  
くちへん



味味味味味味味味

味

①食べ物のおじ。  
「味覚・風味」②おもしろみ。あじわい。「意味・興味・趣味」③なまか。「味方・一味」

つかいかた 料理をよく味わって食べる。しお、さとうなどの調味料。漢字の意味を考える。

わたしが今興味があるのは、サッカーです。味方のおうえん。

口(「くち」と未(「まだ」のびだ)を組み合わせた字。口でこまかくあじわうことをあらわす。

# 命

8画  
[口・5画]  
くち



命命命命命命命命

命

①いのち。「命」取り・命がけ・命い。生命・寿命・命②言いつける。めいれい。「命令・使命」③めぐりあわせ。「運命」④名づける。「命名」

つかいかた 命を大切にする。

あたえられた使命をはたす。運命にしたがう。

命(「ひと」を組み合わせた字。人をあつめて、口でつたえること。とくに神や王のいいつけ。

# 面

9画  
[面・0画]  
めん



面面面面面面面面

面

①かお。「顔面」。泣きつ面②かおにかぶるもの。「仮面」③ものの表。「地面・水面・画面・表面」④むき。方向。「正面・側面」⑤図形の外がわの平らな部分。「面積」

つかいかた ボールが顔面に当たってしまった。池の水面に水すましがいる。正面を向いてすわる。

面(「あたま」と「そと」を組み合わせて、かおをあらわす。

# 返

7画  
[辶・4画]  
しんよう



返返返返返返返返

返

①もとにもどす。かえす。「返送・返答・返品・返礼・恩返し」

つかいかた 友だちにかりた本を返す。母は、ぼくのなまけぐせにあきれ返っている。名前をよばれたので、大きな声で返事をした。返信用のふうとうに、切手をはって出す。つるの恩返しの本を読んだ。

# 勉

10画  
[力・8画]  
ちから



勉勉勉勉勉勉勉勉

勉

①一生けん命にする。はげむ。「勉強・勉学・勤勉」

つかいかた よく勉強したおかげで、テストの点数がよくなった。勉学の道にはげむ。あの人はとても勤勉な人だ。

# 放

8画  
[攴・4画]  
くよく



放放放放放放放放

放

①自由にする。にがす。「放流・放牧・解放・放課後」②遠くへやる。はなつ。「放送・放映・放水・追放」③そのままにしておく。「放置・放任」

つかいかた かつていた小鳥を大空に放した。川に魚を放流する。学校放送に耳をかたむける。駅前には放置自転車が多い。



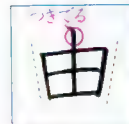
# 由

5画 [田・0画]  
〔た〕



ユ・ユウ・ユイ  
よし

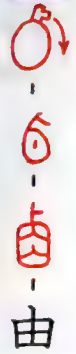
①わけ。いわれ。「由来・理由・由緒」



②そこを通る。「經由」

③思いのまま。「自由」

④「町名の由来を調べる」  
ハワイを経由して(＝通って)、アメリカ本土に行く。  
わたしたちが自由に遊べる場所がもっとほしい。



# 油

8画 [シ・5画]  
〔さんずい〕



ユ あぶら

①もえやすい液体。あぶら。「油絵・油紙・油田・石油・重油・給油」



②「あぶら汗」は「油汗」とは書かない。「脂汗」と書く。

③「あぶら汗」は「油汗」とは書かない。「脂汗」と書く。

④「あぶら汗」は「油汗」とは書かない。「脂汗」と書く。



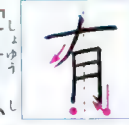
# 有

6画 [月・2画]  
〔つき〕



ユウ・ウ ある

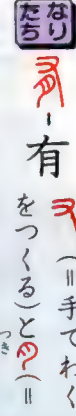
①ある。「有名・有力・有志・有料・有利・有効・有益・有数・有線・有能・有望」



②「有名作家の本を読む」

③「有名作家の本を読む」

④「有名作家の本を読む」



# 問

11画 [口・8画]  
〔くち〕



モン どう・とい・とん



①ききたです。「問答・問題・質問・疑問・学問・難問」

②人をたずねていく。「訪問」

③「訪問」

# 役

7画 [イ・4画]  
〔い・4画〕



ヤク・エキ



①やくめ。つとめ。「役員・役所・役場・役目・役人・兵役」

②やくだて。使う。「使役・労役」

③やくし。役者・子役

# 業

16画 [艹・13画]  
〔くさかんむり〕



ヤク くすり



①くすり。「薬品・薬用・薬局・薬草・薬屋・薬指・農薬」


②「薬品・薬用・薬局・薬草・薬屋・薬指・農薬」

③「薬品・薬用・薬局・薬草・薬屋・薬指・農薬」



# 洋

9画 [シ・6画] <さんずい>



ヨウ

①ひろびろとした海。「洋上・太平洋」

②世界を東と西に分けたもの。「東洋・西洋」


③西洋のこと。「洋食・洋服・洋画」

つかいかた ▼ ヨットで太平洋を横断する。▼ 母が買ってくれた新しい洋服を着る。▼ ぼくは、和食より洋食のほうが好きだ。▼ 姉は洋服をならっている。

なり シ(「みず」と羊(「ヨウ」の音をあらわす)を組み合わせてきた字(この羊は「ひつじ」のいみではない)。

# 葉

12画 [ハ・9画] <くさかんむり>



ハ

①木や草の、は。「葉桜・葉脈・紅葉」


②数につけて紙や写真など、うすいものを数えることは。「二葉」

つかいかた ▼ かれ葉が風にまう。▼ 庭の落ち葉をはき集める。▼ あざやかな若葉の色。▼ 言葉づかいに気をつける。▼ 山の木々が紅葉して美しい。

なり ツバ・葉 (「草」と葉(ハ)を組み合わせた字)。

# 陽

12画 [ヨ・9画] <きざとへん>



ヨウ

①たいよう。日。「陽光・太陽・落陽」

②明るい感じや積極的なけいこうをもつもの。「陽気」


③電気がじしやくのプラスの極。「陽極」

つかいかた ▼ 東の空から太陽がのぼる。▼ まゆみさんは、陽気なせいがかくだ。▼ ツベルクリン反応で、陽性だといわれた。

なり ヨ(「おか」と易(「日」が)を組み合わせた字。日のあたる明るいおかのこと。また、明るくがやく太陽をあらわす)。

# 遊

12画 [ユ・9画] <しんじよう>



ユウ・ユ

①あそぶ。「遊園地・遊覧船・物見遊山」

②自由に動き回る。「遊牧・遊泳」


③旅に出る。「遊学・外遊」

つかいかた ▼ みんなで楽しく遊ぶ。▼ 遊園地は入っていっぱいだ。▼ 波が高いので、遊泳禁止になった。▼ 大臣が外遊する(「外国に旅行する」)。

なり ヌ(「は」と子(「こども」と「え」(「すすむ」)を組み合わせた字。ぶらぶらとあるさまになること。から、「あそぶ」いみになった)。

# 予

4画 [リ・3画] <はねぼう>



ヨ


あらかじめ。ま えもつて。「予期・予告・予習・予算・予約・予想・予言・予測・予備・予定・予報」

つかいかた ▼ 予期しないできごとがおこった。▼ 来月行いうテストの予告をする。▼ あしたのじゅぎょうの予習をする。▼ 新幹線のきっぷを予約する。▼ インフルエンザの予防をする。

なり ヌ(「予」は「予」のまゐるいわをずらすかたちからできた字)。

# 羊

6画 [羊・0画] <ひつじ>



ヨウ

①ひつじ。「羊毛・牧羊・綿羊・子羊・羊小屋・羊飼」

つかいかた ▼ 羊の群れが移動している。▼ 空にうかんだ羊雲。▼ 羊毛を外国から輸入する。▼ 毛織物の原料は綿羊の毛です。▼ 子羊が、羊小屋の中でねている。▼ 羊の肉を使ったジンギスカン料理を食べた。

なり ヌ(「羊」は「羊」のひつじのあたまのかたちからできた字)。



# 旅

10画 [オ・6画] くたへん

【おん】リヨ  
【た】び

旅旅旅旅旅旅旅

【い】たび 「旅行・旅館・旅費・旅券・旅人・船旅」

【つかいかた】 ① 旅先から家に手紙を書く。② 家族で旅行する。③ 兄は修学旅行に行っている。④ 温泉旅館にとまった。⑤ 大型旅客機が発着する国際空港。

【なり】旅旅旅旅旅旅旅 (「はた」)

【たち】旅旅旅旅旅旅旅 (「はた」)

たりの(人)を組み合わせてきた字。人々が、はたの下でれつをつくってすすんでいくことをあらわす。

# 両

6画 [一・5画] いち

【おん】リヨウ  
【た】り

両両両両両両

【い】ふたつ。ふたつともに。「両方・両者・両親」 ② 電車・列車・自動車など。また、その数を数えることは。「車両」

【つかいかた】 ① ハンバークもコロツケも両方ともすきだ。② 両手てねん土をこねる。③ 両親と旅行する。④ 勉強とスポーツを両立させる。⑤ 八両連結の客車。

【なり】両両両両両両 (「はた」)

【たち】両両両両両両 (「はた」)

あっているてんびんばかりのかたちからきた字。

# 緑

14画 [糸・8画] いとへん

【おん】リヨク・ロク  
【た】みどり

緑緑緑緑緑緑緑

【い】青と黄の間の色。みどり。「緑色・緑地・緑茶・新緑・葉緑素・緑青(銅のさび)」

【つかいかた】 ① 木の葉の緑が、目にしみる。② 見わたす限り、緑地が広がっている。③ 家族そろって、新緑の山に登る。④ 黄緑色のクレヨン。

【なり】緑緑緑緑緑緑緑 (「はた」)

【たち】緑緑緑緑緑緑緑 (「はた」)

竹の皮をはぐようすで、皮をはいだ青竹のようなみどり色にそめた糸のこをあらわした字。

# 様

14画 [木・10画] きへん

【おん】ヨウ  
【た】さま

様様様様様様様

【い】ようす。ありさま。「様相・様子・同様・異様・一樣」 ② ずがら。「模様」 ③ 名まえなどの下につけて、そんけいの気持ちを表すことは。「女王様・山田様」

【つかいかた】 ① 何かおこりそうな様子だ。② きれいな模様の布。③ 弟も兄と同様に背が高い。④ 「さんこう」のようだとするとき

【なり】もとの字は「様」。木と主(「た」)「ヨウ」という音をもつと「永(「ながく流れる水」)からきた。

# 落

12画 [十・9画] くさかんむり

【おん】ラク  
【た】おちる・おとす

落落落落落落

【い】おちる。おとす。「落ち葉・落下・落選・落第」 ② 新しくてき。③ 落下。④ 村落・集落」

【つかいかた】 ① きのうさいふを落としてしまった。② 落ち着いて考えよう。③ 大岩が落下してきた。④ おしくも落選した。⑤ 新しいビルが落成した(できあがった)。

【なり】落(「草」と「洛(「おりる」)が合わさって、「草の葉がたれ下がる」から「おちる」いみになった字。

# 流

10画 [シ・7画] さんずい

【おん】リユウ・ル  
【た】ながれる・ながす

流流流流流流流

【い】ながれる。ながす。また、ながれ。「流域・流星・海流・急流・電流・島流し」 ② ひろまる「流行・流布」 ③ よとみなない。「流ちょう」 ④ なかま。「流派」 ⑤ 等級。「一流」

【つかいかた】 ① 町の中を川が流れている。② 流れ星にねがいをかける。③ 流行の洋服を買う。④ うまれるときにながれ出る水(「組み合わせた字」。

【なり】流流流流流流流 (「はた」)

【たち】流流流流流流流 (「はた」)







# 四年生の漢字学習法

四年生では、一～四年で習う漢字を読むこと、一～三年の漢字を書き、文中で使えるようにすること、四年の新出漢字二百字を少しずつ書くようにすることを目標にしています。

漢字の中には、同じ訓読みでも意味のちがう漢字があります。たとえば、「直す・治す」のように、同じ訓読みでも表す意味がちがうものを、同訓異字といいます。

こうした同訓異字の漢字は、その漢字の意味をしつかり知って、使い分けられるようにしなくてはなりません。

「冷める」の「冷」は「冷水・寒冷・冷蔵庫」のように「つめたい・ひやす」などの意味があります。し

たがって、「湯が冷める」などのように使います。

それに対して「覚める」の「覚」は「感覚・知覚・味覚」などの熟語が作れる漢字で、「感づく・はつきりわかる」などの意味があり、「目が覚める」などのように使います。

また、「治す」の「治」は「治安・全治」などの熟語ができます。「おさめる・おさまる・なおす」などの意味で使われています。とくに、病氣

やけがを「なおす」場合に使います。それに対して、「直す」の「直」には「直通・直面・直線・直前」などの熟語があります。「まっすぐ・じかに・すぐに」などの意味で使われます。

「機械を直す。」「くせを直す。」などと使います。ただし、「直す」は「病氣を直す。」と書いてもまちがいはありません。

さらに、漢和辞典を使つての、次

のような学習も大切です。

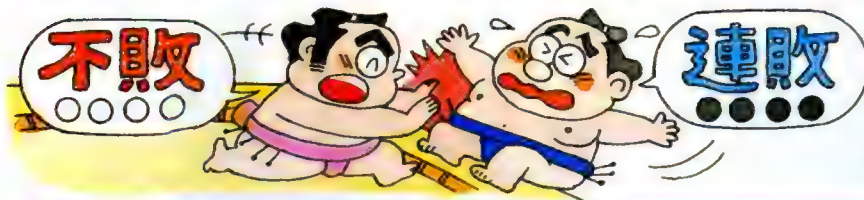
今まで学習した漢字を部首で分類してみよう。

たとえば、「くさかんむり」の漢字「草・花・荷・英」。「きへん」の漢字「機・械・札・標・材」。「こんべん」の漢字「課・説・訓・議」。そして、それぞれの「部首」がどんな意味の漢字に使われているかを考え、その「部首」の意味を理解します。



## 四年生で習う字

歴	約	兵	敗	底	束	省	種	察	固	鏡	季	課	愛
283	278	273	268	263	258	252	247	242	236	231	226	221	216
連	勇	別	梅	停	側	清	周	参	功	競	紀	芽	案
284	279	274	268	263	258	253	248	242	237	232	227	221	216
老	要	辺	博	的	続	静	祝	産	好	極	喜	改	以
285	279	274	269	264	258	253	248	243	237	232	227	222	216
労	養	変	飯	典	卒	席	順	散	候	訓	旗	械	衣
285	279	274	269	264	259	254	248	243	237	232	227	222	217
録	浴	便	飛	伝	孫	積	初	残	航	軍	器	害	位
285	280	275	269	264	259	254	249	243	238	233	228	222	217
利	包	費	徒	帯	折	松	士	康	郡	機	街	囿	
280	275	270	265	260	254	249	244	238	233	228	223	217	
陸	法	必	努	隊	節	笑	氏	告	径	議	各	胃	
280	275	270	265	260	255	249	244	238	233	228	223	218	
良	望	票	灯	達	説	唱	史	差	型	求	覚	印	
281	276	271	265	260	255	250	244	239	234	229	223	218	
料	牧	標	堂	単	浅	焼	司	菜	景	泣	完	英	
281	276	271	266	261	255	250	245	240	234	229	224	219	
量	末	不	働	置	戦	象	試	最	芸	救	官	栄	
281	276	271	266	261	256	250	245	240	234	229	224	219	
輪	満	夫	特	仲	選	照	児	材	欠	給	管	塩	
282	277	272	266	261	256	251	246	240	235	230	224	219	
類	未	付	得	貯	然	賞	治	昨	結	拳	関	億	
282	277	272	267	262	256	251	246	241	235	230	225	220	
令	脈	府	毒	兆	争	臣	辞	札	建	漁	観	加	
282	277	272	267	262	257	251	246	241	235	230	225	220	
冷	民	副	熱	腸	倉	信	失	刷	健	共	願	果	
283	278	273	267	262	257	252	247	241	236	231	226	220	
例	無	粉	念	低	巢	成	借	殺	駿	協	希	貨	
283	278	273	268	263	257	252	247	242	236	231	226	220	





## 衣

6画  
[衣・0画]  
〈ころも〉

衣衣衣衣衣衣

い

① 身に付けるもの。「衣服・衣料・衣類・衣装・衣食住」

衣

着る物と食べ物とすまい・白衣・法衣・衣がえ(＝季節によって衣類をかえること)

使

衣類に虫がつく。衣類をとりかえる。脱衣場で服をぬいてから、湯船に入る。白衣のかんごふさ

な

衣がえの季節。衣の形から

てきた字。

## 位

7画  
[イ・5画]  
〈にんべん〉

位位位位位位

い

① みぶん。くら

位

のていどやじゅん番。「地位・即位・王位・品位・気位」② ものごと

使

ソングで上位に入賞した。公園は駅の南に位置している。マラ

な

位(＝人)と企

つ)を組み合わせた字。人の立つ

## 團

7画  
[口・4画]  
〈くにがまえ〉

團團團團團團

い

① まわりをとりま

團

わ。かこむ。また、まわり。「包圍・周圍・胸圍・範圍」

使

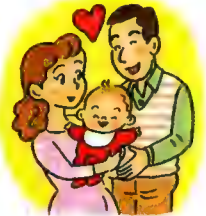
む。家のまわりをへいて。わとりがにげた。池の周圍をジ

な

うす)と(＝かこむ)を組み合

わせた字。まわりをかこむいみ。

## 愛

13画  
[心・9画]  
〈こころ〉

愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛愛

い

① かわいがる。

愛

いとしく思う。「愛情・愛犬・愛児」② このむ。「愛読・愛用・愛唱・愛好」③ たいせつにする。「愛国・愛着・愛護」

な

しろにのけぞるようす)と(＝こころ)と(＝足をはきずる)を

組み合わせてきた字。

## 案

10画  
[木・6画]  
〈き〉

案案案案案案案案案案案案案案案案

い

① かんが

案

え。「案出・考案・思案・議案・名案・提案」② 下書き。「文案・草案」

な

くえのことをあらわす。

くえのことをあらわす。

## 以

5画  
[人・3画]  
〈ひと〉

以以以以以以以以以以以以以以以以

い

① あることはの上

以

について、「...より」のいみを表すことは。「以上・以下・以内・以外・以前・以後・以来」

な

うのは卒業以来だ。かのじよとは以前からの知り合いだ。

組み合わせてきた字。























**求** 7画 [水・2画] <みず>

【読み】 ① 人にのぞむ。もとめる。「要求・求刑・請求」② さがす。もとめる。「求人・求職・追求・探索」

【使い方】 ▼ おたがいが要求をゆずらず、あらそいになった。▼ 正しい答えを求め。▼ 新聞に求人広告が出ている。▼ 会社は、利益を追求する。

【読み】 ① 動物の毛皮の形から、ひもで中心に向けてしばって着るということをあらわす。

【読み】 ① 動物の毛皮の形から、ひもで中心に向けてしばって着るということをあらわす。

**泣** 8画 [シ・5画] <きんずい>

【読み】 なみだをながしてなげく。なく。「泣き言・感泣・号泣」

【使い方】 ▼ 赤ちゃんが泣いている。▼ 妹は泣き虫だ。▼ 泣き言をいう。▼ 苦労した末の成功に、うれし泣きした。▼ 犬と少年の愛情物語に感泣した(心にふかく感じて泣いた)。

【読み】 「鳴く」は、鳥・虫・けものなどが声を出すこと。

【読み】 目からシ(水)が立(流れる)ことをあらわした字。なくことをいみする。

**救** 11画 [文・7画] <くよくう>

【読み】 たすける。助・救出・救命・救護・救済・救援・救急車・救世主

【使い方】 ▼ 川でおぼれそうになったところを、あやうく救われた。▼ そうなん者を救出する。▼ 救急車がサイレンを鳴らしながら走っていく。▼ ほう帯は救急箱の中です。

【読み】 「救急車」を「急救車」と書かないこと。

【読み】 求(ひきしめる)と文(動く)の記号を合わせた字。

**器** 15画 [口・12画] <くち>

【読み】 ① いれもの。うつわ。また、どうぐ。「食器・花器・器物・器械・器材・器官・計器・楽器・武器」② 能力。「器用・器量・大器才能」

【使い方】 ▼ いろいろな器具を使って実験する。▼ 石器時代に使っていた石おの。▼ 姉は手先が器用だ。▼ 大政治家になる器量(才能)がある。▼ こんど入った選手は、大器と言われている。

【読み】 もとの字は「器」。口(くち)を四つと犬(いぬ)で、いろいろなうつわをあらわした字。

**機** 16画 [木・12画] <きへん>

【読み】 ① しくみ。しかけ。「機械・機関・機構・機織り」② ものごとのきつかけ。ちようどよいとき。「機会・動機・好機・転機」③ はたらし。機能「機知・機転」④ だいたいなこと。「機密」⑤ ひこうき。「機内」

【使い方】 ▼ 織女星は、機織り星ともいう。▼ 夏休みは、体をきたえる良い機会だ。▼ かれは、機転のきく人です。

【読み】 木(き)と幾(こまかいこと)を組み合わせさせた字。こまかいしかけのこと。

**議** 20画 [言・13画] <こんへん>

【読み】 意見を出して話し合う。また、意見。「議案・議事・議決・議題・議会・議席・議論・決議・討議・異議・抗議」

【使い方】 ▼ かれを議長にすいせんしよう。▼ 意見がまとまらず、会議が長びいた。▼ 大事なことは、みんなて協議して決める。▼ なにやら不思議な音がする。

【読み】 言(ことば)と義(き)を組み合わせさせた字。きちんとしてけじめのある話をする。



## 共

6画  
[ハ・4画]  
はちおん  
キヨウ  
とも

共 共 共 共 共 共 共 共

共

い ともに。いっし  
よに。「共通・共有・  
共感・共鳴・共犯・  
共存・共演・共学・共同」

使 力を合わせて共<sup>に</sup>がんばろう。  
わたしの両親は共<sup>に</sup>働  
きてす。  
みんなに共<sup>通</sup>の話題。  
この井戸は、二つの村が共<sup>同</sup>  
で使っています。  
男女共<sup>学</sup>の  
中学へ進む。  
友だちの考えに  
共<sup>鳴</sup>する。

なり  
品ー共ー共  
両手て品物  
をささげも  
つようすからてきた字。

## 給

12画  
[糸・6画]  
いいとへんおん  
キユウ

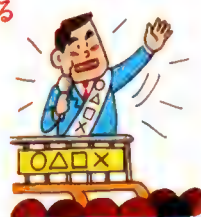
給 給 給 給 給 給 給 給

給

い ①あたえる。  
はる。「給食・給水・  
給油・給仕・配給・補  
給・支給・供給」  
給料・給金・高給・時給・日  
給・週給・月給

使 水道がとまったので、  
給水車が来た。  
今日は、姉の  
初めての給料日です。  
系(Ⅱいと)と合(Ⅱかけめを  
ふさぐ)を組み合わせた字。  
たりないところをつぎたすことを  
あらわす。

## 挙

10画  
[手・6画]  
ておん  
キヨ  
あげる・あがる

挙 挙 挙 挙 挙 挙 挙 挙

挙

い ①もちあげる。  
また、とりあげる。  
「挙手・選挙」  
また、ふるまい。「挙行・挙動・挙  
式・一挙・快挙」  
「列挙」  
④のこらず。みな。「挙国・  
大挙」

使 犯人のしやうこが挙  
つた。  
委員を選挙で決める。  
疑問点を列挙する。  
挙して役所におしかけた。  
もとの字は「舉」。與(Ⅱ手  
をそろえ、力を合わせて動か  
す)と手(Ⅱて)を組み合わせた字。

## 漁

14画  
[シ・11画]  
さんすいおん  
ギョ・リヨウ

漁 漁 漁 漁 漁 漁 漁 漁

漁

い 魚や海そうなど  
をとる。「漁業・漁  
場・漁期・漁港・漁船・  
漁村・漁師・出漁・豊漁・大漁・  
不漁・禁漁区」

使 漁業のさかなな地方。  
漁船が港に入ってきた。  
水あ  
げ高の多い漁港。  
海と山にはさ  
まれた漁村。  
きようは大漁だ。  
十月から翌年の三月までは、  
禁漁です。  
シ(Ⅱ水)と魚(Ⅱさかな)を組  
み合わせた字。魚をとること  
をあらわす。

## 鏡

19画  
[金・11画]  
かねへんおん  
キヨウ  
かがみ

鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡

鏡

い ①かがみ。  
た、レンズ。「鏡台・  
三面鏡・望遠鏡・けん  
び鏡・そう眼鏡・眼鏡」  
②てほん。  
もはん。

使 鏡に顔をうつす。  
遠鏡で遠くを見る。  
②の意味のときは、ふつう  
「鑑・鑒」という字を書く。  
金(Ⅱ銅)と竟(Ⅱ物のさかい  
め)を組み合わせた字。青銅  
をよくみがいた、明暗のさかいめ  
がはつきりうつるかがみをあらわ  
す。

なり  
金ー鏡ー鏡  
をささげも  
つようすからてきた字。











## 功

5画  
[カ・3画]  
ちから

功功功功功

功

**い** ①てがら。「功績・功名・功労・成功・年功」②ききめ。「奏功」③よいおこない。「功德」

**使** ①医学の進歩に大きな功績を残す。②文化功労賞を受賞する。③ロケットの打ち上げに成功する。④テレビの功罪(＝よいところと悪いところ)について話し合う。

**なり** 工(＝上下両面にあなをあけること)と力(＝どりよく)を組み合わせ、なしたげた仕事と、そのときばえをあらわす。

## 健

11画  
[イ・9画]  
くへんへん

健健健健健健健

健

**い** ①じょうぶである。すこやか。「健康・健在・健全・健勝・強健・保健」②ふつう以上である。「健闘・健忘」

**使** ①健康には気をつけよう。②いなかの祖父母は健在です。③みなさまのご健勝をおいのりします。④けがをしたので保健室に行った。⑤赤ちゃんが健やかに育つ。

**なり** イ(＝人)と建(＝からだをまとつすぐに立てて歩く)を組み合わせさせた字。

## 験

18画  
[馬・8画]  
くまへん

験験験験験験験

験

**い** ①たしかめる。ためす。「試験・実験・経験・体験」②ききめ。「靈験」

**使** ①来週、国語の試験があります。②姉は、受験勉強中です。③理科室で、実験道具をそろえる。④いろいろなことを経験する。⑤今回はきちょうな体験をしました。

**なり** もとの字は「験」。馬(＝うま)と僉(＝物をよせ集めてまとめる)を組み合わせた字。馬のりくらくてためすこと。

## 好

6画  
[女・3画]  
おんなへん

好好好好好好

好

**い** ①このむ。すきである。「好意・好學・好奇・心・好物・同好」②このましい。よい。「好感・好機・好評・好調・好転・良好・格好・友好」

**使** ①母はあまい物を好む。②何でも好ききらいなく食べよう。③なっ豆は父の好物です。④人の好意を無にしないように。⑤新品の売れ行きは好調です。

**なり** 好(＝女)が子(＝女)をかわいがる形からてきた字。

## 候

10画  
[イ・8画]  
くにんへん

候候候候候候候

候

**い** ①ようす。「天候・氣候・時候」②まちうける。「候補」③さぐ。④ある「いる」をていねいに言うときに使う。そうろう。

**使** ①このところ、悪天候がつづく。②優勝候補のチーム。③市会議員に立候補する。④昔は候文(＝文末を「候」でむすぶ文体)で手紙を書いた。

**なり** イ(＝人)と候(＝弓矢のまと)を組み合わせた字。

## 固

8画  
[口・5画]  
くにかまへ

固固固固固固固

固

**い** ①しつかりと動かないようにする。また、そのようす。かた。②固定・固体・固形・燃料・強固・確固。③もうずうがきかない。「がん固」④もとからの。「固有」

**使** ①雪を固めて雪だるまをつくる。②固い決意をもって試合にのぞむ。③はぐれないように固まって行動する。④地しんてたおれないように、家具を固定した。⑤日本固有の文化。

**なり** 古(＝頭のほね)と口(＝かこい)を組み合わせた字。



差

10画  
〔工・7画〕  
〈こい〉



サ  
サ

差差差差差

せいしつのちがい。く  
べつ。また、二つの数  
の間のひらき。「差別・差異・大差  
小差・落差・差額・時差・誤差」  
す。★「差し支える」

**使い方**  
 ▲ わたしと妹の身長の**差**は十センチです。  
 ▲ 二位に**大差**をつけてゴールインする。  
 ▲ カラーの**差**をつけてゴールインする。  
 ▲ カールテンのすき間から日が**差**す。

なり  
たち

ひびいて

差

（＝）ほ先がた  
れたいねと

（＝左手でささえる）を組み合わせ  
そろわないことをあらわす。

航

10画  
〔舟・4画〕  
示相人




  
 コウ

舟航舟航舟航舟航舟航舟航

い  
航 船や飛行機で進む。「航海・航行・航路・出航・欠航・来航・帰航・運航・航空便」

航

使<sup>は</sup>い<sup>は</sup>方<sup>は</sup> 方  
 っ<sup>は</sup>た<sup>ち</sup>。 ▶ 長<sup>なが</sup>い航<sup>くわう</sup>海<sup>かい</sup>の無<sup>む</sup>事<sup>じ</sup>をい<sup>い</sup>の  
 八<sup>はち</sup>時<sup>じ</sup>ち<sup>ち</sup>ょう<sup>う</sup>ど<sup>ど</sup>て<sup>て</sup>す。 ▶ き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>のた<sup>た</sup>め  
 飛<sup>と</sup>行<sup>ぎやう</sup>機<sup>き</sup>が欠<sup>け</sup>航<sup>くわう</sup>し<sup>し</sup>た。 ▶ 出<sup>しゅつ</sup>張<sup>ちやう</sup>中<sup>ちゆう</sup>の  
 父<sup>ちち</sup>か<sup>か</sup>ら、航<sup>くわう</sup>空<sup>くう</sup>便<sup>べん</sup>の絵<sup>え</sup>葉<sup>は</sup>書<sup>が</sup>が来<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>し  
 た。

舟(＝ふね)と亢(＝まっすぐ)  
に立<sup>た</sup>っている人<sup>ひと</sup>のくび<sup>くび</sup>を組<sup>く</sup>  
み合<sup>あ</sup>わせて、ふねがならんでまっ  
す<sup>す</sup>ぐ進<sup>すす</sup>むことをあらわした字<sup>じ</sup>。

康

川画  
〔广・8画〕  
〈まだれ〉



コウ  
バ

康康康康康康康

いぬ 小 康 (しょうこう) 健康 (けんこう)

① やすらか。  
② すこやか。

康

**使い方** ▶ 病人はここ二、三日  
**小 康 状 態** (＝ 少しよくなりかけ  
 たようす) をたもっています。▶  
**健康** にはじゅうぶん注意しよう。  
**健康しんだん** をうける。

なる  
 たち

赤ー薬ー康

まきのし

(＝糸

りょうて

いねのもみがら

を組み合わせた

字。

かたいすじの入ったもみがら

て、じょうぶをいみする。

## 告

7画  
[口・4画]  
'ち



おえ  
つ

告告告告告告告

い  
つづける。知らせ  
る。「告白・告示・告別  
式・布告・密告・予告・報  
告・警告・廣告・忠告・告げ口」

告

**使い方** ▶時を告げるかねの音  
 ▶かくしていたことを、すべて告  
 白した(＝うちあけた)。▶新聞に  
 広告を出す。▶こんなことになる  
 のなら、母の忠告を聞いておけ  
 ばよかった。

なり  
 たち  
 告  
 告(告)  
 かたち  
 をしはる形からてきた字。  
 きけん  
 にぼう  
 牛の角

いづばの知しき

● ことば遊び  
ことばを使つてする遊びが、昔からたくさん伝わっています。みなさんも、「しりとり」や「早口ことば」や「クイズ」や「なぞなぞ」などは、やったことがあるでしょう。ここでは、あることばを各句の始めにならべる（＝折りこむ）、「折り句」という遊びをしようかしみましょう。



(この辞典の編集長)

ことばの知しき

●意味のいみにのていることば  
意味がいみほおほお同おなじことばや、よく  
にいていることばを、類義語るぎごといい  
ます。意味がいみほおとお同おなじことば  
は、同意語どういごとか、同義語どうぎごというこ  
ともあります。

これらのことばは、意味がに  
てゐるといつても、どんな場合にも  
同じように使へるとはかぎりませ  
ん。ちがいを考えて使ひましよう。

意外：思っていたことと実際のことがひどくちがうこと。

案外：ものごとのていどが、思っていた以上であること。

不安：おそろしさや心配などで心がおちつかないこと。

心配：どうだろうかと気にすること。

悪くにと  
悪人  
わるもの  
悪者

衣い衣い  
服く料りょう

海外  
外国















## 失

5画  
[大・2画]  
得 267

失失失失失

## 失

①なくす。「失望・失明・失業・失意・失格・失礼・失念・流失・焼失・過失・損失・遺失物」②あやまち。しくじり。「失火・失言・失敗」

使い方 希望を失ってはいけない。▼駆て友人を見失った。▼これで失礼します。▼一度の失敗であきらめるな。

なり 失 (二手) の中の物が、らわした字。

## 児

7画  
[儿・5画]  
にんによう

児児児児児児児

## 児

子ども。おさな者。また、わかもの。「児童・育児・愛児・園児・男児・女児・幼児・小児科・野球をする少年」。

使い方 保母さんが、園児をならはせている。▼母は無事、女児を出産しました。▼幼児のための童話の絵本。▼高校球児(二野球をする少年)。

なり 児 (二頭) のほだ合わせらない子どものすがたからてきた字。

## 治

8画  
[シ・5画]  
さんずい

治治治治治治治

## 治

①せいじをとる。国をおさめる。また、しずめる。「政治・統治・自治・治安・治水」②病気をなおす。「治療・全治」

使い方 国民のことを考えた政治を行う。▼患者を退治する。▼痛みが治まる。▼かぜを治す。▼全治二週間といわれたけがが、一週間で治った。

なり シ(二水)と台(二ことばや動作をくわえる)を組み合わせて、川の流れを調節するというみをあらわした字。

## 借

10画  
[イ・8画]  
貸 332

借借借借借借借

## 借

つかわせてもらう。かりる。「借用・借金・借家・借地・拝借・貸借」

使い方 図書館から本を借りる。ぜひあなたの助けを借りたい。お言葉にあまえて、しばらく借用します。▼借金の申しこみをする。▼借家ですが、もう二十年住んでいます。

なり 借 (二貸) と昔 (二日数をかさねる) を組み合わせた字。

## 辞

13画  
[辛・6画]  
からい

辞辞辞辞辞辞辞

## 辞

①ことば。「辞典・辞書・祝辞・式辞・答辞・訓辞」②わかれ。いとまごい。「辞去・辞世」③やめる。ことわる。「辞意・辞職・辞退・辞任」

使い方 ことばの意味を辞典で調べた。▼開会の辞をのべる。▼首相が辞意を表明した。▼体調が悪いので、出場を辞退する。

なり もとの字は「辭」。爾(二もつれた糸をきちんとそろえる)と辛(二罪人に入れずみをするはもの)を組み合わせた字。

## 種

14画  
[禾・9画]  
のぎへん

種種種種種種

## 種

①しゆくぶつ 植物のたね。「種油・種子・菜種」②もことになるもの。「火種・特種」③なにか。「種類・種別・種目・人種・品種」

使い方 畑に菜の花の種をまく。▼火種(二火をおこすもの火)をたやすな。▼なしの品種改良が進んで、ますますおいしくなった。▼運動会で、三つの種目に参加しました。

なり 禾(二作物)と重(二人が上から重みかけること)を組み合わせた字。たねをあらわす。







## 唱

11画  
[口・8画]  
くちへん

おん ショウ  
くんとあえる

唱唱唱唱唱唱唱唱唱唱

唱

ふしをつけて言う。うたう。また、人の先に立って言う。「唱歌・唱和・合唱・独唱・輪唱・愛唱・復唱・暗唱・提唱」

使い方 おはあさんは毎朝、念仏を唱えています。学校の代表として、合唱コンクールに出場した。「かけ算の九九」は、全部暗唱できます。「戦争反対」を唱える。

なり 口(くち)と昌(はつきり)とよくわかるようにものをいうを組み合わせた字。

## 焼

12画  
[火・8画]  
ひへん

おん ショウ  
やく・やける

焼焼焼焼焼焼焼焼焼焼

焼

もやす。また、やける。「焼失・焼香・燃焼・全焼・延焼・類焼・夕焼け・日焼け」

使い方 庭でゴミを焼く。お母さんが目玉焼きを作っている。焼きたてのパンを食べる。火の消し忘れが原因で火事になり、となりの家が全焼しました。西の空が夕焼けで真っ赤です。真っ黒に日焼けする。

なり もとの字は「焼」。火(ひ)と堯(高いのぼる)を組み合わせた字。

## 象

12画  
[豕・5画]  
いのこ

おん ショウ・ゾウ

象象象象象象象象象象

象

①ものの形。すがた。「氣象・対象・現象・印象」②かたどる。にせる。「象形」③熱帯にすむ、長い鼻をもった動物。ぞう。

使い方 このへんは氣象の変化がはげしい。ものの形をかたどって作られた文字を、象形文字という。動物園でインド象を見た。

なり 象 動物のぞうの形からてきた字。

## 照

13画  
[火・9画]  
れんが

おん ショウ  
てる・てらす・てるる

照照照照照照照照照照

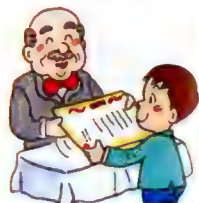
照

①てらす。「照射・照明・日照」②てらしあわす。「照合・参照・対照」

使い方 夕日に山の木々が照りかえり。このところ日照りつづきた。人前に出ると照れる。明るい照明。かれらは対照的(性質のちがいが非常にめだつようす)な性格だ。

なり 照 照(はんえん)半円をえがいて右から左へ光がてらすことと(火)を組み合わせた字。

## 賞

15画  
[貝・8画]  
こがひ

おん ショウ  
う・やめる

賞賞賞賞賞賞賞賞賞賞

賞

ほめる。また、うび。「賞状・賞品・賞金・賞賛・賞味・受賞・入賞・観賞・鑑賞・一等賞・特賞」

使い方 校長先生に賞状をいただいた。クイズを当てて賞品をもらう。マラソンで三位に入賞しました。きくの花を鑑賞する(見えて楽しむ)。

なり 尚 尚(おん)「シヨウ」という音をあらわすことと貝(おん)「お金や品物」を組み合わせた字。

## 臣

7画  
[臣・0画]  
しん

おん シン・ジン

臣臣臣臣臣臣臣臣臣臣

臣

主君につかえる人。けらい。「臣下・臣民・大臣・家臣・重臣・忠臣」

使い方 作文コンクールで文部大臣賞をもらう。忠実な家臣をもった殿様。手がらをたてて、重臣(重い役目のけらい)としてとりたてられる。

なり 臣 臣(うつむいた)人の目の形からてきた字。どれいのことて、のちにけらいのいみとなった。



## 清

11画  
[シ・8画]  
くさんずい

①に「清」が「清」  
②「清」が「清」

清清清清清清清清

清

①に「清」が「清」  
②「清」が「清」  
③「清」が「清」  
④「清」が「清」  
⑤「清」が「清」  
⑥「清」が「清」  
⑦「清」が「清」  
⑧「清」が「清」  
⑨「清」が「清」  
⑩「清」が「清」  
⑪「清」が「清」  
⑫「清」が「清」  
⑬「清」が「清」  
⑭「清」が「清」  
⑮「清」が「清」  
⑯「清」が「清」  
⑰「清」が「清」  
⑱「清」が「清」  
⑲「清」が「清」  
⑳「清」が「清」  
㉑「清」が「清」  
㉒「清」が「清」  
㉓「清」が「清」  
㉔「清」が「清」  
㉕「清」が「清」  
㉖「清」が「清」  
㉗「清」が「清」  
㉘「清」が「清」  
㉙「清」が「清」  
㉚「清」が「清」  
㉛「清」が「清」  
㉜「清」が「清」  
㉝「清」が「清」  
㉞「清」が「清」  
㉟「清」が「清」  
㊱「清」が「清」  
㊲「清」が「清」  
㊳「清」が「清」  
㊴「清」が「清」  
㊵「清」が「清」  
㊶「清」が「清」  
㊷「清」が「清」  
㊸「清」が「清」  
㊹「清」が「清」  
㊺「清」が「清」  
㊻「清」が「清」  
㊼「清」が「清」  
㊽「清」が「清」  
㊾「清」が「清」  
㊿「清」が「清」

①に「清」が「清」  
②「清」が「清」  
③「清」が「清」  
④「清」が「清」  
⑤「清」が「清」  
⑥「清」が「清」  
⑦「清」が「清」  
⑧「清」が「清」  
⑨「清」が「清」  
⑩「清」が「清」  
⑪「清」が「清」  
⑫「清」が「清」  
⑬「清」が「清」  
⑭「清」が「清」  
⑮「清」が「清」  
⑯「清」が「清」  
⑰「清」が「清」  
⑱「清」が「清」  
⑲「清」が「清」  
⑳「清」が「清」  
㉑「清」が「清」  
㉒「清」が「清」  
㉓「清」が「清」  
㉔「清」が「清」  
㉕「清」が「清」  
㉖「清」が「清」  
㉗「清」が「清」  
㉘「清」が「清」  
㉙「清」が「清」  
㉚「清」が「清」  
㉛「清」が「清」  
㉜「清」が「清」  
㉝「清」が「清」  
㉞「清」が「清」  
㉟「清」が「清」  
㊱「清」が「清」  
㊲「清」が「清」  
㊳「清」が「清」  
㊴「清」が「清」  
㊵「清」が「清」  
㊶「清」が「清」  
㊷「清」が「清」  
㊸「清」が「清」  
㊹「清」が「清」  
㊺「清」が「清」  
㊻「清」が「清」  
㊼「清」が「清」  
㊽「清」が「清」  
㊾「清」が「清」  
㊿「清」が「清」

## 信

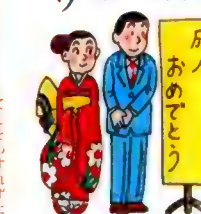
9画  
[イ・7画]  
にんべん

信信信信信信信信信

信

①「信」が「信」  
②「信」が「信」  
③「信」が「信」  
④「信」が「信」  
⑤「信」が「信」  
⑥「信」が「信」  
⑦「信」が「信」  
⑧「信」が「信」  
⑨「信」が「信」  
⑩「信」が「信」  
⑪「信」が「信」  
⑫「信」が「信」  
⑬「信」が「信」  
⑭「信」が「信」  
⑮「信」が「信」  
⑯「信」が「信」  
⑰「信」が「信」  
⑱「信」が「信」  
⑲「信」が「信」  
⑳「信」が「信」  
㉑「信」が「信」  
㉒「信」が「信」  
㉓「信」が「信」  
㉔「信」が「信」  
㉕「信」が「信」  
㉖「信」が「信」  
㉗「信」が「信」  
㉘「信」が「信」  
㉙「信」が「信」  
㉚「信」が「信」  
㉛「信」が「信」  
㉜「信」が「信」  
㉝「信」が「信」  
㉞「信」が「信」  
㉟「信」が「信」  
㊱「信」が「信」  
㊲「信」が「信」  
㊳「信」が「信」  
㊴「信」が「信」  
㊵「信」が「信」  
㊶「信」が「信」  
㊷「信」が「信」  
㊸「信」が「信」  
㊹「信」が「信」  
㊺「信」が「信」  
㊻「信」が「信」  
㊼「信」が「信」  
㊽「信」が「信」  
㊾「信」が「信」  
㊿「信」が「信」

## 成

6画  
[戈・2画]  
こほづくり

成成成成成成成成成

成

①「成」が「成」  
②「成」が「成」  
③「成」が「成」  
④「成」が「成」  
⑤「成」が「成」  
⑥「成」が「成」  
⑦「成」が「成」  
⑧「成」が「成」  
⑨「成」が「成」  
⑩「成」が「成」  
⑪「成」が「成」  
⑫「成」が「成」  
⑬「成」が「成」  
⑭「成」が「成」  
⑮「成」が「成」  
⑯「成」が「成」  
⑰「成」が「成」  
⑱「成」が「成」  
⑲「成」が「成」  
⑳「成」が「成」  
㉑「成」が「成」  
㉒「成」が「成」  
㉓「成」が「成」  
㉔「成」が「成」  
㉕「成」が「成」  
㉖「成」が「成」  
㉗「成」が「成」  
㉘「成」が「成」  
㉙「成」が「成」  
㉚「成」が「成」  
㉛「成」が「成」  
㉜「成」が「成」  
㉝「成」が「成」  
㉞「成」が「成」  
㉟「成」が「成」  
㊱「成」が「成」  
㊲「成」が「成」  
㊳「成」が「成」  
㊴「成」が「成」  
㊵「成」が「成」  
㊶「成」が「成」  
㊷「成」が「成」  
㊸「成」が「成」  
㊹「成」が「成」  
㊺「成」が「成」  
㊻「成」が「成」  
㊼「成」が「成」  
㊽「成」が「成」  
㊾「成」が「成」  
㊿「成」が「成」

## 省

9画  
[目・4画]  
め

省省省省省省省省省

省

①「省」が「省」  
②「省」が「省」  
③「省」が「省」  
④「省」が「省」  
⑤「省」が「省」  
⑥「省」が「省」  
⑦「省」が「省」  
⑧「省」が「省」  
⑨「省」が「省」  
⑩「省」が「省」  
⑪「省」が「省」  
⑫「省」が「省」  
⑬「省」が「省」  
⑭「省」が「省」  
⑮「省」が「省」  
⑯「省」が「省」  
⑰「省」が「省」  
⑱「省」が「省」  
⑲「省」が「省」  
⑳「省」が「省」  
㉑「省」が「省」  
㉒「省」が「省」  
㉓「省」が「省」  
㉔「省」が「省」  
㉕「省」が「省」  
㉖「省」が「省」  
㉗「省」が「省」  
㉘「省」が「省」  
㉙「省」が「省」  
㉚「省」が「省」  
㉛「省」が「省」  
㉜「省」が「省」  
㉝「省」が「省」  
㉞「省」が「省」  
㉟「省」が「省」  
㊱「省」が「省」  
㊲「省」が「省」  
㊳「省」が「省」  
㊴「省」が「省」  
㊵「省」が「省」  
㊶「省」が「省」  
㊷「省」が「省」  
㊸「省」が「省」  
㊹「省」が「省」  
㊺「省」が「省」  
㊻「省」が「省」  
㊼「省」が「省」  
㊽「省」が「省」  
㊾「省」が「省」  
㊿「省」が「省」

## 静

14画  
[青・6画]  
動 194

①「静」が「静」  
②「静」が「静」  
③「静」が「静」  
④「静」が「静」  
⑤「静」が「静」  
⑥「静」が「静」  
⑦「静」が「静」  
⑧「静」が「静」  
⑨「静」が「静」  
⑩「静」が「静」  
⑪「静」が「静」  
⑫「静」が「静」  
⑬「静」が「静」  
⑭「静」が「静」  
⑮「静」が「静」  
⑯「静」が「静」  
⑰「静」が「静」  
⑱「静」が「静」  
⑲「静」が「静」  
⑳「静」が「静」  
㉑「静」が「静」  
㉒「静」が「静」  
㉓「静」が「静」  
㉔「静」が「静」  
㉕「静」が「静」  
㉖「静」が「静」  
㉗「静」が「静」  
㉘「静」が「静」  
㉙「静」が「静」  
㉚「静」が「静」  
㉛「静」が「静」  
㉜「静」が「静」  
㉝「静」が「静」  
㉞「静」が「静」  
㉟「静」が「静」  
㊱「静」が「静」  
㊲「静」が「静」  
㊳「静」が「静」  
㊴「静」が「静」  
㊵「静」が「静」  
㊶「静」が「静」  
㊷「静」が「静」  
㊸「静」が「静」  
㊹「静」が「静」  
㊺「静」が「静」  
㊻「静」が「静」  
㊼「静」が「静」  
㊽「静」が「静」  
㊾「静」が「静」  
㊿「静」が「静」

静静静静静静静静

静

①「静」が「静」  
②「静」が「静」  
③「静」が「静」  
④「静」が「静」  
⑤「静」が「静」  
⑥「静」が「静」  
⑦「静」が「静」  
⑧「静」が「静」  
⑨「静」が「静」  
⑩「静」が「静」  
⑪「静」が「静」  
⑫「静」が「静」  
⑬「静」が「静」  
⑭「静」が「静」  
⑮「静」が「静」  
⑯「静」が「静」  
⑰「静」が「静」  
⑱「静」が「静」  
⑲「静」が「静」  
⑳「静」が「静」  
㉑「静」が「静」  
㉒「静」が「静」  
㉓「静」が「静」  
㉔「静」が「静」  
㉕「静」が「静」  
㉖「静」が「静」  
㉗「静」が「静」  
㉘「静」が「静」  
㉙「静」が「静」  
㉚「静」が「静」  
㉛「静」が「静」  
㉜「静」が「静」  
㉝「静」が「静」  
㉞「静」が「静」  
㉟「静」が「静」  
㊱「静」が「静」  
㊲「静」が「静」  
㊳「静」が「静」  
㊴「静」が「静」  
㊵「静」が「静」  
㊶「静」が「静」  
㊷「静」が「静」  
㊸「静」が「静」  
㊹「静」が「静」  
㊺「静」が「静」  
㊻「静」が「静」  
㊼「静」が「静」  
㊽「静」が「静」  
㊾「静」が「静」  
㊿「静」が「静」

## 文字の知しき

●日本の文字

わたしたちは現在、漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字と算用数字(アラビア数字)の、五種類の文字を使っています。これは、世界でもめずらしい例です。

①漢字は、中国で生まれた表意文字(「一字一字が意味を表す字」)で、日本に伝えられたのは、今から千六百年ぐらい前のことだといわれています。

②ひらがな平安時代に、漢字をくずして作られたもので、表音文字(「発音だけを表す字」)です。

③カタカナこれも平安時代に、漢字の一部をとって作られた表音文字です。

④ローマ字ヨーロッパで発達した文字です。



# 席

10画  
[巾・7画]  
はは



席席席席席席席席席席

## 席

**い** ① すわる場所。ざせき。また、会場。  
「席順・座席・出席」  
着席・空席・客席・打席・指定席・末席・欠席  
② 地位。順位。「主席・首席・席次」  
**使** ① 座席のペルトをしめる。ては出席をとりまします。映画館で空席をさがす。客席は満員だ。かぜのため欠席した。  
**な** 産(「庶」をりやくしたものと巾(「ぬ」を組み合わせた字。下にしく、ぬのやむしろのこをあらわす。

# 積

16画  
[禾・11画]  
のきへん



積積積積積積積積積積

## 積

**い** ① 集めてかさねる。また、積みかさねる。「積雪・積雲・積年」  
集積・山積  
② もののかさ。広さ。「体積・容積・面積」  
③ かけ算の答え。せき。  
**使** ① 車に荷物を積みこむ。旅行の費用を毎月積み立てる。長方形の面積を求める。積的な性格の人。  
**な** 禾(「作物」と責(「借金がつもって心がいたむ」を組み合わせた字。

# 折

7画  
[扌・4画]  
てへん



折折折折折折折折折折

## 折

**い** ① おる。おれる。まがる。「骨折・曲折」  
右折  
② わける。「折半」  
③ そのとき。「時折」  
**使** ① 色紙をつるを折る。兄は、スキーで足を骨折した。光は水の中に入ると、屈折する。利益を折半する(「半分に分ける」)。折を見て、おうかがいいたします。  
**な** 折(「折」を二つに切られたようす)と斤(「お」を組み合わせた字。

# 節

13画  
[竹・7画]  
くたけかんむり



節節節節節節節節節節

## 節

**い** ① もののつぎめ。ふし。「節穴・関節・末節」  
② きせつのかわりめ。「節分・節句・季節・時節・当節」  
③ ほどよくする。「節度・節約・節水・調節」  
④ 心をかえなない。「節操・忠節」  
⑤ 文章・歌・楽ふなどの一くぎり。「文節・小節」  
⑥ 歌の調子。  
**使** ① 節くれだった手。雨の季節。お金を節約する。  
**な** 竹(「たけ」と即(「ひざをまげ、食べようとしている人」竹のふしをあらわした字。

# 説

14画  
[言・7画]  
こんへん



説説説説説説説説説説

## 説

**い** ① ときあかす。教えきかす。「説明・説教・説得・解説・演説」  
力説・遊説  
② 意見。主ちよう。「学説・論説」  
③ ものがたり。「説話・伝説・小説」  
**使** ① 政治家が全国を遊説する(「演説して回る」)。先生にわしく解説してもらおう。新しい学説が出る。仏の教えを説く。  
**な** 説(「説」とまちがえないこと。もとの字は「説」。「言(「ことば」と兌(「ききものを体からときはなす」を組み合わせた字。

# 浅

9画  
[シ・6画]  
さんずい



浅浅浅浅浅浅浅浅浅浅

## 浅

**い** ① あさい。「浅瀬」  
② 量・ていどが少ない。また、色がうすい。「浅学・浅手・浅黒い」  
**使** ① この川は浅いのて歩いてわたれる。遠浅の海でしおひがりをする。考えが浅はかだ。あの人は日本に来て、まだ日が浅い。父は、浅黒い顔をしています。  
**な** 浅(「ほこてけずって小さくする」を組み合わせた字。水が少なく、あさいことをいみする。







# 卒

8画  
[十・6画]  
くじゅう



卒卒卒卒卒卒卒卒

卒

① おわる。「卒業・卒園・新卒」② とつぜん。「卒倒」

使用方 兄は来年、中学校を卒業します。姉は平成五年三月卒です。日射病になって卒倒した(急にいしきがなくなつてたおれた)。

「率」とまちがえないこと。

十+卒+卒+卒+卒

う(と)卒(きもの)を組み合わせた字。上着を着て十人ずつ引きつられる兵士をあらわす。

# 孫

10画  
[子・7画]  
こへん



孫孫孫孫孫孫孫孫

孫

子どもの子ども。むすめやむすこの子ども。また、血すじを受けつぐ者。「子孫・子子孫・孫ひ孫」

使用方 おばあさんが、孫のお守りをしています。親せきのうちに、初孫(はつそん)が生まれまして。このざいさんは、子孫の代までのこしたい。

子(こ)と系(けい)がつながった

自分の子どもの子ともであるまごをあらわす。

## 漢字の知しき

● まちがえやすい部首  
「板(木へん)や「続(糸へん)」などの字の部首はすぐわかりますが、字によっては、どの部首に入るのかわかりにくいものもあります。

聞	昼	所	毎	放	寺	来	才	高	和	思	化	麦	炭	相
耳の部	日の部	戸の部	母の部	父の部	寸の部	木の部	手の部	高の部	口の部	心の部	匕の部	麦の部	火の部	目の部
問	名	医	勉	東	売	業	考	意	右	画	死	夏	岩	買
口の部	口の部	口の部	力の部	木の部	士の部	木の部	心(心)の部	心の部	口の部	田の部	夕の部	父の部	山の部	貝の部

# 束

7画  
[木・3画]  
くき



束束束束束束束束

束

①ひとまとめてしてしる。また、まとめてしばったもの。「花束・札束」②動けないようにする。また、とりきめ。「束縛・約束」③たばねたものを数えることば。「一束・三束」

使用方 古新聞を束にする。きれいな花束をもらう。友だちとの約束を守る。人の自由を束縛するな。

束(木)と束(糸)を組み合わせてきた字。

# 側

11画  
[イ・9画]  
くにんべん



側側側側側側側側

側

①物の一面。いっぽう。側面・左側・両側・片側・裏側②そば。かたわら。「側近」

使用方 この駅のかいだんは、左側通行になっている。道の両側に、高いビルが立ちならんでいる。へいの外側で話し声がする。この道路は、工事で片側通行だ。側近(そば)に身近につきした(う)に相談する。

イ(イ)と側(側)を組み合わせた字。

# 続

13画  
[糸・7画]  
いとへん



続続続続続続続続

続

つづいてる。「続出・続発・続行・続編・持続・永続・相続・存続・勤続・連続」

使用方 朝から雨がふり続いてる。ご飯を食べたら、物の続きを読もう。校門から生徒が続々と出てくる。このまま試合を続行します。

もとの字は「續」。糸(いと)と責(せ)を組み合わせてきた字。糸でつなぎ、つぎつぎにつづくことをあらわす。



なり  
 たち

単

単

単

単

まるい  
 うちわ

のような「はたき」の形からてきた  
 字。

になるひとまとまり。「単位・単  
語・單元」たんげん**③**こみいつていない。  
「単純・單調・簡單」かんたん  
「單純・單調・簡單」  
**使い方**  
えたお店。みせ父は、ちち單身だんしんふにんて  
北海道へ行った。ほっかいどう  
てください。

いぬ ① 一つ。「単価」  
たんしん たんすう たんせん たんどく  
單身・単数・単線・単独  
② ものごとのきじゆん

単

單 單 單 單 單 單 單


單

9 画

[ツ・6 画]

<つ>

複  
344



なり  
たち

置

直

（＝あみ）と

（＝まつ）す

ぐに見る）を組み合わせた字。鳥をとるあみを、まっすぐに立てておくことをあらわす。

使う<sup>つかう</sup>方<sup>ほう</sup>    荷物<sup>にもつ</sup>をゆかに置く<sup>おく</sup>。  
 かさは電車<sup>でんしゃ</sup>の中に置き忘<sup>お</sup>れた。  
 床<sup>こゝろ</sup>の間<sup>ま</sup>にかざってある置物<sup>おきもの</sup>。  
 校<sup>こう</sup>は公<sup>こう</sup>園<sup>えん</sup>の南<sup>みなみ</sup>に位置<sup>いち</sup>しています。  
 放<sup>ほう</sup>置<sup>ち</sup>自<sup>じ</sup>転<sup>てん</sup>車<sup>しゃ</sup>をとりのぞく。  
 校<sup>こう</sup>の中<sup>なか</sup>に公<sup>こう</sup>衆<sup>しゅう</sup>電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>を設<sup>せ</sup>置<sup>ち</sup>する。  
 学<sup>がく</sup>    学<sup>がく</sup>

いゝ すえつける。お  
く。「位置・安置・配置・  
処置・放置・設置」

置

置置置置置置

置  
お ち  
く

13画  
[ 田・8画 ]  
〈あみがしら〉



間だ。▼けんかの仲裁に入る。  
**なり** **たち** **イ**(＝人)と**中**(＝なか)を組  
 合わせて、人(ひと)と人(ひと)のあいだ  
 がらをあらわした字。「中」は「チ  
 ユウ」という音もあらわす。

だから。なか。「仲間・仲よし・仲裁」

**【使い方】**

▼父は、知り合いの仲介\*て車を買った。▼村上さんと動物も、みんな地球上の同じ仲間

いあ  
① なか。なかつ  
なかがい。ちのうしゅう。ちゆう  
ぎ。「仲買・仲秋・仲  
かい  
介」② 人と人とのあい  
ひと ひと

仲

仲仲仲仲仲

仲

なにか

\*チュウ

6画

[イ・4画]

〈にんべん〉




**おび**  
おびる・おび

おん  
タイ

帯

10画  
〔巾・7画〕  
〈はば〉



帶帶帶帶帶帶帶

き、こしのあたりにま  
いてしめる細長い布。  
ほそながぬの

① 着物きものを着ると  
帯おビ


また、それにいた布。おび。「帯  
どめ・包帯・眼帯」②身につける。  
もつ。「けい・帯・世帯」③あたり。  
場所。「地帯・熱帯」  
使い方  
▼帯をしめる。▼けい・帯  
電話を使う。▼重い任務を帯びて  
出張する。▼熱帯魚が泳ぐ。

なり なち 帯ー帯(帯) たけ (＝ひも) とれ をものに通 く した形と かたち (＝たれたぬの) を組 あ み合わせた字。

くん ぶん  
タイ

隊

12画  
〔㇀・9画〕  
〈こぎとへん〉



隊 隊 隊 隊 隊 隊


いぬ 何人かの集まり。まともり。「隊列・隊長・隊員・隊商・楽

隊しんたい・縦隊しんたい・横隊よこたい・兵隊へいたい・軍隊ぐんたい・部隊ぶたい  
 隊たい **使い方** かた 隊たい列れつを組くんて行進こうしんする  
 楽隊がくたいが行進曲こうしんきょくをえんそうしな  
 がら通とおつて行く。 飛行機ひこうきが五機ごき  
 編隊へんだいをくんで飛ぶ。 飛とそうさく隊たい  
 の救助活動きうすうくわつどう。  
 もとの字は「隊」。 ㇶ (ㇷもり

あげた土かみと家うち（＝ふとって重  
いふた）て重おもい土つちの山やまをあらわす。  
のちに、人ひとの集まりのいみになっ  
た。

達

12画  
[文・9画]  
くしんによう



達達達達達達達

いぬ ① とどく。いた  
 とう たつ はい たつ そく たつ  
 る。「到達・配達・速達」  
 ② つたえる。「伝達・通達」

達 つきてない  
 達

**「達」**③すぐれる。「達人・達者・達人・達人」  
びつはたち  
**筆・発達・上達**④なしとげる。  
たっせい  
「達成」

**「便」方**  
はいほう  
▼郵便屋さんが、手紙を  
ゆうびんや てがみを  
配達する。▼かれは剣道<sup>けんどう</sup>の達人<sup>たくじん</sup>  
まいにち  
です。▼毎日こつこつがんばるの  
じょうたつ  
が、上達の近道です。

なり  
たち

洋一達

達 (＝すすむ) と 人 (＝ひと)

ゆとりがある) と 洋一 (＝ひつじ) を組み合わせた字。







## 徒

10画  
[イ・7画]  
くぎょうにんべん

徒徒徒徒徒徒徒

徒

①あるく。「徒歩・徒競走」②むだ。「徒労」③何ももたない。「徒手体操」④てし。なかま。

「生徒・信徒・徒弟制度」

【使い方】▼学校まで徒歩で十五分です。▼今までの苦心は徒労（むだなほねおり）に終わった。▼母は昔、徒身体操の選手でした。▼中学生になったら生徒手帳をもらいます。

【なり】イ（「行く」と土（「つち」と土（「あし」）を組み合わせ、陸地をあるくことをあらわした字。

## 努

7画  
[カ・5画]  
くちから

努努努努努努努努努

努

①カいっぱいががんばる。つとめる。はげむ。「努力」

【使い方】▼努めて家の手伝いをする。▼みんなと仲良くするように努める。▼努力したかいがあつて、成績が上がった。▼前向きに（「積極的」に）努力する。

【なり】奴（「どれい」と力（「ちから」）を組み合わせた字。ねばり強く力をつくしてがんばることをあらわす。

## 灯

6画  
[火・2画]  
くひへん

灯灯灯灯灯灯灯

灯

①としび。あかり。「灯火・灯油・灯台・灯ろう・灯明・電灯・走馬灯・街灯・消灯」

【使い方】▼みさきの先に、白い灯台が見える。▼灯油がきれたので買いに行った。▼仏だんに灯明をあげる。▼家々の電灯がともる。▼病院の消灯時間がせまってきた。

【なり】火（「ひ」と丁（「て」とめておく）を組み合わせた字。いつも同じところにおいておく、あかりのことをあらわす。

## 的

8画  
[白・3画]  
くしろ

的的的的的的的的的

的

①めあて。もくひよう。「的中・的確・目的」②ほかのことはの下につけて、「…のよう」…ふう」のいみを表す。「私的・公的・劇的・民主的・形式的・自動的・封建的」

【使い方】▼矢はみごとに的のまん中にあたった。▼的はずれな意見ねらいが的中する。▼ドアが自動的に開く。▼形式的なあいさつ。

【なり】白（「しろ」と夕（「いふぶ」）を組み合わせた字。とりだす）を組み合わせた字。

## 典

8画  
[ハ・6画]  
くはち

典典典典典典典典典

典

①本。事物。「辞典・百科事典・仏典・古典・教典・聖典」②きそく。手本。「典型」③ぎしき。式典・祭典

【使い方】▼ことはの意味を、国語辞典で調べる。▼母は古典文学をよく読む。▼姉は典型的（「その特ちようをよく表しているようす」）な文学少女です。

【なり】典一典（「典」字を書いた竹のふだ）と八（「つくえ」を組み合わせて、本がおかれたつくえをあらわす。

## 伝

6画  
[イ・4画]  
くいにべん

伝伝伝伝伝伝伝伝伝

伝

①つたえる。つたわる。「伝言・伝令・伝導・伝来・伝統・遺伝・宣伝」②いいつたえ。また、人の一生をつたえる文章。「伝説・伝承・伝記」

【使い方】▼母の伝言を父に伝える。▼駅伝のランナーが目の前を走り去った。▼この地方に残る伝説。「ヘレン・ケラー」伝を読んでい

【なり】もとの字は「傳」。イ（「ひと」と専（「ころがる」）を組み合わせた字。







念

8画  
[心・4画]  
〈こころ〉

念念念念念念念念

念

① 思う。思い。  
「念願・念頭・断念・雑念・専念・無念・信念・残念」  
② 心にとなえる。「念仏」  
③ 心をくばる。たしかめる。「念入り・入念」

④ 兄は念願がかなって、大学に入学した。⑤ 自分の信念をつらぬく。⑥ 家族で記念写真をとる。⑦ 一心に念仏をとなえる。⑧ 準備体操を入念に行う。

今(＝中にふくむ)と心(＝このころ)を組み合わせて、心の考えをあらわした字。

博

12画  
[十・10画]  
〈じゅう〉

博博博博博博博博

博

ひろい。ひろまる。「博学・博愛・博士(はく・せき)・博識・博物館・博覧会」

① 先生は博学な(＝広い)ちしきを持った方だ。② おじは医学博士(＝医学の学位を持っている人)だ。③ たかし君は、昆虫博士(＝こん虫にくわしい人)と言われている。④ 映画が好評を博す(＝ひょうばんがよい)。

⑤ 十(＝あつめる)と専(＝たい)らにひろがる)を組み合わせた字。

敗

11画  
[攴・7画]  
〈はく・にょう〉

敗敗敗敗敗敗敗敗

敗

① まける。「敗北・敗戦・敗軍・敗者・敗因・勝敗・全敗」  
② うまいかない。「失敗」

③ 決勝戦でおいしくも敗れた。④ チームは二回戦で敗退してしまつた。⑤ 試合は、十対〇と完敗だつた。⑥ 勝敗にこだわらず、堂々とたたかう。⑦ 失敗は成功のもと。

貝(＝二つにわたった)と攴(＝動詞の記号)を組み合わせた字。二つにわたってだめになることをあらわす。

飯

12画  
[食・4画]  
〈しょく・へん〉

飯飯飯飯飯飯飯飯

飯

ごはん。また、食事。「飯ごう・麦飯・赤飯・朝飯(あさめし)」

① キャンプで飯ごうを使い、さんをした。② にぎり飯をほおばる。③ 初めてご飯をたいた。④ 赤飯をたいてお祝した。⑤ そんなことは朝飯前(＝かんたんなこと)だ。⑥ 夕飯まで帰ります。

⑦ 食(＝食べ物)と反(＝はらば)らになる)を組み合わせた字。米がばらばらのじょうたいにえした食べ物のことで、ごはんをあらわす。

梅

10画  
[木・6画]  
〈き・へん〉

梅梅梅梅梅梅梅梅

梅

① うめ。また、うめの実。「梅林・紅梅・白梅・梅酒・梅干し・梅肉」  
② うめの実のなるころ。「梅雨(はる・い・ふ)・入梅」

③ 庭の梅の花がほころんだ。④ おにぎりの中に梅干しが入っていた。⑤ 梅林に梅見に行った。⑥ 梅雨前線が本州にすすわっている。

木(＝き)と毎(＝つぎつぎと)子(＝うむ母親)を組み合わせた字。たくさん実のなるうめの木をあらわす。

飛

9画  
[飛・0画]  
〈とぶ〉

飛飛飛飛飛飛飛飛

飛

空をゆく。「飛球・飛行機・飛行船・飛躍・飛び火・飛び石」

① 大空を鳥が飛んでいる。② シヤボン玉を飛ばす。③ 飛行機のパイロットになりたい。④ 飛び火して、山火事(やまかじ)がどんどん大きくなる。⑤ 話が飛躍(＝じゅんじよ)をふまず、はなれたところに飛ぶこと(＝しすぎる)。

⑥ 飛(＝と)と飛(＝と)に開いてとんでいるすがたからきた字。











## 便

9画  
[イ・7画]  
くんにべん

便便便便便便便

便

① つごうがよい。べんり。「便利・便乗・不便・簡便」② たよ

り。また、たよりや人・物を運ぶ手段。「便せん・郵便・航空便・宅配便」③ つうじ。べん。「便所・便通・大便・小便」

【便】この辺は商店街に近いので、買い物に便利です。転校した友だちから便りがといた。病院で検便をした。

【便】「使」とまちがえないこと。イ(＝人)と更(＝ぴんとかたはる)を組み合わせた字。

## 包

5画  
[ウ・3画]  
くつつみがま

包包包包包

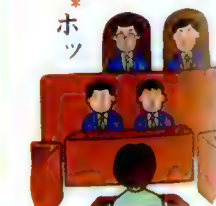
包

くるむ。まわりをかこむ。「包囲・包装・包帯・内包」

【包】箱を包装紙で包む。ふろしき包みをさげたおばさん。いなかから小包がといた。一つの間に、敵に包囲された。プレゼントを包装する。足に包帯をまく。よくきれる包丁。「小包」は「み」を送らない。

【包】「小」は「み」を送らない。つかまるようにして赤んぼうが入っている形からできた字。

## 法

8画  
[シ・5画]  
くさんずい

法法法法法法法

法

① おきて。きまり。「法律・法則・法令・法規・法案・法度・憲法・作法」② やりかた。「方法・用法・製作法」③ ほとけの道。「法律」

【法】国会で法案が成立した。解決の方法をさがす。ブラウスの寸法をはかる。母は親せきの法事で出かけた。

【法】もとの字は「灋」。シ(＝水)と鷹(＝めずらしい動物)と去(＝ひっこめる)を組み合わせた字。

## 別

7画  
[リ・5画]  
りっとう

別別別別別別別

別

① わかれる。「別居・送別・死別」② ほかの。ちがう。「別人・別名・別便・別室・別世界・別冊」③ くべつする。「区別・特別・識別」

【別】転校する友だちの送別会を開いた。日に焼けて別人のように黒くなった。新年号の別冊ふろく。特別変わったことはありません。色のちがいを識別する。

## 辺

5画  
[エ・2画]  
しんにょう

辺辺辺辺辺

辺

① 図形を形づくっている直線。「一辺・底辺」② ほとり。あたり。そば。「海辺・岸辺・周辺・身辺・近辺」③ かたいなか。「辺境・辺地」

【辺】三角形の二辺の和は他の一辺より大きい。頂点から底辺に垂直な直線を引く。辺の町。辺りを見回す。辺境の地(＝人里はなれた所)。

## 変

9画  
[夂・6画]  
くすいじょう

変変変変変変変

変

① ふつうでない。「変人・変則・変死」② ちがったものになる。かわる。また、かえる。「変化・変形・変色・変転・変動・変更」③ ふつうでないできこと。「政変・事変・異変」

【変】体の具合が変だ。信号が赤から青に変わる。姉はかみ型を変えた。山の上は気温の変化がはげしい。















## 冷

7画  
〔・5画〕  
〔にすい〕熱 267  
暖 395

つめたい・ひえる・ひや・ひやす・ひやかす・さめる・さます

冷 冷 冷 冷 冷 冷 冷 冷

冷

① ひえる。つめたい。「冷害・冷氣・冷水・冷凍・冷房・冷蔵」

② 思いやりがないこと。また、落ち着いていないこと。「冷笑・冷淡・冷静」

③ けさはひどく冷えこんだ。熱いお湯を冷ます。外の

冷気にふれる。冷房のきいた部屋。もう少し冷静に話し合おう。

④ みんなに冷やかされて、赤くなった。冷たい水を飲む。

⑤ (「こおり」と令(「清くすみきる」)を組み合わせた字。

⑥ (「こおり」と令(「清くすみきる」)を組み合わせた字。

## 例

8画  
〔イ・6画〕  
〔にんべん〕

例 例 例 例 例 例 例 例

例

① あるものごとにたことがら。たとえ。れい。「例文・例外・例題・前例・用例」

② ふだんの。いつも。例年

③ 例え。こんなとき、きみならどうする。例文を読ん

で、問いに答えなさい。何事にも例外はある。あまり前例のな

いてきこと。

④ (「人」と列(「きりさいてならべる」)を組み合わせた字。

⑤ 同じような人やものを、いくつも

ならべることをあらわす。

## 歴

14画  
〔止・10画〕  
〔とまる〕

歴 歴 歴 歴 歴 歴 歴 歴

歴

① とおりすぎる。す。歴。「歴史・歴代・歴任・歴戦・学歴・来歴・経歴・職歴」

② はっきりしている。「歴然」

③ 歴史の本を読む。歴戦の(「戦いの経験を積んだ」)勇士

④ 歴然とした(「はっきりとした」)しょうがある。

⑤ (「歴」(「やね」と止(「足」)を組み合わせて、

足で歩いて、作物をつぎつぎと取り入れることをあらわした字。

## 輪

15画  
〔車・8画〕  
〔くるまへん〕

車 車 輪 輪 輪 輪 輪 輪

輪

① 車のわ。また、わの形をしたもの。「車輪・五輪・年輪」

② 物。のまわり。「輪かく」

③ 順番にする。「輪唱・輪作・輪読」

④ 花を数えることば。りん。「梅一輪」

⑤ 指でOKの印の輪をつくる。弟が三輪車で遊んでいる。

⑥ 大根を輪切りにする。用紙に顔の輪かくをかく。

⑦ 一輪。ざしに花をかざった。

⑧ 「輪」とまちがえないこと。車(「くるま」と命(「じゅんじょよくならぶ」)からてきた。

## 類

18画  
〔頁・9画〕  
〔おおがひ〕

米 米 米 米 米 米 米 米

類

① 似ている。「類似・類型・類推・類句・類語・類人猿」

② なかま。「種類・親類・人類・鳥類・衣類・分類」

③ かかわる。「類焼」

④ 類を見ない不思議なできごと。必要書類をととのえる。

⑤ 親類の人が集まる。類焼をまぬがれた。

⑥ もとの字は「類」。米(「多く」)の植物の代表と犬(「多く」)の動物の代表と頁(「あたま」)を組み合わせて、たくさんのもをくわけすることをあらわす。

## 令

5画  
〔ハ・3画〕  
〔ひとやね〕

令 令 令 令 令 令 令 令

令

① いいつけ。「令状・命令・指令・辞令」

② きまり。「条令・法令」

③ あることばの上につけて、そんけいの意味を表すことば。「令嬢・令息」

④ よい。りっぱな「令名」

⑤ 大声で号令をかける。法令にしたがう。ご令息(「息子さん」)はお元気ですか。

⑥ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑦ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑧ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑨ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑩ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑪ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑫ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑬ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑭ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑮ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑯ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑰ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑱ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑲ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

⑳ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉑ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉒ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉓ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉔ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉕ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉖ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉗ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉘ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉙ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉚ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉛ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉜ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)

㉝ (「令」(「おお」)の下にある) A(「令」) B(「令」) C(「令」) D(「令」) E(「令」) F(「令」) G(「令」) H(「令」) I(「令」) J(「令」) K(「令」) L(「令」) M(「令」) N(「令」) O(「令」) P(「令」) Q(「令」) R(「令」) S(「令」) T(「令」) U(「令」) V(「令」) W(「令」) X(「令」) Y(「令」) Z(「令」)



## 連

10画  
[文・7画]  
〈しんにょう〉

連  
レン

つらなる・つらねる・つれる

連連連連連連連連連連

① ならびつづ

く。つらなる。「連結」

連山・連続・連発・連名・

連想・連絡② つれていく。また、

つれ。なから。「連行・連中・連

盟」

連  
れん

遠くに高い山が連なっ

ている。通りにそって商店が

のきを連ねている。連日三十

度をこす暑さだ。今度の連休

には、家族で旅行します。

車(「くるま」と「す」を

を組み合わせて、車が何台も

つらなつてすすむことをあらわす。

連

## 四年生の漢字の注意点①

書き順でまちがえやすい漢字。

以「レ」を以

臣「厂」戸臣臣

希「マ」マ希希

飛「フ」フ飛飛

必「ノ」必必

成「厂」成成成

典「曲」典典典

字体で気をつけておく漢字には、

次のものがあります。

「連」の「辶」は「幸」とならな

いように注意しましょう。

「録」の右側は「録」の右側と同じ。

下が「水」とならないように。

「初」の左側は「ネ」(ころもへん)。

「福」の「祝」の左側とはちがいます。

「残」の「義」の「義」の右側は

「義」の「義」の「義」として一画

わすれることが多いので注意しま

しょう。

## 老

6画  
[夕・2画]  
おいかんじり 若 378

老  
ろう

おいこる・ふける

老老老老老老老老老老

① としをとる。

老人・老体・老年・老

後・老眼② 古くなる。

「老化」③ 経験を積む。「老練・老

熟・老巧」

使いやすい 老いた祖母を気づかう

バスで、老人に席をゆずった。

老後(「年を取ってから」)の生活。

老化した建物をとりこわした。

老練な(「経験を積んでなれて

いる)職人。

なり 老 年よりがこ

つえをつく形からてきた字。

## 勞

7画  
[力・5画]  
くちから

勞  
ろう

勞勞勞勞勞勞勞勞勞勞

① ほねをおって

はたらく。つとめる。

「労働・労力・労役・苦

勞・勤勞・功勞」② つかれる。また、

つかれ。「過勞・疲勞」③ いたわる。

ねぎらう。「慰勞」

使いやすい 苦勞して研究を完成

させた。母が過勞(「働きすぎ

てつかれること)でたおれた。町

内会の慰勞會(「ほねおりを

ねぎらう会)があった。

なり 勞 火を

はげしくもやすことと力(「

ちから)を組み合わせた字。

## 録

16画  
[金・8画]  
くねへん

録  
ろく

録録録録録録録録録録

書きしるす。う

つしとる。また、そう

したもの。「録音・録

画・記録・登録・収録・目録・付録・

議事録」

使いやすい 運動会のようにすをビデ

オに録画する。発表の内容を

記録する。母が住所録を見て、

手紙のあて名を書いている。

なり 録 金(「銅」と

る)を組み合わせた字。青銅でつ

くったうつわの表面をけずって

文字をかくことをあらわす。

## 四年生の漢字の注意点②

「未」と「末」は、たいへんて

います。「未」は「未来」のように、

「まだしない」という意味、「末」

は「週末・年末」のように、終わ

りとか末の意味。

「周(周囲)」と「週」(「令(命令)」と

「冷」(「票(投票)」と「標(目標)」

「列」と「例(例文)」(「付(付近)」と

「府(京都府)」など、似た漢字

の使い方に注意しましょう。

「量」の訓は、「はかる」です。

「はかる」の訓のある漢字にはほ

かに、「計・図・測」があります。

「図」は「どうしたらよいかと考

えくふうすること」、「計」は「物

を数えること」、「測」は「長さ・

広さなどをはかること」、「量」は

「目方やりようをはかること」の

意味で使います。「目方を量る。

ますで量る。」



# 五年生の漢字学習法

五年生では、一〜五年で習う漢字を読むこと、一〜四年の漢字を文中で正しく使えるようにすること、五年の新出漢字百八十五字を少しずつ書くようにすることがあてです。書くときは、送りがなや仮名づかいにも気をつけるようにします。

漢字の左側は「へん」、右側は「つくり」とよばれます。例えば、「列」の右側の「リ」は、「りっとう」という名前のついているつくりです。

「りっとう」のつく漢字を集めてみましょう。

「刊・判・制・則・列」などがあります。それぞれの漢字の意味を考えてみましょう。「刊」は「干」が「カン」という音読みを表し、「刀で版木

をほる」という意味から、書物を出版する意味で使われます。「刊行・新刊・月刊・週刊・朝刊」。

「判」は「半」が「ハン」という音を表し、「刀で半分にする」ということから、「区別する・見分ける・さばく」などの意味で使われます。「判決・判定・判明」。

「制」は左側の「制」がえだの出た木を表し、それを刀で切り、形を整えるという意味から、「つくる・おさえる・とり決める」などの意味で使われます。「制作・制止・制度」。

「則」は、昔、木や竹に刀できざみをつけてものさしにしたところから「決まり」の意味で使われます。

「規則・校則・原則・法則・反則」。「列」は、骨を刀で切り分けるということから、「わかれる・はなれる」の意味として使われます。「区別・特別・送別」。

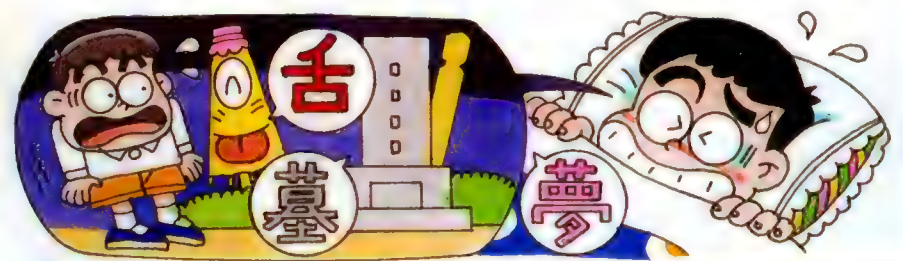
このように「りっとう」の意味を知ることで、その漢字のできかたや意味を理解することができます。六年生で「判・制・判・割」などの「りっとう」のつく漢字を学習しますが、その意味をおおよそ考えることができるでしょう。

また、「復・複」の右側は共通しています。そして、この二つには「フク」という音が共通しています。それは右側の「復」が音を表すからです。また、「職・織・識」という、同じ部分を持ち、似た音をもった字があります。このように、漢字には音を表す部分をもったものもあることを知っておきましょう。



# 五年生で習う字

略 351	墓 345	備 341	銅 336	率 331	接 326	状 321	識 316	在 312	効 307	句 302	眼 297	可 293	圧 288
留 351	報 346	俵 341	導 336	損 331	設 326	常 322	質 317	財 312	厚 307	群 302	基 298	仮 293	移 288
領 351	豊 346	評 341	徳 336	退 331	舌 327	情 322	舎 317	罪 312	耕 308	経 303	寄 298	価 293	因 288
	防 346	貧 342	独 337	貸 332	絶 327	織 322	謝 317	雑 313	鉦 308	潔 303	規 298	河 294	永 289
	貿 347	布 342	任 337	態 332	銭 327	職 323	授 318	酸 313	構 308	件 303	技 299	過 294	営 289
	暴 347	婦 342	燃 337	団 332	祖 328	制 323	修 318	賛 313	興 309	券 304	義 299	賀 294	衛 289
	務 347	富 343	能 338	断 333	素 328	性 323	述 318	支 314	講 309	険 304	逆 299	快 295	易 290
	夢 348	武 343	破 338	築 333	総 328	政 324	術 319	志 314	混 309	検 304	久 300	解 295	益 290
	迷 348	復 343	犯 338	張 333	造 329	勢 324	準 319	枝 314	査 310	限 305	旧 300	格 295	液 290
	綿 348	複 344	判 339	提 334	像 329	精 324	序 320	師 315	再 310	現 305	居 300	確 296	演 291
	輸 349	仏 344	版 339	程 334	増 329	製 325	招 320	資 315	災 310	減 305	許 301	額 296	応 291
	余 349	編 344	比 340	適 335	則 330	税 325	承 320	飼 315	妻 311	故 306	境 301	刊 296	往 291
	預 349	弁 345	肥 340	敵 335	測 330	責 325	証 321	示 316	採 311	個 306	均 301	幹 297	桜 292
	容 350	保 345	非 340	統 335	属 330	績 326	条 321	似 316	際 311	護 307	禁 302	慣 297	恩 292









# 易

8画

[日・4画]

難  
400



易 易 易 易 易 易 易 易 易 易

易

【い】 ① たやすい。てがるだ。「容易・安易」② かわる。とりかえる。「貿易・交易」③ うらない。「易者・易学」

【使】 今度のテストは、わりあい易しかった。▼登山を安易に考えてはいけない。▼この問題は、容易には解けない。▼わが国の貿易額は、年々のびている。▼いつも同じ場所に易者（うらないをする人）が出て

【場】 「場」や「陽」の右がわは「易」

【易】 「易」ではない。易（易）と（易）を組み合わせた字。

# 益

10画

[皿・5画]

害  
222



益 益 益 益 益 益 益 益 益 益

益

【い】 ① ためになるよ。益虫・益鳥・有益。無益・公益② もうけ。とく。利益・損益・純益・収益

【使】 世の中の益になる研究をする。▼鳥には、つばめのような益鳥もいる。▼先生から有益な話を聞いた。▼利益の一部を寄付する。▼無益なあらそいはやめよう。▼仏さまの御利益がありますように。▼バザーの収益は十万円にのびた。

【益】 横にしたものと皿（皿）を組み合わせた字。水があふれるようす。

# 液

11画

[シ・8画]



液 液 液 液 液 液 液 液 液 液

液

【い】 水のようなもの。液体・液化・液状・血液・胃液・注射液

【使】 ▼液体の洗いを洗って、セーターを洗った。▼金属にも、水銀のように液状のものがある。▼わたしの血液型はA型です。▼胃液や腸液を消化液という。▼かぶと虫やくわがた虫は、くぬぎの樹液が好きだ。▼母が乳液をつけている。【液】 「液体」は、「気体・固体」と組み

【液】 「液体」は、「気体・固体」と組み合わせてきた字。水が一定の間かくをいてたれること。

# 演

14画

[シ・11画]

さんすい



演 演 演 演 演 演 演 演 演 演

演

【い】 ① のべる。「演説・演題・講演」② おこなう。する。「演技・演奏・演劇・演出・実演・上演・公演」③

【使】 ▼立候補者の演説に耳をかつむける。▼げきて、おひめ様の役を演じた。▼体そののみごとな演技。▼ピアノを演奏する。▼手打ちそばの実演を見た。▼開演は夕方六時です。▼本番の前に、予行演習をし

【演】 シ（水）と寅（ま）と組み合わせた字。長くひきのばすことをあらわす。

# 応

7画

[心・3画]

こころ



応 応 応 応 応 応 応 応 応 応

応

【い】 ① はたらきかけにこたえる。うけいれる。「応答・応戦・応急・応接」② 対応・応募・反応・対応・呼応③ ぶさ

【使】 ▼味方のチームを応援する。▼お客さんに応対する。▼むずかしい応用問題を解く。【参】 「反応」「順応」などは、「ノウ」と読む。

【応】 もとの字は「應」。戸（お）とイ（い）と心（こ）と組み合わせた字。人がむねに鳥をだくことをあらわす。應は、それに心をつけて、人のよびかけを心で受けとめるいみをあらわす。

# 往

8画

[イ・5画]

復 343



往 往 往 往 往 往 往 往 往 往

往

【い】 ① 行く。「往復・往來・往路・往診」② むかし。「往時・往年」③ とき。たまに。「往往」

【使】 ▼自転車で、公園と家を往復した。▼この通りは、車の往來がはげしい。▼往路（行くきの道）は、追い風がふくマラソンコース。▼往年（むかし）の名選手。▼そういうまちがいは往々にしてある。【往】 「往」とにている

【往】 シ（水）と夜（よ）と間（かん）と組み合わせた字。水が一定の間かくをいてたれること。



## 可

5画  
[口・2画]  
くち



可 可 可 可 可

① よいとみとめる。  
「可決・可否・認可・許可」  
② できる。「可能・可燃」  
性・不可能

使用方 国会で法案が可決された。

そのこの可否は列として、ともかくやってみるべきだ。兄は、自転車通学することをようやく許可された。▼実現の可能性について考えてみよう。

可 可 可 可 可

「可」(口)を組み合わせた字。のどになにかがつかえることをあらわし、いろいろあったすえに、どうにかみとめるといういみになった。

## 桜

10画  
[木・6画]  
きへん



桜 桜 桜 桜 桜

① 植物の、さくら。  
「桜色・桜湯・桜貝・桜月夜・桜前線・山桜・夜桜・葉桜・観桜」

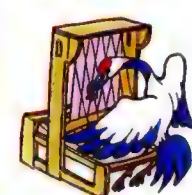
使用方 校庭の桜が満開になった。

親せきの結婚式で、桜湯(塩づけの桜の花を入れた飲み物)をこちそうになった。▼母は桜もちが好きです。▼山のあちらこちらに、山桜が見える。▼首相主催の観桜会(桜の花を楽しむ会が開かれた。もとの字は「櫻」。木(き)と嬰(女が首にさげる貝のかざり。とりまくといういみをふくむ)を組み合わせた字。花が木全体をとりまいてさく木のこと。

桜 桜 桜 桜 桜

## 恩

10画  
[心・6画]  
こころ



恩 恩 恩 恩 恩

① めぐみ。なげき。  
「恩人・恩師・恩情・恩義・恩愛・恩給・恩恵・報恩・大恩・謝恩会」

使用方 人から受けた恩をわすれないように。

命を助けられたつるが恩返しに来る民話を読んだ。▼かのじよはわたしの命の恩人です。▼恩師を囲んで、同級会が開かれた。▼人類は自然の恩恵(めぐみ)を受けている。▼姉は、卒業式のあとの謝恩会に出席した。

恩 恩 恩 恩 恩

「恩」とまがええないこと。  
因(めぐむ)と心(こころ)を組み合わせた字。人から受けたありがたい気持ちであらわす。

## 仮

6画  
[イ・4画]  
にんへん



仮 仮 仮 仮 仮

① 一時のまにあわせ。かり。「仮設・仮定・仮説・仮名」② にせ。いつわり。「仮病・仮装・仮面」

使用方 仮に、歩いて行くとすると、どのくらいかかるの?

▼授業中に火事が起きたと仮定して、避難訓練をする。▼仮説を立てて実験する。▼かれは、仮病をつかって学校を休んだ。▼運動会の仮装行列に参加する。

もとの字は「假」。イ(人)と

「假」(おおいをかぶる)を組み合わせてできた字。おめんをかぶって、うわべをとりつくりうようすをあらわした字。

## 漢字の知識

● 形が変わる部首  
部首の中には、漢字の中の位置によって、形が変わるものがあります。

人(ひと)	刀(かたな)	心(こころ)	水(みず)	火(ひ)	肉(にく)
人(ひと) …… 人	刀(かたな) …… 切	心(こころ) …… 志	水(みず) …… 氷	火(ひ) …… 灰	肉(にく) …… 肥
イ(にんべん) …… 仏	リ(りつどう) …… 判	リ(りつしんべん) …… 情	ミ(さんずい) …… 海	火(ひへん) …… 灯	月(にくづき) …… 肥
ハ(ひとやね) …… 今	リ(りつどう) …… 判	心(こころ) …… 志	水(みず) …… 氷	火(ひへん) …… 灯	月(にくづき) …… 肥
ハ(ひとやね) …… 今	リ(りつどう) …… 判	心(こころ) …… 志	水(みず) …… 氷	火(ひへん) …… 灯	月(にくづき) …… 肥
ハ(ひとやね) …… 今	リ(りつどう) …… 判	心(こころ) …… 志	水(みず) …… 氷	火(ひへん) …… 灯	月(にくづき) …… 肥

## 価

8画  
[イ・6画]  
にんへん



価 価 価 価 価

① ねだん。「価格・物価・特価・代価・高価」② ねうち。「価値・真価・評価・声価」

使用方 商品の価格が安定する。

▼物価が上昇する。▼売れ残りの品物を定価の三割引きで売る。▼この本は、一度は読むに値します。▼この作品は、海外からも高い評価をうけた。▼チーズや牛乳などの乳製品は栄養価が高い。

もとの字は「價」。イ(人)と

「價」(おおいをかぶる)を組み合わせてできた字。商人がつけたねだんをあらわす。



# 河

8画  
[シ・5画]  
さんずい



おんカ  
くわ

河 河 河 河 河 河 河 河 河 河

川・河口・山河・大河・運河・氷河・銀河・河原

使い方 ちちり 河(「天の川」が美しくかがやく「河」(「かわ」)は、「川」よりもずっと大きな場合に使う

「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う  
「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う

# 過

12画  
[ニ・9画]  
しんにょう



おんカ  
すきる・すこす・あやまつ・あやまち

過 過 過 過 過 過 過 過 過 過

過 過 過 過 過 過 過 過 過 過

使い方 ちちり 過(「自由」に動く関節の形)と「過」(「進む」)を組み合わせてきた字。ゆとりがあつてらくらくと通ることをあらわす。

「過(か)」は、「過」よりもずっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う  
「過(か)」は、「過」よりもっと大きな場合に使う

# 賀

12画  
[貝・5画]  
こがい



おんカ  
か

賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀

賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀 賀

使い方 ちちり 賀(「上」にのせる)と貝(「お金」や「品物」)を組み合わせた字。おくり物を高くつみ上げることから物をおくつていいうこと。

「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う  
「賀(が)」は、「賀」よりもっと大きな場合に使う

# 快

7画  
[十・4画]  
りっしん



おんカ  
かい

快 快 快 快 快 快 快 快 快 快

快 快 快 快 快 快 快 快 快 快

使い方 ちちり 快(「心」)と夫(「開く」)を組み合わせてきた字。心を開くことから、気持ちのよいことをあらわすようにになった。

「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う  
「快(かい)」は、「快」よりもっと大きな場合に使う

# 解

13画  
[角・6画]  
つのへん



おんカ  
かい

解 解 解 解 解 解 解 解 解 解

解 解 解 解 解 解 解 解 解 解

使い方 ちちり 解(「解」)と牛(「うし」)と刀(「かたな」)を組み合わせた字。刀で、牛の角や体をばらばらに切りわけることからあらわす。

「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う  
「解(かい)」は、「解」よりもっと大きな場合に使う

# 格

10画  
[木・6画]  
きへん



おんカ  
かく

格 格 格 格 格 格 格 格 格 格

格 格 格 格 格 格 格 格 格 格

使い方 ちちり 格(「上」にのせる)と貝(「お金」や「品物」)を組み合わせた字。おくり物を高くつみ上げることから物をおくつていいうこと。

「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う  
「格(かく)」は、「格」よりもっと大きな場合に使う































査

9画  
[木・5画]  
〈き〉

木 木 木 査 査 査 査

査

**使い方** 調べて明らかにする。「査定・調査・検査・探査・考査・審査」

調べてきめる。▼事故の原因をくわしく調査する。▼水道の水を検査して、安全をたしかめる。▼審査の結果、わたしの作文はコンクールに入選しました。▼事件のあった現場付近を、巡査(けいさつ)官がパトロールしている。

**なり** 木(き)と且(じ)をつみかさねるを組み合わせた字。木をつみかさねて、通行のじやまをすることをあらわす。のちに、さぐり出して調べるいみになった。

再

6画  
[冫・4画]  
どうがまえ

再 再 再 再 再 再

再

**い** もういちど。かきねて。「再会・再開・再建・再考・再生・再発・再度・再出発・再興・再三・再四」

**使い方** 春が再びめぐってきた。▼十年ぶりに再会しました。▼雨があがったので、試合が再開された。▼病気が再発しないように気をつける。▼火のあつかいについて、再三注意された。▼再来年は、中学生になります。

**なり** 再(さい) 再(さい) 木(き)を、前後同じ形に組んだものの一方に「一」を加えてできた字。同じものがもう一つあることをあらわす。

災

7画  
[火・3画]  
ひ

災 災 災 災 災 災

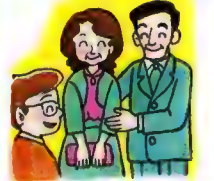
災

**い** 不幸なできごと。わざわい。「災害・災難・火災・天災・戦災・人災・震災」

**使い方** いったん災害にあってもいいように準備しておこう。▼とんでもない災難にあう。▼各地で火災が起こった。▼口は災いのもと(「うっかり話したことが災難のもとになるということ」)。

**なり** 火(か)と災(さい)を組み合わせる。せきとめる。せき(き)と火(か)を組み合わせた字。順調な生活をはばむ大火のいみから、生活のじやまをするものごとをあらわす。

妻

8画  
[女・5画]  
おんな

妻 妻 妻 妻 妻 妻 妻 妻

妻

**い** けっこんしている男女のうち、女の人。つま。▼妻子・妻帯者・人妻・夫妻・先妻・後妻・愛妻家・良妻賢母

**使い方** ▼「妻の久子です」と、父が母を会社の人にしようかいた。▼おじは、妻子とはなれて、単身アメリカに住んでいる。▼山田夫妻は、元気にイギリスへ旅立っていった。▼かれは愛妻家といわれている。

**なり** 妻(さい) 事(こと)をする(こと)と(二)かんざしをつけた女(おんな)を組み合わせ、家の中の仕事をする女をあらわした字。

採

11画  
[扌・8画]  
てへん

採 採 採 採 採 採 採 採

採

**い** ①指先でつまみとる。とる。とりあつめる。採取・採集・採血・採光

**使い方** ▼きのこを採る。▼植物採集をした。▼意見も出つくしたので採決に入ります。▼テストの採点

**なり** 采(さい) 手(て)と采(さい)の手(て)の先(さき)で芽(め)をつみとる(ようす)を組み合わせ、きた字。

際

14画  
[尸・11画]  
こぎとへん

際 際 際 際 際 際 際 際

際

**い** ①かぎり、きわ。はて。「際限・窓際」②まじわる。「交際・国際」③おり。ばあい。「実際・間際」

**使い方** ▼この際、思いきって本当のことを言う。▼会議が際限なく続いている。▼勝負は、土俵、際でついている人を母にしようかいた。▼この夏、となりの市で国際会議が開かれることになった。▼これは実際(じつさい)にあった話です。

**なり** 尸(しかばね)と祭(まつり)のこ(こ)すり合わせる(ようす)を組み合わせ、かべとかべがすれあうほど、くっついて、いることをあらわす。







# 支

4画  
[支・0画]



支 支 支 支 支

支

**使い方** ① ささえる。「支」持・支柱・支点・支配・支援。② もとから分かれる。「支流・支店・支社・支線・支部・気管支」③ はらう。しはらう。「支出・支給」④ さしつかえる。「支障」  
**なり** 父は、若くして一家を支えてきた。先生の言葉が心の支えになった。わかいなえ木に支柱をそえる。銀行の支店ができた。今月は支出の多い月だ。しゅみは勉強に支障のないでいにする  
**なり** 竹のえだど手を組み合せて、手に一本のえだをもつようすをあらわした字。

# 志

7画  
[心・3画]



志 志 志 志 志

志

**なり** あることをしようと思う。また、その心のぞみ。「志望・志願・意志・大志・有志・同志・遺志」  
**使い方** ① 兄は医者をして勉強にはげんでいる。② 大きな志をたてる。③ 志望する学校に合格した。④ 初志(最初の志)をつらぬく。⑤ かねは意志の強い人だ。  
**なり** 「志をつぐ」学問に志したなどの例のように、送りがない気をつけること。  
**なり** 士(さししめす)と心(こころ)を組み合わせた字。心のさししめすものということから、こころざしのいみとなった。

# 枝

8画  
[木・4画]



枝 枝 枝 枝 枝

枝

**なり** ① 草木のえだ。「枝豆・枝葉・小枝・下枝」② もとから分かれたもの。「枝道」  
**使い方** ① 庭に枝ぶりのいい松の木がある。② 枝葉末節(本質的でないこと)にこだわるな。③ 父が枝豆をつまみにビールを飲む。④ かね枝を集めてたき火をした。⑤ 話が枝道にそれた(本すじからはずれたこと)  
**なり** 「枝」とまがええないこと  
**なり** 細い竹のえだを手につようすを組み合わせた字。木のみきから分かれた細いえだのことをあらわす。

# 師

10画  
[巾・7画]



師 師 師 師 師

**なり** ① 人を教えるみちびく人。先生。「師事・師弟・師匠・教師・恩師・講師」② そのことを職業にしている人。「医師・技師」  
**使い方** ① おはは、中学校の教師をしています。② 恩師の教えを胸にききだみこむ。③ わたしの父は調理師として、母は美容師として、ともにいそがしくはたらいています。

# 資

13画  
[貝・6画]



資 資 資 資 資

**なり** ① あることをする。② 金・資源・資産・資材・資料・学資・物資。③ 地位。身分。「資格」  
**なり** ① 必要な資料を集める。② 全国から被災地に救援物資が送られる。③ 豊かな資質にめぐまれる。④ いことが看護師の資格をとった。  
**なり** 貝(かい)と貝(かい)の組み合わせた字。役立てるためにそろえたお金や品物をあらわす。

# 飼

13画  
[食・5画]



飼 飼 飼 飼 飼

**なり** 動物などをやしないそだてる。かう。「飼育・飼料・飼い主・飼犬・飼い葉・放し飼い」  
**なり** ① 妹は、金魚を三びき飼っている。② 飼主(かひしゅ)に忠実な犬。③ 馬が飼葉(かひえ)おけに首をつっこんでえさを食べている。④ わたしは五年生になって、飼育係に選ばれた。⑤ 多くの仕事は、牛に飼料(かいうりょう)をやることだ。  
**なり** 飼(かひ)と飼(かひ)の組み合わせた字。で、いみはあらわさない(を組み合わせさせてきた字)。



# 示

5画  
[示・0画]  
しめす



## 示示示示示

示

**い** 人に見せる。また、かくれたものを外にあらわして見せる。「展示・表示・指示・暗示・内示・公示・告示・訓示・示唆」

**使** 最初に、先生が手本を示してみせた。▼てき上がった作品を会場に展示した。▼わかりやすく図示する。▼博物館の入り口に、館内の見取り図が表示してある。▼係員の指示にしたがって行動する。

**なり** 示 神のみたまが天からくだってくる祭だんの形からできた字。祭だんに神の心がしめされることから、「しめす」のいみとなった。

# 似

7画  
[亻・5画]  
にん・へん



## 似似似似似

似

**い** 似ている。「似顔・相似・近似・類似」

**使** 父によく似た人を見かけた。▼ぼくと兄は、似た者どうして気が合います。▼母は和服がよく似合う。▼姉は似顔絵をかくのが得意です。▼類似の品(＝よく似た品)に注意してください。▼練習問題と酷似した問題に出た。

**なり** 似 1(＝人)と以(＝工作する)を組み合わせた字。人がさいくをして、物の形をととのえることをあらわす。うまくさいくをして、実物と同じものをつくることから、「にせる」のいみとなった。

# 識

19画  
[言・12画]  
しん・へん



## 識識識識識

識

**い** ①ものごとを見分ける。知る。また、その力。「識別・認識・面識・知識・意識・常識・学識」

**使** ①はば広い知識を身につけよう。▼優勝を意識して、きんちようした。▼悪いことをしたら、あやまるのが常識(＝ふつうの)人がもっていないなら知らない知識だ。

**なり** 識 言(＝ことば)と、目(＝目じるし)を組み合わせてきた字。目じるしや名をえて区別して知ることあらわす。

# 質

15画  
[貝・8画]  
こがい



## 質質質質質

質

**い** ①もののなみ。内容。「質量・物質」②なみ。性質・氣質・素質・本質③かざりけがない。「質素・質実」④といった。「質問」⑤約束を守るしとしてあずける人や物。「質屋・人質」

**使** ①この物質から、いろいろな薬品がつくられる。▼品質のよさは保証します。▼質素だが、清潔な身なりをした人。▼わからない点は、えんりよなく質問してください。▼犯人が人質を解放した。

**なり** 質 所(＝重さと同じ)と貝(＝お金につり合う品物)のこ。

# 舍

8画  
[亠・6画]  
ひとやね



## 舍舍舍舍舍

舍

**い** ①え。たてもの。また、やど。「校舎・宿舍・官舎・兵舎・牛舎・田舎」

**使** ①古い校舎の改築が行われています。▼修学旅行の宿舎は、大きな旅館でした。▼父が役所につとめているので、わたしの家は官舎(＝役人用のすまい)です。▼夕方に、牛舎(＝牛小屋)に入れた。▼列車が、田舎に帰る人てこみ合っている。

**なり** 舍 禾(＝こむぎ)と止(＝とどまる)の字は「舍」。禾(＝こむぎ)と止(＝とどまる)の字は「止」。

# 謝

17画  
[言・10画]  
しん・へん



## 謝謝謝謝謝

謝

**い** ①あやまる。「謝罪・陳謝」②礼をいう。また、礼としてのお金や品物。「謝礼・謝辞・謝恩・感謝・月謝」③ことわる。「謝絶」

**使** ①自分の非をみとめて謝った。▼卒業式のあと、先生をかこんで謝恩会が開かれた。▼感謝の手紙が寄せられた。▼病室のドアに「面会謝絶」のふだがかかっている。

**なり** 謝 言(＝ことば)と、心(＝こころ)を組み合わせてきた字。おれやわびをいって、はりつめた気持ちちがらくなること。















## 政

9画  
[欠・5画]  
ほくによう

あんセイ・シヨウ  
まつりこと

政政政政政政政

## 政

いあ ①世の中をおさめること。「政治・政策・政界・政見・政府・政党・王政・行政・参政権」②ものごとをきまり通りやること。「財政」

使う方 ▼武士の時代は、将軍が政策をひかくしてみる。▼各党の選挙の政見放送を見た。▼政府の考えを問いたです。▼今は、財政のたてなおしが急がれる。

なり 正(「まっす(「動詞の記号)を組み合わせてきた字。まっすぐにこととをあらわす。

## 勢

13画  
[力・11画]  
ちから

あんセイ  
いきおい

勢勢勢勢勢勢勢

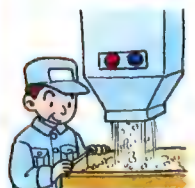
## 勢

いあ ①いきおい。ちから。「勢力・優勢・氣勢・加勢」②ようす。「形勢・情勢・姿勢・運勢」③集まった人々。「大勢・総勢」

使う方 ▼合図とともに、勢よく走り出した。▼台風は勢力をましつつ北上中です。▼試合は味方が優勢だった。▼満るいホームランを打たれて、形勢が逆転した。▼よい姿勢でつくえに向かう。

なり 勢(「木を植えて形をととのえ、と力(「ちから)を組み合わせた字。力を加え、形をととのえることから、自分ではどうにもならない外からの力をあらわす。

## 精

14画  
[米・8画]  
こめ・ん

あんセイ・シヨウ

精精精精精精精

## 精

いあ ①白くする。また、まじりものをとりさる。「精米・精製・精選」②心。たましい。「精神・精進」③こまかくくわしい。「精密・精算・精通・精巧」

使う方 ▼精米所て米をつく。▼さとうを精製する(「まじりけのないものにする)。▼よい作品を精選して文集にのせる。▼精進(「一心に努力すること)のかいがあって、実力がついた。▼精力的に活動する人。

なり 米(「こめ)と青(「すみきつてよこれが)を組み合わせた字。きれいにした白米のこと。

## 製

14画  
[衣・8画]  
ころも

あんセイ

製製製製製製製

## 製

いあ ①しらえる。つく。製材・製法・製図・手製作製・精製・複製・調製

使う方 ▼これはスイス製の時計です。▼プラモデルを製作する。▼新品製が開発された。▼海岸ぞいに製油所がたちならんでいる。▼姉の手製のマフラーをもらった。

なり 制(「のびていくえだをどちみ合わせた字。布をたち切って、着物にしたててことをあらわす。

## 税

12画  
[禾・7画]  
のぎへん

あんセイ

税税税税税税税

## 税

いあ ①国・都道府県・市町村が、おおよけの仕事をする費用として、国民や住民にわりあててとるお金。税金・税関・税収・税務署・納税・国税・減税

使う方 ▼納税(「税金を納めること)は、国民の義務です。▼国際空港には税関(「輸出入品の税金をとるところ)がある。▼住民税を納める。

なり 税(「物)と、(「作(「人の着物をきごころ)を組み合わせせてきた字。取り入れた作物の一部をぬきとることをあらわす。

## 責

11画  
[貝・4画]  
こがい

あんセイ

責責責責責責責

## 責

いあ ①せめる。とがめる。「自責」②つとめ。きむ。「責任・責務・重責」

使う方 ▼エラーしたからといって、そんなに自分を責めることはない。▼無責任なことをいうものではない。▼自分の責務を忠実に実行する。▼わたしは二年間、会長の重責を果たしました。

なり 責(「先のと(「貝)を組み合わせた字。お金の貸し借りのことで、相手をとげとすように、ちくちくとせめることをあらわす。







## 祖

9画  
[ネ・5画]  
しめすへん

祖祖祖祖祖祖祖祖祖祖

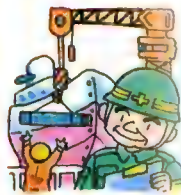
**い** ①父母の親「祖父母」②何代も重ねた昔の人「祖先・先祖」③あるものごとをはじめた人「開祖・始祖・教祖・祖國・元祖」

祖

**使** ①夏休みには、いなかの祖父母の家に行く。②人類の祖先について考える。③おぼんやおひがんは、先祖のれいをまつる行事だ。④真言宗の開祖は空海だ。⑤祖國(自分生まれ育った国)を追われた人々

**な** ①もとは「示」で祭だんをあらわす。②「物」をかさねる。③「示」で祭だんをあらわす。④「物」をかさねる。⑤「示」で祭だんをあらわす。⑥「物」をかさねる。⑦「示」で祭だんをあらわす。⑧「物」をかさねる。⑨「示」で祭だんをあらわす。⑩「物」をかさねる。⑪「示」で祭だんをあらわす。⑫「物」をかさねる。⑬「示」で祭だんをあらわす。⑭「物」をかさねる。⑮「示」で祭だんをあらわす。⑯「物」をかさねる。⑰「示」で祭だんをあらわす。⑱「物」をかさねる。⑲「示」で祭だんをあらわす。⑳「物」をかさねる。㉑「示」で祭だんをあらわす。㉒「物」をかさねる。㉓「示」で祭だんをあらわす。㉔「物」をかさねる。㉕「示」で祭だんをあらわす。㉖「物」をかさねる。㉗「示」で祭だんをあらわす。㉘「物」をかさねる。㉙「示」で祭だんをあらわす。㉚「物」をかさねる。㉛「示」で祭だんをあらわす。㉜「物」をかさねる。㉝「示」で祭だんをあらわす。㉞「物」をかさねる。㉟「示」で祭だんをあらわす。㊱「物」をかさねる。㊲「示」で祭だんをあらわす。㊳「物」をかさねる。㊴「示」で祭だんをあらわす。㊵「物」をかさねる。㊶「示」で祭だんをあらわす。㊷「物」をかさねる。㊸「示」で祭だんをあらわす。㊹「物」をかさねる。㊺「示」で祭だんをあらわす。㊻「物」をかさねる。㊼「示」で祭だんをあらわす。㊽「物」をかさねる。㊾「示」で祭だんをあらわす。㊿「物」をかさねる。

## 造

10画  
[主・7画]  
しんじょう

造造造造造造造造造造

**い** ①ものをこしらえる。「造形・造成・造花・造化・造船・造本・製造・人造・改造・構造・模造紙」

造

**使** ①日本酒は米から造る。②山を切りくずして、宅地(家を建てるための土地)を造成する。③ふくごつな構造の機械。④古い木造の建物がとりこわされる。

**な** ①「く」つ「ける」と「し」の動作用を組み合わせた字。「材料をくっつけ合わせる」という意味をあらわす。

## 素

10画  
[糸・4画]  
いと

素素素素素素素素素素

**い** ①ものやことがらのおおもとになるもの。「元素・水素・酸素」②ものまの。かざりけがない。ただそれだけの。「素材・素質・素顔・素直・質素」③ふだんの。「素行・平素」

素

**使** ①衣・食・住は、生活の三要素といわれる。②素質にめぐまれた選手。③素足にサンダルはきて、お使いに行った。④知り合いの家の前を素通りする。⑤質素な生活を送る。⑥平素から健康に気をつける。

**な** ①「垂(たれる)」をりやくした形と糸(いと)を組み合わせた字。一すじずつたれた糸のもとになるせんいのこと。

## 像

14画  
[イ・12画]  
えい

像像像像像像像像像像

**い** ①すがた。かたち。「画像・映像・実像・想像・現像」②にせてつくる。また、そのもの。「仏像・銅像・自画像・肖像画」

像

**使** ①テレビの映像がみだれてる。②中学生になった自分を、あれこれと想像する。③写真を現像する。④お寺の本堂に、古い仏像がある。⑤かがみを見ながら自画像をかく。

**な** ①「ぞう」と「い」を組み合わせた字。ぞうは、大きくてすがたが目立つところから、人や物のすがたや形をあらわす。

## 総

14画  
[糸・8画]  
いとしん

総総総総総総総総総総

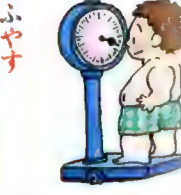
**い** ①全体を一つにまとめる。また、まとめておさめる。「総合・総会・総務・総称・総裁・総理」②全体。すべて。「総員・総数・総画・総意・総額・総勢」

総

**使** ①市の総合病院に行った。②父母会の総会が開かれる。③旅行の費用の総額を計算する。④びわ湖は、総面積約六百七十一平方キロメートルもある大きな湖です。

**な** ①「糸」と「糸」を組み合わせた字。一つにまとめることをあらわす。

## 増

14画  
[す・11画]  
ふつへん

増増増増増増増増増増

**い** ①数や量が多くなる。ふえる。また、ふやす。「増加・増額・増収・増進・増減・増築・急増・水増し」

増

**使** ①きのうの雨で、川の水かさが増した。②かせて休む人が増えてきた。③おこづかいを少し増やしてもらおう。④この町の人口は、年々増加している。⑤健康を増進するために、ジョギングをしている。⑥祖母のためにはなれを増築した。

**な** ①「増」(増)と「増」(増)を組み合わせた字。土を上へ上へといふこと。







# 貸

12画  
[貝・5画]  
こがい 借 247



おん タイ  
くす

貸貸貸貸貸貸貸貸貸

## 貸

い い じふんの物を人に  
使わせる。かす。「貸し借  
り」貸家・貸借・貸貸

使い方 ▼秋の旅行は、貸し切りバ  
スで行くことになった。▼友だちと  
本の貸し借りをする。▼わたしの家  
族は、貸貸(＝料金を取って貸すこ  
と)マンションに住んでいます。

注 ①「貸す」と「借りる」はまぎら  
わしい。②「貸問」「貸家」などには  
「し」を送らない。③「貸」とまちがえ  
ないこと。

なり 代(＝かたがわりする)と貝(＝お  
金や品物)を組み合わせた字。  
財産の持ち主が、しばらく別の人に  
かわることをあらわす。

# 態

14画  
[心・10画]  
こころ



おん タイ  
くす

態態態態態態態態態

## 態

い い 心がまえや身がま  
え。また、すがた。あり  
さま。「態度・態勢・形  
態・状態・生態・実態・事態」

使い方 ▼授業中の態度をほめら  
れた。▼新入生の受け入れ態勢を  
ことのえる。▼民族によって、文化  
の形態はことなっている。▼健康  
状態には、つねに気をくばってい  
ます。▼ありの生態(＝生きて育つ  
ようす)を観察する。

なり 能(＝できる)と心(＝こころ)  
を組み合わせた字。自分は、  
このようにしていくという、心がま  
えをあらわす。のちに、「すがた」や  
「ようす」のいみになった。

# 団

6画  
[口・3画]  
ぐにがまえ



おん ダン・トン

団団団団団団団団団

## 団

い い ①まるい また、  
まるいもの。「団子」②集  
まってひとかたまりにな  
る。また、あつまり。「団結・団体・  
田地・団長・団員・集団・劇団・楽団」

使い方 ▼月見に団子をそなえた。  
▼みんなて団結してたたかう。▼母  
は、団体旅行で温泉に行っている。  
▼わたしの家族は団地に住んでいま  
す。▼毎朝、集団で登校している。  
▼人形劇の劇団の公演を見た。  
▼お客様に座布団をすすめた。

なり もとの字は、「團」(＝かこむ)  
と專(＝まるい)を組み合わせ  
た字。まるくかこんだものをあらわ  
す。

# 断

11画  
[斤・7画]  
おのづり



おん ダン  
くす たつことわる

断断断断断断断断断

## 断

い い ①たちきる。やめ  
る。たつ。「断食・断水・  
断絶・断続・切断・横断」  
②きっぱりきめる。「断定・断言・決  
断・判断」③おしきって行う。「断固・  
断行」④ことわる。「無断」

使い方 ▼利害関係を断ち切った。  
▼工事のため、一時間断水します。  
▼ものごとを正しく判断する。▼友  
だちのさそいを断る。

なり 断(断) 出(＝系  
れを切るしるし)と斤(＝おの)を  
組み合わせた字。糸のたばをおのて  
切ることをあらわす。

# 築

16画  
[艸・10画]  
たけかんむり



おん チク  
くす

築築築築築築築築築

## 築

い い たてものなどをつ  
くる。きずく。「築造・築  
城・建築・新築・増築・改  
築」

使い方 ▼明るい家庭を築く。▼お  
じは、一代でこの会社を築き上げた。  
▼法隆寺は世界最古の木造建築で  
ある。▼古くなった校舎を新築する  
ことになった。▼二階を増築しまし  
た。▼わたしの家は、今改築中で  
す。

なり 竹(＝チク)の音をあらわす)と  
艸(＝工事をすること)と木(＝き)  
を組み合わせた字。木のぼうて土を  
つきかためて、土台をつくることを  
あらわす。

# 張

11画  
[弓・8画]  
いひみへん



おん チヨウ  
はる

張張張張張張張張張

## 張

い い ①ぴんとはる。ま  
た、ひろげる。「緊張・  
伸張・出張・拡張・膨張」  
②おおげさにする。「誇張」③  
強く言う。「主張」

使い方 ▼むねを張って、元氣よく歩  
く。▼友だちと張り合って、勉強には  
げむ。▼店の前に張り紙がしてある。  
▼父は出張しています。▼店を拡  
張する。▼はつきりと、自分の意  
見を主張する。

なり 張(張) 弓(＝弓)と弓(＝  
をなびかせて立っているようす)を  
組み合わせた字。弓につるをぴんと  
はることをあらわす。



































## 容

10画  
[ハ・7画]  
うかんむり

## 容容容容容容容容

①物を入れる。また、なみ。容器・容量・容積・内容②すがた。かたち。「容姿・容体・美容・形容」③ゆるす。「容認・許容」④たやすい。「容易」

容

①ガラスの容器に葉を入れる。話し合いの内容をまとめる。

②美容と健康のために、ジョギングをする。③他人の過ちを許容する、広い心。④この問題は容易に解けない。

容

①水がたまる谷を組み合わせた字。からの入れ物の中に物を入れること。また、その中身のこと。

## 五年生の漢字の注意点①

書き順をまちがえやすい漢字。  
解「角角角解解」  
減「氵氵減減減減」  
再「一冫冫再再」  
際「氵氵際際際際」  
断「ノナオ断断断断」  
布「ノナオ布布布布」  
版「リリ版版版版」  
状「丨丨状状状状」  
永「丨丨永永永永」  
字体で気をつけておく漢字としては、次のものがあります。  
「犯」を「犯」としないように。  
「報」の右側を「反」としないように。  
「検」の右側が「食」とならないように注意。  
「券」の下、「潔」の右上は「刀」で「力」ではありません。  
「輸」の右側を「倫」としない。

## 五年生の漢字の注意点②

次のじゆく語の書き方に注意。  
「率先・引率」などを「卒先・引卒」、「成績」を「成績」、「正義」を「正義」、「謝恩」を「謝恩」、「招待」を「招待」としないように注意しましょう。  
また、次の漢字の訓読みと送り仮名を確にんしておきましょう。  
「快」(こころよい)。「逆」(さかいらう)。「険」(けわしい)。「耕」(たがやす)。「修」(おさめる)。「勢」(いきおい)。  
「現・表」の使い分けにも注意しましょう。「表す」は中のものを外に出すことで、自分の考えや気持ちをしめすときに、「現す」はかくれていたものが見えるようにおもてに出るときに使います。  
「よろこびをたいに表す」「すがたを現す」

## 略

11画  
[田・6画]  
たへん

## 略略略略略略略略

略

①考え。はかりごと。「計略・策略・戦略」②かんたんにする。はぶく。「略図・略字・略歴・略式・省略・前略・略称」③せめとる。「攻・略・侵・略」

④弟をこらしめようと、計略をめぐらした。漢字には、もとの字を略したものもある。駅から家までの略図をかく。省略されてる部分の内容を考えてみる。

⑤田(「た」と各(「横」につらななち)る道)を組み合わせた字。田畑を切り開いて、横に通じる近道をつくること。のちに、まわりくどい手数をはぶくといういみになった。

## 留

10画  
[田・5画]  
た

## 留留留留留留留留

留

①同じ所にとどめる。また、とどまる。「留る」②留任・留意・留守・保留・残留・停留所

③気付いたことを書き留めておく。兄は、今、アメリカに留学しています。④バスの停留所

⑤「留める」は、同じ所にとどめるときに、「止める」は、動かなくするときに、「泊める」は、宿泊させるときに使う。

⑥古い字は「畱」。畱(「外」に出さないうとじこめる)と田(「田」を組み合わせた字。一か所にとどめることをあらわす)。

## 領

14画  
[頁・5画]  
おおい

## 領領領領領領領領

領

①おさめる。「領土・首領・頭領・大統領」②中心になるところ。「要領・本領」③受けとる。「領収・受領」

④アメリカの大統領が来日した。⑤仕事の要領をおぼえる。⑥選手が本領をはつきして、大活躍した。⑦学会で使う物を買って、領収書をうける。⑧品物はたしかに受領しました。

⑨「預」とまちがえないこと。⑩令(「神」のきよらかなこと)と頁(「くび」を組み合わせてできた字。きれいな首すじのこと)から、「たいせつなところ」のいみあらわすようになった。

⑪「電」はもともと「いなすま」という意味。それで、「電(あめかんむり)」。



# 六年生の漢字学習法

六年生では、一〜六年で習う漢字を読むこと、一〜五年の漢字を書き、文中で正しく使えること、六年の新出漢字百八十一字を少しづつ書くようにすることを目標にしています。

新出漢字については、漢和辞典を利用して、次のような学習をしてみよう。

「紅」という漢字を学習したら、今までに学習した「いとへん」の漢字を集めてみましょう。漢和辞典の部首さくいで「いとへん」を引くと、「組・織・絵・続・統・絶・紀・約」など三十近く見つかります。

また、右側の「工」という部分をもった漢字を集めてみましょう。音訓さくいで「コウ」を引いてもよいでしょう。「功」「工」があります。

どちらも「コウ」という音をもっています。「工」が「コウ」という音を表すのです。

「胸」という漢字を学習したら、今までに学習した「キヨウ」という音をもつ漢字を音訓さくいんを使つて集めてみます。「競・共・協・境・教・強・橋・兄・鏡・京」などたくさん出てきます。そして、同じ「キヨウ」でも使い方がちがうことを確認し、「胸」の使い方をしっかり理解します。

「吸」という漢字を学習したら、この漢字の送り仮名「すーう」のように「う」が送り仮名となる漢字を集めてみましょう。「敬う・構う・洗う・祝う・追う・思う・従う・救う・戦う・使う・集う・担う・願う」などたくさんさんの漢字が見つかります。そして、これらの漢字に共通するのは、意味として動詞の働きをしています。

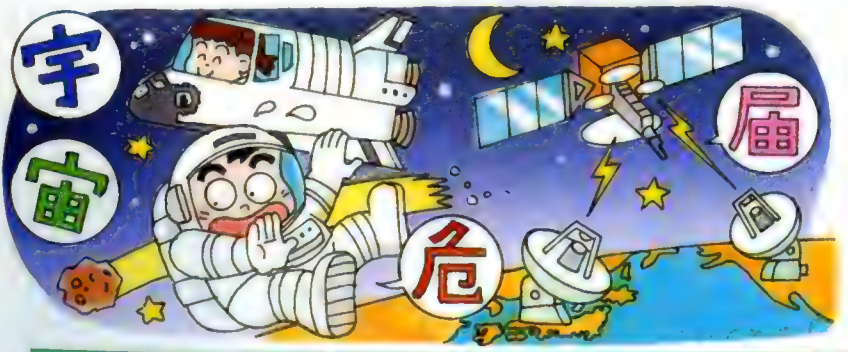
ることであることがわかります。

「嚴」という漢字は「きびしい」と送り仮名がきます。そこで「しい」という送り仮名のつく漢字を集めてみます。「楽しい・新しい・悲しい・美しい・苦しい・険しい・親しい・正しい・激しい・久しい・等しい・貧しい・易しい・難しい」などたくさん見つかります。これらの漢字に共通するのは、形容詞の働きをしていることであることがわかります。



# 六年生で習う字

優 412	暮 408	俳 403	討 399	誕 394	奏 390	仁 385	縮 381	誌 376	困 372	嚴 367	郷 362	株 358	異 354
幼 412	宝 408	班 404	党 399	段 394	窓 390	垂 386	熟 381	磁 377	砂 372	己 368	勤 363	干 358	遺 354
欲 413	訪 408	晩 404	糖 399	暖 395	創 390	推 386	純 381	射 377	座 372	呼 368	筋 363	卷 359	域 354
翌 413	亡 409	否 404	届 400	値 395	装 391	寸 386	処 382	捨 377	濟 373	誤 368	系 364	看 359	宇 355
乱 413	忘 409	批 405	難 400	宙 395	層 391	盛 387	署 382	尺 378	裁 373	后 369	敬 364	簡 359	映 355
卵 414	棒 409	秘 405	乳 401	忠 396	操 391	聖 387	諸 382	若 378	策 373	孝 369	警 364	危 360	延 355
覧 414	枚 410	腹 405	認 401	著 396	蔵 392	誠 387	除 383	樹 378	冊 374	皇 369	劇 365	机 360	沿 356
裏 414	幕 410	奮 406	納 401	片 397	臆 392	宣 388	将 383	収 379	蚕 374	紅 370	激 365	揮 360	我 356
律 415	密 410	並 406	脳 402	頂 397	存 392	専 388	傷 383	宗 379	至 375	降 370	穴 365	貴 361	灰 356
臨 415	盟 411	陞 406	派 402	潮 397	尊 393	泉 388	障 384	就 379	私 375	鋼 370	絹 366	疑 361	拡 357
朗 415	模 411	閉 407	拝 402	賃 398	宅 393	洗 389	城 384	衆 380	姿 375	刻 371	権 366	吸 361	革 357
論 416	訳 411	片 407	背 403	痛 398	担 393	染 389	蒸 384	従 380	視 376	穀 371	憲 366	供 362	閣 357
郵 412	補 407	肺 403	展 398	探 394	善 389	針 385	縦 380	詞 376	骨 371	源 367	胸 362	割 358	



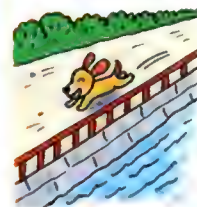






# 浴

8画  
[シ・5画]  
さんずい



川・道・時の流れ  
などにしたがってつづ  
く。そう。「沿岸・沿道・  
沿線・沿岸・川沿い・海沿い」

# 浴

線路が海岸線に沿って走  
っている。この漁村は、古くから  
沿岸漁業でさかえた。沿道は、  
パレードを見る人たちがいっぱい  
になった。この電車の沿線は、さく  
らの名所として名高い。市の沿革  
（「移り変わり」を調べる。川沿い  
に、細い道が続いている。

（シ＝水）と台（水が低いほ  
うへ流れる）を組み合わせた  
字。水が道すじにしたがって流れる  
ことをあらわす。

# 我

7画  
[戈・3画]  
はこびり



①じぶん。わた  
し。「我流・我田引水・自  
我」ひとりよがり。

# 我

ふと我にかえる（「気が  
つく」と、もう夜だった。わたし  
の絵は、我流（自分かつてなやり  
方）です。無我夢中（「我をわす  
れて」がんばった。我が家では犬  
を二ひきかっています。弟は我  
が強い（「ごうじょうだ」）。

刃がぎざ  
ぎざにな  
った武器の形からできた字。むかし  
「自分のことを「ガ」といい、同じ音  
をもつ「我」の字をかりて「自分」の意  
味をあらわした。

# 灰

6画  
[火・2画]



落ち葉を燃した灰に水  
をかける。火山灰によって、農作物  
に大きな被害がでた。空が灰色  
にくもっている。父の机の上に、  
きれいなガラスの灰皿が置いてある  
。石灰の粉で、運動場に白いライ  
ンをひく。

# 灰

（火）と火  
（火）を組み合わ  
せてできた字。手で燃えかすをかき  
出しているようすをあらわしている。  
燃え残ったかすのことから、「はい」  
の意味になった。

# 拡

8画  
[キ・5画]  
くてへん



おしひろげる。  
「拡大・拡張・拡散・拡声  
器・拡充」

# 拡

もとの図を二倍に拡大し  
た図をかく。拡大鏡（小さなも  
のを大きくして見る器具で、花の  
つくりを観察した。会のきぼを拡  
大する。生徒の数が増えたので、  
グラウンドを拡張した。学校の  
設備の拡充（設備などを増やし、  
豊かにすること）につとめる。

もとの字は「擴」。キ（手）と  
廣（家のわくのちのう）を組  
み合せてきた字。手てわくいっばいに  
おし広げていくという意味をあらわす。

# 革

9画  
[革・0画]  
かくのかわ



①はいだ動物の  
かわの、毛やあぶらを取  
ってやわらかくしたもの  
の。かわ。「皮革・牛革」②あらため  
る。あらたまる。「革新・革命・変革」  
新しい革（革製品）をあつかう店。  
新しい革（革製品）をはいて出かけた。  
一七八九年、フランス革命がおこ  
った。児童会を改革（悪いこと  
をあらためること）する。

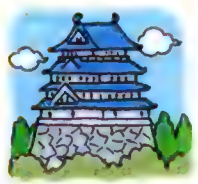
# 革

「皮」は動物・植物のかわ、物  
のおおいのこと。「革」は動物のかわ  
をなめしたもののこと。

動物のかわをはい  
て、ぴんとはった形からできた字。

# 閣

14画  
[門・6画]  
もんがまえ



①高く作った、  
りっぱな建物。「天守閣・  
神社仏閣」②「内閣」の  
略。「閣議・組閣・入閣」

# 閣

お城の天守閣にのぼって、  
四方をながめる。神社仏閣（神  
社やお寺をめぐり歩く。総理大  
臣が、新しい内閣をつくる。大臣  
を集めて閣議（大臣が集まってす  
る会議）を開く。内閣をつくるこ  
とを、組閣といいます。

門（も）と各（かく）と足（あ）がかた  
いものにつきあたって止ま  
る）を組み合わせた字。石や木の  
こと、のちに、上部をささえる足  
のある、高いごてんをあらわした。



# 巻

9画  
[己・6画]  
〈おのれ〉



**かん** かん  
まき まき  
まき まき  
まき まき  
まき まき  
まき まき

**かん** かん  
まき まき  
まき まき  
まき まき  
まき まき  
まき まき

**い** ① まき。巻き尺。  
巻紙。② まきもの。また、書物。「巻頭・巻末・上巻・下巻」③ 書物・フィルムなどを数えることは。「巻」

**使** ① 巻き尺でははとびのきりをはかる。古い巻物が出てきた。調べたいことはを。巻末のさくいんてさがす。全五十巻の物語全集が出版された。

**なり** ① 巻。② 巻。③ 巻。④ 巻。⑤ 巻。⑥ 巻。⑦ 巻。⑧ 巻。⑨ 巻。⑩ 巻。⑪ 巻。⑫ 巻。⑬ 巻。⑭ 巻。⑮ 巻。⑯ 巻。⑰ 巻。⑱ 巻。⑲ 巻。⑳ 巻。㉑ 巻。㉒ 巻。㉓ 巻。㉔ 巻。㉕ 巻。㉖ 巻。㉗ 巻。㉘ 巻。㉙ 巻。㉚ 巻。㉛ 巻。㉜ 巻。㉝ 巻。㉞ 巻。㉟ 巻。㊱ 巻。㊲ 巻。㊳ 巻。㊴ 巻。㊵ 巻。㊶ 巻。㊷ 巻。㊸ 巻。㊹ 巻。㊺ 巻。㊻ 巻。㊼ 巻。㊽ 巻。㊾ 巻。㊿ 巻。

と「(二)両手」と「(一)かかんた人」を組み合わせた字。かがんで両手をまめるめ、ちらばろうとする物を受けることをあらわす。

# 割

12画  
[リ・10画]  
リ・10画



**かん** かん  
わり わり  
わり わり  
わり わり  
わり わり  
わり わり

**かん** かん  
わり わり  
わり わり  
わり わり  
わり わり  
わり わり

**い** ① いくつかに分ける。また、きりさく。割り算。割り当て。日割。時間割。割愛。割腹。分割。役割。比率。割合。二割引き。

**使** ① あやまってガラスを割った。② いそがしい時間を割いて人に会う。③ 時間がないので、話を少し割愛。④ おいしいと思いがたはよくことします。⑤ たまご一個に、さとう大さじ一ぱいの割合で加える。⑥ パーゲンで、全品四割引きです。

**なり** ① 害。② カツの音をあらわす。③ 害。④ 害。⑤ 害。⑥ 害。⑦ 害。⑧ 害。⑨ 害。⑩ 害。⑪ 害。⑫ 害。⑬ 害。⑭ 害。⑮ 害。⑯ 害。⑰ 害。⑱ 害。⑲ 害。⑳ 害。㉑ 害。㉒ 害。㉓ 害。㉔ 害。㉕ 害。㉖ 害。㉗ 害。㉘ 害。㉙ 害。㉚ 害。㉛ 害。㉜ 害。㉝ 害。㉞ 害。㉟ 害。㊱ 害。㊲ 害。㊳ 害。㊴ 害。㊵ 害。㊶ 害。㊷ 害。㊸ 害。㊹ 害。㊺ 害。㊻ 害。㊼ 害。㊽ 害。㊾ 害。㊿ 害。

# 株

10画  
[木・6画]  
木・6画



**かん** かん  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ

**かん** かん  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ  
かぶ かぶ

**い** ① 木を切りたおしたあとに残る根もと。切り株。② 草や木の根。また、草や木を数えることは。「株分け・二株」③ 「株式」株券のこと。また、株券を数えることは。「株主・株式会社」

**使** ① 木の切り株にこしを下ろす。② きくの株分け。③ 親の株から分けてうつけしうえることをする。④ 古株の(「古くからいる」社員。父は株券。⑤ その会社にお金を出したしるしの書類を持っている。⑥ 人のお株(「とくいなこと」をうけつう)木(「き」と木(「木の切りかぶ」を組み合わせた字。

**なり** ① 株。② 株。③ 株。④ 株。⑤ 株。⑥ 株。⑦ 株。⑧ 株。⑨ 株。⑩ 株。⑪ 株。⑫ 株。⑬ 株。⑭ 株。⑮ 株。⑯ 株。⑰ 株。⑱ 株。⑲ 株。⑳ 株。㉑ 株。㉒ 株。㉓ 株。㉔ 株。㉕ 株。㉖ 株。㉗ 株。㉘ 株。㉙ 株。㉚ 株。㉛ 株。㉜ 株。㉝ 株。㉞ 株。㉟ 株。㊱ 株。㊲ 株。㊳ 株。㊴ 株。㊵ 株。㊶ 株。㊷ 株。㊸ 株。㊹ 株。㊺ 株。㊻ 株。㊼ 株。㊽ 株。㊾ 株。㊿ 株。

# 看

9画  
[目・4画]  
目・4画



**かん** かん  
みる みる  
みる みる  
みる みる  
みる みる  
みる みる

**かん** かん  
みる みる  
みる みる  
みる みる  
みる みる  
みる みる

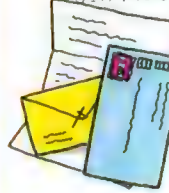
**い** ① みる。看板。看破。看過。② みまもる。せわをする。看護。看病。

**使** ① となりのビルの屋上の大きな看板が、わたしの家の目印です。② 悪いくらみを看破する(「見やぶる」)。③ それは看過する(「見のがす」)このてきない問題だ。④ 姉は、看護師をめざしています。⑤ 母は、かせて熱が下がらないわたしを、一晩じゅう看病してくれた。

**なり** ① 看。② 看。③ 看。④ 看。⑤ 看。⑥ 看。⑦ 看。⑧ 看。⑨ 看。⑩ 看。⑪ 看。⑫ 看。⑬ 看。⑭ 看。⑮ 看。⑯ 看。⑰ 看。⑱ 看。⑲ 看。⑳ 看。㉑ 看。㉒ 看。㉓ 看。㉔ 看。㉕ 看。㉖ 看。㉗ 看。㉘ 看。㉙ 看。㉚ 看。㉛ 看。㉜ 看。㉝ 看。㉞ 看。㉟ 看。㊱ 看。㊲ 看。㊳ 看。㊴ 看。㊵ 看。㊶ 看。㊷ 看。㊸ 看。㊹ 看。㊺ 看。㊻ 看。㊼ 看。㊽ 看。㊾ 看。㊿ 看。

# 簡

18画  
[々・12画]  
々・12画



**かん** かん  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ

**かん** かん  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ  
てがる 大ざつ

**い** ① てがる。大ざつ。簡単。簡略。簡素。簡潔。② 手紙。「書簡・木簡」

**使** ① 簡単な問題を数多くこなす。② 巻末に簡略な解説がついています。③ 簡素な(「簡単でかざりけのない」)生活を送る。④ 感想はなるべく簡潔に(「簡単にまとめて書いてください」)。⑤ 外国の大統領から日本の首相に書簡が届いた。

**なり** ① 簡。② 簡。③ 簡。④ 簡。⑤ 簡。⑥ 簡。⑦ 簡。⑧ 簡。⑨ 簡。⑩ 簡。⑪ 簡。⑫ 簡。⑬ 簡。⑭ 簡。⑮ 簡。⑯ 簡。⑰ 簡。⑱ 簡。⑲ 簡。⑳ 簡。㉑ 簡。㉒ 簡。㉓ 簡。㉔ 簡。㉕ 簡。㉖ 簡。㉗ 簡。㉘ 簡。㉙ 簡。㉚ 簡。㉛ 簡。㉜ 簡。㉝ 簡。㉞ 簡。㉟ 簡。㊱ 簡。㊲ 簡。㊳ 簡。㊴ 簡。㊵ 簡。㊶ 簡。㊷ 簡。㊸ 簡。㊹ 簡。㊺ 簡。㊻ 簡。㊼ 簡。㊽ 簡。㊾ 簡。㊿ 簡。

# 干

3画  
[干・0画]  
干・0画



**かん** かん  
ほす ほす  
ほす ほす  
ほす ほす  
ほす ほす  
ほす ほす

**かん** かん  
ほす ほす  
ほす ほす  
ほす ほす  
ほす ほす  
ほす ほす

**い** ① かわく。また、かわかす。「干害・干満・干潮」② かかわりあう関係する。「干渉」

**使** ① 洗たくものを干す。② すっぱい梅干しを食べる。③ 日照りがつづいて干害のおそれがてきた。④ このへんの海は、干満(「しおのみちひき」)の差が大きい。⑤ 他人の行動に干渉(「横から口をだすこと」)するのはよくない。

**なり** ① 干。② 干。③ 干。④ 干。⑤ 干。⑥ 干。⑦ 干。⑧ 干。⑨ 干。⑩ 干。⑪ 干。⑫ 干。⑬ 干。⑭ 干。⑮ 干。⑯ 干。⑰ 干。⑱ 干。⑲ 干。⑳ 干。㉑ 干。㉒ 干。㉓ 干。㉔ 干。㉕ 干。㉖ 干。㉗ 干。㉘ 干。㉙ 干。㉚ 干。㉛ 干。㉜ 干。㉝ 干。㉞ 干。㉟ 干。㊱ 干。㊲ 干。㊳ 干。㊴ 干。㊵ 干。㊶ 干。㊷ 干。㊸ 干。㊹ 干。㊺ 干。㊻ 干。㊼ 干。㊽ 干。㊾ 干。㊿ 干。



## 貴

12画  
[貝・5画]  
くがひい

おんキ  
くん 貴  
たつとい・どうとい・たつと  
ぶ・どうとぶ

貴貴貴貴貴貴貴貴

貴

いあ ① どうとい。「貴」  
重・貴金属・貴婦人・貴  
族・高貴 ② 相手に関係の  
あることはにつけて、尊敬の意味を  
表すことは。あなたの。「貴兄・貴  
下・貴社・貴国」

使用方 ① かれは、チームにとって  
貴重な選手だ。 ② 貴金属をとりあつ  
かっている店。 ③ 冬山登山で、貴い  
体験をした。 ④ 真理を貴ぶ。 ⑤ 貴社  
(「あなたの会社」の製品は、実にす  
ばらしい。

なり 貴 貴 (「両手で丸く  
つようす」と「お金や品物を組  
み合わせた字」。

## 危

6画  
[匕・4画]  
ふしつくり

おんキ  
くん 危  
あぶない・あやうい・あやぶ

危危危危危危危危

危

いあ あぶない。また、  
あぶないめにあわせる。  
また、あやぶむ。「危険・  
危機・危急・危害」

使用方 ① 危険な場所を遊ばないこ  
と。 ② 思いがけない危機に直面し  
た。 ③ 病人は昨日からずっと危篤  
状態(「今にも死にそうな状態」だ。  
④ 危害を加える(「人を傷つける」。  
⑤ 危ういところを助けてもらった。  
⑥ 計画の実現が危ぶまれる。

なり 危 危 (危) 人が  
けの上  
と下にしがんだようすからできた  
字。あぶないがけに来て、人がしや  
がみこむことをあらわす。

## 机

6画  
[木・2画]  
いきへん

おんキ  
くん 机  
つくえ

机机机机机机机机

机

いあ つくえ。台。「机」  
上・机下(「手紙で、相  
手の名前の下にそえるこ  
とは」勉強机)

使用方 ① 妹は小学校の入学祝いに、  
新しい学習机を買ってもらった。  
② 机上に配布したプリントを  
らんくさい。  
③ 机上の空論  
(「頭の中で考  
えただけで実現  
しそうな理想」  
論)。

なり 机 机 (机) 木(「き」と「几(「木の台)を組  
み合わせた字。書きものをす  
る台をあらわす。

## 揮

12画  
[扌・9画]  
てへん

おんキ  
くん 揮  
ふりまわす

揮揮揮揮揮揮揮揮

揮

いあ ① ふりまわす。  
手をまわしてさしすす  
る。「指揮」② 外にあらわ  
す。また、外にとびちる。「発揮・揮発」

使用方 ① オークストラの指揮をす  
る。 ② 市長が陣頭指揮をして、水害  
地の復旧作業がすすめられている。  
③ 自分たちの力を思うぞんぶん発揮  
して(「表に出して」優勝した。 ④  
ガソリンなどの液体がふつうの温度  
で気体になることを揮発といいます。  
⑤ ペンジンは揮発性の強い液体だ。

なり 揮 揮 (揮) 手(「て」と「軍(「ぐるり」とま  
わりをかこむ)を組み合わせ  
た字。円をえがくように手を動かす  
ことをあらわす。

## 吸

6画  
[口・3画]  
くちへん

おんキ  
くん 吸  
すう

吸吸吸吸吸吸吸吸

吸

いあ すう。すいこむ。  
すいこむ。また、とりい  
れる。「吸入・吸引・  
吸入・吸着・呼吸」

使用方 ① かわいたスポンジは水を  
よく吸います。 ② 本を読んで、新し  
い知識を吸収する。 ③ このそうじ  
機は吸引力が強い。 ④ 病人に酸素  
を吸入する。 ⑤ 吸血鬼の映画を  
見てこわくなった。 ⑥ 大自然の中  
で思いきり深呼吸をする。

なり 吸 吸 (吸) 口(「くち」と「及(「とどく)を  
組み合わせてできた字。口が  
あるものとどいて、すいこむこ  
とをあらわす。「及」は、「キュウ」の音  
もあらわす。



# 供

8画  
[イ・6画]  
く・にん・べん



供供供供供供供供供供

## 供

**い** ①そなえる。「供物・供養」②さしだす。「供給・提供」③のべる。「供述・自供」④人につきしたがう。また、その人。とも。

**使** ①先祖の仏前に花を供える。先祖の霊を供養(＝供物をそなえてまつること)する。必要の品物を供給する。犯行を自供(＝自分のした悪いことを白状すること)する。日曜日に、父のお供で理髪店に行った。

**なり** ①(人)と共(＝両手)をそろえてささげる(＝組み合わせてきた字。「そなえる」という意味をあらわす)。

# 胸

10画  
[月・6画]  
く・に・づき



胸胸胸胸胸胸胸胸胸胸

## 胸

**い** ①むね。「胸部・胸囲・胸像・胸元」②心。気持ち。「胸中・度胸・胸さわぎ」。

**使** ①胸いっぱいに息を吸いこんだ。身体測定で胸囲をはかった。学校には初代の校長先生の胸像があります。胸元にペンダントが光る。事故で子どもをなくした遺族の胸中を思いやる。よしこさんは、度胸がすわっている。

**なり** ①(からだ)と匈(＝くぼんだあなを外からつつんだようす)を組み合わせた字。骨にかこまれたからだの中の大きなあなで、「むね」をあらわす。

# 郷

11画  
[尸・8画]  
く・お・お・と



郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷

## 郷

**い** ①地方。いなか。また、ふるさと。「郷土・郷里・故郷・帰郷」②特別の何かがある場所。「水郷・理想郷」。

**使** ①郷土料理を味わう。郷に入っては郷に従え(＝住もうとする土地の習慣にしたがうのがよい、という意味のことわざ)。生まれ育った故郷をなつかしむ。正月には帰郷する予定です。

**なり** ①(人)と郷(郷)を組み合わせた字。ごちそうをはさんで向かい合う二人から、向かい合う村々の意味になった。

# 勤

12画  
[力・10画]  
く・ちから



勤勤勤勤勤勤勤勤勤勤

## 勤

**い** ①つとめる。はたらく。また、つとめ。「勤務・勤労・勤勉・通勤」②僧が毎日行う修行。つとめ。「勤行」。

**使** ①父は、食品関係の会社に勤めています。この会社の勤務時間は九時から五時までです。朝の電車は、通勤客でひじょうに混みます。おじが、北海道に転勤することになりました。

**なり** ①もとの字は「勤」。董(＝水分を出しつくしてかわききり、こなごなになること)と力(＝ちから)を組み合わせた字。力を出しつくしてこまめに働くことをあらわす。

# 筋

12画  
[々・6画]  
く・たけ・かん・むり



筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

## 筋

**い** ①からだのすじ。「筋肉・筋骨・筋力・腹筋」②細長いもの。「筋金・鉄筋」③長くうけついているもの。「血筋」④ものごとの道理。「筋道」⑤物語の続きぐあい。「筋書き」。

**使** ①はげしい運動のあとで筋肉がいたむ。校舎は、鉄筋コンクリート建てです。かれは野球一筋にがんばっています。筋道(＝ものごとの順序)をたてて話す。

**なり** ①(たけ)と肋(＝あばら骨)を組み合わせてきた字。すじばって、ひきしまったきんにくをあらわす。

### ことばの知識

●三字の熟語のできかた  
漢字三字の熟語のできかた。  
①一字ずつの漢字をならべたもの  
例 衣食住 市町村 松竹梅  
②二字の熟語の下に、一字をつけたもの  
例 学級会 芸術家 宇宙人  
★「化」(＝そのようにすること) 具体化 合理化 機械化  
★「性」(＝そのような性質) 安全性 可能性 感受性  
★「的」(＝その傾向・ようすがある) 積極的 楽天的  
③二字の熟語の上に、一字をつけたもの  
例 新記録 高気圧 絹織物  
※打ち消しの漢字をつけたもの  
「非」 不可能 非常識  
「不」 不可能 不完全  
「未」 未完成 未成年  
「無」 無意識 無責任



## 劇

15画  
[リ・13画]  
〈りっとう〉

劇劇劇劇劇劇劇劇劇

いあ ① しばい。「劇」  
場・劇化・劇的・劇作家・  
演劇・悲劇・喜劇・新劇

劇

2 はげしい。「劇業」  
使い方 ① 新しい劇場がオープン  
した。② 姉は中学校の演劇クラブ  
に入っています。③ わたしは悲劇よ  
り喜劇がすきだ。④ 祖父がテレビで  
時代劇を見ている。⑤ これは劇業で、  
とても危険です。

参者 「はげしい」の意味では、ふつ  
う「激」を使う。「劇」を使うのは、  
「劇業」だけ。  
なり ① 慶(「とら」といふし)とリ  
(「刀」)を組み合わせて、「はげ  
しい」という意味をあらわした字。

## 激

16画  
[シ・13画]  
〈さんずい〉

激激激激激激激激激

いあ いきおいが強い。  
はげしい。「激流・激論・  
激戦・激痛・激突・激怒・  
激励・感激・急激・過激」

激

使い方 ① 激しい雨に、強い風も加  
わってきた。② 激流の中を、ゴム  
ボートでくだっていった。③ 激戦の  
すえ、一点差で勝利を勝ちとった。  
④ 数々の困難にあいながらも、必死  
に生きようとする主人公の姿に感激  
しました。⑤ 夜になって、急激に  
冷えこんできた。

なり シ(「水」と)激(「強くうつ」)を  
組み合わせた字。水が岩にぶ  
つかりしぶきをあげることから、  
「はげしい」という意味をあらわす。

## 穴

5画  
[穴・0画]  
〈あな〉

穴穴穴穴穴

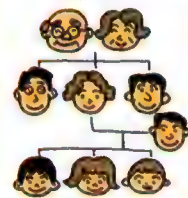
いあ ① 地面などのく  
ぼみ。あな。「穴居・穴  
蔵・墓穴(ほけ・あな)・節穴」②

穴

使い方 ① うら山にほら穴がある。  
② 穴があいたら入りたい(「とても  
はずかしい」)。③ 墓穴をほる(「自分  
て自分の身をほろぼす」)。④ あのと  
ムはキーパーが穴(「欠点」)だ。

なり ① 穴(「左右に分ける」)  
を組み合わせてきた字。土をほっ  
てつくった大むかしのあなぐらの家  
をあらわす。

## 系

7画  
[糸・1画]  
〈いと〉

系系系系系系系系系

いあ ① つながり。「系」  
統・系列・体系・系図・父  
系・母系 ② つながりのあ  
る集まり。「太陽系・理科系・文科系」

系

使い方 ① もっと系統(「すじみち」)  
だてて話してください。② おじは、  
あの銀行の系列(「つながりがある  
こと」)の会社につとめている。③ 我  
が家の家系をたどると、昔は武家だ  
った。④ 太陽系の星は、太陽を中  
心に回っている。

なり ① 引きのはす  
るしと糸(「糸」)  
系を組み合わせてきた字。糸を  
つないでいて、長くのはすことを  
あらわす。

## 敬

12画  
[父・8画]  
〈ぼくにょう〉

敬敬敬敬敬敬敬敬敬

いあ うやまう。「敬」  
意・敬語・敬服・敬愛・敬  
老・敬遠・敬礼・尊敬

敬

使い方 ① 人を敬う気持ちを大切に  
する。② 目上の人と話すときは、  
語を使う。③ かれのがまん強さには、  
いつも敬服している。④ 九月十五  
日は敬老の日です。⑤ 四番バッター  
を敬遠する。⑥ あの人、心から尊  
敬できる人です。

なり 敬(「敬」)つじの  
つ(「と」)と人(「ひと」)と口(「くち」)と  
(「動詞の記号」)を組み合わせた字。  
つのにふれてはつとおどろくことか  
ら、かしこまることをあらわす。

## 警

19画  
[言・12画]  
〈いう〉

警警警警警警警警警

いあ ① 注意して用心さ  
せる。また、とりしま  
る。まもる。「警告・警  
報・警備・警察・警官・警護・警視庁・  
夜警」

警

使い方 ① 地しんの後すぐ、津波警  
報が出た。② 警備が厳重なビル。  
③ おじさんは警察官です。④ 列車が  
するどい警笛を鳴らす。

なり ① 警(「警」)つじのつ(「つ」)の  
ふれないようにする(「ことば」)と口(「くち」)  
の記号と言(「い」)を組み合  
わせた字。ことばで注意して、用心  
させることをあらわす。











# 刻

8画  
[リ・6画]



おん  
こく  
きざむ

刻刻刻刻刻刻刻

刻

**いみ** ①ほりつける。きざむ。「刻印・彫刻」  
きびしい つらい。「刻々」  
苦・深刻 ③時間のひとくぎりひとくぎり。とき。「時刻・定刻・夕刻」  
**使い方** ④ぼくのおじは彫刻家です。兄が、いつになく深刻な顔をしている。朝の通学時には、五分刻みにバスがくる。時計を見ると、時刻は、ちょうど正午だった。会議は定刻に始まった。かれはきょう遅刻した。  
**なり** 変(「ぶたの骨組み」とリ(「刀」を組み合わせてできた字。かたいものに、刀でかどはった切れ目を入れることをあらわす。

# 穀

14画  
[禾・9画]  
(のぎへん)



おん  
こく  
きざむ

穀穀穀穀穀穀穀

穀

**いみ** ①こくもつ。米。麦など。「穀物・穀類・五穀・雑穀・米穀」  
つにつぶ。また、そのから。「脱穀」  
**使い方** ④この地方は穀物の生産量が多い。父の出身地は、日本の穀倉地帯として有名な所です。五穀とは、米・麦・豆・あわ・きびのことです。コンバインはいねをかき取りながら脱穀する機械です。  
**なり** 穀(「穀」(「動物や植物の外側をおおっているかわ」とにている。もとの字は「穀」。穀(「かた」(「禾」(「作物」)を組み合わせた字。かたいからをかつたこくもつの実をあらわす。

# 骨

10画  
[骨・0画]  
(ほね)



おん  
こく  
きざむ

骨骨骨骨骨骨骨

骨

**いみ** ①からだを開づくるほね。「骨折・骨格・骨肉・背骨・人骨・白骨・遺骨」  
②からだ。「骨身・老骨」  
③ものを組み立てる中心になるもの。「骨子・鉄骨」  
④人が。気性。「気骨・反骨」  
**使い方** ④骨格のしっかりした人。仕事の骨休みに、温泉に行く。あたたかい思いやりが骨身にしみた。計画の骨子(「おもな内容」)。  
**なり** 骨(「ほねの関節」)と(「ほねの関節」)を組み合わせた字。からだのしんにある骨をあらわした字。

# 紅

9画  
[糸・3画]  
いとへん



おん  
こう  
く

紅紅紅紅紅紅紅

紅

**いみ** ①あざやかな赤い色。「紅白・紅葉」  
②紅顔・紅茶・紅潮・紅花・真紅 ③くちびるやほおにつけるべに。「口紅」  
**使い方** ④夕日が空を紅にそめていた。紅白の二組に分かれてたか。山の秋は紅葉が美しい。真紅のばらがさいている。ふざけて母の口紅をつけて、しかられたときだけに使う。  
**なり** 糸(「いと」と工(「コウ」の音をあらわす)を組み合わせた字。べに色にそめた糸、また、その色をあらわす。

# 降

10画  
[巾・7画]  
こきん



おん  
こう  
く

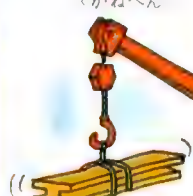
降降降降降降降

降

**いみ** ①おりる。くだる。「降下・降格・降板」  
②ふる。「降雪・乗降」  
③まけて、したかう。「降雨・降雪」  
④のち。「以降」  
**使い方** ④電車の乗り降りは順序よくしよう。バラシユートで降下する。冷たい雨が降りしきる。今夜から明日にかけて、かなりの降雪がみこまれます。力つきて降参した。六時以降は家にいます。  
**なり** 降(「降」(「下」)を向いた両足)を組み合わせた字。

# 鋼

16画  
[金・8画]  
かねへん



おん  
こう  
く

鋼鋼鋼鋼鋼鋼鋼

鋼

**いみ** きたえて質をかくじょうぶにした鉄。はがね。「鋼鉄・鋼材・製鋼・鉄鋼」  
**使い方** ④鋼のような肉体の人。工場から鋼材(「物をつくる材料」)となる鋼鉄が運びだされる。製鋼所のえんとつが見える。このあたりは昔から、鉄鋼の町としてさかえてきた。  
**なり** 金(「金」と岡(「高くして平らな土地」)を組み合わせてできた字。かたい金属のはがねをあらわす。











# 視

11画  
[見・4画]  
みる



視視視視視視視視視視視視視視視視

視

**いみ** ① 気をつけてみる。みる。「視察・視力・視界・視野・視点・視線・視覚・視聴・覚・正視」② そのように見なす。「重視・軽視・無視・敵視」  
**使い方** ▼市長さんが、学校の視察に見えた。▼山頂に登ると、視界が開けた。▼もっと広い視野でものごとを考えよう。▼みんなの意見を重視して決めた。▼あいさつをしたのに、無視されてしまった。  
**なり** もとの字は「視」。示(「シ」の音をあらわす)と見(「ミ」の音を組み合わせてきた字。示の本来の意味の「祭だん」とは関係がない。まっすぐみること。

# 詞

12画  
[言・5画]  
ことば



詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞詞

詞

**いみ** ① ことば。「詞章・作詞・歌詞」② 性質によつて分けた、ことばのまとまり。「品詞・名詞・動詞・代名詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助詞・助動詞」  
**使い方** ▼最近、作詞を始めた。▼歌詞をおぼえる。▼名詞(「人」や物の名まえを表すことば。「家」「動物」「花子」など)。▼動詞(「物の動きや、はたらきなどを表すことば。「行く」「働く」「話す」など)。▼形容詞(「ものの性質やようすを表すことば。「美しい」「白い」「広い」など)。  
**なり** 言(「ことば」と同)と司(「シ」の音をあらわす)を合わせた字。

# 誌

14画  
[言・7画]  
ことば



誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌誌

誌

**いみ** ① 事実を書きしるす。また、書きしるしたもの。「日誌」② ざつし。「誌面・誌上・雑誌・週刊誌」  
**使い方** ▼交代で、うさぎの飼育日誌をつける。▼スポーツ選手の活やくの記事が誌面をかざる。▼クイズの答えは、来月号の誌上(「雑誌の記事の中」で発表します)。  
**なり** 言(「ことば」と同)と志(「心」がある一点をめざしてとまること)を組み合わせた字。大切なことはを書物に書きとめたり、心の中にためておいたりすること。

# 磁

14画  
[石・9画]  
いしへん



磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁磁

磁

**いみ** ① 鉄をひきつける性質。また、その性質を持つていすること。「磁石・磁気・磁力・磁針・磁場」② 高い温度で焼いたかたい焼き物。「陶磁器」  
**使い方** ▼鉄の棒にコイルを巻いて電磁石を作る。▼リニアモーターカーは、磁力で車体を浮かせて走る。▼陶磁器(「焼き物」)をあつかう店。  
**なり** 石(「いし」と同)と兹(「ズ」の音を組み合わせてきた字。鉄を引きつけて大きくなっていく石をあらわす)。

# 射

10画  
[寸・7画]  
すん



射射射射射射射射射射射射射射射射

射

**いみ** ① 矢をはなつ。また、銃\*などで、たまをうつ。「射殺・射撃・発射・試射」② 光・電波・液体などを、勢いよくだす。はなつ。「注射・反射・直射・放射・噴射」  
**使い方** ▼矢的を射る。▼ロケットを発射する。▼インフルエンザの予防注射をうけた。▼夕日が湖面に反射している。▼直射日光がまぶしい。  
**なり** 手(「て」と同)と射(「し」の音を組み合わせた字。弓を引きしぼって矢をはなつことをあらわす)。

# 捨

11画  
[キ・8画]  
くへん



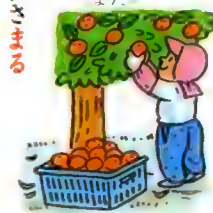
捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨

捨

**いみ** ① ずてる。ほうつておく。「取捨・四捨五入」② 寺や僧\*に、寄付する。「喜捨」  
**使い方** ▼捨て身(「いのちがけ」)になつてものごとにつかつていく。▼百の位を四捨五入して、千の位までのがいく数で表してください。▼祖母は、寺によく喜捨(「喜んでほどこしをすること」)をしている。  
**なり** 手(「て」と同)と舍(「カ」からだから場所)を組み合わせてきた字。手の力をぬき、指をのばしてつかない物をはなすことをあらわす。「舍」が「シャ」の音をあらわす。



## 収

4画  
[又・2画]  
[また]

収収収収

収

おん シュウ  
おさめる・おさまる

収

**い** ① 中に入れる。  
また、手に入れる。「収容・収納・収録・吸収・回収・収入・収支・収集・収獲」  
② まとめる。おさめる。「收拾」  
**使** ① みごと成功を収める。  
このかばんなら、荷物が全部収まるだろう。▼六万人収容する競技場。  
▼野鳥の声をテープに収録した。  
▼切手の収集がしゅみです。▼客がおしかけて、收拾がつかない。  
**なり** 収 ① 二本のひもをひとつによじり合わせる。と収(＝手)を組み合わせた字。ばらばらのものを、ひとところに集めることをあらわす。

## 尺

4画  
[尸・1画]  
くしかばね

尺尺尺尺

尺

**い** ① 昔使われた長さの単位。一尺は約三十センチ。「尺貫法」  
② ものさし。また、長さ。「尺度・巻き尺・くじら尺・縮尺」  
**使** ① 祖父はよく、尺八(＝長さが一尺八寸の竹のたて笛)の練習をしています。▼この地図は五万分の一の縮尺です。▼善悪の尺度(＝ものごとをはかるひょうじゆん)は、人によってちがう。▼巻き尺を使って、ボール投げのきよりをはかった。  
**なり** 尺 ① 人が手の指を広げて、長さをはかるようすをあらわした形からきた字。

## 若

8画  
[艹・5画]  
うかんむり  
老 285

若若若若若若

若

**い** ① わかい。おさない。「若者・若葉・若草・若君・若年・老若(＝年齢)・若人」  
② いくらか。「若干」  
③ あるいは。または。  
**使** ① 祖父は、若いころからつりにこっている。▼校庭のすみに、桜の若木を植える。▼老若男女(＝年よりも若者も男も女も、みんな)が輪になって、おどった。▼意見に若干(＝少し)のくいちがいがある。  
▼月曜若しくは火曜に来てください。  
▼毛を両手でとかしている、からだのやわらかい女のすがたからきた字。

## 宗

8画  
[宀・5画]  
うかんむり

宗宗宗宗宗宗

宗

おん シュウ・ソウ

**い** ① 本家。家元。  
「宗家」  
② 神や仏の教え。  
また、それを信じる人たちの団体。「宗教・宗徒・宗派・宗旨」  
**使** ① かれは、おどりの宗家(＝流派の中心となる家)の子に生まれた。▼仏教には、天台宗・真言宗・浄土宗・禅宗など、いろいろな宗派がある。  
**なり** 宗 ① 二つの意味をあらわす。宗教に關係のある意味を表す。合させた字。先祖のたましいがまつてあるところをあらわす。

## 樹

16画  
[木・12画]  
きへん

樹樹樹樹樹樹樹樹

樹

**い** ① 立ち木。「樹木・樹海・樹氷・樹液・樹齢・大樹・果樹園・街路樹」  
② うちたてる。「樹立」  
**使** ① 森には、たくさん樹木がおいしげっている。▼朝日をうけて、樹氷がきらきら光る。▼果樹園の中には、りんご・なしなどいろいろな木が植えてある。▼植木屋さんが、街路樹のプラタナスの枝を切っている。▼水泳の百メートル自由形で、新記録を樹立した。  
**なり** 樹 ① 木と、を立(た)たようす。と収(＝手)を組み合わせた字。

## 就

12画  
[尤・9画]  
だいのまけあし

就就就就就就就就

就

おん シュウ・ジュ  
つく・つける

**い** ① 仕事や役目などにつく。また、ある状態になる。「就業・就任・就職・就寝」  
② しとげる。「成就」  
**使** ① 重要な任務に就いたこと。新しい先生の就任(＝役目につくこと)のあいさつがあった。▼おは。この春就職した。▼わたしの就業時間(＝ねる時間)は決まっています。▼この会社は午前九時に就業(＝仕事を始めること)する。▼長年の夢が成就(＝実現すること)した。  
**なり** 就 ① 大きいおかと尤(＝まげた右手)を組み合わせた字。人をよびよせて、ある場所や、役目につけることをあらわした字。







## 除

10画  
[尸・7画]  
〈こぎとへん〉

除除除除除除除除

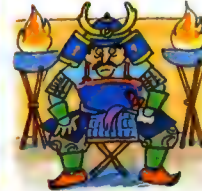
除

いあ ①とりさる。のぞく。「除去・除外・除草・除雪・除名・除湿・解除・掃除」②わりざんをする。また、わりざん。「除法・乗除」

使用方 ▲欠席の人を除いて、全員賛成です。▼雪の多い地方では、除雪作業がたいへんです。▼お好みそかの夜、除夜のかねを聞きながら年越しそばを食べる。▼掃除道具をかたづける。

注意 「除」とまちがえないこと。  
なり ①「除」もり上げた土と余(「たち」おしのける)を組み合わせた字。じゃまになる土を、おしのけることをあらわす。

## 将

10画  
[寸・7画]  
〈すん〉

将将将将将将将将

将

いあ ①軍隊やチームをひきいる人。「將軍・主將」②軍人の階級をあらわすことば。「將官・大將」③これから：しようとする。「将来」

使用方 ▲兄は、中学のバレー部で主將になった。▼昔の軍隊では、大將という階級がいちばん上だったそう。▼ぼくは將來、Jリーグの選手になりたい。

注意 「将」の筆順に気をつける。  
なり ①「将」もり上げた土と余(「たち」おしのける)を組み合わせた字。大ぜいの人々をさしずするからの意味をあらわす。

## 傷

13画  
[イ・11画]  
〈にんべん〉

傷傷傷傷傷傷傷傷

傷

いあ ①からだや品物をきずつける。いため。また、いたむ。きず。「傷害・負傷・軽傷・重傷・死傷・中傷・損傷」②つらい思いをする。「傷心・感傷」

使用方 ▲ばらのとけて、手が傷だらけになった。▼りんごが傷んでいる。▼野球の試合で負傷した。▼秋になると、感傷的な気分になる。

参考 「傷む」は、物がわるくなること。「痛む」は、からだや心にいたみを感じることをあらわす。

なり ①「人」と易(「きずつく」)を組み合わせた字。物に強くあたって、きずつくことをあらわす。

## 処

5画  
[几・3画]  
〈つゝえ〉

処処処処処

処

いあ ①ある場所にいる。また、いるところ。「出処」②しまつする。「処理・処置・処分・処刑・対処」

使用方 ▲出処進退(「てきごと」が起ったときの行動のしかた)を明らかにする。▼けがの応急処置。▼古本を処分した。▼いろいろな問題をきばきと処理する。▼処女作(「初めて」の作品)を出版する。▼非常事態にすみやかに対処する。

なり ①「処」もり上げた土と余(「たち」おしのける)を組み合わせた字。足をきめて台にこしかけることから、場所の意味をあらわす。

## 署

13画  
[四・8画]  
〈あみがしら〉

署署署署署署署署

署

いあ ①役所。また、わりあてられた役目。「署長・署員・部署・消防署・警察署」②書きしるす。「署名」

使用方 ▲署長が署員の前で、朝のあいさつをする。▼係員がそれぞれの部署(「わりあてられた役目の場所」)につく。▼消防署は、二十四時間出動態勢だ。▼この書類に署名をしてください。

注意 「署」とまちがえやすい。  
なり ①「署」の音をあらわす(「あみ」)と組み合わせる。あみ目のように分かれた持ち場に、人を配置すること。

## 諸

15画  
[言・8画]  
〈こんべん〉

諸諸諸諸諸諸諸諸

諸

いあ あることはの上について、「いろいろな」という意味を表すことば。「諸国・諸島・諸説・諸君・諸問題」

使用方 ▲ヨーロッパ諸国を旅する。▼南西諸島の島々をめぐる歩く。▼諸君(「みなさん」の意味で大ぜいの人々によびかけることば)に一言お話ししたい。▼校内で起っている諸問題について、話し合う。

注意 「緒」とまちがえないこと。  
なり ①「諸」もり上げた土と余(「たち」おしのける)を組み合わせた字。物を強くあたって、きずつくことをあらわす。



# 針

10画  
〔金・2画〕  
かねへん



針

針 針 針 針 針 針 針 針 針 針

おん シン  
くん はり

いみ はり。また、はり

の形をしたもの。「針箱・長針・短針・秒針・針金」

使用方 針の穴に糸を通す。時計の短針は「時」を、長針は「分」をしめしています。最初の方針とおりに、計画を進める。船の針路を南にとる。松やすすきなどのように、葉が針のような形をしている木を針葉樹という。避\*雷\*針（「かみなり」のひがいを防ぐための金属のぼう）にかみなりが落ちた。

なり 金（「金属」と「（「シン」と「たち」）いう音をあらわす）を組み合わせた字。布や皮をぬうはりをあらわす。

# 仁

4画  
〔イ・2画〕  
くにんへん



仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁

おん ジン・ニ  
くん ー

いみ おもいやり。い

仁術・仁義

使用方 博士の仁愛に満ちた行いに対して、ノーベル平和賞が与えられた。あの人の仁徳あふれる行いには頭が下がる。医は仁術なり（「病気をなおすことは、情け深い行いである」）。仁義（「人として行わなければならない道理」）を重んじる。門の両側に仁王の像がある。

なり 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁

仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁

# 障

14画  
〔フ・11画〕  
くごとへん



障 障 障 障 障 障 障 障 障 障

おん シヨウ  
くん さわる

障

いみ じゃまになる。また、じゃまをする。さへぎるもの。「障害・故障・支障・保障・障子」

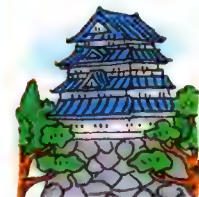
使用方 多くの障害をのりこえた、ヘレン・ケラー。電車が故障でおくれたため、ちこくしてしまつた。テレビゲームは、勉強に差し障りがないでいにする。母は、障子のはりかえをしている。

参考 「障害」は、何かをするのにじゃまになるもの。「傷害」は、人をきずつけること。

なり フ（「かべや土べい」と章（「たち」）「ショウ」の音をあらわす）を組み合わせた字。

# 城

9画  
〔土・6画〕  
くつちへん



城 城 城 城 城 城 城 城 城 城

おん ジョウ  
くん しろ

城

いみ 敵をふせぐためのとりで。しろ。「城門・城主・城壁・城塞・城下町・古城・落城・築城・宮城」

使用方 わたしの町には、古い城あどが残っている。城門をかたくとどす。この町は昔、城下町（「城を中心としてできた町」としてさかえたそうです。落城とともに多くの武士が死んだ。

なり 城 城 城 城 城 城 城 城 城 城

「しろ」をあらわす。

# 蒸

13画  
〔艹・10画〕  
くさかんむり



蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸

おん ジョウ  
くん むす・むれる・むらす

蒸

いみ ①水などがあたためられて気体になる。「蒸発・蒸気・蒸留」②ゆげをあてて熱する。むす。むらす。「蒸し焼き・蒸しぶる・蒸し器・茶わん蒸し」

使用方 ひなたの水たまりの水が、いつのまにか蒸発してなくなつた。水を熱して、その蒸気をひやして作った水を蒸留水といいます。父はSL（「蒸気機関車」）のファンです。蒸し暑い日が続く。ご飯を蒸らしてから食べる。

なり 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸 蒸

## 漢字の知識

● まちがえやすい漢字  
形が似ていたり、音も同じだったりして、まちがえやすい漢字があります。注意しましょう。

城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城
城	域	城	城	城	城	城	城	城	城



























# 討

10画  
[言・3画]  
(こんべん)



討 討 討 討 討 討 討 討 討 討

討

**い** 敵をうつ。せめる。「討伐・追討・征討・夜討」②くわしく調べる。「討議・討論・検討」  
**使** 方 ①にげる敵に追討をかける。②はげしい討論をする(「意見」を言い合う)。③もう一度よく検討して(「調べて確かめて」)から、発表いたします。  
**参** 考 「討」は武力でやっつける。「打」はたたく。「撃」は鉄ぼうなどをうつ。  
**な** り 言(「ことば」と「寸」(「肘」)をりやくした形を組み合わせた字。すみずみまで調べて、ことばはて追求めることをあらわす。

# 党

10画  
[儿・8画]  
(くにんよう)



党 党 党 党 党 党 党 党 党 党

党

**い** 考え方が同じ人々のあつまり。なにか。「党派・黨員・党首・政党」  
**使** 方 ①国会議員が、党派(「同じ考えや意見を持つ人の集まり」)をこえて協力する。②新しい党首が選ばれた。③新しい政党をつくる。  
**参** 考 「徒党」(「悪いことをたくらむ人の集まり」)を組んでいたずらをする。  
**な** り 「悪党」(「悪人」)は、大ぜいの人てはなくひとりのときという。  
**な** り もとの字は「黨」。尚(「もとの」)という音をあらわした)と「黒」(「わるい」)を組み合わせた字。多くの人が集まって、不正な取り引きをすることをあらわす。

# 糖

16画  
[米・10画]  
(こめへん)



糖 糖 糖 糖 糖 糖 糖 糖 糖 糖

糖

**い** ①さとうきびなどからつくるあまい食品。「砂糖・製糖・糖蜜」  
**2** 水にとかすあまみのある炭水化物。「糖類・糖分・ぶどう糖」  
**使** 方 ①紅茶に砂糖を二はい入れる。②社会科見学会で、製糖工場に行った。③ホットケーキに糖蜜をかけて食べた。④このおかしは糖分が少ないので、あつさりした味がする。  
**参** 考 ①果物には、果糖とぶどう糖が多くふくまれている。  
**な** り 米(「こめ」と「唐」(「トウ」)の音をあらわす)を組み合わせた字。米からあめをつくったことから、さとうの意味をあらわす。

# 賃

13画  
[貝・6画]  
(こがい)



賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃

賃

**い** 人のほたらきに對してはらうお金。また、物などを利用したことに對してはらうお金。「賃金・賃上げ・賃貸・運賃・家賃・賃貸」  
**使** 方 ①従業員に賃金をはらう。②お使用をしてお駄賃をもらった。③来月から、バスの運賃が上がる。④月々の家賃を銀行にふりこむ。⑤賃貸(「お金をとって貸すこと」)のマンションが近くにできた。  
**な** り 貝 Y 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃 賃  
物をかかえこむようす)と貝(「お金」)を組み合わせた字。お金をはらって、人をやとうことをあらわす。

# 痛

12画  
[疒・7画]  
(やまいだれ)



痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛

痛

**い** ①からだに苦しき・つらさを感じる。いたむ。「苦痛・心痛・頭痛・腹痛・悲痛」②ひどく。ひじょうに。「痛切・痛感・痛快」  
**使** 方 ①母は、朝からずっと頭痛になやまされている。②病気になるてはじめて、健康のありがたみを痛切に感じた。③戦争の話聞いて、平和のありがたさを痛感した。④トムソーヤーの物語は、実に痛快だ(「非常にゆかいだ」)。  
**な** り 疒 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛 痛  
氣を組み合わせてきた字。つきぬけるようなひどいいたみの意味をあらわす。

# 展

10画  
[尸・7画]  
(しかはね)



展 展 展 展 展 展 展 展 展 展

展

**い** ①広げる。また、広げならべる。「展示・展覧会」②広がりさかんになる。「展開・発展・進展」③広くなめる。「展望」  
**使** 方 ①自由研究の作品が展示してある。②父と、絵の展覧会を見に行った。③車窓には美しい景色が展開している。④話し合いは進展を見ない(「進まない」)。⑤展望台から海をながめた。  
**な** り 尸 展 展 展 展 展 展 展 展 展 展  
と食(「着物をおもてのばす」)を組み合わせた字。着物の上からだのをせて、平らにのばすこと。



















亡

3画  
[一・一画]  
《なへぶた》おん  
ボウ・モウ  
くれない

亡亡亡

亡

い ① なくなる。ほろびる。「亡失・存亡・滅亡」② しぬ。また、しんていようす。「死亡・亡霊・亡者」③ につけてくれる。「亡命・逃亡」

使 減亡(「ほろびること」した平家(「平」の姓をもつ一族)のあとをたずねる。祖父は八十才で亡くなった。交通事故による死亡者がへった。外国に亡命(「政治的な圧力や、身の危険をさけるため」にほかの国にげること)する。

なり 亡 人をついたててかくすことをあらわした字。あったものがかくれて見えなくなることを。

忘

7画  
[心・3画]  
《こころ》おん  
ボウ  
わすれる

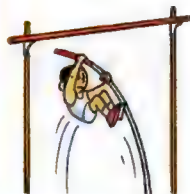
忘忘忘忘忘忘忘

忘

い ① 記おくがなくなる。わすれる。「忘れ物・忘我・忘年会・忘却・健忘症・年忘れ」

使 時間(「時間がたつのも忘れて読書にふけた。父は、忘年会でひろうするかくし芸の練習にはげんでいる。祖母は、近ごろ物忘れがひどくなったとなげいている。よく知っている地名なのに、度忘れしてしまった。亡(「今まであったものがなくなること」)心(「こころ」)を組み合わせた字。心の中にあったものがなくなることをあらわす。「亡」は「ボウ」の音もあらわす。

棒

12画  
[木・8画]  
《きへん》おん  
ボウ

棒棒棒棒棒棒棒

棒

い ① 木・金属などの、細長くまっすぐなものの、また、その形をしたもの。ぼう。「棒磁石・棒立ち・鉄棒・金棒」② 変化のないこと。「棒読み」

使 棒高跳びで、世界新記録がでた。大きな物音におどろいて、馬が棒立ちになった。山下君は鉄棒の名手です。やぶから棒(「とつぜん」に、何を言いたすのですか。教科書を棒暗記(「意味を考えずにそのままおぼえること)しても、実力はつきません。木(「き」と奉(「りやうて」)を組み合わせた字。両手でさげ持つ木のぼうをあらわす。

暮

14画  
[日・10画]  
《ひ》おん  
ボ  
くれる・くらす

暮暮暮暮暮暮暮

暮

い ① 日がくれる。また、そのころ。「暮色・日暮れ・夕暮れ・薄暮」② 生活する。くらす。③ 季節や年が終わりになる。また、そのころ。「歳暮(「せわになった人におくる、年の暮れのおくり物」を送る。)

参 莫は「かくれる」という意味。日がかくれるのが「暮」、土にかくれるのが「墓」、布にかくれるのが「幕」。

なり 暮 (「草原のかなたに日がしずむようす」と(「日」)を組み合わせた字。

宝

8画  
[巾・5画]  
《うかんむり》おん  
ホウ  
たから

宝宝宝宝宝宝宝

宝

い ① めずらしくて価値のあるもの。たから。「宝船・宝石・宝物・宝庫・財宝・国宝・秘宝・重宝」

使 父は宝くじにあたった夢を見たそう。いろいろな宝石をちりばめたかんむり。神社の宝物殿を見学した。オホーツク海は魚の宝庫だ。国宝の仏像の展覧会があった。

なり 寶(寶) (「玉」と金(「水」などを入れる、土をつくったうつわ)と貝(「たから」もの)を組み合わせた字。大切なものをやねの下にしまっておくこと。

訪

11画  
[言・4画]  
《ごんべん》おん  
ホウ  
おとずれる・たずねる

訪訪訪訪訪訪訪

訪

い よその土地や家などへ出かけていく。おとずれる。たずねる。

参 訪問・訪日・来訪・歴訪・探訪

使 何年ぶりに、生まれ育つたふるさとを訪れました。昨日、父といっしょにおじさんの家を訪ねました。あしたから、家庭訪問が始まります。来月の末に、アメリカの大統領が訪日する(「日本を訪れる」予定)です。

なり 訪 (「こと」とカ(「左右にはり出す」)を組み合わせた字。右や左に歩いて、ことばをたずねることをあらわす。



## 枚

8画  
[木・4画]  
きへん

枚 枚 枚 枚 枚 枚 枚 枚

**い** ①数える。「枚」  
②紙・板・うすい物な  
どを数えることは、「紙」  
一枚、③昔、お金などを数えるとき  
に使ったことは、「大枚・銀一枚」

枚

**使** ①方 大都市では、そんな事件は枚挙にいとまがない(「たくさんあって数えきれない」)。  
②試験用紙の枚数を数える。  
③作文用紙が五枚必要だ。  
④大枚をはたいて(「たくさんのお金を使って」)買う。  
⑤木(「き」と文(「ぶん」)に持つ)を組み合わせてできた字。手に持つつえやむちのことをあらわす。のちに、同じ種類のものを数えるときに使う単位として使われた。

## 幕

13画  
[巾・10画]  
はば

幕 幕 幕 幕 幕 幕 幕 幕

**い** ①物をおおった  
り、しきりやかざりに使  
ったりする広く長い布。  
②暗幕・字幕・除幕  
③将軍が政治を  
とる所。  
④幕府・幕末・討幕  
⑤劇などの  
ひとくぎり。場面。  
⑥終わり。

幕

**使** ①方 卒業式の会場で紅白の幕をはりめぐらす。  
②徳川幕府は三百年近く続いた。  
③ここは君の出る幕ではない。  
④複雑な事件のわりには、あつけない幕切れだった。  
⑤「幕」(「き」と「幕」(「ぼく」)を組み合わせるようすと「小」(「せう」)を組み合わせさせた字。物におおいをかぶせて見えなくすることをあらわす。

## 密

11画  
[宀・8画]  
うかんむり

密 密 密 密 密 密 密 密

**い** ①すきまなく集  
まっている。また、くっ  
ついている。「密集・密  
生・密閉・密度・密接・密林」  
②こまか  
いきとどいてる。「精密・厳密」  
③こっそり行うようす。「秘密・内  
密・密約・密告・密書」  
④親しい。「親密」

密

**使** ①方 密に注意しよう。  
②人口密度の高い地域。  
③あの国とは密接な関係がある。  
④旅行の綿密な計画を立てる。  
⑤このことは、二人だけの秘密だ。  
⑥親密な間から。  
⑦「密」(「み」と「宀」(「やま」)を組み合わせる)と「山」(「やま」)を組み合わせさせた字。

## 盟

13画  
[血・8画]  
さ

盟 盟 盟 盟 盟 盟 盟 盟

**い** ①かたやうよく  
をする。また、そのよく  
よく。ちかひ。「盟主・盟  
約・同盟・加盟・連盟」

盟

**使** ①方 かれを盟主(「なかつ」)仲間の中  
心となる人)とおおぐ人々が集まっ  
た。  
②同じ考えの仲間を盟約(「なかつ」)  
たい約束)を結んだ。  
③外国と同盟  
を結ぶ。  
④今度、ボーイスカウト連  
盟に加盟した。

**な** ①ものごと  
が見える(と「な」(「さ」)を組み合わせ  
た字。さらに入れた、神にささげる  
いけにえの血をすすって、神にあか  
しをたてることをあらわす。

盟

## 模

14画  
[木・10画]  
きへん

模 模 模 模 模 模 模 模

**い** ①手本。「模範」  
②手本をまねる。「模写」  
③か  
模型・模造・模倣

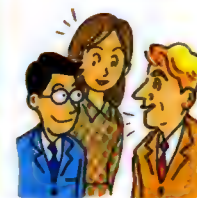
模

**使** ①方 先生が、最初に模範(「もはん」)  
を示した。  
②有名な画家の絵を模写  
(「まねてかくこと」)する。  
③模型飛  
行機をつくる。  
④母が、美しい模様  
の着物を着ている。  
⑤大規模な工事  
が始まった。

**な** ①「膜」(「まく」)とまちがえないこと。  
②「模」(「も」)と「木」(「き」)と「目」(「め」)  
しずんで見えなくなる(「も」)を組み合わ  
せた字。ねん土をおしつけて同じ物  
をつくるための木のい型のこと。

模

## 訳

11画  
[言・4画]  
こんべん

訳 訳 訳 訳 訳 訳 訳 訳

**い** ①ある国のこと  
ばや古いことばを、ほか  
の国のことばや現代のこ  
とばになおす。また、なおしたも  
の「訳文・和訳・英訳・通訳・翻訳・現代  
語訳」  
②わけ。理由。

訳

**使** ①方 この小説は、五か国語  
に訳されているそうす。  
②最近  
同時通訳といって、話すそばから訳  
する場合もある。  
③あなたがこつて  
いる訳(「理由」)を、教えてください。  
④おそくなって申し訳ありません。

**な** ①「訳」(「やく」)と「言」(「ごん」)  
と「心」(「しん」)を組み合わせた字。  
②「訳」(「やく」)と「心」(「しん」)  
と「心」(「しん」)を組み合わせた字。

訳















漢字	及	刃	与	介	凶	幻	互	升	井	斗	乏	巨	甲	召	占	弘
音訓	キユウ・およ・お	ハノ・は	ヨ	カイ	キヨウ	ゲン	ゴ	タガイ	セイ・シヨウ	ト	ボウ	キヨ	コウ・カン	シヨウ	セン	フツ
語例	追及・普及	刃物・刀先	与党・授与	紹介・介護	凶作・凶器	幻灯・幻想	交互・相互	一升びん	天井・井戸	北斗七星	欠乏・貧乏	巨大・巨人	甲子園・甲板	召集・召使	占領・独占	支払
漢字	矛	汚	汗	企	吉	仰	江	旨	朱	充	旬	壯	肌	伏	朴	戒
音訓	ム	カン	キ	キチ・キツ	ギョウ・コウ	アホ・オホ	コウ	シユ	ジュウ	アデ	ジュン	ソウ	ハダ	フク	ボク	カイ
語例	矛盾	汚点・汚染	発汗・汗水	企画・企業	吉凶・不吉	仰視・仰天・信仰	江戸・入り江	要旨・論旨	朱印状・朱色	充実・充電	上旬・下旬	壮大・壮観	肌身・肌着	伏線・起伏・降伏	素朴	戒名
漢字	肝	却	狂	迎	坑	抗	攻	佐	寿	秀	床	肖	伸	杉	枳	冲
音訓	カン	キモ	キヤク	キヨウ・くるう	ゲイ	コウ	コウ	サ	ジュ	シユウ	シヨウ	シヨウ	シン	シ	タク	チュウ
語例	肝臓・肝つ玉	焼却・返却	狂言・狂気	迎春・送迎	炭坑・坑道	抗議・対抗	攻撃・特攻隊	大佐・中佐・少佐	寿命・長寿	優秀・秀才	起床・寢床・床下	肖像画	伸縮・甘伸び	杉並木・縄文杉	採択・選択	冲積層・沖合い

はこれに  
配列は、総画順です。上の数字  
は、総画数です。  
音訓のらんは、かたかなが音  
読み、ひらがなが訓読み、赤色  
の字は送りがなです。



漢字	音訓	語例
掃	ソウ はく グツ・ぬげる	清掃・掃除
室	シツ ちつ ぬく・ぬける	脱退・脱皮
彫	テイ ほる チヨウ	彫刻・彫像
偵	テイ ほる チヨウ	探偵・偵察
添	テン そえる・そう トウ	添加・添付
陶	トウ そえる・そう 陶磁器・陶芸	陶磁器・陶芸
婆	バ ハ ハ	老婆
排	ハイ ハ ハ	排水・排気ガス
培	バイ ハ ハ	培養
販	バン ハ ハ	自動販売機
描	ビョウ ハ ハ	描写・点描
猫	ネコ ハ ハ	山猫
符	フ ハ ハ	符号・切符
麻	マ ハ ハ	麻薬・麻酔
偉	エイ ハ ハ	偉人・偉大
越	エツ ハ ハ	優越・越冬地
援	エン ハ ハ	援助・応援
奥	オウ ハ ハ	奥地・奥底
換	カン ハ ハ	交換・換気
喫	キツ ハ ハ	喫煙・喫茶店
漢字	音訓	語例
距	キョ ギョ・ゴ ケン	距離
御	ギョ ギョ・ゴ ケン	御所・御中
圈	ケン ギョ・ゴ ケン	北極圈・首都圈
硬	コウ ギョ・ゴ ケン	硬貨・硬度
項	コウ ギョ・ゴ ケン	項目・事項
湿	シツ ギョ・ゴ ケン	湿原・湿地
晶	シヨウ ギョ・ゴ ケン	結晶・水晶
掌	ショウ ギョ・ゴ ケン	合掌づくり
殖	ショク ギョ・ゴ ケン	養殖
診	シン ギョ・ゴ ケン	診察・往診
訴	ソ ギョ・ゴ ケン	直訴・告訴
疎	ソ ギョ・ゴ ケン	疎開・疎遠
葬	ソウ ギョ・ゴ ケン	葬儀・会葬
替	タイ ギョ・ゴ ケン	交替・代替
棚	タナ ギョ・ゴ ケン	棚田・大陸棚
彈	ダン ギョ・ゴ ケン	彈丸・爆彈
遲	チ ギョ・ゴ ケン	遅刻・遅延
超	チョウ ギョ・ゴ ケン	超音波・超能力
塚	ツカ ギョ・ゴ ケン	貝塚・一里塚
堤	テイ ギョ・ゴ ケン	堤防・防波堤
渡	ト ギョ・ゴ ケン	渡航・渡来人
漢字	音訓	語例
廢	ハイ フ フ	廢止・廢藩置縣
普	フ フ フ	普通・普段
幅	フ フ フ	歩幅・幅跳び
募	ボ フ フ	募氣
帽	ボ フ フ	應募・募集・募金
愉	ユ フ フ	愉快
雄	ユウ フ フ	雄大・英雄・雄花
揚	ヨウ フ フ	揭揚・抑揚
硫	リウ フ フ	硫酸
惑	マド フ フ	惑星・迷惑
湾	ワン フ フ	東京湾・湾岸戦争
腕	ワン フ フ	腕力・鉄腕
違	イ フ フ	違反・違法
煙	エン フ フ	禁煙・煙突
鉛	エン フ フ	鉛筆・鉛色
暇	エマ フ フ	休暇・余暇
雅	カ フ フ	雅楽・優雅
較	カク フ フ	比較
勸	カン フ フ	勸告・勸誘
棄	キ フ フ	棄権・廢棄物
漢字	音訓	語例

漢字	俗胎帝峠赴封胞冒盆柳厘華核恐患兼劍軒悟貢剛
音訓	ソク タイ テイ どうけ フ おもむく フウ・ホウ ホウ ボウ おかし ボン リュウ やなぎ リン カ・ケ はな カク キヨウ・おそれる ケイ・エ めぐむ かえる ケン つるぎ ケン のき ゴ さどろ コウ・ク みつゝ ゴウ
語例	民俗・風俗 胎児・胎内 帝国・天帝・皇帝 峠道 赴任 同封・封筒・封建 細胞・胞子 冒頭・冒險 盆地 川柳 一割一分一厘 豪華・華族 結核・核兵器 恐怖・恐縮 恩恵・知恵 兼業農家 剣道・真剣 一軒・軒先 覚悟 貢獻・年貢 金剛石・剛健
漢字	栽劑脂称症振扇租畜哲途桃透唐倒般被疲洩浮紛
音訓	サイ ザイ シ あぶら ショウ ショウ シン ふん・ふる セン おうき ソ チク テツ ト とも トウ・オ すかす・すける から たわ ハ こうむ ヒツ・かみ つから ヒン はま
語例	栽培・盆栽 洗剤・薬剤師 樹脂・脂肪 称号・敬称 症状・花粉症 振動・不振 扇風機 地租改正 家畜・畜産 哲学 用途・途中・途上 桃山時代 透明・浸透 唐突・唐織 倒立・倒木 諸般・一般 被害・被災 疲勞 浜辺・九十九里浜 浮世絵 紛失・紛争
漢字	砲紡竜烈菓涯患脚菌偶掘掲婚斎執斜蛇积洩涉紳
音訓	ハウ ボウ リョウ かつ レツ カ カイ カン おずら キヤク・キヤ キン グウ クツ ほろ ケイ かか コン サイ シウ・シュウ シヤ ジャ ヘビ シャク ジュウ・しゅう しぶい・しぶる シロウ シン
語例	大砲・鉄砲 紡績 恐竜・竜宮城 強烈・痛烈 菓子・茶菓 生涯 患者・急患 脚本・脚力 細菌・殺菌 偶然・偶数 発掘・採掘 揭示板・掲載 婚約・結婚 書齋 執筆・執筆 斜面・傾斜 大蛇・蛇足 釈放・解釈 渋滞・沓茶 干渉・交渉 紳士



漢字	駐	徹	踏	輩	賠	範	盤	敷	膚	舞	墳	撲	魅	默	靈	緯	壞	還	儒	獸	濁	
音訓	チュウ	テツ	トウ	ハイ	ハイ	パン	パン	フ	フ	フ	フ	ボク	ミ	モク	レイ・リョウ	イ	カイ	カン	ジュ	ケモノ	ダク	
語例	駐車・駐在	徹底・徹夜	雑踏・踏み絵	先輩・後輩	賠償金	範圍・模範	地盤・羅針盤	敷設・敷地・屋敷	皮膚	舞台・歌舞伎	古墳	打撲・撲滅	魅力・魅了	默読・暗黙	精霊・悪霊	緯度・北緯	破壊・崩壊	返還・帰還	儒学・儒教	野獸・鳥獸	濁音・濁点・濁流	
漢字	濃	薄	壁	謡	頼	隣	鍊	環	謙	購	償	鮮	霜	濯	聽	療	齡	穫	騎	頭	鎖	
音訓	ノウ	コイ	ハク	ヘキ	カベ	コウ	ウタイ・ウタ	ライ・たのむ・たのしい・たよる	リン	レン	カン	ケン	コウ	ショウ	ツグ・なう	セン	アザ・やか	ソウ	シモ	タク	チヨウ	レイ
語例	濃厚・濃度	薄情・薄氷	障壁・壁面	童謡・民謡	信頼・依頼	近隣・隣人	精鍊所・鍛鍊	環境・衆人環視	謙虚・謙讓語	購入・購買	補償金・弁償	鮮魚・新鮮	霜害・霜月	洗濯機	聴覚・視聴者	医療・治療・診療	高齡・年齡	收穫	騎馬・騎兵	頭著・頭微鏡	鎖国	
漢字	瞬	礎	騷	藩	覆	翻	糧	鷄	瀬	藻	爆	譜	離	響	懸	讓	艦	魔	躍	襲	鑑	
音訓	シュン	ソ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	
語例	瞬間・瞬時	礎石・基礎	騷動・騷音	藩主・親藩大名	覆面・乾覆	翻訳・翻案	食糧・兵糧	養鷄場・鶏卵	瀬戸内海	海藻・藻類	爆発・原爆	譜代大名・楽譜	離離・離陸	交響曲・音響	一生懸命・懸賞	讓歩・讓渡	艦隊・軍艦	魔法・魔女	活躍・飛躍	襲名・空襲	鑑鑑・年鑑	

漢字	音訓	語例
傾 繼 遣 獻 鼓 溝 債 歲 慈 飾 觸 寢 慎 跡 撰 僧 滯 淹 嘆 稚 殿	ケイ・かたむく・ ケイ ケイ ケン ケン つかう・つかわす ケン・コン コ つづみ コウ ミ サイ サイ サイ・セイ ジ いつく シヨク カゼ シヨク シヨク ふん・さわ シン ねる・ねかす シン つしむ セキ セキ セツ ソウ タイ とどこおる たき タン・なげく・ なげかわしい チ デン・テン どのどの	傾向・前掲 中継・継続 遣唐使・派遣 献血・献立 鼓動・太鼓・小鼓 下水溝・流雪溝 国債・地方債 歲月・歳時記 慈愛・慈悲 修飾・服飾 触覚・感触 寢室・寢殿・昼寝 慎重 奇跡・遺跡 撰政・撰取 僧侶・高僧 滞在・滞納 白滝 感嘆符・嘆願 稚魚・幼稚園 宮殿・御殿・殿様
督 漠 微 減 誉 雷 鈴 維 綱 豪 獄 需 誓 端 徵 摘 滴 稻 罰 碑 漂	トク バク ビ メツ・ほあひる・ ほろほろ ヨ はまれ ライ かみなり レイ・リン すず イ コウ つな ゴウ ゴク ジュ セイ ちかう タン はし・ははた チヨウ テキ テキ・しずく・ したたる トウ いねいな バツバチ ヒ ヒヨウ ただよ	監督・督促 砂漠・漠然 微笑・微生物 滅亡・絶滅 名誉・榮譽 雷雨・雷鳴 風鈴・呼び鈴 維持・明治維新 横綱・手綱 豪族・集中豪雨 地獄・安政の大獄 需要・必需品 五カ条の御誓文 極端・南端 特徴・徴兵令 指摘・摘発 点滴・水滴 水稻・稻作 処罰・罰金 石碑・記念碑 漂白・漂流
腐 墨 膜 漫 網 曆 影 縁 歎 監 儀 緊 擊 稿 撮 趣 繩 審 震 請 潜	フ・くろ・くろ・くさ ホク すみ マク マン モウ あみ レキ こよみ エ かけ エン ふち カン カン ギ キン ゲキ ウ コウ サツ シユ おもむき シ シ シン ふるう・ふるえる セイ・シン こう・うける セン ひそむもぐる	腐葉土・豆腐 白墨・水墨画 網膜・角膜 漫画・散漫 鉄条網・網戸 旧曆・西曆 影響・影絵 緑日・額縁 歓迎・歓声 監視・監獄 儀式・地球儀 緊張・緊急 撃退・反撃 原稿・投稿 撮影 趣味・趣向 縄文時代・縄目 審判・審議 地震・震災 請求・請願・申請 潜水・潜在



# 漢字かんじのなりたち

中国で生まれた漢字

漢字は、大昔に、中国で生れました。大昔の中国人が、自分たちの中国語を書きあらわすために作ったのが、漢字です。漢字は、発音とともに意味も表しており、文字であると同時に、古い中国語でもあります。漢字が生まれた時期は、はっきりしません。しかし、今から三千年あまり前にさかえた、殷という国の遺せきから、かめのうらやけものの骨にきざまれた、**甲骨文字**という、一番古いと考えられる漢字が出てきました。この字ができあがるのに千年ぐらいかつたと考えると、漢字のはじまりは、今から四千年ぐらい前ということになります。

**漢字**の作りかたと使いかた

昔の中国人が、どのようにして漢字を作り、使ったのかを調べてみましょう。

① 象形文字

「象形」とは、「物の形を象る」という意味です。物の形をえがいた絵をかんとんにして、作る方法です。犬は犬の絵から、山は山の絵から作ります。この方法による字は六百字ぐらいあります。

### ③ 会意文字

（「**会意**」とは、「意味を会合」させる」という意味です。すでにある象形文字や指事文字などを組み合わせ、一つの漢字にしたものです。

#### ④ 形声文字






木を二つ組み合わせて「林」、三つ組み合わせて「森」  
口と鳥で「鳴（く）」、い（人）と木で「休（む）」とする  
などが、その例です。ほかに、「明・位・際・岩・好  
孝」なども、会意文字です。

## 「形声」の

「形声」の「形」は意味、「声」は発音のことで、意味を表す部分と、発音を表す部分を組み合わせて作った文字です。たとえば、「清」の字では、「氵」が「水」に係がある意味を表し、「青」が発音を表しています。この方法は便利なので、漢字のハロパーセント以上が、形声文字です。

⑤ 仮借文字

発音だけを「仮に借りる」という意味で、文字のものと  
の意味には関係なく、読みだけをかりて、ほかのこ  
とばを表したものです。これは作りかたではなく、使  
いかたの一つで、ふつう「当て字」とよばれているも  
のです。

しょうけい も じ  
象形文字

この辞典の「なりたち」で、「……のかたちから」「……のようすから」と書いてあるのが、象形文字です。

## ② 指事文字

「指し」とは、「事<sup>こと</sup>を指ししめす」という意味です。絵では表しにくい、数や位置などを、点や線でしめしたものです。たとえば、「ひとつ・ふたつ・みつつ」を、横線の「一・二・三」で表し、「うえ」は、横線のうえにしるしをつけて表しました。



本もと

し し も じ  
指事文字

⑥ 転注文字

たとえば、「来」の字は、小麦の絵からできた字で、小麦のことを表していましたが、「くる」という意味のことはも「ライ」と言ったので、同じ音の「来」の字で「くる」意味を表すようになりました。ほかに、外国の地名を書き表す、「亜米利加」「伊太利」などの使いかたも、この用法です。

「  
轉注  
」  
「  
」

「転注」とは、「転じて（＝変化して）、注しやくしあう」という意味です。これも文字を作る方法ではなく、ある文字を、もとの意味に關係のある別の意味に使う、使いかたをいいます。

たとえば、「楽<sup>がく</sup>」はもともと「音楽<sup>おんがく</sup>」の意味だけを表<sup>あらわ</sup>していましたが、音楽<sup>おんがく</sup>を聞くことのいいことから、「たのしい」という意味<sup>いみ</sup>にも使うようになり、「ラク」という読みもできました。「わるい」という意味<sup>いみ</sup>の「悪<sup>あく</sup>」を、「にくむ」という意味<sup>いみ</sup>に使うのもその例です。

〔国字<sup>こくじ</sup>は日本<sup>にほん</sup>で作<sup>つく</sup>られた字<sup>じ</sup>〕

日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中国からつたわった漢字と區別して、**国字**といひます。

国字は、日本独特のことは書き表すのに、適当な漢字がないときに作られたもので、ほとんどが会意文字で、音のあるものはわずかです。

例  
働…ドウ・はたらく  
畑…はたけ  
峠…とうげ



# 漢字の読みかた

## ① 漢字の二とおりの読みかた

「花」という字は、「花粉」のときは「カ」と読み、「花がさく」のときは「はな」と読みます。

「カ」という読みかたは、中国から「花」の漢字とともに伝わってきたもので、もともとは中国語です。これに対して、「はな」ということは、日本人が漢字を知らなかった大昔から、日本で作られ、使われてきた日本語です。漢字が日本に伝わったとき、「花」の字が、日本語の「はな」と同じ意味を表していたので、「はな」と読むようになったのです。

「花」の「カ」のように、中国から伝わった読みを「音」といい、「花」の「はな」のように、大昔からの日本語で読む読みを、「訓」といいます。

## ② 音訓の見分けかた

読んで意味がわかる読みかたは、たいてい訓です。

あめ…意味がわかる↓訓  
う…意味がわからない↓音

ただし、音読みで意味がわかるものもあります。次の読みは意味がわかりませんが、音読みです。

絵 銀 線 茶 鉄 肉 本 門 十 百  
漢字の音は、古い中国語の発音がつたえられてきたものです。そのために、いつ、どの地方からつたえられたかによって、いくつもの音ができました。

## ③ 漢字の音

(1) 異音 日本にいちばん古くつたえられた音で、中国の呉(長江の下流一帯)の地方から、五、六世紀ごろにつたわったものです。現在、仏教のことばに多くのこつています。

(2) 漢音 隋から唐の時代にかけて、多くの使節や留学僧たちが中国にわたり、当時の都である長安の発音を日本に持ち帰りました。この発音にもとづく音を漢音といいます。現在、日本で使われている漢字の音は、ほとんどがこの漢音です。

(3) 唐(宋)音 平安時代の末から、中国の宋・元・明の国と行き来した禅宗の僧や、商人たちによつてつたえられた発音を、唐音、または宋音といいますが、唐音は、禅宗のことばや、当時輸入された器具や食べ物などのこつています。

外 漢音 外 漢音 外 漢音  
唐音 ウイ 外郎 行 銀行 行 銀行 行 銀行  
唐音 アン 唐音 コウ 唐音 ギョウ 唐音 アン

## ② 二つ以上の音をもつ漢字

①で説明したように、時代によっていくつもの音がつたわったため、二つ以上の音をもつ漢字があります。音の中には、ちがう音でも同じ意味を表すものと、音がちがうと、意味がちがうものがあります。

人 ジン 人員・成人  
人 ニン 人間・人情  
易 エキ 貿易・交易  
易 イ 平易・容易

## ③ 同じ音のことば

漢字には、同じ音の字がたくさんあります。したがって、同じ音の熟語もたくさんあります。これらのことばを、**同音(異義)語**といいます。

## ④ 漢字の訓

二つ以上の訓をもつ漢字  
一つの漢字で、いくつもの訓をもつものがあります。ただし、それらの大部分は、送りながちがうだけで、漢字の部分の読みかたは同じものです。

広い 広まる 広める 広がる 広げる  
それ以外には、次のようなものがあります。  
生 いきる・いける・うまれる・はえる・なま  
下 した・しも・さげる・くだる・おろす

## ④ 熟語の読みかた

二字の熟語の一字一字を、音で読むか訓で読むか調べてみると、次のように、いくつもの読みかたがあることがわかります。

## ① 二字とも音で読む

愛読(アイドク) 圧力(アツリヨク)

## ② 二字とも訓で読む

目印(めじるし) 右手(みぎて)

## ③ 上の字を音で、下の字を訓で読む

素顔(スガオ)

## ④ 上の字を訓で、下の字を音で読む

湯桶読み

荷物(にモツ) 古本(ふるホン)

## ⑤ 二通りの読みかたがあることば

色紙 色紙で、つるをおる。

風車 風車を回して遊ぶ。

市場 市場で買い物をする。

市場 市場を開放する。

特別の読みかたをすることば

明日 大人 昨日 今日 果物 今朝 景色 七夕



重箱 重箱読み  
箱 箱読み



※ 漢字辞典では、漢字をグループごとにまとめています。漢字をひくためのめグループに入る漢字です。よび方は、辞書によってことなる場合があります。

部 首	よ び 方	漢 字 例	干 々	衣 (衣)	虫 (虫)	血 (血)	西 (西)	見 (見)	角 (角)	豆 (豆)	貝 (貝)	足 (足)	車 (車)	酉 (酉)	里 (里)	臣 (臣)	雀 (雀)	青 (青)	食 (食)	鳥 (鳥)	その他の部首	一	丨	乙	ノ	ハ	人	二	力	十	ム	又	口	土	士	夕	大	女	子	寸	小	山	川	工	己	巾																																																																																														
いち	上・下・丁・世	中	弓(弓)	心(心)	戸	手(手)	方(方)	日(日)	曰	月(月)	止(止)	木(木)	止(止)	犬(犬)	氏	水(水)	火(火)	片(片)	母(母)	玉(玉)	生	田(田)	白	目(目)	示(示)	立	糸(糸)	羊(羊)	羽	耳(耳)	肉(肉)	いちじゅう・ひる	いとがしら	ゆみゆみへん	こころうしんへんところ	と(とかんむり)	て(てへん)	ほう(かたへん)	ひ(ひへん)	ひらび	つき(てきへん)	き(きへん)	とまる(とめへん)	いぬ(けものへん)	うじ	みず(さんずい・したみず)	ひ(ひへんれんがれつか)	かた(かたへん)	なかれ・はのかん	たま(おう・おうへん)	うまれる	た(たへん)	しろ	め(めへん)	しめす(しめすへん)	たつ	いと(いとへん)	ひつじ	はね	みみ(みみへん)	にく(にくづき)	幼	年・平・幸・幹	弟・弱・引・強	必・応・快・忘	所	才・挙・承・折	旅・族・旗	早・星・昔・映	書・曲・最	朝・有・望・服	本・未・東・板	正・歩・歴・武	状・犯・独	民	氷・永・池・求	災・灰・無・熱	版	毎・毒	班	産	男・画・番・町	百・的・皇	直・鼎・相・眼	祭・票・禁・祖	章・童・競	素・系・組・約	美・着・群・義	習・翌	聞・聖・職	育・胃・能・腦	表・製・裁・補	蚕	衆	要	親・覺・観・規	解	豊	買・負・貨・財	路	軍・輪・輸	酒・配・酸	重・量・野	臨	集・雜・難	静	養・館・飼	鳴																																
はば(はばへん・さんへん)	き・おのれ	こう・え	かわ	やま	しょう	すん	こ(こへん)	おんな(おんなへん)	だい	た・ゆう	さむらい	つち(つちへん)	くち(くちへん)	また	む	ちから	じゅう	千・半・協・卒	去・参	友・反・取・受	右・台・問・味	型・堂・庄・増	声・売	外・多・夜・夢	天・太・失・夫	委・妻・姿・好	字・学・季・孫	寺・対・導・尊	少・当	岩・岸・島	州	左・差	巻	市・席・布・帳	弓(弓)	心(心)	戸	手(手)	方(方)	日(日)	曰	月(月)	止(止)	木(木)	止(止)	犬(犬)	氏	水(水)	火(火)	片(片)	母(母)	玉(玉)	生	田(田)	白	目(目)	示(示)	立	糸(糸)	羊(羊)	羽	耳(耳)	肉(肉)	いちじゅう・ひる	いとがしら	ゆみゆみへん	こころうしんへんところ	と(とかんむり)	て(てへん)	ほう(かたへん)	ひ(ひへん)	ひらび	つき(てきへん)	き(きへん)	とまる(とめへん)	いぬ(けものへん)	うじ	みず(さんずい・したみず)	ひ(ひへんれんがれつか)	かた(かたへん)	なかれ・はのかん	たま(おう・おうへん)	うまれる	た(たへん)	しろ	め(めへん)	しめす(しめすへん)	たつ	いと(いとへん)	ひつじ	はね	みみ(みみへん)	にく(にくづき)	幼	年・平・幸・幹	弟・弱・引・強	必・応・快・忘	所	才・挙・承・折	旅・族・旗	早・星・昔・映	書・曲・最	朝・有・望・服	本・未・東・板	正・歩・歴・武	状・犯・独	民	氷・永・池・求	災・灰・無・熱	版	毎・毒	班	産	男・画・番・町	百・的・皇	直・鼎・相・眼	祭・票・禁・祖	章・童・競	素・系・組・約	美・着・群・義	習・翌	聞・聖・職	育・胃・能・腦	表・製・裁・補	蚕	衆	要	親・覺・観・規	解	豊	買・負・貨・財	路	軍・輪・輸	酒・配・酸	重・量・野	臨	集・雜・難	静	養・館・飼	鳴

\*「つきへん」と「にくづき」の形はよくにっていますが、「にくづき」の「月」は、「肉」の形が変化したものです。



- ⑤ かこむ形のある字
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ⑥ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ⑦ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ



- ② ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ③ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ④ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ⑤ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ⑥ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- ⑦ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (1) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- (2) ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ
- 例 ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ ㅅ ㅈ ㅊ ㅋ ㆁ

# 漢字の筆順

## 漢字の点画と画数

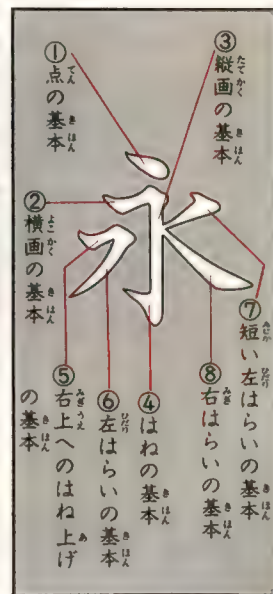
漢字は、いろいろな形の点や線の組み合わせでできています。これらの点や線をまとめて「点画」とよびます。

一つの漢字や漢字の部分を組み立てている点画の数を、「画数」といいます。画数を数えるときは、複雑なおれ曲がった線でも、ひと続きに書くものは一画として数えます。

## 漢字の筆順

「火」という字を書くときには、一少火の順に書きます。このように、文字を書くとき、どんな順番に書くかが決まっています。その順番のことを、書き順とか筆順とかいいます。

「火」の字を、ノ人火火のような順に書いても、できあがってしまえばちゃんと火の形になり、だれにも読めます。しかし、筆順は、長い文字の歴史の中で、いちばん書きやすい書きかたとして、決まってきたものです。漢字を、はやく、美しく書くうえで、大切なことなのです。



永字八法

- ③ 漢字の組み立てと筆順
- 二つの部分が組み合わさってできている漢字は、次の順番に書きます。
- ① 左右に分けられる字
- 例 活 結 現 映
- ② 上下に分けられる字
- 例 客 英 志 等
- ③ たれのある字
- 例 病 歴 属 庁
- ④ 先を書くものと、あとに書くものがある
- 例 起





### ③ 別の書き表しかた

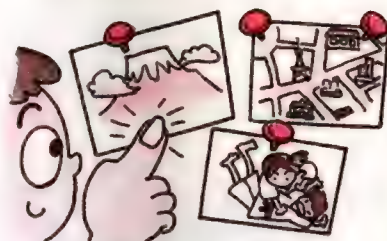
●一つの音に二通りの書き表しかたがある場合がある。

し	si-shi	しゃ	sha-sha	しゅ	syu-shu	しょ	syo-sho
ち	ti-chi	ちゃ	tya-cha	ちゅ	tyu-chu	ちょ	tyo-cho
つ	tu-tsu						
ふ	hu-fu						
じ	zi-ji	じゃ	zya-ja	じゅ	zyu-ju	じょ	zyo-jo
ぢ	zi-di	ぢゃ	zya-dya	ぢゅ	zyu-dyu	ぢょ	zyo-dyo
づ	zu-du						
を	o-wo						

など

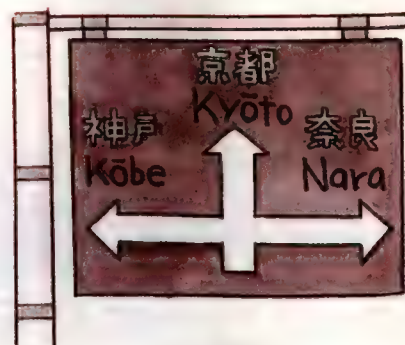
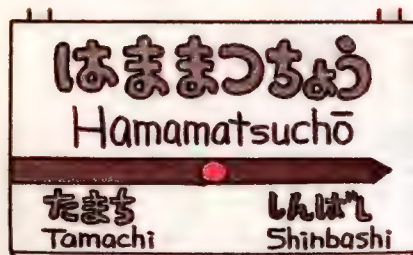
は、ヘボン式(英語に近い形) は日本式

例 syasin — shashin (写真)  
tizu — chizu (地図)  
tume — tsume (つめ)  
zyûdô — jûdô (じゅう道)  
Huzisan — Fujisan (富士山)



♣ヘボン式の書き表しかたは駅名のけいじや案内板などに使われている。

### 町で見かけるローマ字



### ワープロ・パソコンで、ローマ字入力するときの注意

パソコンなどで、文字をローマ字で入力する場合、今まで学習してきたことがらと、多少ちがうところがある。

◆「お」と「を」、「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」は、それぞれ別。

・「お」→ **O**                      「を」→ **W O**  
・「じ」→ **Z I** / **J I**              「ぢ」→ **D I**  
・「ず」→ **Z U**                      「づ」→ **D U**

★このように、別の入力のしかたをするので、注意しよう。



ことばの終わりの「ん」、ひらがな1字の「ん」を表示したいときは、「nn」とnを重ねて打つ。  
例ありません  
→ ARIMASE **NN**





# ●ローマ字の書き表しかた●

## ① 一つの音を、1字から3字で書き表す

### ● 1字で表すもの

・母音 (あ行の音)……a(あ)・i(い)・u(う)・e(え)・o(お)

・はねる音……n(ん)

### ● 2字で表すもの

例 ka(か)・ki(き)・ku(く)・ke(け)・ko(こ)・

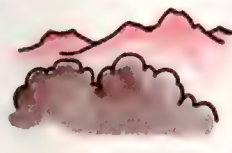
wa(わ)・ga(が)・za(ざ)・da(だ)・ba(ば)・pa(ぱ)

### ● 3字で表すもの

小さく書く「や・ゆ・よ」をふくむ音

例 kya(きや)・kyu(きゅ)・kyo(きょ)

tosyokan(図書館)・omotya(おもちゃ)・sanmyaku(山脈)



## ② 書き表しかたのきまり

① 長音(のばす音)は、「a・i・u・e・o」の上に「^」をつけて表す。

例 okâsan (おかさん)

ozîsan (おじいさん)

yûgata (ゆうがた)

onêsan (おねえさん)

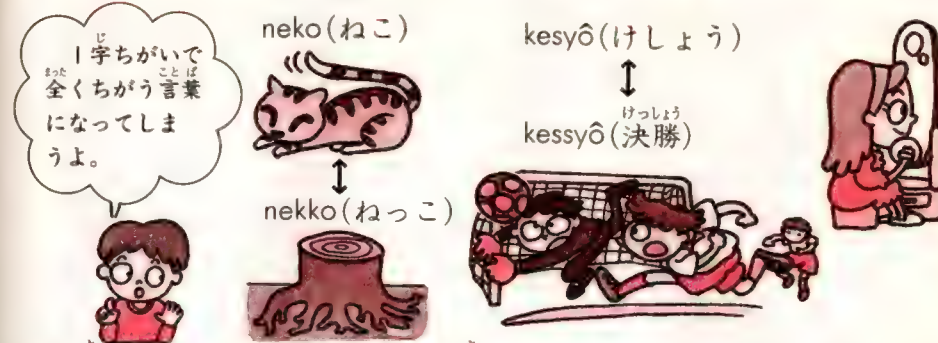
otôsan (おとうさん)



♣ 「イー」とのびる音は、「ii」と書き表す場合もある。

② つまる音(「っ」)は、次の音の初めの字を重ねて書く。

例 kitte(切手) sippo(しっぽ) gakkô(学校) zassi(ざっし)



③ 読みまちがえをふせぐため、切れるところをしめす「'」をつける。

・はねる音(n)の次に、a・i・u・e・o、またはyがくる場合には、nの次に「'」をつける。

例 sin'yô(信用)

hon'ya(本屋)

sinyô だと「しにょう」、honya だと「ほにや」とも読めてしまうので、nの次で切って読むことを「'」でしめす。

④ 文の初めや、人名・地名などは語の初めを大文字で書く。

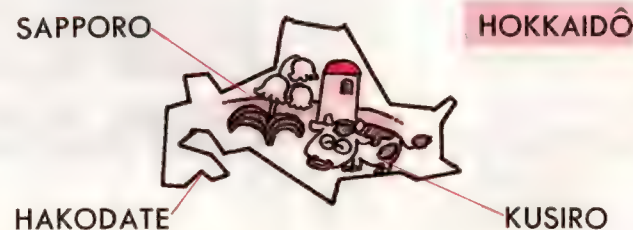
例 Kyôto(京都)

Yamada-Hazime(山田はじめ)

→「-」は、言葉をつなぐ印。

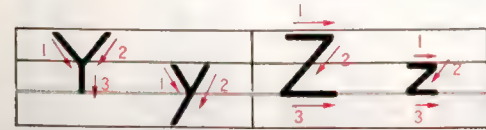
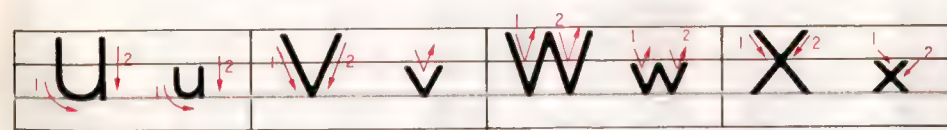
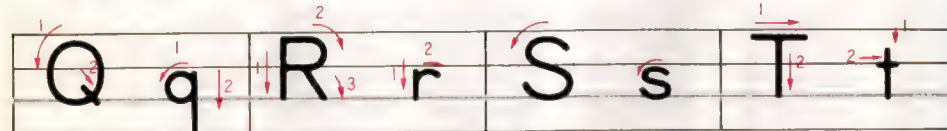
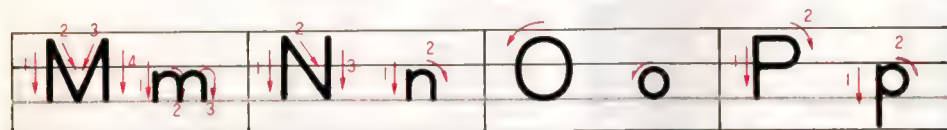
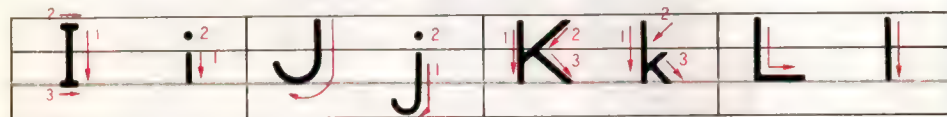
例 4 nen-2 kumi / Naha-si(那覇市)

♣ 地名などは、全部を大文字で書くこともある。





## ローマ字の書きかた

ひつじん  
アルファベットの筆順

アルファベットの筆順にはいく種  
類あり、これはその一例です。

## ローマ字表

の部分は、大文字。表の中の( )  
については、P.433 を参照。

	A	I	U	E	O			
	a	i	u	e	o			
K	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
S	sa	si (shi)	su	se	so	sya (sha)	syu (shu)	syo (sho)
T	ta	ti (chi)	tu (tsu)	te	to	tya (cha)	tyu (chu)	tyo (cho)
N	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
H	ha	hi	hu (fu)	he	ho	hya	hyu	hyo
M	ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
Y	ya	(i)	yu	(e)	yo			
R	ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
W	wa	(i)	(u)	(e)	(o) (wo)			
	n							
G	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
Z	za	zi (ji)	zu	ze	zo	zya (ja)	zyu (ju)	zyo (jo)
D	da	(zi) (di)	(zu) (du)	de	do	(zya) (dya)	(zyu) (dyu)	(zyo) (dyo)
B	ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
P	pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo



①町 76	⑥看 359	⑤程 334	④料* 281	⑤義 299	〔白うす〕
②画 109	③県 161	④種 247	⑤精 324	④養* 279	⑤興 309
④胃* 218	③真 179	④積 254	⑥糖 399	〔羽はね〕	〔舌した〕
③界 150	⑤眼 297	⑥穀 371	〔糸いとへん〕	②羽 128	⑤舌 327
③畑 196	〔矢やへん〕	〔穴あなあかんむり〕	①糸 70	③習 172	⑥乱* 413
②思* 103	②矢 126	⑥穴 365	⑥系 364	⑥翌 413	④辞* 246
⑤留 351	②知 116	③究 154	⑥紅 370	〔未すきへんらいすき〕	〔舟ふねふねへん〕
⑤略 351	③短 186	①空 63	④紀 227	⑤耕 308	④航 238
⑥異 354	〔石いしへん〕	⑥窓 390	④約 278	〔耳みみみへん〕	②船 125
②番 118	〔立たつ〕	①立 82	③級 155	⑥純 381	〔良こんづくり〕
〔疋ひき〕	①石 68	③章 177	⑥納 401	②紙 111	④良 281
⑥疑 361	②岩* 92	③童 194	⑥純 381	⑤素 328	〔色いろ〕
〔疋やまいだれ〕	⑥砂 372	④競 232	②紙 111	②細 135	②色 111
③病 201	③研 161	〔田あみがしらよこめ〕	⑤素 328	③終 172	〔虫むし〕
⑥痛 398	⑤破 338	②買* 140	②細 135	②組 119	①虫 67
〔疋はつがしら〕	⑤確 296	⑤罪 312	③終 172	⑤経 303	⑥蚕 374
③発 197	⑥磁 377	④置 261	〔肉にく〕	④結 235	〔血ち〕
③登 193	〔示しめす〕	⑥署 382	〔月にくづき〕	⑤絶 327	③血 160
〔白しろ〕	⑤示 316	〔竹たけたけかんむり〕	⑤肉 129	④給 230	⑥衆 380
①白 78	④票 271	①竹 66	③有* 207	⑤統 335	〔行いくぎょうがまえ〕
①百 45	③祭 164	④笑 249	⑥育 146	②絵 110	②行 138
④的 264	⑤禁 302	③第 185	⑥背 403	⑥絹 366	⑤術 319
⑥皇 369	③礼 212	③笛 190	④胃 218	④続 258	④街 223
〔皮けがわ〕	②社 108	③答 115	⑥肺 403	③緑 211	⑤衛 289
③皮 198	⑤祖 328	③等 194	⑤肥 340	⑤綿 348	〔衣ころも〕
〔皿さら〕	④祝 248	③筆 200	④能 338	③練 212	〔ネころもへん〕
③皿 164	③神 179	⑥策 373	⑥胸 362	⑤総 328	④衣 217
⑤益 290	⑥視* 376	②筋 363	⑥腹 405	②線 113	④初* 249
⑥盛 387	③福 203	②算 106	④腸 262	⑤編 344	③表 200
⑥盟 411	〔禾のきへん〕	④節 255	⑥臟 392	②緋 380	⑥裁 373
〔目めへん〕	⑥私 375	④管 224	〔自みづから〕	⑤績 326	⑥装 391
①目 55	④利* 280	③箱 196	②自 100	⑥縮 381	⑥補 407
①見* 83	③和* 213	⑤簡 359	③息* 183	⑤織 322	⑥裏 414
②直 114	②秋 86	〔米こめへん〕	③鼻* 199	〔羊ひつじ〕	⑤複 344
③相 182	③科 107	②米 129	〔至いたる〕	③羊 208	
④省 252	⑥秘 405	④粉 273	⑥至 375	③美 199	
	⑤移 288			④差* 239	
	⑤税 325			③着 187	
				⑤群 302	

⑤製 325	③調 189	⑤賛 313	〔臣しん〕	②雲 88	③飲 147
〔西にし〕	③談 187	〔赤あか〕	④臣 251	②電 116	④飯 269
②西 94	④課 221	①赤 78	⑥臨 415	〔青あお〕	⑤飼 315
④要 279	⑥論 416	〔走はしるそうによう〕	〔麦むぎ〕	①青 79	④養 279
④票* 271	⑥諸 382	②走 138	②麦 129	④静 253	③館 153
〔見みる〕	⑥誕 394	③起 153	〔金かねかねへん〕	〔非あらず〕	〔首くび〕
①見 83	⑤講 309	〔足あし〕	①金 48	⑤非 340	〔馬うまへん〕
⑤規 298	⑤謝 317	〔足あしへん〕	⑥針 385	③悲* 199	②馬 127
④覚 223	⑥識 316	③路 213	③鉄 191	⑤罪* 312	③駅 148
⑥視 376	⑥警 364	〔身み〕	⑤鉦 308	〔面めん〕	④駿 236
②親 97	④議 228	③身 178	⑤銅 336	〔革かくのかわ〕	〔骨ほね〕
⑥覧 414	⑤護 307	⑥射* 377	⑤錢 327	⑥革 357	⑥骨 371
④親 225	〔谷たに〕	〔車くるまへん〕	④録 285	〔音おと〕	〔高たかい〕
〔角つのへん〕	②谷 92	①車 71	⑥鋼 370	①音 71	②高 137
②角 114	〔豆まめ〕	④軍 233	④鏡 231	③意* 145	〔魚うお〕
⑤解 295	③豆 192	③転 191	〔長ながい〕	〔頁おおかひ〕	〔鳥とり〕
〔言いうごんべん〕	⑤豊 346	③軽 160	②長 136	⑥頂 397	②鳥 128
②言 104	②頭* 101	④輪 282	③帳* 189	⑤順 248	②鳴 128
②計 115	〔豕いのこへん〕	⑤輪 349	⑤張* 333	⑤預 349	〔黄い〕
②記 104	④象 250	①貝 68	〔門もんもんがまえ〕	⑤領 351	②黄 112
⑥討 399	〔貝こがいへん〕	③負 202	②門 124	⑤頭 101	〔黒くろ〕
④訓 232	①貝 68	③員* 146	③問* 206	⑤題 186	②黒 112
⑤許 301	③負 202	④財 312	⑥閉 407	⑤額 296	〔歯は〕
⑤設 326	③員* 146	④貨 221	②間 97	⑤顔 101	③齒 166
⑥訳 411	④財 312	⑤貧 342	③開 151	④類 282	〔鼻はな〕
⑤評 341	⑤貧 342	②買 140	④関 225	④願 226	
⑥詞 376	⑤貴 325	④費 270	⑥関 357	〔風かぜ〕	
⑤証 321	②買 140	⑤賀 294	②聞* 105	〔佳ふるとり〕	
②話 104	④費 270	④貯 262	〔里さとへん〕	③集 173	
③詩 167	⑤賀 294	⑤貸 332	②里 122	⑤難 400	
④試 245	④貯 262	⑤買 347	③重 173	〔雨あめあかんむり〕	
⑥誠 387	⑤貸 332	〔里さとへん〕	②野 91	①雨 63	
②読 105	⑤買 347	②里 122	④量 281	②雪 88	
②語 106	⑥貴 361	③重 173	③童* 194	②食 130	
④説 255	⑥貸 398	④量 281			
⑥誤 368	⑤資 315				
⑥認 401	④貴 251				
⑥誌 376	⑤質 317				



④希	226	③代*	185	⑥蒸	384	⑥除	383	⑥我	356	⑤故	306
⑤師	315	③式	168	⑥蔵	392	④陸	280	④戦	256	②教	116
④席	254	【弓 <sup>ゆみ</sup> <sub>ゆみへん</sub> 】		③葉	206	⑤陰	304	【戸 <sup>と</sup> 】		④救	229
④帶	260	【弓 <sup>ゆみ</sup> <sub>ゆみへん</sub> 】		【弓 <sup>しん</sup> <sub>しんよう</sub> 】		③陽	209	②戸	124	④敗	268
②帰	139	②弓	126	④辺	274	④隊	260	③所	174	④散	243
③帳	189	②引	140	②近	133	③階	151	【手 <sup>て</sup> 】		⑥敬	364
⑤常	322	②弟	99	②返	204	⑥障	384	(すてへん)		②数	107
⑥幕	410	②弱	136	③述	318	⑤際	311	①手	54	⑤敵	333
【干 <sup>ひる</sup> <sub>いらいじゅう</sub> 】		⑤張	333	⑤迷	348	【ツッ】		⑤承	320	③整	181
⑥干	358	②強	136	③追	189	④単	261	④拳	230	⑥嚴*	367
③平	203	【シ <sup>さん</sup> <sub>さんづくり</sub> 】		⑤退	331	④巢	257	③打	184	【文 <sup>ぶん</sup> 】	
⑤刊*	296	②形	112	③送	182	⑤管	289	⑤技	299	①文	74
①年	59	【イ <sup>ぎょう</sup> <sub>にんべん</sub> 】		⑤逆	299	⑥嚴	367	③投	192	③対*	184
③幸	163	②行*	138	②通	120	【心 <sup>こころ</sup> 】		④折	254	【斗 <sup>と</sup> <sub>とます</sub> 】	
⑤幹	297	③役	206	③速	183	(りっしんべん)		⑤招	320	②科*	107
【公 <sup>いどがしら</sup> 】		⑤往	291	⑤造	329	②心	102	⑥拜	402	④料	281
⑥幼	412	④径	233	④連	284	④必	270	⑥拵	357	【斤 <sup>おの</sup> <sub>のづくり</sub> 】	
【广 <sup>まだれ</sup> 】		③待	185	②週	96	⑤志	314	⑥批	405	③所*	174
②広	137	⑥律	415	③遊	208	⑤応	291	⑥担	393	⑤断	333
⑥庁	397	②後	132	③運	147	⑥忘	409	③拾	172	②新	135
⑤応*	291	④徒	265	⑤過	294	⑥忠	396	③持	168	【方 <sup>ほう</sup> <sub>かたへん</sub> 】	
⑤序	320	⑥從	380	②道	120	④念	268	③指	166	②方	121
④底	263	④得	267	④達	260	②思	103	⑥捨	377	③放*	204
②店	123	⑤復	343	②遠	133	③急	155	⑥探	394	③旅	211
④府	272	⑤德	336	⑤適	335	⑤恩	292	⑤授	318	③族	183
③度	192	【ト <sup>と</sup> <sub>と</sub> <sup>き</sup> <sub>き</sub> <sup>かん</sup> <sub>かんむり</sub> 】		④選	256	③息	183	⑤採	311	④旗	227
③庫	162	①花	65	⑥遺	354	③惡	144	⑤接	326	【日 <sup>ひ</sup> <sub>ひへん</sub> 】	
④席*	254	④芸	234	【P <sup>お</sup> <sub>おど</sub> <sup>と</sup> <sub>と</sub> 】		③悲	199	⑥推	386	①日	46
③庭	190	④芽	221	④郡	233	③想	182	⑤提	334	⑤旧	300
⑥座	372	③苦	158	③都	191	④愛	216	⑥揮	360	①早	80
④康	238	④英	219	③部	202	③感	152	⑤損	331	③昔	181
【反 <sup>えん</sup> <sub>えんによ</sub> 】		⑥若	378	⑥郵	412	⑤態	332	⑥操	391	⑤明	90
⑥延	355	②茶	130	⑥郷	362	⑥憲	366	②才	103	⑤易	290
④建	235	①草	66	【P <sup>こ</sup> <sub>こざとへん</sub> <sup>な</sup> <sub>な</sub> 】		⑤快	295	【支 <sup>し</sup> <sub>しによ</sub> 】		②東*	94
【反 <sup>えん</sup> <sub>えんによ</sub> 】		③荷	150	⑤防	346	⑤性	323	⑤支	314	②星	90
【反 <sup>えん</sup> <sub>えんによ</sub> 】		④菜	240	⑤限	305	⑤情	322	【久 <sup>きう</sup> <sub>のふん</sub> 】		②春	86
⑤弁	345	⑥箸	396	⑥陞	406	⑤慣	297	④改	222	④昨	241
【反 <sup>えん</sup> <sub>えんによ</sub> 】		③落	210	③院	146	【戈 <sup>はこ</sup> <sub>づり</sub> 】		③放	204	⑤昭	176
【反 <sup>えん</sup> <sub>えんによ</sub> 】		③葉	209	⑥降	370	④成	252	⑤政	324		
【反 <sup>えん</sup> <sub>えんによ</sub> 】		⑥幕*	410								



## 部首さくいん

- このさくいんは、漢字を部首別にならべたものです。  
 ●丸数字は、その漢字を学習する学年をあらわしています。  
 ●\*のついた漢字は、本来はほかの部首に入るものです。

【一いち】		①一	40	⑥乱	413	③化*	150	⑥俳	403	②内	132	⑤制	323
③丁	188	⑥乳	401	⑥仁	385	⑤停	263	⑤再	310	②前	132	②前	132
①七	43	【 』はねぼう】		⑤仏	344	④健	236	⑥冊*	374	⑥刻	371	⑥刻	371
①三	41	③予	208	③仕	165	④側	258	②同*	137	④副	273	④副	273
①上	50	④争	257	③他	184	⑤備	341	④周*	248	⑥創	390	⑥創	390
①下	50	③事	167	④付	272	⑥傷	383	【 へわかんむり】		⑥割	358	⑥割	358
②万	117	【二に】		③代	185	④働	266	③写	169	⑥劇	365	⑥劇	365
②才*	103	①二	40	⑤件	303	⑤像	329	④軍*	233	【力ちから】		①力	70
④不	271	①五	42	⑤反	293	④億	220	【 』にすい】		④加	220	④加	220
③世	180	【 一なべふた】		⑥優	412	【 』にんにようひどあし】		②冬	87	④功	237	④功	237
③両	211	⑥亡	409	⑤任	337	②元	97	③次*	167	⑥幼*	412	⑥幼*	412
②来*	139	②交	120	④仲	261	②兄	98	④冷	283	【 』つえ】		③助	175
⑥並	406	②京	122	②何	115	①先	73	【 』うけほこ】		④努	265	④努	265
②画*	109	②夜*	89	②作	109	②光	87	①出	81	④効	307	④効	307
【 』ほう】		④卒*	259	②体	100	④兆	262	②画*	109	④勇	279	④勇	279
①中	52	④変*	274	③住	173	④児	246	【入いる】		③勉	204	③勉	204
⑤旧*	300	③商*	176	④低	263	⑥党	399	①入	81	⑤務	347	⑤務	347
③申*	178	【人ひと】		⑤似	316	【刀かたな】		②内*	132	③勝	177	③勝	177
②半*	118	④例	283	③使	165	【 』りっとう】		【ハはち】		⑥勤	363	⑥勤	363
【 』てん】		⑤例	293	④例	283	①入	81	②刀	126	⑤勢	324	⑤勢	324
②丸	113	④供	362	⑤使	165	②内*	132	②分	95	【ケつづみがまえ】		⑤句*	302
③主	169	⑥信	252	④例	283	【ハはち】		②切	141	⑤包	275	⑤包	275
⑤永*	289	④便	275	⑤例	293	①ハ	43	④初	249	【ヒひ】		③化	150
【ノの】		③係	159	⑥供	362	②公	93	⑤券	304	③化	150	③化	150
⑤久	300	⑤保	345	④信	252	①六	42	⑤刊	296	②北	95	②北	95
③乗	177	④借	247	④便	275	④共	231	③列	212	⑤比*	340	⑤比*	340
【乙おつ】		⑤修	318	③信	252	④兵	273	④別	274	⑤死*	165	⑤死*	165
⑤合*	114	⑤個	306	④信	252	③具	159	④利	280	【口くちへん】		④困	108
③全	181	③倍	196	④信	252	④典	264	⑤判	339	②古	134	②古	134
⑤余	349	⑤候	237	④信	252	【 』どうがまえ】		④刷	241	④台	125	④台	125
⑤舍	317	⑥値	395	④信	252	①円	79	⑤句	302	⑤句	302	⑤句	302
③命*	205	【 』おつによう】		④信	252	【 』おつによう】		⑤句	302	⑤句	302	⑤句	302
①九	44	④倉	257	④信	252	【 』おつによう】		⑤句	302	⑤句	302	⑤句	302

【 』くしがまえ】		①口	56	②困	108	【夕ゆう】		③安	144	⑥党*	399
③区	158	②古	134	⑥困	372	①夕	65	③守	170	④堂*	266
③医	145	④台	125	④固	236	②外	133	⑥宇	355	⑤常*	322
【十じゅう】		⑤句	302	②国	106	①名*	59	⑥宅	393	④賞*	251
①十	44	⑤可	293	②園	93	②多	134	④完	224	【九だいのまげあし】	
①千	45	④加*	220	【土つちへん】		②夜	89	③実	168	⑥就	379
②午	90	③号	163	①土	49	⑤夢	348	④官	224	【尸しかばね】	
②半	118	④史	244	⑤庄	288	【大だい】		③定	190	⑥尺	378
④卒	259	①右	51	③去*	156	①大	52	⑥宙	379	③局	157
④協	231	④司	245	②寺*	123	②天	64	⑥宝	395	⑤居	300
②南	94	④各	223	⑤在	312	②太	135	②室	124	⑥届	400
④単*	261	②合	114	③幸*	163	④夫	272	③客	154	③屋	149
④博	269	①同	137	⑥垂	386	③央	148	⑥宣	388	⑥展	398
【 』ふしづくり】		③后	369	④型	234	④失	247	③宮	155	⑤属	330
④印	218	③向	162	④堂	266	⑥奏	390	④害	222	⑥層	391
⑥危	360	③君	159	⑤基	298	⑥奮	406	④案*	216	【山やま】	
⑥卵	414	③否	404	⑤報	346	【女おんなおんなへん】		⑤容	350	①山	60
⑥巻*	359	④告	238	⑤墓	345	①女	58	③宿	174	②岩	92
【 』がんだれ】		④周	248	②地	121	④努*	265	⑥密	410	③岸	153
⑤圧*	288	③命	205	③坂	198	②妹	99	③寒	151	③炭*	186
⑥灰*	356	②知*	116	⑥城	384	②姉	99	④察	242	③島	193
⑤厚	307	③品	201	②域	354	③始	166	⑥憲*	366	【川かわ】	
②原	91	③員	146	②場	121	⑤婦	342	【寸すん】		①川	60
④歴*	283	③商	176	④塩	219	③委	145	⑥寸	386	③州	171
【 』ふむ】		③問	206	⑤境	301	⑤妻	311	②寺	123	【工こう】	
③去	156	⑥善	389	⑤増	329	⑥姿	375	③射	184	②工	109
②台*	125	④喜	227	【士さむらい】		【子こへん】		⑥専	388	①左	51
⑤弁*	345	⑤營*	289	④士	244	①子	57	⑥尊	393	④差	239
④参	242	⑥器	228	②声	102	①字	74	⑤導	336	【己おのれ】	
【又また】		③味	205	⑤志*	314	⑥存	392	⑥将	383	⑥己	368
⑤句*	302	⑥呼	368	④喜*	227	⑥孝	369	【小しょう】		④改*	222
④包	275	④唱	250	【父すいによう】		④季	226	①小	53	⑥卷	359
【 』くがまえ】		②鳴	128	⑥処*	382	①学	72	②少	134	【巾はばきんべん】	
②友	100	【 』くがまえ】		④各*	223	④孫	259	④省*	252	②市	122
③反	197	①四	41	②麦*	129	⑥乳*	401	③県*	161	⑤布	342
⑥収	379	②回	117	④変	274	【 』うかんむり】		②当	118		
③取	170	⑤因	288	②夏	86	①字*	74				
③受	171	⑤团	332								
【 』くちへん】		④團	217								



④胃 218	②帰 139	④料 281	⑥秘 405	③終 172	⑤経 303	③勝 177
④飛 269	②弱 136	④案 216	⑥班 404	③習 172	⑤術 319	③寒 151
⑤保 345	②時 95	④梅 268	⑥純 381	③転 191	⑤規 298	③落 210
⑤則 330	②書 105	④残 243	⑥納 401	④停 263	⑤許 301	③葉 209
⑤厚 307	②通 120	④殺 242	⑥胸 362	④健 236	⑤設 326	③運 147
⑤逆 299	②紙 111	④浴 280	⑥蚕 374	④側 258	⑤貧 342	③階 151
⑤退 331	②記 104	④特 266	⑥討 399	④副 273	⑤責 325	③遊 208
⑤迷 348	②馬 127	④笑 249	⑥針 385	④唱 250	⑥域 354	③陽 209
⑤限 305	②高 137	④粉 273	⑥骨 371	④堂 266	⑥密 410	③悲 199
⑤政 324	③倍 196	④脉 277		④康 238	⑥著 396	③暑 174
⑤故 306	③勉 204	④航 238	11画	④得 267	⑥捨 377	③期 154
⑤査 310	③員 146	④訓 232		④菜 240	⑥郷 362	③植 178
⑤独 337	③宮 155	⑤修 318	②強 136	④陸 280	⑥郵 412	③温 149
⑤祖 328	③島 193	⑤個 306	②週 96	④巢 257	⑥推 386	③湖 162
⑥卷 359	③庫 162	⑤俵 341	②教 116	④救 229	⑥探 394	③港 163
⑥城 384	③庭 190	⑤容 350	②細 135	④敗 268	⑥欲 413	③湯 193
⑥奏 390	③荷 150	⑤師 315	②理 107	④望 276	⑥濟 373	③登 193
⑥姿 375	③速 183	⑤造 329	②組 119	④械 222	⑥異 354	③短 186
⑥宣 388	③息 183	⑤恩 292	②船 125	④清 253	⑥盛 387	③童 194
⑥専 388	③院 146	⑤桜 292	②野 91	④産 243	⑥翌 413	③等 194
⑥律 415	③旅 211	⑤格 295	②雪 88	④票 271	⑥窓 390	③筆 200
⑥映 355	③根 164	⑤留 351	②魚 127	④貨 221	⑥脳 402	③着 187
⑥染 389	③消 176	⑤益 290	②鳥 128	⑤務 347	⑥視 376	③軽 160
⑥段 394	③流 210	⑤破 338	②黄 112	⑤基 298	⑥訪 408	③開 151
⑥泉 388	③病 201	⑤素 328	②黒 112	⑤婦 342	⑥訳 411	③集 173
⑥派 402	③真 179	⑤耕 308	③動 194	⑤寄 298	⑥閉 407	③飲 147
⑥洗 389	③起 153	⑤能 338	③問 206	⑤常 322	⑥頂 397	③齒 166
⑥皇 369	③酒 171	⑤財 312	③商 176	⑤張 333		④博 269
⑥看 359	③配 195	⑥値 395	③宿 174	⑤陰 304	12画	④喜 227
⑥砂 372	④借 247	⑥俳 403	③帳 189	⑤情 322		④達 260
⑥紅 370	④候 237	⑥党 399	③進 180	⑤授 318	①森 61	④隊 260
⑥背 403	④孫 259	⑥射 377	③都 191	⑤採 311	②場 121	④散 243
⑥肺 403	④害 222	⑥将 383	③部 202	⑤接 326	②道 120	④景 234
⑥革 357	④倉 257	⑥展 398	③愚 144	⑤断 333	②晴 88	④最 240
	④差 239	⑥座 372	③族 183	⑤液 290	②番 118	④極 232
	④席 254	⑥従 380	③深 179	⑤混 309	②答 115	④満 277
	④帯 260	⑥除 383	③球 156	⑤率 331	②朝 89	④焼 250
10画	④徒 265	⑥降 370	③祭 164	⑤現 305	②絵 110	④然 256
①校 72	④連 284	⑥陛 406	③章 177	⑤略 351	②買 140	④無 278
②原 91	④郡 233	⑥朗 415	③第 185	⑤眼 297	②間 97	④給 230
②夏 86	④拳 230	⑥株 358	③笛 190	⑤移 288	②雲 88	④結 235

④街 223	⑥衆 380	⑤幹 297	④察 242	③葉 206	⑥臨 415
④覚 223	⑥補 407	⑤損 331	④旗 227	③館 153	⑥難 400
④象 250	⑥裁 373	⑤準 319	④歴 283	④機 228	
④貯 262	⑥装 391	⑤禁 302	④漁 230	④積 254	19画
④費 270	⑥詞 376	⑤罪 312	④種 247	④録 285	
④量 281	⑥貴 361	⑤群 302	④管 224	⑤燃 337	④鏡 231
④順 248	13画	⑤義 299	④説 255	⑤築 333	④願 226
④飯 269		⑤解 295	④関 225	⑤興 309	⑤識 316
⑤備 341	②園 93	⑤豊 346	④静 253	⑤衛 289	⑥臓 392
⑤営 289	②数 107	⑤資 315	⑤境 301	⑤輸 349	⑥警 364
⑤報 346	②新 135	⑤鉦 308	⑤像 329	⑥奮 406	
⑤富 343	②遠 133	⑤預 349	⑤増 329	⑥憲 366	20画
⑤復 343	②楽 110	⑤飼 315	⑤徳 336	⑥操 391	
⑤属 330	②話 104	⑥傷 383	⑤適 335	⑥樹 378	④競 232
⑤過 294	②電 116	⑥幕 410	⑤慣 297	⑥激 365	④議 228
⑤提 334	③感 152	⑥暖 395	⑤態 332	⑥糖 399	⑤護 307
⑤検 304	③想 182	⑥蒸 384	⑤際 311	⑥縦 380	
⑤減 306	③意 145	⑥源 367	⑤構 308	⑥鋼 370	
⑤測 330	③暗 144	⑥盟 411	⑤演 291		
⑤税 325	③漢 152	⑥絹 366	⑤精 324	17画	
⑤程 334	③業 157	⑥署 382	⑤綿 348	⑤暴 347	
⑤統 335	③福 203	⑥聖 387	⑤総 328	⑤潔 303	
⑤絶 327	③詩 167	⑥腹 405	⑤製 325	⑤確 296	⑤績 326
⑤評 341	③路 213	⑥裏 414	⑤複 344	⑤編 344	⑤謝 317
⑤証 321	③農 195	⑥誠 387	⑤酸 313	⑤賛 313	⑤講 309
⑤賀 294	③鉄 191	⑥賃 398	⑤銭 327	⑤質 317	⑥優 412
⑤貸 332	④働 266	14画	⑤銅 336	⑥劇 365	⑥厳 367
⑤貿 347	④塩 219		⑤雑 313	⑥権 366	⑥縮 381
⑥創 390	④愛 216	②歌 110	⑤領 351	⑥蔵 392	⑥覧 414
⑥割 358	④戦 256	②算 106	⑤層 391	⑥遺 354	
⑥勤 363	④照 251	②聞 105	⑥幕 408	⑥潮 397	18画
⑥善 389	④節 255	②読 105	⑥障 384	⑥熱 381	
⑥尊 393	④統 258	②語 106	⑥模 411	⑥諸 382	②曜 96
⑥就 379	④置 261	②鳴 128	⑥疑 361	⑥誕 394	②顔 101
⑥揮 360	④腸 262	③様 210	⑥磁 377	⑥論 416	③題 186
⑥敬 364	④試 245	③練 212	⑥穀 371		④観 225
⑥晩 404	④辞 246	③緑 211	⑥誤 368	16画	④類 282
⑥棒 409	⑤勢 324	③銀 158	⑥誌 376	②親 97	④駿 236
⑥策 373	⑤墓 345	③駅 148	⑥認 401	②頭 101	⑤職 323
⑥筋 363	⑤夢 348	③鼻 199	⑥閣 357	③整 181	⑤額 296
				③橋 156	⑤簡 359



# 総画さくいん

●このさくいんは、漢字を画数順にならべたものです。同じ画数の漢字は、学年順にならべています。  
●九数字は、その漢字を学習する学年をあらわしています。

①一 40	②丸 113	②切 141	①左 51	③打 184	⑥処 382	②羽 128
	②万 117	②午 90	①目 55	③氷 200	⑥幼 412	②肉 129
	②弓 126	②友 100	①生 73	③申 178	⑥片 397	②自 100
	②工 109	②太 135	①白 78	③由 207	⑥穴 365	②色 111
	②才 103	②少 134	①正 80	③皮 198		②行 138
	④士 244	②引 140	①田 62	③皿 164	6画	②西 94
	⑤久 300	②心 102	①石 68	③礼 212		③両 211
	⑥亡 409	②戸 124	①本 75	④以 216	①百 45	③全 181
①二 40	⑥寸 386	②方 121	①出 81	④付 272	①耳 55	③列 212
①七 43	⑥己 368	②止 139	①立 82	④令 282	①先 73	③向 162
①八 43	⑥干 358	②毛 101	①玉 69	④加 220	①早 80	③安 144
①九 44		②父 98	②冬 87	④功 237	①竹 66	③守 170
①十 44		②牛 127	②兄 98	④包 275	①虫 67	③州 171
①人 57	4画	③予 208	②北 95	④司 245	①氣 64	③式 168
①力 70		③化 150	②半 118	④史 244	①字 74	③曲 157
①入 81	①五 42	③区 158	②古 134	④失 247	①名 59	③有 207
②刀 126	①六 42	③反 197	②台 125	④辺 274	①年 59	③次 167
③丁 188	①日 46	④不 271	②外 133	④必 270	①休 82	③死 165
	①火 47	④夫 272	②市 122	④札 241	①系 70	③羊 208
3画	①水 47	④欠 235	②広 137	④末 276	②交 120	③血 160
	①木 48	④氏 244	②母 98	④未 277	②会 108	④争 257
①三 41	①中 52	⑤仏 344	②矢 126	④民 278	②光 87	④仲 261
①千 45	①手 54	⑤支 314	②用 131	⑤刊 296	②合 114	④伝 264
①土 49	①犬 67	⑤比 340	③世 180	⑤可 293	②同 137	④兆 262
①上 50	①天 64	⑥仁 385	③主 169	⑤句 302	②回 117	④共 231
①下 50	①文 74	⑥収 379	③仕 165	⑤圧 288	②地 121	④印 218
①大 52	①円 79	⑥尺 378	③他 184	⑤布 342	②多 134	④各 223
①小 53	①王 69	⑥片 407	③代 185	⑤弁 345	②寺 123	④好 237
①口 56	②今 96		③写 169	⑤旧 300	②当 118	④成 252
①女 58	②元 97	5画	③去 156	⑤永 289	②毎 117	④灯 265
①子 57	②公 93		③号 163	⑤犯 338	②池 93	④老 285
①山 60	②内 132	①四 41	③央 148	⑤示 316	②米 129	④衣 217
①川 60	②分 95	①右 51	③平 203	⑥冊 374	②考 103	⑤仮 293
①夕 65						

⑤件 303	②言 104	⑤似 316	②步 138	④固 236	⑥垂 386	③度 192
⑤任 337	②谷 92	⑤余 349	②画 109	④季 226	⑥宗 379	③待 185
⑤再 310	②走 138	⑤判 339	②直 114	④官 224	⑥宝 408	③急 155
⑤団 332	②里 122	⑤均 301	②知 116	④底 263	⑥宙 395	③送 182
⑤因 288	②麦 129	⑤序 320	②長 136	④府 272	⑥届 400	③追 189
⑤在 312	③住 173	⑤防 346	②門 124	④径 233	⑥延 355	③指 166
⑤舌 327	③助 175	⑤応 291	③事 167	④英 219	⑥忠 396	③持 168
⑥危 360	③医 145	⑤志 314	③使 165	④芽 221	⑥抗 357	③拾 172
⑥吸 361	③君 159	⑤快 295	③具 159	④念 268	⑥若 378	③昭 176
⑥后 369	③坂 198	⑤技 299	③取 170	④果 220	⑥拝 402	③柱 188
⑥存 392	③対 184	⑤条 321	③受 171	④松 249	⑥担 393	③洋 209
⑥宇 355	③局 157	⑤災 310	③味 205	④毒 267	⑥枚 410	③炭 186
⑥宅 393	③役 206	⑤状 321	③和 213	④泣 229	⑥治 356	③界 150
⑥机 360	③投 192	⑥乱 413	③命 205	④治 246		③畑 196
⑥灰 356	③決 160	⑥卵 414	③委 145	④法 275	9画	③発 197
⑥至 375	③返 204	⑥否 404	③始 166	④牧 276		③県 161
	③究 154	⑥困 372	③実 168	④的 264	①草 66	③研 161
7画	③豆 192	⑥孝 369	③定 190	⑤価 293	①音 71	③相 182
①足 54	③身 178	⑥忘 409	③岸 153	⑤券 304	②前 132	③神 179
①男 58	④位 217	⑥我 356	③幸 163	⑤舍 317	②南 94	③秒 201
①赤 78	④低 263	⑥批 405	③所 174	⑤制 323	②室 124	③級 155
①花 65	④児 246	⑥私 375	③放 204	⑤効 307	②後 132	③美 199
①貝 68	④兵 273	⑥系 364	③苦 158	⑤妻 311	②思 103	③負 202
①村 76	④冷 283		③服 202	⑤居 300	②春 86	③重 173
①町 76	④初 249	8画	③昔 181	⑤往 291	②茶 130	③面 205
①車 71	④別 274		③板 198	⑤性 323	②昼 89	④便 275
①見 83	④利 280	①金 48	③注 188	⑤承 320	②星 90	④信 252
②何 115	④努 265	①学 72	③波 195	⑤述 318	②海 92	④勇 279
②作 109	④劳 285	①青 79	③泳 147	⑤招 320	②活 130	④型 234
②体 100	④告 238	①林 61	③油 207	⑤易 290	②点 113	④変 274
②図 108	④囲 217	①空 63	③物 203	⑤枝 314	②秋 86	④単 261
②声 102	④完 224	①雨 63	③者 169	⑤武 343	②科 107	④建 235
②売 140	④希 226	②京 122	③育 146	⑤河 294	②計 115	④昨 241
②弟 99	④折 254	②国 106	③表 200	⑤版 339	②風 87	④栄 219
②形 112	④芸 234	②夜 89	④例 283	⑤肥 340	②食 130	④浅 255
②近 133	④改 222	②姉 99	④典 264	⑤非 340	②首 102	④省 252
②来 139	④材 240	②妹 99	④刷 241	⑥並 406	③乗 177	④祝 248
②汽 125	④束 258	②岩 92	④協 231	⑥乳 401	③係 159	④紀 227
②社 108	④求 229	②店 123	④卒 259	⑥供 362	③品 201	④約 278
②角 114	④臣 251	②明 90	④参 242	⑥刻 371	③客 154	④要 279
	④良 281	②東 94	④周 248	⑥呼 368	③屋 149	④軍 233



む	①六 42		②矢 126	⑥遺 354
むい	①六 42	<b>も</b>	③屋 149	②友 100
むかう	③向 162		②家 123	①右 51
むかし	③昔 181	モ	③役 206	③由 207
むぎ	②麦 129	モウ	④約 278	③有 207
むく	③向 162		⑤益 290	④勇 279
むくいる	⑤報 346		⑥訳 411	⑥郵 412
むける	③向 162	もうける	③葉 206	③遊 208
むこう	③向 162	もうす	④焼 250	⑥優 412
むし	①虫 67	もえる	④焼 250	④結 235
むす	⑥蒸 384	モク	⑤易 290	①夕 65
むずかしい	⑥難 400		⑥優 412	⑤故 306
むすぶ	④結 235	もしくは	④養 279	②雪 88
むつ	①六 42	もす	②社 108	②行 138
むつつ	①六 42	もちいる	③安 144	⑤豊 346
むな	⑥胸 362	モツ	①休 82	③指 166
むね	⑥胸 362	もつ	①休 82	②弓 126
むら	①村 76	もっとも	①休 82	⑤夢 348
	⑤群 302	もっぱら	①ハ 43	⑤許 301
むらす	⑥蒸 384	もと	①ハ 43	ゆわえる
むれ	⑤群 302		③宿 174	<b>よ</b>
むれる	⑥蒸 384		③宿 174	
	⑤群 302		③宿 174	ヨ
むろ	②室 124	もとい	⑤破 338	③予 208
		もどめる	⑤破 338	⑤余 349
		もの	④敗 268	⑤預 349
<b>め</b>			①山 60	③世 180
め	①女 58	もやす	③病 201	③代 185
	①目 55	もり	③病 201	①四 41
	④芽 221	もり	④辞 246	②夜 89
メイ	①名 59	もる	③和 213	④良 281
	③命 205	モン	③和 213	⑥善 389
	②明 90			⑥幼 412
	⑤迷 348		<b>ゆ</b>	②用 131
	⑥盟 411			③羊 208
	②鳴 128		ユ	③洋 209
めし	④飯 269	<b>や</b>	③由 207	④要 279
メン	③面 205		③油 207	⑤容 350
	⑤綿 348	ヤ	③遊 208	③葉 209
			⑤輸 349	③陽 209
		ヤ	③湯 193	③様 210
		や	③由 207	

	④養 279	ラン	⑥乱 413	④輪 282	
	②曜 96		⑥卵 414	⑥臨 415	<b>わ</b>
よう	①ハ 43		⑥覧 414		
ヨク	④浴 280			<b>る</b>	ワ
	⑥欲 413	<b>リ</b>			③和 213
	⑥翌 413				②話 104
よこ	③横 148	リ	④利 280	ル	③流 210
よし	③由 207		②里 122	ルイ	⑤留 351
よせる	⑤寄 298		②理 107		④類 282
よそおう	⑥装 391		⑥裏 414	<b>れ</b>	③我 356
よつ	①四 41	リキ	①力 70		④輪 282
よつつ	①四 41	リク	④陸 280		⑥若 378
よぶ	⑥呼 368	リチ	⑥律 415		②分 95
よむ	②読 105	リツ	①立 82		②分 95
よる	⑤因 288		⑥律 415	レイ	②分 95
	⑤寄 298		⑤率 331		④別 274
よる	②夜 89	リヤク	⑤略 351	レキ	⑥訳 411
よるこぶ	④喜 227	リュウ	①立 82	レツ	②分 95
よわい	②弱 136		③流 210	レン	⑤技 299
よわまる	②弱 136		⑤留 351		③業 157
よわめる	②弱 136	リョ	③旅 211		⑤災 310
よわる	②弱 136	リョウ	③両 211		⑥忘 409
よん	①四 41		④良 281	<b>ろ</b>	⑤綿 348
			④料 281		⑥私 375
<b>ら</b>			④量 281	ロ	④笑 249
			⑤領 351	ロウ	③童 194
ライ	③礼 212		④漁 230		⑥割 358
	②来 139	リョク	①力 70		⑥割 358
ラク	③落 210		③緑 211	ロク	③悪 144
	②楽 110	リン	①林 61	ロン	⑥我 356
					⑥割 358



ハン	③反 197 ②半 118 ⑤犯 338 ⑤判 339 ③坂 198 ③板 198 ⑤版 339 ⑥班 404 ④飯 269 ②万 117 ⑤判 339 ③板 198 ⑥晩 404 ②番 118	ひくまる ひくめる ひける ひさしい ひたい ひだり ヒツ ひつじ ひと ひとしい ひとつ ひとり ひめる ひや ひやかす ヒャク ビャク ひやす ヒョウ	④低 263 ④低 263 ②引 140 ⑤久 300 ⑤額 296 ①左 51 ④必 270 ③筆 200 ③羊 208 ①一 40 ①人 57 ③等 194 ①一 40 ⑤独 337 ⑥秘 405 ④冷 283 ④冷 283 ①百 45 ①白 78 ④冷 283 ③氷 200 ④兵 273 ③表 200 ⑤俵 341 ④票 271 ⑤評 341 ④標 271 ③平 203 ③秒 201 ③病 201 ③平 203 ③開 151 ③開 151 ⑥干 358 ②昼 89 ②広 137 ③拾 172 ②広 137 ②広 137 ②広 137 ②広 137 ②広 137	ヒン ビン <b>ふ</b> フ ブ フウ ふえ ふえる ふかい ふかまる ふかめる フク ふける ふし ふせぐ	③品 201 ⑤貧 342 ④便 275 ⑤貧 342 ④不 271 ④夫 272 ②父 98 ④付 272 ⑤布 342 ④府 272 ②歩 138 ③負 202 ②風 87 ⑤婦 342 ⑤富 343 ④不 271 ②分 95 ②分 95 ②歩 138 ⑤武 343 ③部 202 ④無 278 ④夫 272 ②風 87 ⑤富 343 ③笛 190 ⑤増 329 ③深 179 ③深 179 ③深 179 ③服 202 ④副 273 ⑤復 343 ③福 203 ⑥腹 405 ⑤複 344 ④老 285 ④節 255 ⑤防 346	①二 40 ④札 241 ⑤再 310 ①二 40 ⑤仏 344 ③物 203 ③筆 200 ②太 135 ②太 135 ②船 125 ②船 125 ①文 74 ⑤増 329 ②冬 87 ⑥降 370 ②古 134 ⑥奮 406 ②古 134 ②分 95 ④粉 273 ⑥奮 406 ①文 74 ②分 95 ②聞 105 ④辺 274 ③平 203 ④兵 273 ⑥並 406 ⑥陛 406 ③病 201 ⑥閉 407 ②米 129 ④別 274 ⑥紅 370 ⑤減 306 ⑤経 303 ⑤減 306 ⑥片 407
----	--	---	---	--	---	---

ベン	④辺 274 ③返 204 ④変 274 ⑤編 344 ⑤弁 345 ④便 275 ③勉 204 <b>ほ</b> ②歩 138 ⑤保 345 ⑥補 407 ①火 47 ②母 98 ⑤墓 345 ⑥暮 408 ⑥模 411 ②方 121 ④包 275 ⑥宝 408 ③放 204 ④法 275 ⑥訪 408 ⑤報 346 ⑤豊 346 ⑥亡 409 ⑤防 346 ⑥忘 409 ④望 276 ⑤貿 347 ⑥棒 409 ⑤暴 347 ②外 133 ⑥朗 415 ②北 95 ①木 48 ①目 55 ④牧 276 ②星 90 ⑥欲 413	ほす ほそい ほそる ホツ ホッ ほっする ほど ほどけ ほね ホン ①目 55 ③真 179 ②馬 127 ②間 97 ②毎 117 ②米 129 ②妹 99 ⑥枚 410 ④参 242 ②前 132 ③負 202 ⑤任 337 ③曲 157 ④牧 276 ⑥巻 359 ⑥幕 410 ⑥巻 359 ③負 202 ③曲 157 ④孫 259 ⑥誠 387 ①正 80 ③勝 177 ②交 120 ⑤混 309 ②交 120	まじる まじわる ます まずしい ませる まち マツ まつ まつ まったく まつり まつりごと まつる まと まど まなこ まなぶ まねく まめ まもる まる まるい まるめる まわす まわり まわる マン <b>み</b> ミ み ④未 277 ③味 205 ①三 41 ③身 178 ③実 168	②交 120 ⑤混 309 ②交 120 ⑤増 329 ⑤貧 342 ②交 120 ⑤混 309 ①町 76 ④街 223 ④末 276 ④松 249 ③待 185 ③全 181 ③祭 164 ⑤政 324 ③祭 164 ④的 264 ⑥窓 390 ⑤眼 297 ①学 72 ⑤招 320 ③豆 192 ③守 170 ⑤迷 348 ②丸 113 ②丸 113 ①円 79 ②丸 113 ②回 117 ④周 248 ②回 117 ②万 117 ④満 277 <b>む</b> ム ⑤武 343 ⑤務 347 ④無 278 ⑤夢 348	みえる みき みぎ みさお みじかい みず みずうみ みずから みせ みせる みたす みだす みだれる みち みちびく みちる ミツ みつ みつつ みどめる みどり みなと みなみ みなもと みのる みみ みや ミヤク みやこ ミョウ みる ミン	①見 83 ⑤幹 297 ①右 51 ⑥操 391 ③短 186 ①水 47 ③湖 162 ②自 100 ②店 123 ①見 83 ④満 277 ⑥乱 413 ⑥乱 413 ②道 120 ⑤導 336 ④満 277 ⑥密 410 ①三 41 ①三 41 ⑥認 401 ③緑 211 ③港 163 ②南 94 ⑥源 367 ③実 168 ①耳 55 ③宮 155 ④脈 277 ③都 191 ①名 59 ③命 205 ②明 90 ①見 83 ④民 278
----	--	---	--	--	--	---



	③定 190	トウ	②刀 126		⑤徳 336		⑥納 401
	④底 263		②冬 87		②読 105	な	①名 59
	③庭 190		②当 118	とく	⑤解 295		④菜 240
	④停 263		④灯 265		④説 255	ナイ	②内 132
	⑤提 334		③投 192	とぐ	③研 161	ない	⑥亡 409
	⑤程 334		③豆 192	ドク	④毒 267		④無 278
テキ	④的 264		②東 94		⑤独 337	なおす	④治 246
	③笛 190		③島 193		②読 105		②直 114
	⑤適 335		⑥党 399	とける	⑤解 295	なおる	④治 246
	⑤敵 335		⑥納 401	どこ	⑤常 322		②直 114
テツ	③鉄 191		⑥討 399	ところ	③所 174	なか	①中 52
てら	②寺 123		③湯 193	とぎす	⑥閉 407		④仲 261
てらす	④照 251		③登 193	とし	①年 59	なかい	⑤永 289
てる	④照 251		③等 194	とじる	⑥閉 407		②長 136
でる	①出 81		②答 115	とどく	⑥届 400	なかす	③流 210
てれる	④照 251		②道 120	とどける	⑥届 400	なかば	②半 118
テン	①天 64		⑤統 335	とどのう	③調 189	ながれる	③流 210
	④典 264		⑥糖 399		③整 181	なく	④泣 229
	②店 123		②読 105	ととのえる	③調 189		②鳴 128
	②点 113		②頭 101		③整 181	なげる	③投 192
	⑥展 398	どう	③問 206	となえる	④唱 250	なごむ	③和 213
	③転 191	ドウ	②同 137	とばす	④飛 269	なごやか	③和 213
デン	①田 62		③動 194	とぶ	④飛 269	なさけ	⑤情 322
	④伝 264		④堂 266	とまる	②止 139	なす	④成 252
	②電 116		③童 194		⑤留 351	なつ	②夏 86
			②道 120	とみ	⑤富 343	ナッ	⑥納 401
			④働 266	とむ	⑤富 343	なな	①七 43
			⑤銅 336	とめる	②止 139	ななつ	①七 43
			⑤導 336		⑤留 351	なに	②何 115
			⑥尊 393	とも	②友 100	なの	①七 43
			⑥貴 361		④共 231	なま	①生 73
			⑥尊 393		⑥供 362	なみ	③波 195
			⑥貴 361	とり	②鳥 128		⑥並 406
			①十 44	とる	③取 170	ならう	③習 172
			②遠 133		⑤採 311	ならず	②鳴 128
と	①十 44		②通 120	トン	⑤団 332		⑤慣 297
	②戸 124		②通 120	どん	③問 206	ならびに	⑥並 406
	①土 49		⑤解 295			ならぶ	⑥並 406
ド	④努 265		②時 95			ならべる	⑥並 406
	③度 192		④特 266			なる	④成 252
	③問 206		④得 267	ナ	②南 94		②鳴 128
とい							

なれる	⑤慣 297	ねがう	④願 226	バ	②馬 127	はしら	③柱 188
ナン	①男 58	ネツ	④熱 267	ば	②場 121	はしる	②走 138
	②南 94	ねる	③練 212	ハイ	⑥拝 402	はずす	②外 133
	⑥納 401	ネン	①年 59		③配 195	はずれる	②外 133
	⑥難 400		④念 268		⑥背 403	はた	③畑 196
なん	②何 115		④然 256		⑥肺 403		④旗 227
			⑤燃 337		⑥俳 403		④機 228
					④敗 268	はたけ	③畑 196
				はい	⑥灰 356	はたす	④果 220
				バイ	②売 140	はたらく	④働 266
ニ	①二 40				③倍 196	ハチ	①八 43
	⑥仁 385	の	②野 91		④梅 268	ハツ	③発 197
	④児 246	ノウ	⑥納 401		②買 140	はつ	④初 249
に	③荷 150		⑤能 338		①入 81	ハッ	④法 275
にい	②新 135		⑥脳 402	はいる	④栄 219	ハヅ	④末 276
にかい	③苦 158		③農 195	はえ	①生 73	はて	④果 220
にがる	③苦 158	のこす	④残 243	はえる	④栄 219	はてる	④果 220
ニク	②肉 129	のこる	④残 243		⑥映 355	はな	①花 65
にし	②西 94	のせる	③乗 177	はか	⑤墓 345		③鼻 199
ニチ	①日 46	のぞく	⑥除 383	ばかり	③化 150	はなし	②話 104
になう	⑥担 393	のぞむ	④望 276		⑥鋼 370	はなす	③放 204
ニヤク	⑥若 378		⑥臨 415	はからう	②計 115		②話 104
ニュウ	①入 81	のち	②後 132	はかる	②図 108	はなつ	③放 204
	⑥乳 401	のばす	⑥延 355		②計 115	はなれる	③放 204
ニョ	①女 58	のびる	⑥延 355		⑤測 330	はね	②羽 128
ニョウ	①女 58	のべる	⑥延 355		④量 281	はは	②母 98
にる	⑤似 316		⑤述 318	ハク	①白 78	はぶく	④省 252
にわ	③庭 190	のます	①上 50		④博 269	はやい	①早 80
ニン	①人 57	のませる	①上 50	バク	②麦 129		③速 183
	⑤任 337	のはる	①上 50		④博 269	はやし	①林 61
	⑥認 401	のむ	③登 193		⑥幕 410	はやす	①生 73
		のる	③飲 147	はげしい	⑤暴 347	はやまる	①早 80
			③乗 177	ぼける	⑥激 365	はやめる	①早 80
				はこ	③化 150		③速 183
				はこぶ	③箱 196	はら	②原 91
				はし	③運 147	はらす	⑥腹 405
				はじまる	③橋 156	はり	②晴 88
				はじめ	③始 166	はり	⑥針 385
				はじめて	④初 249	はる	⑤張 333
				はじめる	④初 249	はる	②春 86
					③始 166	はれる	②晴 88



せき セチ セツ	①石 68	そ		⑤属 330	②台 125
	①赤 78			④続 258	③対 184
	③昔 181		そこ	④底 263	②体 100
	④席 254		そこなう	⑤損 331	③待 185
	⑤責 325		そこねる	⑤損 331	⑤退 331
	④積 254		そそぐ	③注 188	④帯 260
	⑤績 326		そだつ	③育 146	⑤貸 332
	④関 225		そだてる	③育 146	④隊 260
	④節 255		ソツ	④卒 259	⑤態 332
	②切 141		ソツ	⑤率 331	①大 52
ゼツ	④折 254	ソウ	そと	②外 133	②内 132
	④殺 242		そなえる	⑥供 362	③代 185
	⑤接 326		そなわる	⑤備 341	②台 125
	⑤設 326		その	⑤備 341	②弟 99
	②雪 88		そまる	②園 93	③第 185
	④節 255		そむく	⑥染 389	③題 186
	④説 255		そむける	⑥背 403	③平 203
	⑤舌 327		そめる	⑥背 403	⑤絶 327
	⑤絶 327			④初 249	②高 137
	⑤銭 327		そら	⑥染 389	②高 137
ゼン	⑤責 325	ソウ	そらす	①空 63	②高 137
	④競 232		そる	③反 197	②高 137
	①千 45		ソン	③反 197	⑤耕 308
	①川 60		そう	⑥存 392	⑥宝 408
	①先 73		ゾウ	⑥存 392	⑥宅 393
	⑥宣 388			①村 76	③度 192
	⑥専 388			④孫 259	①竹 66
	⑥染 389			⑥尊 393	⑤確 296
	④浅 255			⑤損 331	⑤確 296
	⑥洗 389			⑥存 392	①足 54
ゼン	⑥泉 388	ソウ	ソン	①出 81	①出 81
	②船 125			③助 175	③助 175
	④戦 256			③助 175	⑥訪 408
	⑤銭 327			④戦 256	①正 80
	②線 113			①正 80	①正 80
	④選 256			②直 114	④達 260
	③全 181			①立 82	④建 235
	②前 132				
	⑥善 389				
	④然 256				

たつとい	⑥尊 393	ち	②地 121	チヨウ	③丁 188	つくる	②作 109
たつとぶ	⑥尊 393		②池 93		⑥庁 397		⑤造 329
たて	⑥縦 380	チ	④治 246		④兆 262	つける	④付 272
たてる	①立 82		②知 116		①町 76		⑥就 379
たとえる	④建 235		⑥値 395		②長 136		③着 187
たに	②谷 92		④置 261		③重 173	つげる	④告 238
たね	④種 247		⑤質 317		③帳 189	つたう	④伝 264
たのしい	②楽 110		①千 45	チヨク	⑤張 333	つたえる	④伝 264
たのしむ	②楽 110	ち	③血 160	ちらかす	⑥頂 397	つたわる	④伝 264
たば	④束 258		⑥乳 401	ちらかる	②鳥 128	つち	①土 49
たび	③度 192		①小 53	ちらす	②朝 89	つづく	④続 258
	③旅 211	ちいさい	②近 133	ちる	④腸 262	つづける	④続 258
たべる	②食 130	ちかい	①力 70	チン	⑥潮 397	つづむ	④包 275
たま	①玉 69	ちから	①竹 66		③調 189	つどう	③集 173
	③球 156	チク	⑤築 333		②直 114	つとまる	⑥勤 363
たまご	⑥卵 414		②父 98		④散 243	つとめる	④努 265
たみ	④民 278	ちち	⑥乳 401		④散 243		⑤務 347
ためす	④試 245		⑥縮 381		④散 243	つね	⑥勤 363
たもつ	⑤保 345	ちぢまる	⑥縮 381	ツ	④散 243	つね	⑤常 322
たやす	⑤絶 327	ちぢむ	⑥縮 381	ツイ	⑥賃 398	つの	②角 114
たより	④便 275	ちぢめる	⑥縮 381			つま	⑤妻 311
たらす	⑥垂 386	ちぢらす	⑥縮 381			つみ	⑤罪 312
たりる	①足 54	ちぢれる	⑥縮 381	つゐえる		つむ	④積 254
たる	①足 54	チャ	②茶 130	つゐやす		つめたい	④冷 283
たれる	⑥垂 386	チャク	③着 187	ツウ	②通 120	つもる	④積 254
たわら	⑤俵 341	チュウ	①中 52		③都 191	つよい	②強 136
タン	③反 197		④仲 261	つかう	③対 184	つよまる	②強 136
	⑥担 393		①虫 67	つかえる	③追 189	つよめる	②強 136
	④単 261		③注 188		④費 270	つら	③面 205
	③炭 186		⑥忠 396	つき	④費 270	つらなる	④連 284
	⑥探 394		⑥宙 395	つき	②通 120	つらねる	④連 284
	③短 186		②昼 89	つく	⑥痛 398	つれる	④連 284
	⑥誕 394		③柱 188		③使 165		
ダン	⑤団 332	チヨ	⑥著 396	つくえ	③仕 165		
	①男 58		④貯 262		①月 46		
					③次 167		
					④付 272	て	①手 54
					⑥就 379	デ	②弟 99
					③着 187	テイ	③丁 188
					③次 167		④低 263
					⑤接 326		②弟 99
					⑥机 360		②体 100

て

①手 54
②弟 99
③丁 188
④低 263
②弟 99
②体 100



②算 106	ジ	③仕 165	②室 124	⑥従 380
④残 243		⑤示 316	⑤質 317	⑤授 318
<b>し</b>		②地 121	①日 46	⑥就 379
		①字 74	③実 168	⑥樹 378
		②寺 123	①十 44	⑥収 379
シ		③次 167	③品 201	③州 171
④士 244		①耳 55	③死 165	④周 248
①子 57		②自 100	③島 193	⑥宗 379
⑤支 314		④児 246	⑥閉 407	③拾 172
②止 139		⑤似 316	⑥染 389	④祝 248
④氏 244		③事 167	⑥染 389	②秋 86
③仕 165		④治 246	⑤示 316	⑤修 318
④史 244		③持 168	⑥閉 407	③終 172
④司 245		②時 95	①下 50	③習 172
①四 41		⑥除 383	③写 169	②週 96
②市 122		④辞 246	②社 108	⑥就 379
⑤示 316		⑥磁 377	①車 71	⑥衆 380
②矢 126		③路 213	③者 169	③集 173
③次 167	じ	③幸 163	⑤舎 317	①十 44
③死 165	しあわせ	②強 136	⑥砂 372	③住 173
①糸 70	しいる	④塩 219	⑥射 377	③拾 172
②自 100	しお	⑥潮 397	⑥捨 377	③重 173
⑥至 375		③式 168	⑤謝 317	⑥従 380
⑤志 314	シキ	②色 111	⑥尺 378	⑥縦 380
⑥私 375		⑤織 322	①石 68	④祝 248
③使 165		⑤識 316	①赤 78	③宿 174
②姉 99		②直 114	③昔 181	⑥縮 381
③始 166	ジキ	②食 130	④借 247	⑥熟 381
⑤枝 314		④静 253	⑥若 378	①出 81
⑥姿 375	しず	④静 253	②弱 136	⑤述 318
②思 103	しずか	④静 253	③着 187	⑤術 319
③指 166	しずまる	④静 253	①手 54	②春 86
⑤師 315	しずめる	④静 253	③主 169	⑥純 381
②紙 111	した	①下 50	③守 170	④順 248
⑥視 376		⑤舌 327	③取 170	⑤準 319
⑥詞 376	したがう	⑥従 380	②首 102	⑥処 382
③齒 166	したがえる	⑥従 380	⑤修 318	④初 249
④試 245	したしい	②親 97	③酒 171	③所 174
③詩 167	したしむ	②親 97	⑥衆 380	②書 105
⑤資 315	シチ	①七 43	④種 247	③暑 174
⑤飼 315		⑤質 317	③受 171	⑥署 382
⑥誌 376	シツ	④失 247		

⑥諸 382	⑤条 321	⑥仁 385	すまう	③住 173
①女 58	⑤状 321	④臣 251	すます	⑥濟 373
③助 175	③定 190	③神 179	すみ	③炭 186
⑤序 320	⑥城 384	<b>す</b>	すみやか	③速 183
⑥除 383	③乗 177		すむ	③住 173
①上 50	⑤常 322			⑥濟 373
①小 53	⑤情 322	ス	①子 57	④刷 241
②少 134	⑥盛 387		③主 169	⑥座 372
①正 80	②場 121		③守 170	⑥寸 386
①生 73	⑥蒸 384		⑤素 328	
②声 102	④静 253		②数 107	<b>せ</b>
⑤承 320	②色 111	す	③州 171	
⑤性 323	②食 130		④巢 257	セ
⑤招 320	③植 178	ズ	②図 108	せ
①青 79	⑤織 322		③豆 192	セイ
④松 249	⑤職 323		③事 167	
⑤政 324	①白 78		②頭 101	①正 80
③昭 176	③調 189	スイ	①水 47	①生 73
③相 182	⑤退 331		①出 81	④成 252
②星 90	⑤退 331		⑥垂 386	②西 94
④省 252	②知 116		⑥推 386	②声 102
⑥将 383	④印 218	すい	⑤酸 313	⑤制 323
③消 176	②記 104	スウ	②数 107	⑤性 323
⑥従 380	③代 185	すう	⑥吸 361	①青 79
④笑 249	①白 78	すえ	④末 276	⑤政 324
④唱 250	⑥城 384	すがた	⑥姿 375	②星 90
③商 176	①白 78	すぎる	⑤過 294	④省 252
④清 253	②心 102	すく	④好 237	⑤情 322
③章 177	③申 178	すくう	④救 229	④清 253
③勝 177	④臣 251	すくない	②少 134	⑥盛 387
④焼 250	③身 178	すぐれる	⑥優 412	②晴 88
⑥装 391	④信 252	すけ	③助 175	⑤勢 324
⑤証 321	③神 179	すこし	②少 134	⑥聖 387
④象 250	③真 179	すごす	⑤過 294	⑥誠 387
⑥傷 383	⑥針 385	すごやか	④健 236	⑤精 324
④照 251	③深 179	すじ	⑥筋 363	⑤製 325
⑥障 384	③進 180	すすむ	③進 180	④静 253
⑤精 324	①森 61	すすめる	③進 180	③整 181
④賞 251	②新 135	すてる	⑥捨 377	⑥背 403
①上 50	②親 97	すな	⑥砂 372	⑤税 325
④成 252	①人 57	すべる	⑤統 335	④説 255
				①夕 65



ギン	⑥勤 363	くらす	⑥暮 408	③軽 160	コ	⑥己 368
	⑥筋 363	くらべる	⑤比 340	⑤境 301		②戸 124
	⑤禁 302	くる	②来 139	⑥警 364		③去 156
	③銀 158	くるしい	③苦 158	④競 232		②古 134
ク	く	くるしむ	③苦 158	④芸 234	こ	⑥呼 368
		くるしめる	③苦 158	⑥劇 365		④固 236
		くるま	①車 71	⑥激 365		⑤故 306
		くれない	⑥紅 370	③消 176		③庫 162
グ	①九 44	くれる	⑥暮 408	④欠 235	ゴ	③湖 162
	⑤久 300	くろ	②黒 112	⑥穴 365		①子 57
	①口 56	くろい	②黒 112	③血 160		①小 53
	②工 109	くわえる	④加 220	③決 160		①木 48
ゲ	③区 158	くわわる	④加 220	④結 235	コウ	④粉 273
	④功 237	クン	③君 159	⑤潔 303		②黄 112
	⑤句 302	グン	④訓 232	①月 46		①五 42
	⑥供 362		④軍 233	⑤陰 304		②午 90
グウ	③苦 158		④郡 233	①犬 67	ケウ	②後 132
	⑥紅 370		④群 302	⑤件 303		③期 154
	③宮 155			①見 83		②語 106
	③庫 162			⑤券 304		⑥誤 368
グウ	③具 159			④建 235	コウ	⑤護 307
	①空 63			③研 161		①口 56
	②食 130			③県 161		②工 109
	③宮 155			④健 236		②公 93
グウ	①草 66			⑤陰 304	コウ	④功 237
	③葉 206			⑤検 304		②広 137
	④管 224			②間 97		②交 120
	①下 50			⑥絹 366		②光 87
グウ	①下 50			⑥権 366	コウ	⑥后 369
	①下 50			⑥憲 366		③向 162
	①下 50			④驗 236		④好 237
	①下 50			②元 97		②考 103
グウ	①口 56			②言 104	コウ	⑥行 138
	②国 106			⑤限 305		⑥孝 369
	③配 195			②原 91		⑤効 307
	②首 102			⑤現 305		③幸 163
グウ	②組 119			⑥眼 297	コウ	⑤厚 307
	②組 119			⑤減 306		
	②雲 88			⑥源 367	コウ	
	④倉 257			⑥巖 367		
グウ	⑥蔵 392			④驗 236		
	③暗 144					
	④位 217					
	②食 130					

①後 132	②ころみる	④試 245	⑤査 310	さく	⑥割 358
⑥皇 369	②ころよい	⑤快 295	⑥砂 372	さくら	⑤桜 292
⑥紅 370	こたえ	②答 115	④差 239	さぐる	⑥探 394
④候 237	こたえる	②答 115	⑥座 372	さけ	③酒 171
⑥降 370	コツ	⑥骨 371	②才 103	さげる	①下 50
①校 72	こと	②言 104	②切 141		⑤提 334
⑤格 295		③事 167	⑤再 310	ささえる	⑤支 314
⑤耕 308		⑥異 354	②西 94	さす	③指 166
④航 238	ことわる	⑤断 333	⑤災 310		④差 239
②高 137	こな	④粉 273	⑤妻 311	さずかる	⑤授 318
④康 238	このむ	④好 237	⑤財 312	さずける	⑤授 318
②黄 112	こまか	②細 135	④殺 242	さだか	③定 190
③港 163	こまかい	②細 135	⑤採 311	さだまる	③定 190
⑤鉦 308	こまる	⑥困 372	⑥濟 373	さだめる	③定 190
⑤構 308	こめ	②米 129	③祭 164	さち	③幸 163
⑤興 309	こやし	⑤肥 340	②細 135	サツ	⑥冊 374
⑥鋼 370	こやす	⑤肥 340	④菜 240		④札 241
⑤講 309	ころがす	③転 191	④最 240		④刷 241
③神 179	ころがる	③転 191	⑥裁 373		④殺 242
③号 163	ころげる	③転 191	⑤際 311		④察 242
②合 114	ころす	④殺 242	⑤在 312	サツ	①早 80
②強 136	ころぶ	③転 191	④材 240	ザツ	⑤雑 313
⑥郷 362	ころも	④衣 217	⑤財 312	さと	②里 122
③業 157	こわ	②声 102	⑤罪 312	さばく	⑥裁 373
②声 102	コン	②今 96	③幸 163	さま	③様 210
⑤肥 340		⑥困 372	③坂 198	さます	④冷 283
⑤肥 340		①金 48	⑤逆 299		④覚 223
③氷 200		④建 235	③酒 171	さむい	③寒 151
①石 68		③根 164	⑤境 301	さめる	④冷 283
④告 238		⑤混 309	④栄 219		④覚 223
②谷 92	ゴン	②言 104	⑥探 394	さら	③皿 164
⑥刻 371		⑥勤 363	②魚 127	さる	③去 156
②国 106		⑥権 366	⑤逆 299	さわる	⑥障 384
②黒 112		⑥厳 367	⑥盛 387	サン	①三 41
⑥穀 371			①下 50		①山 60
④極 232			⑥盛 387		④参 242
①九 44			①先 73		⑥蚕 374
①九 44	サ	①左 51	⑥冊 374		④産 243
②心 102		⑤再 310	②作 109		④散 243
⑤志 314		②作 109	④昨 241		⑤酸 313
⑤志 314		②茶 130	⑥策 373		⑤賛 313



おくれる	②後 132	おりる	①下 50	②回 117	⑤確 296
おこす	③起 153		⑥降 370	⑥灰 356	④欠 235
おこす	⑤興 309	おる	④折 254	⑤快 295	②書 105
おごそか	⑥厳 367		⑤織 322	④改 222	①学 72
おこなう	②行 138	おれる	④折 254	②海 92	②楽 110
おこる	③起 153	おろす	①下 50	③界 150	⑤額 296
おこる	⑤興 309		⑥降 370	④械 222	④欠 235
おさない	⑥幼 412	おわる	③終 172	②絵 110	④困 217
おさまる	⑥収 379	オン	①音 71	④街 223	④困 217
	④治 246		⑤恩 292	③開 151	②風 87
	⑤修 318		③温 149	③階 151	③重 173
	⑥納 401		②遠 133	⑤解 295	③重 173
おさめる	⑥収 379	おんな	①女 58	①貝 68	②頭 101
	④治 246			②外 133	⑤貸 332
	⑤修 318			④害 222	②数 107
	⑥納 401			④街 223	②風 87
おしえる	②教 116	カ	①下 50	⑥蚕 374	②数 107
おす	⑥推 386		③化 150	②交 120	②方 121
おそわる	②教 116		①火 47	②買 140	⑥片 407
おちる	③落 210		④加 220	⑤飼 315	②形 112
おっと	④夫 272		⑤可 293	③返 204	④型 234
おと	①音 71		⑤仮 293	②帰 139	④固 236
おとうと	②弟 99		②何 115	④省 252	⑥難 400
おとこ	①男 58		①花 65	③代 185	⑤敵 335
おとす	③落 210		⑤価 293	④変 274	②形 112
おとずれる	⑥訪 408		④果 220	③返 204	②刀 126
おなじ	②同 137		⑤河 294	②帰 139	④固 236
おのおの	④各 223		②科 107	②顔 101	④固 236
おのれ	⑥己 368		②夏 86	④鏡 231	②語 106
おび	④帯 260		②家 123	③係 159	②語 106
おびる	④帯 260		③荷 150	③係 159	②活 130
おほえる	④覚 223		④貨 221	⑤限 305	⑥割 358
おも	③主 169		⑤過 294	④各 223	③勝 177
	③面 205		②歌 110	②角 114	②合 114
おもい	③重 173		④課 221	⑥括 357	①月 46
おもう	②思 103	か	①日 46	②画 109	②合 114
おもて	③表 200	ガ	⑥我 356	③客 154	⑥担 393
	③面 205		②画 109	⑥革 357	②角 114
おや	②親 97		④芽 221	⑤格 295	②門 124
およぐ	③泳 147		⑤賀 294	④覚 223	①金 48
おり	④折 254	カイ	②会 108	⑥閣 357	③悲 199

かなしむ	③悲 199	かん	⑥簡 359	きえる	③消 176	④拳 230
かなでる	⑥奏 390		③神 179	きく	④利 280	⑤許 301
かならず	④必 270	ガン	②丸 113		⑤効 307	②魚 127
かね	①金 48		②元 97	きこえる	②聞 105	④漁 230
かぶ	⑥株 358		②岩 92	きざし	②聞 105	④清 253
かまう	⑤構 308		③岸 153	きざす	④兆 262	②兄 98
かまえる	⑤構 308		⑤眼 297	きざむ	④兆 262	④共 231
かみ	①上 50		②顔 101	きし	⑥刻 371	②京 122
	③神 179		④願 226	きず	③岸 153	⑥供 362
	②紙 111	かんがえる	②考 103	きずく	⑥傷 383	④協 231
かよう	②通 120			きせる	⑤築 333	⑥胸 362
から	①空 63			きそう	③着 187	②強 136
からだ	②体 100			きた	④競 232	②教 116
かり	⑤仮 293	キ	⑥己 368	きたす	②北 95	⑥郷 362
かりる	④借 247		①気 64	きたる	②来 139	⑤經 303
かるい	③軽 160		⑥危 360	きぬ	②来 139	⑤境 301
かるやか	③軽 160		⑥机 360	きびしい	⑥絹 366	③橋 156
かわ	①川 60		④希 226	きまる	⑥厳 367	⑤興 309
	③皮 198		②汽 125	きみ	③決 160	④鏡 231
	⑤河 294		④季 226	きめる	③君 159	④競 232
	⑥革 357		④紀 227	キャク	③決 160	②行 138
	④側 258		③起 153	ギャク	③客 154	②形 112
かわす	②交 120		②帰 139	ギャク	⑤逆 299	③業 157
かわる	③代 185		②記 104	キュウ	①九 44	③曲 157
	④変 274		⑤基 298		⑤久 300	③局 157
カン	⑥干 358		⑤寄 298		②弓 126	④極 232
	⑤刊 296		⑤規 298		⑤旧 300	①玉 69
	④完 224		④喜 227		①休 82	④清 253
	④官 224		⑥揮 360		⑥吸 361	④清 253
	⑥巻 359		③期 154		④求 229	②切 141
	⑥看 359		⑥貴 361		③究 154	③着 187
	③寒 151		④旗 227		④泣 229	②切 141
	②間 97		④器 228		③急 155	⑤際 311
	⑤幹 297	き	④機 228		③級 155	④極 232
	③感 152		①木 48		③宮 155	④極 232
	③漢 152		①生 73		④救 229	③究 154
	⑤慣 297		②黄 112		③球 156	④極 232
	④管 224	ギ	⑤技 299	ギユウ	④給 230	②今 96
	④関 225		⑤義 299	キョ	②牛 127	⑤均 301
	③館 153		⑥疑 361		③去 156	②近 133
	④観 225		④議 228		⑤居 300	①金 48



# 音訓さくいん

●このさくいんは、漢字を読みかたの五十音順にならべたものです。読みかたが同じ漢字は、画数順になっています。

●カタカナは音読み、ひらがなは訓読みです。赤い字は送りがなです。

●丸数字は、その漢字を学習する学年。

## あ

	あ		あげる	①上 50	あと	②後 132	⑥著 396	
				④拳 230	あな	⑥穴 365	あらわれる	③表 200
		あさ	②朝 89	あに	②兄 98		⑤現 305	
アイ	④愛 216	あざ	①字 74	あね	②姉 99	ある	③有 207	
あい	③相 182	あさい	④浅 255	あばく	⑤暴 347		⑤在 312	
あいだ	②間 97	あし	①足 54	あばれる	⑤暴 347	あるく	②歩 138	
あう	②会 108	あじ	③味 205	あびせる	④浴 280	あわす	②合 114	
	②合 114	あじわう	③味 205	あびる	④浴 280	あわせる	②合 114	
あお	①青 79	あずかる	⑤預 349	あぶない	⑥危 360	アン	②行 138	
あおい	①青 79	あずける	⑤預 349	あぶら	③油 207		③安 144	
あか	①赤 78	あそぶ	③遊 208	あま	①天 64		④案 216	
あかい	①赤 78	あたい	⑤価 293		①雨 63		③暗 144	
あかす	②明 90		⑥値 395	あます	⑤余 349			
あからむ	①赤 78	あたたか	③温 149	あまる	⑤余 349			
	②明 90		⑥暖 395	あむ	⑤編 344			
あからめる	①赤 78	あたたかい	③温 149	あめ	①天 64	い	④以 216	
あかり	②明 90		⑥暖 395		①雨 63		④衣 217	
あがる	①上 50	あたたまる	③温 149	あやうい	⑥危 360		④位 217	
	④拳 230		⑥暖 395	あやつる	⑥操 391		③医 145	
あかるい	②明 90	あたためる	③温 149	あやぶむ	⑥危 360		④囲 217	
あかるむ	②明 90		⑥暖 395	あやまち	⑤過 294		③委 145	
あき	②秋 86	あたま	②頭 101	あやまつ	⑤過 294		⑤易 290	
あきなう	③商 176	あたらしい	②新 135	あやまる	⑥誤 368		④胃 218	
あきらか	②明 90	あたり	④辺 274		⑤謝 317		⑥異 354	
アク	③悪 144	あたる	②当 118	あゆむ	②歩 138		⑤移 288	
あく	①空 63	アツ	⑤圧 288	あらう	⑥洗 389		③意 145	
	②明 90	あつい	⑤厚 307	あらそう	④争 257		⑥遺 354	
	③開 151		③暑 174	あらた	②新 135	いう	②言 104	
あくる	②明 90		④熱 267	あらたまる	④改 222	いえ	②家 123	
あける	①空 63	あつまる	③集 173	あらためる	④改 222	いかす	①生 73	
	②明 90	あつめる	③集 173	あらわす	③表 200	イキ	⑥域 354	
	③開 151	あてる	②当 118		⑤現 305	いき	③息 183	

いきおい	⑤勢 324	いわう	④祝 248	⑤移 288	えらぶ	④選 256
いきる	①生 73	イン	②引 140	④器 228	える	④得 267
イク	③育 146		④印 218	④産 243	エン	①円 79
いく	②行 138		⑤因 288	②馬 127		⑥延 355
いくさ	④戦 256		①音 71	①生 73		⑥治 356
いけ	②池 93		③員 146	④産 243		②園 93
いける	①生 73		③院 146	②海 92		④塩 219
いさぎよい	⑤潔 303		③飲 147	①生 73		②遠 133
いさむ	④勇 279			④産 243		⑤演 291
いし	①石 68	う		④梅 268		
いずみ	⑥泉 388	うめ		⑥敬 364	お	
いそぐ	③急 155	うやまう		⑥裏 414	オ	③和 213
いた	③板 198	うら		②売 140	③悪 144	
いたい	⑥痛 398	うる		④得 267	①小 53	
いただき	⑥頂 397	うれる		②売 140	お	④老 285
いたたく	⑥頂 397	うわ		⑥熟 381	おいる	①王 69
いたむ	⑥痛 398	うわ		①上 50	オウ	①央 148
いためる	⑥痛 398	うわる		③植 178		③央 148
いたる	⑥傷 383	ウン		③運 147		⑤応 291
イチ	⑥傷 383			②雲 88		⑤往 291
いち	⑥至 375					⑥皇 369
いちじる	①一 40	うけたまわる				⑤桜 292
イツ	②市 122	うける				②黄 112
いつ	⑥著 396	うごかす				③横 148
いつつ	①一 40	うごく				①生 73
いと	①五 42	うし				③負 202
いとど	①五 42	うじ				③追 189
いな	①糸 70	うしなう				③終 172
いぬ	⑤営 289	うしろ				①大 52
いのち	⑥否 404	うた				②多 134
いま	①犬 67	うたう				①大 52
いもうと	③命 205	うたがう				①大 52
いる	②今 96	うち				②公 93
	②妹 99	うつ				⑤犯 338
	①入 81	うつく				⑥拜 402
	⑤居 300	うつす				⑥補 407
	④要 279					③起 153
	⑥射 377					③屋 149
いれる	①入 81					④億 220
いろ	②色 111					④置 261
いわ	②岩 92					③送 182



小学生の新**レインボー**漢字**読み書き**辞典  
—改訂カラー版—

1970年2月20日 初 版 発 行  
1990年2月10日 改訂新版第1刷発行  
1996年1月10日 新 版 第 1 刷 発 行  
2000年12月5日 改訂カラー版第1刷発行  
2009年2月17日 改訂カラー版第13刷発行

発 行 人 岡 部 学  
編 集 学研辞典編集部  
発 行 所 株式会社 学習研究社  
〒141-8510 東京都品川区西五反田2-11-8  
印 刷 所 図書印刷株式会社  
製 本 所 図書印刷株式会社

この本に関する各種のお問い合わせは、次のところにご連絡ください。

- 編集内容については TEL 03-6431-1603(編集部直通)
- 在庫、不良品(落丁、乱丁)については TEL 03-6431-1199(出版販売部)
- それ以外のこの本に関するお問い合わせは下記まで。

文書は〒141-8510 東京都品川区西五反田2-11-8  
学研お客様センター 『漢字読み書き辞典』係  
電話は03-6431-1002(学研お客様センター)

© GAKKEN 1970 Printed in Japan

本書の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。  
複写(コピー)をご希望の場合は、下記までご連絡ください。  
日本複写権センター TEL 03-3401-2382

Ⓡ(日本複写権センター委託出版物)

この辞典をつくった人

●監修

石井庄司(文学博士)

●指導・原稿執筆

永田光風(硬筆指導/元文教大学教授)

伊藤順子(東京都千代田区立麹町小学校教諭)

梅澤 実(鳴門教育大学助教授)

大村奈保美(辞典研究家)

金平純三(東京都柏江市立柏江第6小学校教諭)

北島春信(前成城学園初等学校校長)

熊谷えみ子(東京都杉並区立井荻小学校教諭)

恋塚 稔(辞典研究家)

長岡 襄(漢字研究家)

西池和巳(「言語教育振興財団」理事)

本堂純子(東京都摩市立西落合小学校教頭)

間中孝貴(元東京学芸大学附属世田谷小学校副校長)

山本茂男(森村学園初等部教諭)

●装丁

吉田誠+稲垣直美(プリズマ)

●表紙・カバーイラスト

KUNTA

●紙面設計・イラスト・図版・写植

あん企画

EDメディアファクトリー

井手研二

クリエイティブ・ノア

田中晴美

ビット

●写真・モデル

学研写真資料室

幸田果林

●編集協力

(株)奎文館

えんぴつクラブ

荻戸正人

ブランナッツ

三宅真木

●組版・製版・印刷

図書印刷株式会社

●総括

市川俊男

●編集

高田 浩

平田美穂

●製作管理

近藤 肇



# 世界の絵文字と象形文字



古代エジプトの絵文字  
第1王朝，紀元前3100年ごろ。ナルメル王の化粧板。



中国の甲骨文字  
紀元前1500年ごろ



アッシリアのくさび形文字  
紀元前3000年ごろ



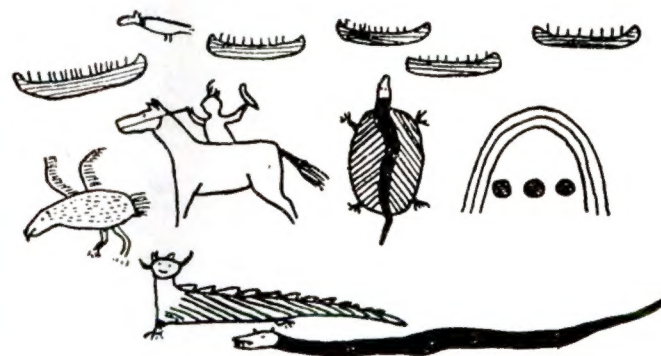
フランスのラスコーどうくつのへき画

1万5000年ぐらい前



スペインのアルタミラどうくつのへき画

1万5000年ぐらい前



アメリカ先住民の絵文字





ISBN4-05-300933

C6581 ¥1300E

531112

定価: 本体1,300円

\*税が別に加算されます。

〈絵から覚えられる〉  
**レインボー英語シリーズ**  
A5版 オールカラー



レインボー英和辞典 288ページ  
[増補改訂版・ワークつき]  
レインボー和英辞典 288ページ  
[増補改訂版・ワークつき]  
レインボー英和・和英辞典 576ページ  
[増補改訂版・ワークつき]



レインボー英語の音じてん 144ページ  
[CD2枚つき]  
レインボー英会話辞典 176ページ  
[改訂新版・CD2枚つき]  
レインボー英語図解百科 256ページ

**レインボー**  
**国際理解シリーズ**  
A5版 オールカラー



レインボー世界の旅じてん 160ページ

**新レインボー**  
**日本語辞典シリーズ**



新レインボー小学国語辞典 1,392ページ  
[スタンダード版]  
新レインボー小学国語辞典 1,392ページ  
[小型版]  
新レインボー小学漢字辞典 864ページ  
[スタンダード版]  
新レインボー小学漢字辞典 864ページ  
[小型版]



小学生の  
新レインボー漢字書き方辞典 256ページ  
小学生の  
新レインボー「熟語」辞典 288ページ  
小学生の  
新レインボー作文教室 368ページ  
小学生の  
新レインボー方言辞典 296ページ  
新レインボーことわざ辞典 304ページ

レインボーことば絵じてん 352ページ  
[英語つき]

学研 出版営業部 ☎(03)3726-8161

装丁 吉田 誠 + 稲垣直美(プリズマ)  
カバー・イラスト KUNTA

小学生の**新レインボー** オールカラー  
**漢字読み書き辞典**



小学生の  
**新レインボー**  
**漢字読み書き辞典**  
オールカラー

監修 石井庄司

学研